

長久保大畑遺跡 新田入口遺跡

(主)前橋伊香保線地方特定道路整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

(本文編)

2000

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

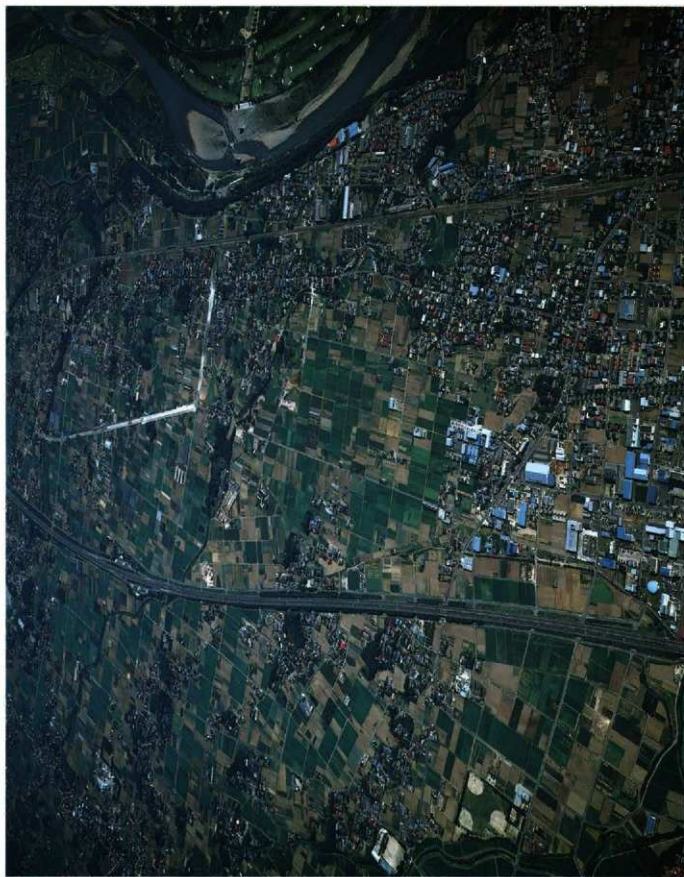
長久保大畑遺跡 新田入口遺跡

(主)前橋伊香保線地方特定道路整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

(本文編)

2000

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



1995年8月撮影

序

主要地方道前橋伊香保線道路改良工事は、前橋市高井町と北群馬郡吉岡町大字大久保間の工事が終了、平成11年3月に共用開始となり、一般国道17号線の板東橋の朝夕の交通渋滞の一部解消、沿線市町村の交通等に大いに益しています。

本道路垂離用工事により、何箇所かの埋蔵文化財の記録保存が対象となりました。その一つである吉岡町大字大久保に所在する長久保大畑遺跡、新田入口遺跡の2遺跡の発掘調査は、群馬県土木部より当事業団に調査の委託がなされ、当事業団では平成7年度から10年度にかけて発掘調査を行いました。そして本年度に報告書刊行のための整理事業を行い、この度それが終了しましたので、ここに「長久保大畑遺跡・新田入口遺跡」の発掘調査報告書を上梓することにしました。

本報告書には、縄文時代中期後半の集石遺構、配石遺構とそれにともない出土した多量の土器、石器が報告されています。また古墳時代から平安時代にかけての竪穴住居跡37軒も報告されています。

発掘調査から報告書刊行に至るまで群馬県土木部道路建設課、同渋川土木事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、吉岡町教育委員会、地元関係者等には種々御指導、御協力を賜りました。これら関係者の皆様に衷心より感謝申し上げます、併せて先に刊行した沼南遺跡の報告書と共に、地域の歴史を解明するための資料として十分に活用される事を願い序とします。

平成12年3月

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小野 宇三郎

例 言

1. 本書は、(主) 前橋伊香保線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した「長久保大畑・新田入口遺跡」の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 遺跡は、群馬県北群馬郡吉岡町大字久保に所在する。
3. 遺跡名は、吉岡町遺跡詳細分布調査報告書(吉岡町教育委員会1993)町台帳154「長久保大畑遺跡(ながくほおおばたけ)」、町台帳164「新田入口遺跡(しんでんいりぐち)」により付す。
4. 発掘調査は、群馬県教育委員会が調整し、群馬県知事(道路建設課)と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が委託契約を締結し実施した。
5. 試掘調査は、群馬県教育委員会文化財保護課で平成6年11月15日～平成7年3月2日まで実施した。
6. 調査期間
平成7年度 平成7年7月15日～平成8年3月29日
平成9年度 平成9年12月1日～平成10年3月31日
平成10年度 平成10年4月1日～平成11年2月1日

7. 調査組織

平成7年度

事務担当

常務理事	中村英一	事務局長	原田恒弘
調査研究部長	神保侑史	管理部長	蜂巣 実
調査研究第1課長	真下高幸	総務課長	斎藤俊一
総務課係長代理	國定 均、笠原秀樹	総務課主任	須田朋子、吉田有光、柳岡良宏
総務課主事	高橋定義	嘱託員	大澤友治、土橋まり子
事務補助員	吉田恵子、吉田笑子、並木綾子、今井もと子、松井美智代、内山佳子、星野美智子、羽鳥京子、菅原淑子、松下次男、浅見宜記、石田克己、若田 誠		

調査担当

専門員	女屋和志雄	主任調査研究員	田村公夫	調査研究員	小野田孝美
-----	-------	---------	------	-------	-------

(現富岡市立富岡小学校教諭)

調査作業員 石原幸江、大澤隆二、大谷正子、小森シン、清水しづ江、高見壽美子、田村美千代、塚越栄子、塚越静枝、戸塚清市、中澤光明、長谷川ふく子、茂木美恵、吉田佐知子、吉田文江、清水近江、島田てつ、川浦邦夫、奥原佐久次、中嶋康男、横手亀次郎、井草正男、高林源太郎、川浦純子、坂下松江、貫井フサエ、飯野文子、小金澤たみ子、黒崎正美、小見せい子、関口弘子、高垣松子、八重樫純子、牧口ケサノ、櫻井裕子、永原市助、静岩男、廣井スミエ、清水静枝、鹿子木軸子、坂井くら子、坂井いせ、黒崎サヨ子、黒崎ミツノ、吉田ヤス子、小野木年江、中澤貞子、福島菊郎、城田忍

平成9年度

事務担当

常務理事	菅野 清	事務局長	原田恒弘
副事務局長兼調査研究第1部長	赤山容造		
調査研究第2部長	神保侑史	管理部長	渡辺 健
調査研究第2課長	能登 健	総務課長	小淵 淳
総務課総務係長	笠原秀樹	総務課経理係長	井上 剛
総務課係長代理	須田朋子	総務課主任	吉田有光、柳岡良宏
総務課主事	岡嶋伸昌、宮崎忠司	嘱託員	大澤友治、土橋まり子
事務補助員	吉田恵子、吉田笑子、並木綾子、今井もと子、内山佳子、星野美智子、羽鳥京子、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、安藤友美、狩野真子、松下次男、浅見宣記、吉田 茂、若田 誠		

調査担当

主幹兼専門員	小野和之	専門員	友廣哲也	主任調査研究員	立澤綾子
調査研究員	松原孝志、諸田康成				
調査作業員	田野満衛、吉田文江、森田裕子、石崎澄枝、黒崎正美、武井綾子、野口市子、星野ミドリ、永井寛治、柳岡ウタ、高野辺トリ子、吉澤繁、富澤美代子、内藤張、小木博、小木良江、黒崎サヨ子、黒崎ミツノ、吉田ヤス子、神宮香代子、柳沢京四郎、神保正幸、田中八千代、永町勝子、原澤満伸、平井恒子、水野さかゑ、本多セツ、渡部富江、大塚博男、佐藤武四郎、手塚ハツエ、町田花子、中山恵美子、小田島ふじの、小林文吉、小松原傳吉、関清、田邊善三、水落きみよ、丸山三代子、高山日出夫、高橋康子、城田忍、丸山秀雄、木暮晶二、福田利夫、富澤りき、吉田むつ、荒木与吉、大嶋博、狩野直次、植木勤、荒木達雄、中井英之、吉田房子、山田正子、斉藤花代、都筑八重子、峰川三七三、篠田貞子、久保田光枝、藤原惣市、平井登、橋爪真純、杉田八重、富沢宗一、矢口界一、大野久子、中島佑介、園田要、樺淵長、星野悦子、関根英雄、城田秀美、中島美由紀、金子くみ子				

平成10年度

事務担当

常務理事兼事務局長兼調査研究第1部長	赤山容造		
調査研究第2部長	神保侑史	管理部長	渡辺 健
調査研究第1課長	平野進一	総務課長	坂本敏夫
総務課総務係長	笠原秀樹	総務課経理係長	小山建夫
総務課係長代理	須田朋子	総務課主任	吉田有光、柳岡良宏、岡嶋伸昌
総務課主事	宮崎忠司	嘱託員	大澤友治、土橋まり子
事務補助員	吉田恵子、吉田笑子、並木綾子、今井もと子、内山佳子、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、本地友美、狩野真子、松下次男、浅見宣記、吉田 茂、若田 誠		

調査担当

主幹兼専門員 坂井隆 調査研究員 長岡将之 嘱託員 小林一弘

調査作業員 田野満衛、関根文子、矢口豊子、山本芳子、土屋玲子、石川真也、清水幸子、芹沢市子、橋元裕児、中嶋康男、成瀬ケイ子、関口弘子、高垣松子、星野ミドリ、永井寛治、高野辺トリ子、吉澤繁、富澤美代子、内藤張、石川輝子、小木博、小木良江、加納文代、斎藤初美、永井涼子、深沢ヨシ子、深沢日出次、矢島クエ、金井百合子、竹鼻タキノ、松井多喜、清水次子、近藤上、渡部富江、佐藤和子、中里見友江、辻みつる、加納康利、小川照男、岡田金五、堤弘、堤静子、栗原保、狩野賢、反町利雄、笠井正雄、中島エイ子、宇賀美代子、田中美代子、鉄本亜紀乃、狩野基次、狩野登茂子、村磯光子、星野悦子、前川章、朝倉政代、関根英雄、金子くみ子、平林卓

8. 整理事業は、群馬県教育委員会が調整し、群馬県知事（道路建設課）と財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が委託契約を締結し実施した。

9. 整理事業期間

平成11年4月1日～平成12年3月31日

10. 整理組織

事務担当

常務理事兼事務局長	赤山容造	調査研究第1部長	神保有史
調査研究第2部長	水田 稔	管理部長	住谷 進
調査研究第3課長	小山友孝	総務課長	坂本敏夫
総務課総務係長	笠原秀樹	総務課経理係長	小山建夫
総務課係長代理	須田朋子、吉田有光	総務課主任	柳岡良宏、岡嶋伸昌
総務課主事	片岡健雄	嘱託員	大澤友治

事務補助員 吉田恵子、吉田美子、並木綾子、今井もと子、内山佳子、鶴岡真希子、佐藤美佐子、本間久美子、北原かおり、狩野真子、松下次男、浅見宜記、吉田 茂、若田 誠

整理担当

専門員 田村公夫 主任調査研究員 松村和男
整理嘱託員 牛込恵理子
整理補助員 今井サチ子、小野寺仁子、小久保ヒロミ、吉原清乃、渡辺八千代、船津博子、笠井初子、関正江、星野春子、藤井文江、南雲富子、新井千恵子、田子弘子
遺物写真撮影 専門員 佐藤元彦
保存処理 専門員 関 邦一 嘱託員 土橋まり子 補助員 小村浩一、高橋初美

11. 分析・委託

空中写真撮影 技研設計測量株式会社、株式会社測研
石材鑑定 飯島静男（群馬地質研究会）
リン分析、珪藻分析、花粉分析、植物珪酸体分析、樹種同定 パリノ・サーヴェイ株式会社
遺構・遺物トレース 株式会社測研

12. 発掘調査および本書作成にあたり、下記の関係機関・関係諸氏にご助言・ご指導・ご協力を得た。

記して感謝の意を表したい。(敬称略)

群馬県、群馬県土木部道路建設課、渋川土木事務所、群馬県教育委員会文化財保護課、
吉岡町教育委員会、渋川市教育委員会、前橋市教育委員会
井上唯雄、井野修一、大塚昌彦、鈴木徳雄、瀧野巧、丸山不二夫
その他遺跡周辺の方々

13. 本書の執筆は次のとおりである。

木津博明 瓦(第3章第4節第12項1, 瓦)

松村和男 第3章5項・6項、遺物観察表(縄文土器・石器・鉄器)

田村公夫 上記他

14. 本遺跡の記録図・記録写真・出土遺物は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が管理し、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管している。

凡 例

1. 遺構番号は、平成7年度・平成9年度・平成10年度が一連となる。なお、住居跡は平成7年度から平成10年度まで一連の番号であり、平成8年度分は本報告中では欠番となる。

2. 挿図縮尺は図版に記載している。概要は以下の通りである。

遺構 遺構全体図1/1,000、集石遺構1/30、配石遺構1/60、列石遺構1/60、竪穴住居跡1/60、カマド1/30、掘立柱建物跡1/80、竪穴状遺構1/60、溝1/120、道1/120、井戸1/60、火葬跡1/30、土坑1/60、水田1/250、畠1/120

遺物 土器1/3・1/4、石器1/3・1/4、鉄器1/2、小型遺物1/2

3. 遺構断面実測図及び等高線に記した数値は標高を表す。単位はmである。

4. 遺構図の方位は座標北である。

5. 遺構図の方眼杭名は5mごとにA区a-01杭をAa-01と記し、5m以内の地点では方眼杭の東・南を基準に東に*m南に*mをAa-01,*E*Sと表し位置を示す。

6. 地層の名称は次の略号である。〔「半田中原・南原遺跡」1994群馬県企業局・波川市教育委員会〕報告書を参照した。〕

As-Aは浅間A軽石の略称である。西暦1783年（近世）の降下である。

As-Bは浅間B軽石の略称である。西暦1108年（平安時代）の降下である。

Hr-Iは榛名-伊香保テフラの略号である。榛名-伊香保テフラは榛名山の二ツ岳形成期6世紀中頃の噴火で伊香保を中心とした一帯に降下したものである。この軽石層で子持村黒井峯遺跡が覆われている。

Hr-Sは榛名-渋川テフラの略号である。榛名-渋川テフラは榛名山の二ツ岳形成期5世紀末頃の噴火で渋川を中心とした一帯に降下したものである。この火山灰の火砕流で波川市中筋遺跡は被災村落となった。

As-Cは浅間C軽石の略称である。4世紀中葉の降下と考える。

7. 縄文時代の配石遺構は礫の集中状況にあわせて以下の名称を用いた。「集石遺構」は礫の密集・集中する遺構、「配石遺構」は礫が整然と配置された遺構、「列石遺構」は礫が帯状に連なる遺構に対して用いた。

8. 遺構図の掲載は、縄文時代：遺構断面には出土土器を投影させた。集石遺構・配石遺構の推定範囲は破線で表す。グリッド出土遺物はグリッド位置図を示しグリッドごとに掲載した。

弥生時代以降：各遺構配置図を示し各遺構図に掲載した。

9. 住居の方位は、カマドの位置を基準にして、カマドをもつ壁に直交する線を主軸線とした。掘立柱建物跡の方位は、梁方向を主軸線とした。溝の方位は上流方向を基準に走向方向を主軸線とした。火葬跡の方位は裏出部をもつ壁に直交する線を主軸線とした。土坑観察断面面形の1はU字状、2は└┘状を表わす。

10. 遺構図面上のスクリーンは、焼土分布・カーボン分布などを表す。

11. 遺物番号は、遺構ごとにグリッドごとに登録した。遺物番号は遺構図中番号と遺物番号が統一されるようにした。図中の縄文時代のグリッド出土遺物●は土器を、▲は石器を表す。特殊遺物については「特」と番号を記す。弥生時代以降においては出土状態で図化した。土器は出土状態と分布は●で表し、石器「S」、鉄製品を「鉄」、その他は器種と番号を記す。

12. 土器の実測図は原則として四分割法をとった。残存量が1/2以下の遺物の場合は180°展開して図上復元とし、中心線に：を示した。
13. 遺物図のスクリーントーンは縄文土器は赤色塗彩、灰釉陶器は釉薬部分を表す。弥生土器の赤色塗彩は2色刷りとした。
14. 石器の敲打範囲は┌─┐で表した。磨滅範囲は線状痕が認められるものについては線で、そうでないものには点描を用いて示した。なお、使用による磨滅や微細剝離範囲は|←→|で表した。
15. 古墳時代以降の土器実測中の→は筥の動いた方向を示す。
16. 遺物観察は次のとおりである。
 - ・番号は遺構図版の遺物出土位置番号及び遺物写真図版中の番号と同一である。
 - ・法量の単位はcm、重さの単位はgである。推定値は()を付す。
 - ・色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を使用した。
 - ・残存は完形に対して分数で、部分の場合は部位に対して分数で表す。
 - ・縄文土器備考の分類は本報告書関連第1集「沼南遺跡」を参照する。
第Ⅰ群土器（早期）、第Ⅱ群土器（前期縄文土器）、第Ⅲ群土器（前期後葉）、
第Ⅳ群土器（中期中葉）、第Ⅴ群土器（中期後葉）、第Ⅵ群土器（後期）
17. 遺物写真は原則として遺物図とほぼ同じ縮尺で掲載した。

目 次

口絵
序
例言
凡例
目次

第1章 発掘調査の経過と調査の方法

1. 発掘調査に至る経過…………… 1
2. 調査の経過と調査方法…………… 1

第2章 周辺の環境

1. 遺跡の立地…………… 6
2. 周辺の遺跡…………… 6
3. 標準土層説明……………10

第3章 検出した遺構・遺物

- 第1節 遺跡の概要……………12
- 第2節 縄文時代……………22
 - 第1項 集石遺構……………23
 - 第2項 配石遺構……………52
 - 第3項 列石遺構……………96
 - 第4項 土坑……………98
 - 第5項 遺構外出土土器・土製品……………101
 - 第6項 出土石器……………175
- 第3節 弥生時代……………276
- 第4節 古墳時代以降……………279
 - 第1項 竪穴住居跡……………280
 - 第2項 遺物集中地点……………351
 - 第3項 掘立柱建物跡・柵列・ビット群…353
 - 第4項 竪穴状遺構……………370
 - 第5項 溝……………377
 - 第6項 道……………397
 - 第7項 井戸……………398
 - 第8項 火葬跡……………401

- 第9項 土坑……………403
- 第10項 水田・畠……………430
- 第11項 F区試掘……………453
- 第12項 その他の遺物……………454
堰塚堰 (瓦・紡錘車・土鍾・鉄器・石製品)

第4章 自然科学分析

1. 縄文時代中期の集石のリン分析……………478
2. 微化石からみた古環境と谷底低地の利用…480
3. 出土した木材・炭化材の樹種……………499

第5章 結語……………504

挿目次

第 1 図	調査区及びグリッド配置図	4	第 59 図	3号配石実測図・出土土器実測図	74
第 2 図	道跡周辺の小字名	5	第 60 図	5号配石実測図	75
第 3 図	周辺の遺跡	8	第 61 図	9号配石実測図	76
第 4 図	標準土層図	10	第 62 図	9号配石出土土器分布図・投影図	77
第 5 図	調査区土層柱状図	11	第 63 図	9号配石出土土器実測図 (1)	78
第 6 図	時代別遺構配置図	13	第 64 図	9号配石出土土器実測図 (2)	79
第 7 図	G区ローム面コングラ	14	第 65 図	9号配石出土土器実測図 (3)	80
第 8 図	G区縄文層出土状態及びコングラ	15	第 66 図	9号配石出土土器実測図 (4)	81
第 9 図	G区道北縄文遺構配置図	16	第 67 図	10号配石実測図	82
第 10 図	G区道南縄文遺構配置図	17	第 68 図	1号・2号列石実測図	97
第 11 図	調査区遺構配置コングラ (1)	18	第 69 図	1号列石出土土器実測図	97
第 12 図	調査区遺構配置コングラ (2)	19	第 70 図	J 1号・2号・3号土坑実測図・ J 3号土坑出土土器実測図	99
第 13 図	調査区遺構配置図 (1)	20	第 71 図	J 3号土坑出土土器実測図	100
第 14 図	調査区遺構配置図 (2)	21	第 72 図	G区グリッド配置図	103
第 15 図	G区土層断面図	22	第 73 図	G区グリッド出土土器分布図 (1)	105
第 16 図	1号集石実測図	28	第 74 図	G区グリッド出土土器実測図 (1)	106
第 17 図	1号集石出土土器実測図	29	第 75 図	G区グリッド出土土器実測図 (2)	107
第 18 図	3号集石実測図	30	第 76 図	G区グリッド出土土器実測図 (3)	108
第 19 図	3号集石出土土器実測図	31	第 77 図	G区グリッド出土土器実測図 (4)	109
第 20 図	4号集石実測図	32	第 78 図	G区グリッド出土土器実測図 (5)	110
第 21 図	4号集石出土土器実測図	33	第 79 図	G区グリッド出土土器実測図 (6)	111
第 22 図	5号集石実測図	34	第 80 図	G区グリッド出土土器実測図 (7)	112
第 23 図	5号集石出土土器実測図	35	第 81 図	G区グリッド出土土器実測図 (8)	113
第 24 図	6号集石実測図	36	第 82 図	G区グリッド出土土器実測図 (9)	114
第 25 図	8号集石実測図	37	第 83 図	G区グリッド出土土器実測図 (10)	115
第 26 図	6号集石出土土器実測図	38	第 84 図	G区グリッド出土土器実測図 (11)	116
第 27 図	8号集石出土土器実測図 (1)	38	第 85 図	G区グリッド出土土器実測図 (12)	117
第 28 図	8号集石出土土器実測図 (2)	39	第 86 図	G区グリッド出土土器分布図 (2)	119
第 29 図	10号 A・B 集石実測図	40	第 87 図	G区グリッド出土土器分布図 (3)	121
第 30 図	11号集石実測図	41	第 88 図	G区グリッド出土土器投影図	122
第 31 図	10号 A・B 集石出土土器実測図	42	第 89 図	G区グリッド出土土器実測図 (13)	123
第 32 図	11号集石出土土器実測図	42	第 90 図	G区グリッド出土土器実測図 (14)	124
第 33 図	12号集石実測図・出土土器実測図	43	第 91 図	G区グリッド出土土器実測図 (15)	125
第 34 図	13号集石実測図・出土土器実測図	44	第 92 図	G区グリッド出土土器実測図 (16)	126
第 35 図	14号集石実測図・出土土器実測図	44	第 93 図	G区グリッド出土土器実測図 (17)	127
第 36 図	16号集石実測図・出土土器実測図	45	第 94 図	G区グリッド出土土器実測図 (18)	128
第 37 図	17号・18号集石実測図	45	第 95 図	G区グリッド出土土器実測図 (19)	129
第 38 図	9号集石実測図	46	第 96 図	G区グリッド出土土器実測図 (20)	130
第 39 図	1号・2号・6号・7号配石実測図	54	第 97 図	G区グリッド出土土器実測図 (21)	131
第 40 図	1号・2号・6号・7号配石 出土土器分布図	55	第 98 図	H区グリッド配置図	132
第 41 図	1号・2号・6号・7号配石 出土土器投影図	56	第 99 図	I区グリッド配置図・ H区・I区グリッド出土土器実測図	133
第 42 図	1号配石出土土器実測図 (1)	57	第 100 図	J区グリッド配置図・ 出土土器実測図 (1)	134
第 43 図	1号配石出土土器実測図 (2)	58	第 101 図	J区グリッド出土土器実測図 (2)	135
第 44 図	1号配石出土土器実測図 (3)	59	第 102 図	J区グリッド出土土器実測図 (3)	136
第 45 図	1号配石出土土器実測図 (4)	60	第 103 図	K区グリッド配置図・ 出土土器実測図	137
第 46 図	1号配石出土土器実測図 (5)	61	第 104 図	L区・M区グリッド配置図・出土土器	138
第 47 図	2号配石出土土器実測図 (1)	62	第 105 図	K区・L区・M区グリッド出土土器 実測図	139
第 48 図	2号配石出土土器展開図 (2)	63	第 106 図	特殊土製器実測図	140
第 49 図	2号配石出土土器実測図 (3)	64	第 107 図	1号集石出土土器実測図	177
第 50 図	2号配石出土土器実測図 (4)	65	第 108 図	1号・3号集石出土土器実測図	178
第 51 図	2号配石出土土器実測図 (5)	66	第 109 図	3号集石出土土器実測図	179
第 52 図	6号配石出土土器実測図 (1)	67	第 110 図	3号・4号集石出土土器実測図	180
第 53 図	6号配石出土土器実測図 (2)	68	第 111 図	4号集石出土土器実測図	181
第 54 図	6号配石出土土器実測図 (3)	69	第 112 図	5号集石出土土器実測図 (1)	182
第 55 図	6号配石出土土器実測図 (4)	70	第 113 図	5号集石出土土器実測図 (2)	183
第 56 図	7号配石出土土器実測図 (1)	71	第 114 図	5号集石出土土器実測図 (3)	184
第 57 図	7号配石出土土器実測図 (2)	72	第 115 図	5号・6号集石出土土器実測図	185
第 58 図	7号配石出土土器実測図 (3)	73	第 116 図	6号集石出土土器実測図 (1)	186

第117図	6号集石出土石器実相図(2)	187
第118図	6号・9号・10号集石 出土石器実相図	188
第119図	10号集石出土石器実相図(1)	189
第120図	10号集石出土石器実相図(2)	190
第121図	10号集石出土石器実相図(3)	191
第122図	10号・12号集石出土石器実相図	192
第123図	12号・13号集石出土石器実相図	193
第124図	14号・16号集石・1号配石 出土石器実相図	194
第125図	1号配石出土石器実相図(1)	195
第126図	1号配石出土石器実相図(2)	196
第127図	2号配石出土石器実相図(1)	197
第128図	2号配石出土石器実相図(2)	198
第129図	3号配石出土石器実相図(1)	199
第130図	3号配石出土石器実相図(2)	200
第131図	3号配石出土石器実相図(3)	201
第132図	3号配石出土石器実相図(4)	202
第133図	6号配石出土石器実相図(1)	203
第134図	6号配石出土石器実相図(2)	204
第135図	6号配石出土石器実相図(3)	205
第136図	7号配石出土石器実相図	206
第137図	7号・9号配石出土石器実相図	207
第138図	9号配石出土石器実相図(1)	208
第139図	9号配石出土石器実相図(2)	209
第140図	9号配石出土石器実相図(3)	210
第141図	9号配石出土石器実相図(4)	211
第142図	9号配石出土石器実相図(5)	212
第143図	9号配石出土石器実相図(6)	213
第144図	9号配石出土石器実相図(7)	214
第145図	9号配石出土石器実相図(8)	215
第146図	9号配石出土石器実相図(9)	216
第147図	J 2号坑・グリッド出土 石器実相図	217
第148図	G区グリッド出土石器実相図(1)	218
第149図	G区グリッド出土石器実相図(2)	219
第150図	G区グリッド出土石器実相図(3)	220
第151図	G区グリッド出土石器実相図(4)	221
第152図	G区グリッド出土石器実相図(5)	222
第153図	G区グリッド出土石器実相図(6)	223
第154図	G区グリッド出土石器実相図(7)	224
第155図	G区グリッド出土石器実相図(8)	225
第156図	G区グリッド出土石器実相図(9)	226
第157図	G区グリッド出土石器実相図(10)	227
第158図	G区グリッド出土石器実相図(11)	228
第159図	G区グリッド出土石器実相図(12)	229
第160図	G区グリッド出土石器実相図(13)	230
第161図	G区グリッド出土石器実相図(14)	231
第162図	G区グリッド出土石器実相図(15)	232
第163図	G区グリッド出土石器実相図(16)	233
第164図	G区グリッド出土石器実相図(17)	234
第165図	G区グリッド出土石器実相図(18)	235
第166図	G区グリッド出土石器実相図(19)	236
第167図	G区グリッド出土石器実相図(20)	237
第168図	G区グリッド出土石器実相図(21)	238
第169図	G区グリッド出土石器実相図(22)	239
第170図	G区グリッド出土石器実相図(23)	240
第171図	G区グリッド出土石器実相図(24)	241
第172図	G区グリッド出土石器実相図(25)	242
第173図	G区グリッド出土石器実相図(26)	243
第174図	G区グリッド出土石器実相図(27)	244
第175図	G区グリッド出土石器実相図(28)	245
第176図	G区グリッド出土石器実相図(29)	246

第177図	G区グリッド出土石器実相図(30)	247
第178図	G区グリッド出土石器実相図(31)	248
第179図	G区グリッド出土石器実相図(32)	249
第180図	G区グリッド出土石器実相図(33)	250
第181図	G区グリッド出土石器実相図(34)	251
第182図	H区グリッド出土石器実相図	252
第183図	I区グリッド出土石器実相図(1)	253
第184図	I区グリッド出土石器実相図(2)	254
第185図	I区グリッド出土石器実相図(3)	255
第186図	I区グリッド出土石器実相図(4)	256
第187図	I区グリッド出土石器実相図(5)	257
第188図	J区グリッド出土石器実相図(1)	258
第189図	J区グリッド出土石器実相図(2)	259
第190図	J区グリッド出土石器実相図(3)	260
第191図	K区グリッド出土石器実相図(1)	261
第192図	K区グリッド出土石器実相図(2)	262
第193図	K区グリッド出土石器実相図(3)	263
第194図	L区グリッド出土石器実相図	264
第195図	L・M区グリッド出土石器実相図	265
第196図	M区グリッド出土石器実相図	266
第197図	発生時代連続位置図	276
第198図	Y 1号土坑実相図	276
第199図	Y 1号土坑出土遺物実相図	276
第200図	24号溝・グリッド出土遺物実相図	277
第201図	古墳・平安時代連続位置図	279
第202図	14号住居跡・出土遺物実相図	281
第203図	12号住居跡実相図	282
第204図	12号住居跡実相図実相図	283
第205図	12号住居跡出土遺物実相図	284
第206図	1号住居跡・出土遺物実相図	285
第207図	1号住居跡出土遺物実相図	286
第208図	2号住居跡実相図	287
第209図	2号住居跡出土遺物実相図	288
第210図	3号住居跡実相図	289
第211図	3号住居跡カマド・出土遺物実相図	290
第212図	4号住居跡・出土遺物実相図	291
第213図	5号住居跡実相図	292
第214図	5号住居跡カマド・貯蔵穴 ・出土遺物実相図	293
第215図	6号住居跡実相図	295
第216図	6号住居跡カマド・貯蔵穴実相図	296
第217図	6号住居跡出土遺物実相図(1)	297
第218図	6号住居跡出土遺物実相図(2)	298
第219図	8号住居跡・出土遺物実相図	300
第220図	9号住居跡・出土遺物実相図	301
第221図	10号住居跡実相図	302
第222図	13号住居跡・出土遺物実相図	303
第223図	15号住居跡実相図	304
第224図	15号住居跡出土遺物実相図	305
第225図	16号住居跡実相図	307
第226図	16号住居跡カマド実相図	308
第227図	16号住居跡出土遺物実相図	309
第228図	17号住居跡実相図	310
第229図	17号住居跡カマド実相図	311
第230図	17号住居跡出土遺物実相図	312
第231図	18号住居跡実相図	313
第232図	18号住居跡カマド・出土遺物実相図	314
第233図	19号住居跡実相図	316
第234図	19号住居跡カマド・貯蔵穴実相図	317
第235図	19号住居跡出土遺物実相図	318
第236図	20号住居跡実相図	320
第237図	20号住居跡カマド実相図	321
第238図	20号住居跡出土遺物実相図	322

第239回	21号住居跡・出土遺物実測図	323	第301回	17号・18号溝・出土遺物実測図	388
第240回	133号住居跡・出土遺物実測図	324	第302回	19号溝・出土遺物実測図	389
第241回	136号住居跡実測図	326	第303回	20号溝実測図	390
第242回	134号住居跡出土遺物実測図(1)	327	第304回	21号・22号・23号溝実測図	391
第243回	134号住居跡出土遺物実測図(2)	328	第305回	21号・23号溝出土遺物実測図	392
第244回	135号住居跡・出土遺物実測図	330	第306回	26号溝出土遺物実測図	392
第245回	136号住居跡実測図	331	第307回	26号・27号溝実測図	393
第246回	136号住居跡出土遺物実測図	332	第308回	25号溝実測図	395
第247回	137号住居跡・出土遺物実測図	334	第309回	1号道位置圖・実測圖	397
第248回	138号住居跡・出土遺物実測図	335	第310回	中世以降分布圖・井戸位置圖	398
第249回	139号住居跡実測図	336	第311回	1号・2号井戸実測圖	399
第250回	139号住居跡出土遺物実測図	337	第312回	2号井戸出土遺物実測圖	400
第251回	140号住居跡実測圖	338	第313回	3号・4号井戸実測圖	400
第252回	140号住居跡出土遺物実測圖	339	第314回	火葬跡位置圖	401
第253回	141号住居跡実測圖	340	第315回	1号・2号・3号火葬跡・出土遺物実測圖	402
第254回	141号住居跡出土遺物実測圖	341	第316回	G区土坑実測圖(1)	409
第255回	142号住居跡・出土遺物実測圖	342	第317回	G区土坑実測圖(2)	410
第256回	143号住居跡・出土遺物実測圖	343	第318回	H区土坑実測圖	414
第257回	144号住居跡・出土遺物実測圖	344	第319回	I区・J区土坑実測圖	417
第258回	145号住居跡実測圖	345	第320回	J区土坑実測圖	418
第259回	145号住居跡出土遺物実測圖	346	第321回	K区土坑実測圖	426
第260回	146号住居跡・出土遺物実測圖	348	第322回	K区・L区・M区土坑実測圖	427
第261回	147号住居跡・出土遺物実測圖	349	第323回	土坑出土遺物実測圖	429
第262回	148号住居跡・出土遺物実測圖	349	第324回	中・近世水田・畠位置圖	430
第263回	遺物集中心地点・出土遺物実測圖	351	第325回	G区中・近世畠実測圖	431
第264回	G区孤立建物跡・櫓列・井戸位置圖	353	第326回	G区中世水田実測圖	432
第265回	1号孤立建物跡実測圖	354	第327回	M区中世1号畠実測圖	434
第266回	2号孤立建物跡実測圖	354	第328回	M区中世2号畠実測圖	435
第267回	1号櫓列跡実測圖	355	第329回	As-B下水田・畠位置圖	436
第268回	2号櫓列跡実測圖	355	第330回	G区・H区As-B下水田実測圖(1)	438
第269回	3号孤立建物跡実測圖	356	第331回	G区・H区As-B下水田断面圖(2)	439
第270回	3号櫓列跡実測圖	357	第332回	G区・H区As-B下水田断面圖(3)	440
第271回	4号櫓列跡実測圖	359	第333回	G区・H区As-B下水田断面圖(4)	441
第272回	5号櫓列跡実測圖	359	第334回	G区・H区As-B下水田断面圖(5)	442
第273回	ピット群位置圖	360	第335回	I区As-B下畠実測圖	443
第274回	G区ピット群実測圖	363	第336回	Hr-S上・下水田・畠位置圖	444
第275回	G区ピット群断面圖	364	第337回	G区Hr-S上畠実測圖	445
第276回	K区1号ピット群実測圖	365	第338回	G区Hr-S上畠断面圖	446
第277回	K区2号ピット群実測圖	366	第339回	J区Hr-S上畠実測圖	447
第278回	L区ピット群実測圖	367	第340回	L区Hr-S上畠実測圖	448
第279回	M区1号ピット群実測圖	368	第341回	H区Hr-S下水田実測圖	449
第280回	M区2号ピット群実測圖	369	第342回	H区Hr-S下水田断面圖	450
第281回	竪穴状遺構位置圖	370	第343回	F区試掘位置圖・東壁断面圖	453
第282回	1号竪穴状遺構・出土遺物実測圖	370	第344回	瓦出土位置圖	454
第283回	2号竪穴状遺構実測圖	371	第345回	瓦実測圖(1)	456
第284回	3号竪穴状遺構実測圖	372	第346回	瓦実測圖(2)	457
第285回	4号竪穴状遺構実測圖(1)	372	第347回	瓦実測圖(3)	458
第286回	4号竪穴状遺構実測圖(2)	373	第348回	瓦実測圖(4)	459
第287回	4号竪穴状遺構出土遺物実測圖	373	第349回	紡錘車・土埴実測圖	460
第288回	5号竪穴状遺構実測圖	374	第350回	鉄器実測圖(1)	462
第289回	6号竪穴状遺構実測圖	375	第351回	鉄器実測圖(2)	463
第290回	7号竪穴状遺構実測圖	375	第352回	鉄器実測圖(3)	464
第291回	8号竪穴状遺構実測圖	376	第353回	鉄器実測圖(4)	465
第292回	1号・2号・3号・4号・5号溝 実測圖	377	第354回	石製品実測圖(1)	469
第293回	6号溝・出土遺物実測圖	378	第355回	石製品実測圖(2)	470
第294回	7号溝実測圖	379	第356回	石製品実測圖(3)	471
第295回	8号溝実測圖	380	第357回	石製品実測圖(4)	472
第296回	9号・10号溝実測圖	381	第358回	石製品実測圖(5)	473
第297回	11号・12号溝実測圖	383	第359回	石製品実測圖(6)	474
第298回	13号・14号溝・出土遺物実測圖	385	第360回	遺構外出土遺物実測圖	475
第299回	15号溝実測圖	386			
第300回	16号溝・出土遺物実測圖	387			

目 次

第1表	長久保大塚・新田入道遺構調査日記(抄) ……	2
第2表	遺跡周辺小字名一覧表(小字名は郡村誌による) ……	3
第3表	周辺の遺跡(1) ……	9
	周辺の遺跡(2) ……	10
第4表	集石遺構出土土器観察表(1) ……	47
	集石遺構出土土器観察表(2) ……	48
	集石遺構出土土器観察表(3) ……	49
	集石遺構出土土器観察表(4) ……	50
	集石遺構出土土器観察表(5) ……	51
第5表	配石遺構出土土器観察表(1) ……	83
	配石遺構出土土器観察表(2) ……	84
	配石遺構出土土器観察表(3) ……	85
	配石遺構出土土器観察表(4) ……	86
	配石遺構出土土器観察表(5) ……	87
	配石遺構出土土器観察表(6) ……	88
	配石遺構出土土器観察表(7) ……	89
	配石遺構出土土器観察表(8) ……	90
	配石遺構出土土器観察表(9) ……	91
	配石遺構出土土器観察表(10) ……	92
	配石遺構出土土器観察表(11) ……	93
	配石遺構出土土器観察表(12) ……	94
	配石遺構出土土器観察表(13) ……	95
第6表	集石遺構一覧表 ……	96
第7表	配石遺構一覧表 ……	96
第8表	列石遺構一覧表 ……	96
第9表	列石遺構出土土器観察表 ……	96
第10表	縄文時代土坑一覧表 ……	98
第11表	J 3号土坑出土土器観察表 ……	98
第12表	G区グリッド出土土器観察表(1) ……	141
	G区グリッド出土土器観察表(2) ……	142
	G区グリッド出土土器観察表(3) ……	143
	G区グリッド出土土器観察表(4) ……	144
	G区グリッド出土土器観察表(5) ……	145
	G区グリッド出土土器観察表(6) ……	146
	G区グリッド出土土器観察表(7) ……	147
	G区グリッド出土土器観察表(8) ……	148
	G区グリッド出土土器観察表(9) ……	149
	G区グリッド出土土器観察表(10) ……	150
	G区グリッド出土土器観察表(11) ……	151
	G区グリッド出土土器観察表(12) ……	152
	G区グリッド出土土器観察表(13) ……	153
	G区グリッド出土土器観察表(14) ……	154
	G区グリッド出土土器観察表(15) ……	155
	G区グリッド出土土器観察表(16) ……	156
	G区グリッド出土土器観察表(17) ……	157
	G区グリッド出土土器観察表(18) ……	158
	G区グリッド出土土器観察表(19) ……	159
	G区グリッド出土土器観察表(20) ……	160
	G区グリッド出土土器観察表(21) ……	161
	G区グリッド出土土器観察表(22) ……	162
	G区グリッド出土土器観察表(23) ……	163
	G区グリッド出土土器観察表(24) ……	164
	G区グリッド出土土器観察表(25) ……	165
	G区グリッド出土土器観察表(26) ……	166
第13表	H区グリッド出土土器観察表(1) ……	166
	H区グリッド出土土器観察表(2) ……	167
第14表	I区グリッド出土土器観察表 ……	167
第15表	J区グリッド出土土器観察表(1) ……	167
	J区グリッド出土土器観察表(2) ……	168
	J区グリッド出土土器観察表(3) ……	169

第16表	J区グリッド出土土器観察表(4) ……	170
	K区グリッド出土土器観察表(1) ……	170
	K区グリッド出土土器観察表(2) ……	171
	K区グリッド出土土器観察表(3) ……	172
第17表	L区グリッド出土土器観察表 ……	173
第18表	M区グリッド出土土器観察表 ……	173
	特殊土製品観察表(1) ……	173
	特殊土製品観察表(2) ……	174
第20表	石器器種別百分率表 ……	176
第21表	集石出土土器計測表 ……	267-268
第22表	配石出土土器計測表 ……	268-269-270
第23表	J 2号土坑出土土器計測表 ……	270
第24表	G区グリッド出土土器計測表 ……	270-271-272-273-274
第25表	H区グリッド出土土器計測表 ……	274
第26表	I区グリッド出土土器計測表 ……	274
第27表	J区グリッド出土土器計測表 ……	274-275
第28表	K区グリッド出土土器計測表 ……	275
第29表	L区グリッド出土土器計測表 ……	275
第30表	M区グリッド出土土器計測表 ……	275
第31表	Y 1号土坑出土土器観察表 ……	278
第32表	24号溝出土土器観察表 ……	278
第33表	集生時代グリッド出土土器観察表 ……	278
第34表	14号住居跡穴一覧表 ……	280
第35表	14号住居跡出土土器観察表(1) ……	281
	14号住居跡出土土器観察表(2) ……	282
第36表	12号住居跡穴一覧表 ……	283
第37表	12号住居跡出土土器観察表(1) ……	284
	12号住居跡出土土器観察表(2) ……	285
第38表	1号住居跡出土土器観察表 ……	286
第39表	2号住居跡穴一覧表 ……	288
第40表	2号住居跡出土土器観察表 ……	288
第41表	3号住居跡穴一覧表 ……	289
第42表	3号住居跡出土土器観察表 ……	290
第43表	4号住居跡出土土器観察表 ……	291
第44表	5号住居跡床下土坑一覧表 ……	294
第45表	5号住居跡出土土器観察表 ……	294
第46表	6号住居跡出土土器観察表(1) ……	298
	6号住居跡出土土器観察表(2) ……	299
第47表	8号住居跡出土土器観察表 ……	300
第48表	9号住居跡出土土器観察表 ……	302
第49表	13号住居跡出土土器観察表 ……	303
第50表	15号住居跡出土土器観察表 ……	304
第51表	16号住居跡出土土器観察表 ……	308
第52表	17号住居跡出土土器観察表 ……	312
第53表	18号住居跡出土土器観察表 ……	314
第54表	19号住居跡床下土坑一覧表 ……	315
第55表	19号住居跡出土土器観察表 ……	319
第56表	20号住居跡出土土器観察表 ……	321
第57表	21号住居跡出土土器観察表 ……	323
第58表	133号住居跡出土土器観察表(1) ……	324
	133号住居跡出土土器観察表(2) ……	325
第59表	134号住居跡出土土器観察表(1) ……	325
	134号住居跡出土土器観察表(2) ……	329
第60表	135号住居跡出土土器観察表(1) ……	330
	135号住居跡出土土器観察表(2) ……	331
第61表	136号住居跡出土土器観察表 ……	333
第62表	137号住居跡出土土器観察表 ……	334
第63表	138号住居跡出土土器観察表 ……	334
第64表	139号住居跡ピット一覧表 ……	337
第65表	139号住居跡出土土器観察表 ……	337
第66表	140号住居跡出土土器観察表 ……	339
第67表	141号住居跡出土土器観察表(1) ……	340
	141号住居跡出土土器観察表(2) ……	341

第68表	142号住居跡出土遺物観察表	343
第69表	143号住居跡出土遺物観察表	344
第70表	144号住居跡出土遺物観察表	345
第71表	145号住居跡出土遺物観察表	347
第72表	146号住居跡出土遺物観察表	347
第73表	147号住居跡出土遺物観察表	348
第74表	148号住居跡出土遺物観察表	349
第75表	住居跡一覽表	350
第76表	遺物集中心点出土遺物観察表	352
第77表	1号獨立柱建物跡柱穴一覽表	354
第78表	1号獨立柱建物跡柱穴間一覽表	354
第79表	2号獨立柱建物跡柱穴一覽表	354
第80表	2号獨立柱建物跡柱穴間一覽表	354
第81表	1号櫛形跡柱穴一覽表	355
第82表	1号櫛形跡柱穴間一覽表	355
第83表	2号櫛形跡柱穴一覽表	356
第84表	2号櫛形跡柱穴間一覽表	356
第85表	3号獨立柱建物跡柱穴一覽表	356
第86表	3号獨立柱建物跡柱穴間一覽表	356
第87表	3号櫛形跡柱穴一覽表	358
第88表	3号櫛形跡A柱穴間一覽表	358
第89表	3号櫛形跡B柱穴間一覽表	358
第90表	4号櫛形跡柱穴一覽表	358
第91表	4号櫛形跡柱穴間一覽表	358
第92表	5号櫛形跡柱穴一覽表	358
第93表	5号櫛形跡柱穴間一覽表	358
第94表	櫛形跡一覽表	359
第95表	掘立柱建物跡一覽表	359
第96表	G区ビット群一覽表(1)	361
	G区ビット群一覽表(2)	364
第97表	K区1号ビット群一覽表	365
第98表	K区2号ビット群一覽表	366
第99表	L区ビット群一覽表	366
第100表	M区1号ビット群一覽表	368
第101表	M区2号ビット群一覽表	368
第102表	1号竪穴状遺構土坑一覽表	370
第103表	1号竪穴状遺構出土遺物観察表	371
第104表	2号竪穴状遺構ビット一覽表	371
第105表	4号竪穴状遺構出土遺物観察表(1)	373
	4号竪穴状遺構出土遺物観察表(2)	374
第106表	5号竪穴状遺構ビット一覽表	374
第107表	8号竪穴状遺構ビット一覽表	376
第108表	竪穴状遺構一覽表	376
第109表	6号溝出土遺物観察表	379
第110表	8号溝出土遺物観察表	379
第111表	12号溝出土遺物観察表	382
第112表	13号溝出土遺物観察表	382
第113表	14号溝出土遺物観察表	382
第114表	16号溝出土遺物観察表	387
第115表	18号溝出土遺物観察表	389
第116表	19号溝出土遺物観察表	389
第117表	21号溝出土遺物観察表	392
第118表	23号溝出土遺物観察表	392
第119表	26号溝出土遺物観察表	392
第120表	溝一覽表	396
第121表	1号道一覽表	396
第122表	2号井戸出土遺物観察表	400
第123表	3号火葬跡出土遺物観察表	402
第124表	G区土坑一覽表	411
第125表	H区土坑一覽表	415
第126表	I区土坑一覽表	416
第127表	J区土坑一覽表(1)	421
	J区土坑一覽表(2)	422

第128表	K区土坑一覽表	425
第129表	L区土坑一覽表	428
第130表	M区土坑一覽表	428
第131表	土坑出土遺物観察表(1)	428
	土坑出土遺物観察表(2)	429
第132表	G区中・近世畚計測表	431
第133表	G区中世水田計測表	432
第134表	M区中世・近世畚計測表	433
第135表	M区中世2号畚計測表	433
第136表	G・H区As・B下水田計測表	440
第137表	I区As・B下水田計測表	442
第138表	G区Hr・S上畚計測表	446
第139表	J区Hr・S上畚計測表	447
第140表	L区Hr・S上畚計測表	452
第141表	H区Hr・S下水田計測表	452
第142表	互観察表	455
第143表	紡績車観察表	460
第144表	土曜観察表	460
第145表	鉄器観察表(1)	461
	鉄器観察表(2)	466
	鉄器観察表(3)	467
第146表	石製品観察表	468
第147表	遺構外出土遺物観察表	476

長久保大畑遺跡
新田入口遺跡

第1章 発掘調査の経過と調査の方法

1. 発掘調査に至る経過

前橋市から吉岡町を通過する主要地方道前橋伊香保線は、都市近郊の宅地化や通勤圏拡大、流通経済の発展等により通過車両が増加し、慢性的な渋滞に悩まされてきた。こうした中、渋滞緩和及び都市計画道路整備として、昭和55年に現道と関越自動車道(新湯線)の間に前橋市総社町高井の県道南新井前橋線と市道(通称産業道路)が交わる点から北上し吉岡町大久保字駒寄で現道に取り付け総延長30kmのバイパス工事計画が決定された。このバイパス工事は、これとは別に計画されていた前橋市荒牧町から吉岡町大久保下町に至る道路建設に伴う利根川を渡河する上毛大橋建設工事との関係が示唆され、早急な事業実施の必要性に迫られた。

この工事に先立ち路線内の埋蔵文化財について、県道路建設課より県教育委員会文化財保護課に問い合わせがあり、予備調査として路線内の遺跡分布調査が実施され遺跡が確認された。

本路線内には吉岡町内遺跡詳細分布調査(1993)によると北から辺玉遺跡・熊野遺跡・十二遺跡・金竹西遺跡・沼南遺跡・長久保大畑遺跡・新田入口遺跡が上げられていた。

平成元年度から平成2年度にかけて吉岡町教育委員会により金竹西遺跡調査が行われた。

その後平成6年に金竹西遺跡の南側の調査について、県道路建設課と県教育委員会文化財保護課の間で協議され、平成6年度試掘調査を実施し遺跡の確認がなされた。調査については群馬県知事(県道路建設課)の委託を受けて(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施することとなった。調査は、平成7年度より午王頭川南部分から開始した。平成8年度に午王頭川北のE区、平成9年度には再び午王頭川のH区・I区・J区、平成10年度にL区・M区と工事進捗に合わせて進められた。

2. 調査の経過と調査方法

調査の経過

本遺跡の発掘調査は、平成7年度に午王頭川右岸のF区からG区・H区北側・I区中央部・J区北側・K区を実施し、平成8年度に午王頭川左岸のE区を実施した。平成9年度ではH区からJ区までの7年度未調査部を実施し、平成10年度にL区・M区の調査を実施し、本事業の発掘調査を終了した。

整理事業は平成9年度から平成11年度の3年間で平成8年度分の午王頭川北側を行い、平成11年度に午王頭川南側の平成7年度・9年度・10年度分の整理事業となった。

調査日誌抄

遺構の調査については、次ページを参考にすることとし、ここでは、基本整理・特記事項等について記す。

平成7年度は調査開始にともない、調査前に遺跡名の決定や吉岡町との連絡調整に追われた。また検出された遺構は縄文時代配石遺構という礎を大量に用いた特異なもので、礎の除去については崩落礎・構築礎と同様の礎であり困難を要するところであった。調査は強風・降雪の日もあったが、好天に恵まれたことと発掘作業員の好出勤により順調に行うことが出来た。発掘調査は3月15日までに終了し、その後年度内の僅かな日数で出来る限りの基本整理を実施した。

平成9年度は、年度途中からの開始となり、事務所設置から調査区確定などを行うこととなった。遺構は住居跡、水田・畠跡等で発掘作業員の増員により対応してきた。しかし、平成10年1月初旬の大雪は調査の進捗に大いに支障をきたした。しかし、発掘調査は3月13日までに終了することができ、その後基本整理を行った。

平成10年度は、年度当初に過年度の基本整理および準備を進め、7月より発掘調査を実施した。調査

第1章 発掘調査の経過と調査の方法

第1表 長久保大畑・新田入口遺跡遺構調査日誌(抄)

年	年月日	F区	G区	H区	I区	J区	K区	L区	ME区
平成7年	1995/07/17								
	1995/07/24	G区開始	掘土						
	1995/07/31	作業開始	掘溝坑						
	1995/08/07	G区杭打	↓↓						
	1995/08/14		住						
	1995/08/21		↓						
	1995/08/28		掘文						
	1995/09/04	空撮	掘↓						
	1995/09/11		↓↓ ↓						
	1995/09/18	空撮	↓ 中 ↓						
	1995/09/25		↓ 墓井 ↓						
	1995/10/02		↓ 溝坑戸 ↓						
	1995/10/09		↓↓ ↓ ↓ 田 ↓						
	1995/10/16		↓↓ ↓ ↓ ↓						
	1995/10/23	空撮	↓ ↓ ↓		掘	掘			
	1995/10/30		掘 ↓ ↓ ↓		掘	B	掘		
	1995/11/06	J区開始	掘 ↓ ↓ ↓		掘	土	掘		
	1995/11/13	空撮	↓ FAB ↓		掘	坑 ↓ ↓ ↓			
	1995/11/20		溝墓掘下 ↓		住溝 ↓				
1995/11/27		↓ ↓ 畚 ↓		↓↓ ↓					
1995/12/04		住 ↓ 田 ↓				↓			
1995/12/11		↓ ↓							
1995/12/18	I区終了	↓							
1995/12/25	J区終了		掘						
1996/01/08	K区開始	住 ↓ ↓ ↓				掘			
1996/01/15		↓ ↓ ↓				掘			
1996/01/22		↓ ↓ ↓				掘			
1996/01/29		↓ ↓ ↓				掘			
1996/02/05		↓ ↓ ↓				掘			
1996/02/12		↓ ↓ ↓				掘			
1996/02/19		↓ ↓ ↓				掘			
1996/02/26		↓ ↓ ↓				掘			
1996/03/04		谷 ↓ ↓ ↓				掘			
1996/03/11	K区終了	↓ ↓ ↓		掘					
1996/03/18	G区終了	↓		掘					
平成9年	1997/12/01	H区開始		掘 ↓ ↓ ↓	掘				
	1997/12/08			掘 ↓ ↓ ↓	掘				
	1997/12/15	I区開始		掘 ↓ ↓ ↓	掘				
	1997/12/22	J区開始		掘 ↓ ↓ ↓	掘				
	1998/01/05			掘 ↓ ↓ ↓	掘				
	1998/01/12			掘 ↓ ↓ ↓	掘				
	1998/01/19			掘 ↓ ↓ ↓	掘				
	1998/01/26			掘 ↓ ↓ ↓	掘				
	1998/02/02			掘 ↓ ↓ ↓	掘				
	1998/02/09			掘 ↓ ↓ ↓	掘				
1998/02/16	HJ区終了		掘 ↓ ↓ ↓	掘					
平成10年	1998/06/29								
	1998/07/06	MI区開始							
	1998/07/13								
	1998/07/20								
	1998/07/27								
	1998/08/03	MI区終了							
	1998/08/10								
1998/08/17									
1998/08/24	KL区終了								

年月日は1週間を単位に表す。↓は1週間の内の作業を表す

区は中央に道路があり、その両脇を調査するという、狭い範囲を長く行うものであった。検出した遺構は中世の溝・道、住居跡などであった。調査終了間近には縄文時代の土坑から完形品の土器が出土するなど最後まで気の抜けない調査であった。調査は連日30°を越す猛暑の中進められた。また、7月下旬は豪雨に見回れ、一時調査区が水没することもあった。8月30日(日)に雨の午後現場説明会を開催し、地元の方々25名程の参加があった。発掘調査はこの日をもって終了し、その後基本整理を実施し、整理事業に向けての準備を進めた。

整理事業は、平成11年4月より2班体制で行った。作業分担は縄文時代遺構図と弥生時代以降の遺構図と遺物実測を中心とするA班と、縄文時代土器・石器実測を中心とするB班に大別された。4月から6月にかけてA班は弥生時代以降の遺構図と遺物復元作業を、B班は石器実測を行った。7月から8月は2班合同で縄文土器の分類・復元を行った。9月から11月はA班は弥生時代以降の遺物実測と縄文時代以降の遺構図の作成、B班は縄文土器実測を行い、12月以降詳細の修正・補足、遺構図版・遺物図版・写真図版等の版組作業を行い印刷準備を進めた。

調査方法

調査においては、調査方法や排土方法、さらに安全対策等に万全の配慮を進めた。以下は調査に伴った主な留意点である。

(グリッド設定)

遺構・遺物の記録方法として、グリッド設定による調査方法を基本とした。基準点測量は現場付近に国家座標基準点となる三角点等が使用不能のため、GPS測量により基-1、基-2を観測し、2級基準点の設置を行った。調査区路線上の視通状況が良好でないため、基-1、基-2の基線付近にT、1～T、6までのトラバ一点を設置観測し、結合トラバース計算を行った。調査区内にトラバ一点を設置し、逆計算により方眼杭を設置した。方眼杭グリッド名は、吉岡町教育委員会により平成元年～平成2年に

行われた同事業路線内の金竹西遺跡の調査方法に基づき設定した。金竹西遺跡2A-10ポイント(国家座標X=47,600、Y=72,400)をAa-0ポイントとした。Aa-0を基準に北から南に向かって100mごとにA・B・C…、さらにその中を5mごとにa・b・c…とアルファベットを付し、西から東に向かって5mごとに1・2・3…と数字を付した。グリッドの呼称は北西隅のグリッド名をもって表した。水準測量、BM設置は調査区内にKBM(仮ベンチマーク)を設定し、1等水準点3523より往復観測を行い、精度が良好なのでKBMより調査区内に10cm単位のベンチマークを設定した。

(調査手順)

調査に際しては、表土部分については重機による一括排土方針を行い、以下については精査を行い遺構確認、遺構調査を進めた。

(実測方法)

記録図面類は、住居跡1/20・カマド1/10を基準とし、土坑・溝等は1/20、水田・畠は1/40を基準にした。また、配石遺構については1/10を基準に記録化した。

平面図は、平板測量を主な手段としたが、カマド・配石遺構は簡易やり方実測を施した。断面図も1/10・1/20で対応し、水糸レベルを標高で表すようにした。

図面の作成においては、一部の平面図を業者委託した。

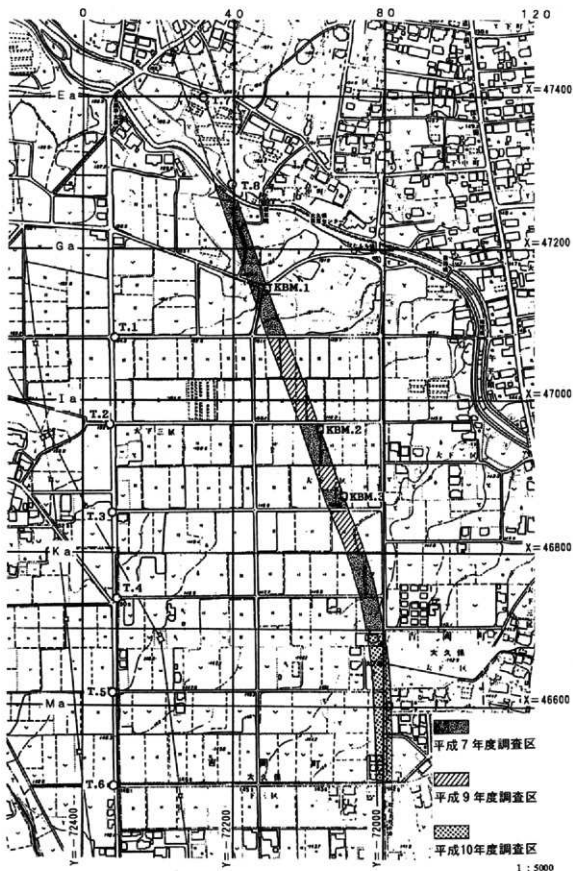
(遺物の取り上げ)

出土遺物は、全点の出土地点(レベル含む)の記録化を基準としたが、微細片は出土遺構・出土層位・出土グリッドを明記し取り上げた。

取り上げ方は、遺構を重視し遺構内で収束するように番号を付した。遺構外出土遺物はグリッドごとで番号を付した。

(写真撮影)

写真は、各遺構に対し担当職員により撮影した。配石遺構等は裸の出土状態から遺構検出状況、特徴的な遺物出土状況等の接写を行った。住居跡も遺物



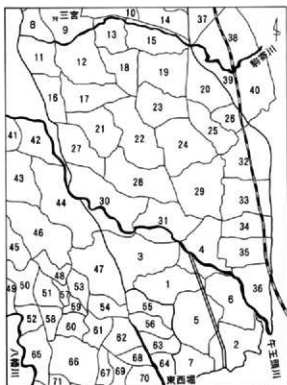
第1図 調査区及びグリッド配置図

出土状態、遺物取り上げ後の床面上の状態、床下の状態等各々撮影し、さらにカマドも燃焼面と燃焼面下状態、特徴的な遺物の出土状態や土層に際しても、接写を行った。配石遺構や住居等の撮影にはローリングタワー及びフォトエレベーターシステムを用いて行った。また、広域については、業者による気球撮影等も随時実施した。

使用した主な機種は、カメラはブローニー版(120)一眼レフ6×7(ペンタックス)、ライカ版(135)一眼レフ35mm(キャノンEOS)。フィルムはモノクロームネオパンSS及びリバーサルコダクローム64である。なお、通常の写真はブローニー版はモノクローム写真のみを撮った。

(基本整理)

調査途中より、出土遺物の水洗い、図面整理を行い、整理事業段階の省力化を図った。



第2図 遺跡周辺の小字名

(安全対策等)

調査区外周に松杭を打ち安全ロープを複数段に設定するとともに、道路に面する部分については安全柵や4mの短管パイプを用いたスタンドバリアード等を設置し周辺への安全対策を施した。また、本調査地域は群馬県特有の赤城風等の強い地域にあり防塵対策には一段の配慮を要した。近隣住宅に対しては調査区外周に防塵ネットを設置した。個別遺構調査中の防塵対策としては簡易移動式防塵ネットを設け、発掘作業員の健康にも配慮し調査を進めた。

整理方法

実測図・写真・記述の3つの方法を用いて行う。視覚的方法を主に記述で補足し、わかりやすく、明解で、簡潔で、正確なものを目指し作業を進めた。

第2表 遺跡周辺小字名一覧表

No	小字	No	小字	No	小字	No	小字
1	おおばたけ 大畑	19	もとじゆく 本宿	37	ちのき 赤木	54	しんめいにし 明神西
2	しんめいにし 新田入口	20	みつや 三津屋	38	うのほら 上ノ原	55	みちのかみ 道土
3	ながくば 長久保	21	ほらなか 原中	39	まとうば め場	56	みちのした 道下
4	ぬま 沼	22	くまの 熊野	40	せらい 瀬来	57	鍛冶屋
5	まえばら 前原	23	ふどうくぼ 不動久保	41	きたこうち 北耕地	58	けだいぶん 毛織分
6	ぜんとく 善徳	24	じゅうに 十二	42	きたこうち 北耕地	59	松原道
7	みりゅうとう 見柳東	25	たばた 田端	43	やしき 屋敷	60	だいかんめい 代官免
8	みやした 宮西	26	くぼた 久保田	44	ひかしこうち 東耕地	61	しんめいまえ 明神前
9	みや 宮	27	なのかいち 七日市	45	みなみこうち 南耕地	62	おかげ 尾影
10	みやひがし 宮東	28	かたがい 片貝	46	みなみこうち 南耕地	63	いしぼ 石場
11	みやまえ 宮前	29	きんち(きい) 金竹西	47	みなみこうち 南耕地	64	きたうち 北内
12	どうじょう 道城	30	よしかいど 吉開西	48	あまき 粟崎	65	ひより 鶴鳥
13	なかにま 中島	31	おおまつ 大松	49	もとやしき 元屋敷	66	てんしん 天神
14	こまよせ 駒寄	32	かみちよう 上町	50	谷	67	ぶぜん 豊前
15	みやた 宮田	33	なみちよう 中町	51	石塚	68	ぶぜん 豊前
16	しんげぶん 新保分	34	しもちよう 下町	52	清水端	69	上東西
17	おんなづか 女塚	35	しもなかちよう 下中町	53	ふたごつか 双塚	70	にいりん 如意輪
18	へだま 辺玉	36	おおしも 大下				

第2章 周辺の環境

1. 遺跡の立地

長久保大畑遺跡・新田入口遺跡は、群馬県北群馬郡吉岡町大字大久保に所在する。吉岡町は、群馬県のほぼ中央にあり、榛名山東南麓に位置する。本遺跡は吉岡町の南端に位置し、関越自動車道新潟線駒寄PA南東約1km、JR群馬総社駅北西約1kmに位置し、東1kmに利根川が南流している。また、本事業計画の主要地方道前橋伊香保線は本遺跡東0.3km程を南北に通る。この道は古代において「佐渡奉行街道」と呼ばれ関東と新潟を結ぶ要路であり、本遺跡東には当時の大久保宿の名残が顕著である。

吉岡町の地形は、北西の榛名山山体部と、町の中心である緩斜面の台地部、利根川沿いの低地部に三分される。その比高差は榛名山山体から利根川沿いまでで約700m程ある。また、台地部と低地部の境には利根川の河岸段丘が発達しており、比高差約10mを測る。台地上には榛名山を水源とする利根川支流の滝沢川・吉岡川・駒寄川・午王頭川の四河川が東流及び東南流し、台地を開析・細分する。これらの河川は、榛名山に降った雨がいったん伏流水となり、標高300m程で各所に湧き出し河川を形成したものである。

吉岡町地層は、吉岡川を境に南と北で大きく異なり、本遺跡のある南側では榛名山前麓の岩屑雪崩の青灰色の砂礫層（陣場岩屑流）が厚く堆積し、その上に浅間山・榛名山の火山噴出物が覆い、さらに低地部では河川の氾濫層が覆う。また、台地部には隣接する榛東村・群馬町にかけて特徴的に分布する陣場岩屑流丘が随所に認められる。吉岡川北側では、6世紀代の榛名山二ツ岳形成に係わる火山噴出物及び噴火後に起こった土石流による堆積物が厚く堆積する。本遺跡調査区内においても北側で2ヶ所の陣場岩屑流山を確認した。

2. 周辺の遺跡

本遺跡は、縄文時代から中・近世に至る複合遺跡である。本遺跡は「吉岡町の遺跡―町内遺跡詳細分布調査報告書―」に154長久保・大畑遺跡（包蔵地、縄文・古墳・平安）、164新田入口遺跡（包蔵地、縄文・奈良・平安）と記される周知の遺跡である。周辺には多くの遺跡が確認調査されている。以下に時代を追って記す。

縄文時代草創期・早期の遺物遺構は周辺には確認されていない。前期の遺構は住居跡や土坑等が七日市遺跡、熊野遺跡、清里長久保遺跡、上野国分僧寺・国分尼寺中間地域等で確認されており、遺物は周辺の遺跡で採取される。特に包含層は本遺跡に隣接する高井桃ノ木遺跡で浅間六合軽石を含む黒色土が確認され、本遺跡長久保大畑遺跡G区配石遺構下の黒色土層との関連が示唆される。中期になると遺跡数は増加する。中期中葉の住居跡が検出した本遺跡に北接する沼南遺跡がある。中期後半では、配石遺構が本遺跡長久保大畑遺跡から検出した。その他、住居跡等が本遺跡新田入口遺跡、清里長久保遺跡、下東西遺跡、上野国分僧寺・国分尼寺中間地域等で検出した。遺物の散布は広範囲で確認されている。後期は天下遺跡の土坑等が確認されている他減少してくる。晩期の遺物は極少となる。

弥生時代の様相は、標高160mを境に高い地点では遺物の散布が僅かな状態であるが、160mより低い地点になると遺物の散布量も増加し、遺構が確認されている。主な遺構は、中期竜見町式期の集落の検出した清里・庚申塚遺跡や上野国分僧寺・国分尼寺中間地域等があり、後期式期は本遺跡新田入口遺跡をはじめ隣接する遺跡は桜ヶ丘遺跡、柿木遺跡、蕎麦遺跡等がある。

古墳時代の本遺跡周辺は前橋市総社町から吉岡町・渋川市にかけて榛名山東南麓に広がる県内有数の古墳密集地域である。6世紀中頃から7世紀にかけて

構築された南下古墳群や三津屋古墳、清里・長久保古墳群、6世紀後半から8世紀初頭に構築された総社古墳群等がある。また、総社古墳群周辺には白鳳期の建立と考えられる山王院寺があり、仏教文化と古墳文化の併存が伺える。集落跡は本遺跡長久保大畑遺跡の4世紀代の住居跡を初現に、6世紀から7世紀代の遺跡が多数検出しており、住居跡は大久保A遺跡や辺玉遺跡、熊野遺跡、金竹西遺跡、高井桃ノ木遺跡や下東西遺跡、上野国分僧寺・国分尼寺中間地域等がある。水田跡は本遺跡長久保大畑遺跡や北原遺跡等で確認され、畠跡は本遺跡長久保大畑遺跡、大久保A遺跡、金子十三町遺跡、西国分新田遺跡等で確認された。なお、この畠跡は本遺跡を含めHr-Sに覆われたものと、Hr-Sを兼ねるものとがあり、時代的把握は今後の研究が待たれる。

奈良・平安時代の遺構は大久保A遺跡の西にある奈良・平安時代を縁起と考えられる三宮神社(本地仏十一面観音)周辺に集中が見られる。この神社は伊香保神社の里宮と考えられている。周辺には8世紀から11世紀にかけての集落跡が検出した大久保A遺跡を初め、道城遺跡、辺玉遺跡、熊野遺跡、金竹西遺跡等8世紀代の集落跡が確認されている。また、下東西遺跡では8世紀初頭の官衙が想定される遺構と8世紀から11世紀の集落跡が確認されている。国分寺周辺の国分境遺跡、上野国分僧寺・国分尼寺遺跡等でも8世紀から11世紀にかけての集落跡が検出している。その他、9世紀代を中心とする長久保大畑遺跡、新田入口遺跡、10世紀代を中心とする沼南遺跡等がある。水田跡は本遺跡長久保大畑遺跡や西国分新田遺跡等で確認されている。畠跡は大久保A遺跡の畝状遺構や本遺跡長久保大畑遺跡で確認された。

中世の遺構は、大久保A遺跡で11世紀の住居跡を切り込んで造られた道状遺構が検出し、鎌倉街道が想定された。鎌倉街道は、鎌倉から武蔵国を経て上野国に入る幾筋かの街道が考えられ、本地域を経由する街道は越後国に通じる「上道(かみつみち)」の一つとされる。現在の関越自動車道(新湯線)はこの街道に並行するようにある。開通前までは農道と

して利用されており、鎌倉街道の名も残っていた。また、この街道に沿うように女堀があったという。女堀は吉岡川の南岸から始まり、三宮神社の西を通り、前橋市植野・高井地区を通り、総社二子山古墳南から大屋敷に至る用水路であると言われる。女塚付近では周辺の田畑との段差が見られ、地元ではこの堀を「芥堀(こがいがほり)」と呼んでいる。なお、青葉遺跡では女堀の一部と思われる堀が検出している。また、本遺跡北の午玉頭川左岸には鎌倉街道の脇往還とする三宮神社に通じる三宮道が小道として残る。新田入口遺跡から検出した道跡、溝跡は鎌倉街道や女堀との関係が示唆される。また、本地域は群馬郡大窪郷に位置し、本遺跡長久保大畑遺跡の中世屋敷が検出している。水田・畠跡は本遺跡長久保大畑遺跡・新田入口遺跡、大屋敷遺跡、冷水村東遺跡等で確認された。

近世では、本遺跡東側に佐渡奉行街道の宿場町大久保宿がある。佐渡奉行街道は中山道を本庄宿から分かれ、玉村一総社一渋川を通り越後に通じる街道で三国街道の古道である。大久保宿は1601年に秋元長朝が総社城を築き総社の町造りをしてから鎌倉街道に変わる主街道の宿場として、七日市を大久保に移動したことに起因する。三国街道は、高崎一金古一渋川を通る街道で、元禄・正徳のころ整備された金古道であり、高崎城の繁栄により往来は金古道が主となった。しかし、佐渡奉行は後世まで総社を通る古道を通行していたためこの街道名となり、金古道が三国街道の本街道となった。この三国街道の名称は現在でも使われている。また、近世より午玉頭川の水を水田に引くための水車が岸沿いにあり、調査区北では「中車」と呼ばれた水車跡が僅かな平坦面として確認されている。

参考文献

- ・吉岡村誌編纂室1980「吉岡村誌」吉岡村教育委員会
- ・吉岡町教育委員会1993「吉岡町の遺跡」吉岡町文化財調査報告書第3集、町内遺跡詳細分布調査報告書
- ・総社町誌編纂委員会1956「総社町誌」群馬県群馬郡総社町
- ・群馬県文化事業振興会昭和56年「上野国郡村誌6 群馬郡(3)」
- ・群馬町教育委員会1986「群馬町の遺跡—分布調査からみた地域のうつりかわり—」
- ・鎌野巧平成9年「吉岡町の遺跡」群馬県史散歩第143号
- ・その他 第3表「周辺の遺跡」調査報告書



第3図 周辺の遺跡

第3表 周辺の遺跡(1)

No	遺跡名	所在地	遺跡の概要	文献	備考
1	長久保大畑	吉岡町大字久久保	本報告書		前伊
2	新田入口	吉岡町大字久久保	本報告書		前伊
3	稻南	吉岡町大字久久保	縄文時代中期中葉集落、平安時代集落	『稻南遺跡』群理文1999	前伊
4	金竹西	吉岡町大字久久保	古墳時代後期、奈良・平安時代集落	『金竹西遺跡』吉岡町教委1994	前伊
5	熊野	吉岡町大字久久保	古墳時代～平安時代集落	『熊野・辺玉遺跡』吉岡町教委1995	前伊
6	辺玉	吉岡町大字久久保	古墳～平安集落	同上	前伊
7	高井桃ノ木	前橋市高井町	縄文前期包合層、古墳～平安時代集落	『高井桃ノ木遺跡』大友町西通線遺跡調査会1999	前伊
8	大久保A	吉岡町大字久久保	古墳～平安集落、中世道路伏通構	『大久保A遺跡』吉岡町1986	関越
9	女塚	吉岡町大字久久保	奈良平安集落	『七日市遺跡・滝沢古墳・女塚遺跡』吉岡町教委1986	関越
10	七日市	吉岡町大字久久保	縄文前期集落、奈良・平安時代集落	同上	関越
11	下東西	前橋市青梨子町、群馬町北原	縄文中期埋蔵、弥生～平安時代集落跡、中世集落跡	『下東西遺跡』群理文1987	関越
12	北原	群馬町北原	古墳時代水田、奈良・平安集落	『北原遺跡』群馬町教委1986	関越
13	四分塚	群馬町北原	古墳～中世以降集落跡	『四分塚遺跡』群理文1990	関越
14	上野国分僧寺・国分尼寺中間地域	群馬町東国、前橋市元総社町	縄文中期・弥生～中世集落	『上野国分僧寺・国分尼寺中間地域』(1)(8)群理文1986～1992	関越
15	金古北十三町	群馬町金古	古墳時代品、奈良～中近世集落	『冷水村東遺跡・西国分新田遺跡・金古北十三町遺跡』群理文1998	高決
16	西国分新田	群馬町西国分	古墳時代品、平安集落・水田	同上	高決
17	冷水村東	群馬町冷水	古墳時代水田・畠、古墳～平安集落、中世畠・道	同上	高決
18	諏訪西	群馬町引間	古墳～平安集落、古墳時代品	『諏訪西遺跡』群馬町教委1995	高決
19	南下古墳群	吉岡町大字南下	6 C中～7 C東の古墳4基を検出	『群馬県史研究11』1980	
20	道城	吉岡町大字久久保	奈良・平安時代集落	『道城遺跡』吉岡町教委1998	
21	三津屋古墳	吉岡町大字久久保	7 C八角墳	『三津屋古墳』吉岡町教委1996	
22	清里・陣場	吉岡町大字陣場 前橋市池端町	縄文土坑、奈良・平安時代集落、中世集落	『清里・陣場遺跡』群理文1981	
23	清里・長久保	吉岡町大字久久保	縄文中期集落・畠石、古墳、平安集落	『清里・長久保遺跡』群理文1986	
24	大下	吉岡町大字下	縄文後期土坑、平安時代集落	『大下遺跡』吉岡町教委1993	
25	板ヶ丘	前橋市総社板ヶ丘	弥生包合層、平安時代集落、中世溝、近世以後の畝状遺構	『総社板ヶ丘遺跡』山武考古学研究会1985	
26	清里・庚申塚	前橋市上青梨子町	弥生中～後半環壕集落	『清里・庚申塚遺跡』群理文1981	
27	松ノ木	前橋市青梨子町	平安集落	『清里南部遺跡群Ⅱ』前橋市教委1980	
28	栗野前	前橋市青梨子町	縄文～中世集落	『富田遺跡群・西大室遺跡・清里南部遺跡群』前橋市教委1980	
29	中島	前橋市青梨子町	奈良～中世集落	『中島遺跡発掘調査概報』前橋市教委1980	
30	下東西水上	前橋市青梨子町	奈良～中世集落	『下東西水上遺跡』群理文	
31	熊野谷	前橋市青梨子町	縄文・平安集落	『熊野谷遺跡』前橋市埋文調査団1989	
32	国分境Ⅱ	群馬町北原	縄文・弥生包合、古墳～平安集落	『国分境Ⅱ遺跡』群馬町教委1993	
33	西国分	群馬町西国分	縄文・古墳～中世集落、古墳畠	『西国分Ⅰ・Ⅱ遺跡』群馬町教委1989～1990	
34	後足間	群馬町後足間	縄文・弥生包蔵地、古墳～平安集落 契鉄遺構	『後足間遺跡』Ⅰ～Ⅲ群馬町教委1986～1988	
35	柿木	前橋市高井町	縄文弥生土器、奈良平安集落	『柿木遺跡・Ⅱ』前橋市教委1984・1988	
36	青葉	前橋市高井町	住居跡、女塚?	『青葉遺跡』前橋市教委1988	
37	総社二子山古墳	前橋市総社町植野	7 C前方後円墳	A・B	
38	愛宕山古墳	前橋市総社町総社	7 C初瀬円墳	A・B	
39	宝塔山古墳	前橋市総社町総社	7 C末方墳	A・B	
40	蛇穴山古墳	前橋市総社町総社	8 C初瀬方墳	A・B	
41	遠見山古墳	前橋市総社町総社	前方後円墳	A・B	
42	村東	前橋市総社町総社	平安集落	『村東遺跡』前橋市教委1988	
43	大塚敷遺跡	前橋市総社町総社	古墳～中世集落	『大塚敷遺跡Ⅰ～Ⅳ』前橋市埋文調査会1993～1996	
44	山王庵寺	前橋市総社町総社		『山王庵寺跡発掘調査報告書』前橋市教委1975～1990、A・B	
45	昌泰寺廻向	前橋市総社町総社	平安集落	『昌泰寺廻向Ⅱ遺跡』前橋市教委1988、A・B	

第3表 周辺の遺跡(2)

No.	遺跡名	所在地	遺跡の概要	文献	備考
46	上野園分尼寺跡	前橋市元総社町 群馬町区分		『上野園分尼寺跡発掘調査報告』県教委 1970・1971 『上野園分尼寺跡・上野園分二寺中間地 域』県教委・群馬県1993	
47	鎌倉街道(推定)			『鎌倉街道』群馬県教委	
48	佐渡奉行街道			『佐渡奉行街道』群馬県教委1981	
49	三国街道			『三国街道』群馬県教委	
50	水車(中車)	吉岡町大久保		『吉岡村誌』吉岡村教委1980	

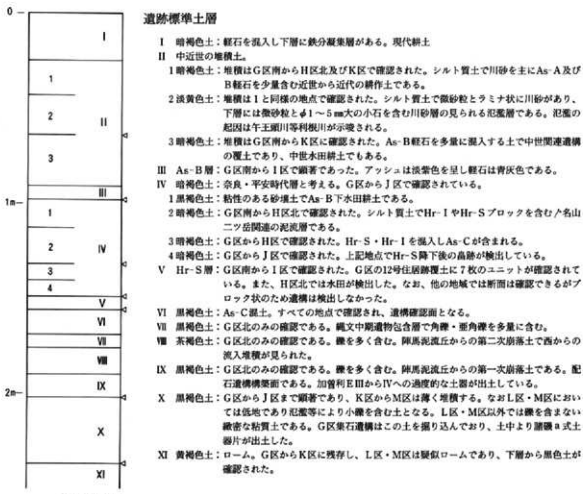
註) 文献：Aは『群馬県史』群馬県1981、Bは『前橋市史』前橋市教委1971

備考：前伊は(主)前橋・伊香保線、間越は間越自動車道(新高線)、高沢は(主)高崎・袋田線である。

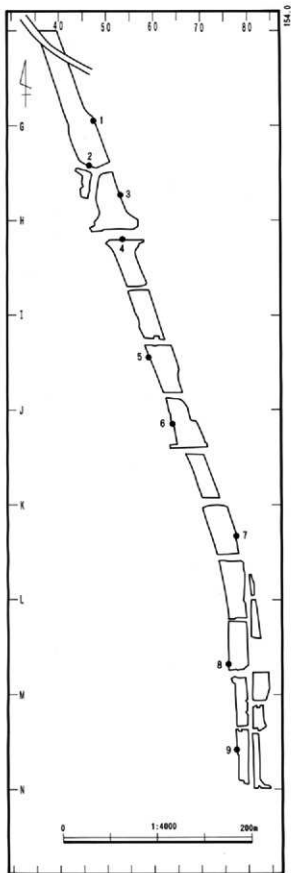
3. 標準土層説明

長久保大畑遺跡から新田入口遺跡は、北から南にかけて比高差10mを測り、地形は北西方向から南西方向に傾斜しておりこの勾配にあわせ堆積している。

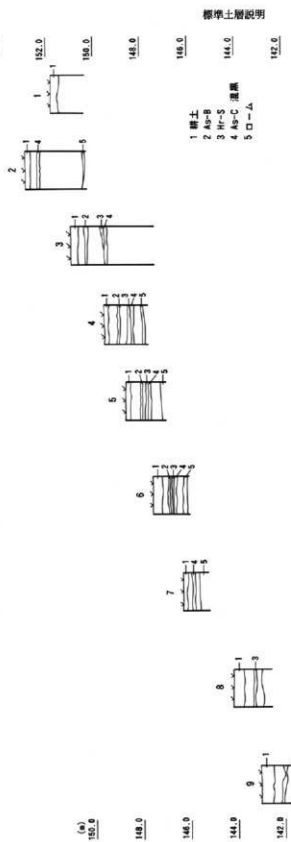
下記の標準土層断面は各調査区において層序が捉えられた箇所をつなぎあわせたものである。作図にあたっては各調査区の平均堆積を基にした。次ページの各地点土層断面図では鏡層となる表土・As-B層・Hr-S層・As-C混黒色土層・ローム層について標高にあわせ記載した。本標準土層説明とあわせ参照されたい。なお、F区の断面調査記録は別に記載する。



第4図 標準土層図



第 5 図 調査区土層柱状図



第3章 検出した遺構・遺物

第1節 長久保大畑・新田入口遺跡の概要

本遺跡の地形は大きく4つに分けられる。調査区北から、午王頭川氾濫層堆積地、陣馬泥流丘付近、ローム平坦面、低地部である。

午王頭川氾濫層地点はこの氾濫層が現河道から87m程南まで続き、この地点でローム面を削り込むように旧河道が検出した。この河道は第2図小字図の沼の地境にあたる。陣馬泥流丘付近は、旧河道北のG区からH区西側である。この地点は約15,000年前に標名山で発生した山体崩壊に由来する陣馬岩屑なだれの堆積面の東端に位置し、堆積地形に特徴的な「流れ山」と呼ばれる小丘陵（陣馬泥流丘）が認められる。その間は谷地形を成し、厚く堆積した黒色土が縄文時代の確認面となる。ローム平坦面は、G区からK区にかけてである。約10,000年前に形成されたローム層が確認され、上面に堆積したAs-C混土面では多くの遺構が検出した。低地部はL区・M区であり、氾濫による小礫混入黒褐色土に覆われ、下層は二次堆積のローム層が確認された。この地点は深い谷がある。

以下に長久保大畑・新田入口遺跡の概要を古い順に紹介する。

縄文時代の遺構はG区に集中する。本調査により発見された最も古い縄文土器は、約6,000年前ころのものである。前期後半の諸磯式期が、包含層としてG区の陣馬泥流丘の間にある谷に厚く堆積する黒色土として確認された。下層はローム層である。

中期後半の遺構は集石遺構16基・配石遺構8基・列石遺構2基・土坑3基である。

集石・配石・列石遺構は陣馬泥流丘に挟まれた谷地形を成す地点に検出した。厚く堆積した加曾利EⅢ式期からIV式期における土器片を含む泥流丘崩落土下面で確認された。集石遺構には墓の可能性のあるものもあり、周辺に配石遺構がある。また、列石遺構はこれらの縁辺を成すように等高線に沿って構

築されていた。なお、住居跡は検出されておらず本地点は墓域あるいは祭祀跡と考えられ、当時の精神生活の一端が垣間見ることができる。

土坑はローム台地と低地部の変換点に10世紀代の住居跡床下に検出した。

遺物としては、3号集石から出土した石棒が11mも離れた11号集石出土の石棒と接合関係を示すなど本遺跡における遺構間の関連が伺えた。また、6号配石からは用途不明の三角柱状土製品が出土した。これは県内でも出土例が少なく8個程が確認されている稀少なものである。また、土坑内からは底面に置くように完形深鉢土器が出土した。

弥生時代の遺構は溝1条と土坑1基である。低地部の深い谷の縁辺部に検出した。周辺に土器片の散布がみられ周辺に遺跡が予想される。

古墳時代の遺構は住居跡2軒と水田1面が検出した。また、5世紀末頃に降灰したHr-Sをすき混む畝状遺構が3地点で確認された。この遺構に対し本遺跡では「畠」として調査した。住居跡は陣馬泥流丘に挟まれる緩斜面地にあり、水田・畠は緩斜面及び平坦部に検出した。住居跡は本地域では出土土器から最も古い4世紀代の所産である。また、Hr-Sの降灰堆積を埋土とする5世紀代の住居跡が検出した。この住居跡からは周堤帯も確認されている。

奈良・平安時代の遺構は調査区全域で確認され、住居跡37軒、掘立柱建物跡1棟、櫛列3基、竪穴状遺構6基、溝14条、水田1面、畠4面が検出した。住居跡は8世紀から10世紀代にかけてである。大きく3つの地点に分けられ、北側は10世紀代の住居跡がAs-B下水田を取り囲むようにあり、周辺には9世紀代の住居跡がある。中央では9世紀代の住居跡が大きな弧状を呈し、中央に8世紀代の住居が2軒検出した。また、この弧状内には竪穴状遺構や掘立柱建物跡の可能性のあるピット群が検出した。南側

でも9世紀代の住居跡が弧状を呈し、周辺に8世紀、10世紀代の住居跡がある。

溝は居住域を区画するものと水田・畠を区画する2種類がある。水田は調査区北側の緩斜面地に段々田圃のように構築され、平坦面では畦を造り耕作されていた。当時の農地拡大に伴う土地利用のあり方の一端が伺えた。畠は平坦部で検出した。

遺物は、カマドの袖に使用されていた瓦や左縁、耳皿、紡錘車の他に多くの土器片が出土した。

中世の遺構は調査区北と南側に検出した。掘立柱建物跡2棟、柵列2基、竪穴状遺構2基、溝7条、道1本、井戸4基、火葬跡3基、水田1面、畠3面である。北側で検出した掘立柱建物跡・柵列等は屋敷の一部である。この屋敷は北・西の傾斜地に囲まれるようにあり、溝と柵列で区画した内側には、掘立柱建物をはじめ井戸、火葬跡が検出した。また、この区画内には多くのピットが検出しており、主要建物の可能性が示唆される。

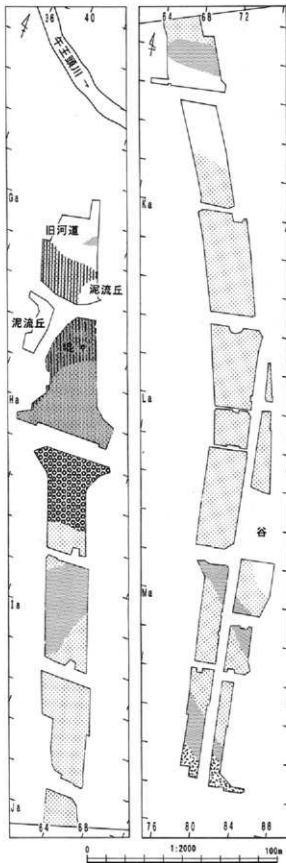
溝は水田・畠の区画のほかに、用水路と思われる幅広く深い溝が検出した。南側で検出した用水路と思われる溝は谷の縁辺部に数回にわたる改修の跡が見られた。また、この用水路に並行して道が検出しており、その端には畠跡が検出している。

この溝や道は周辺に想定される鎌倉街道や女堀との関係も示唆され、それらから分岐されたものではないかと推測される。

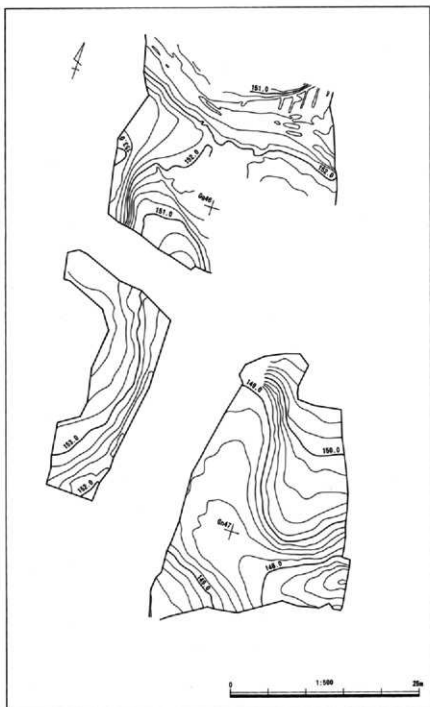
水田は平安時代から踏襲される調査区北側の緩斜面に段々田圃をつくり、平坦面で区画を整えた水田へと連なる。畠は道の端や溝の端で検出した。

近世以降の遺構は畠の区画と思われる溝や土坑が多数検出した。

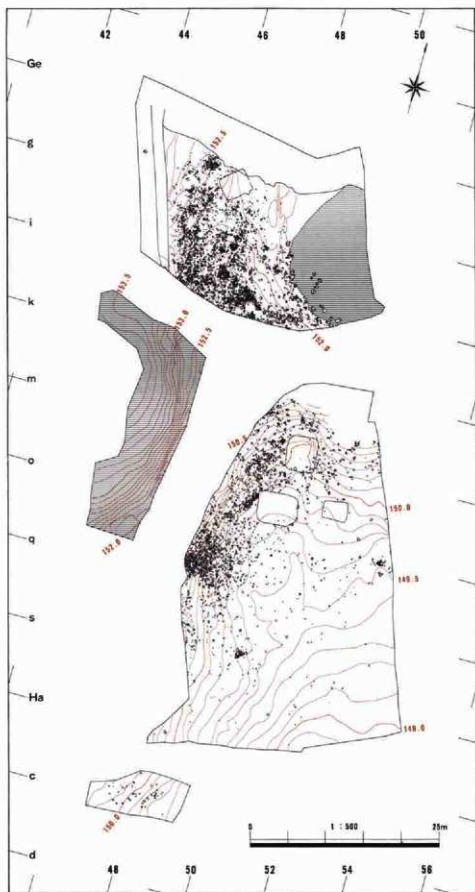
本調査区周辺は原始においては特別な地域であり、古代からは居住域として発展してきた。しかし、農耕の面においては水の確保が困難なところであり、水田よりも畠が中心となっていた。しかし昭和30年代の土地改良により本地域一帯は水田地帯となった。



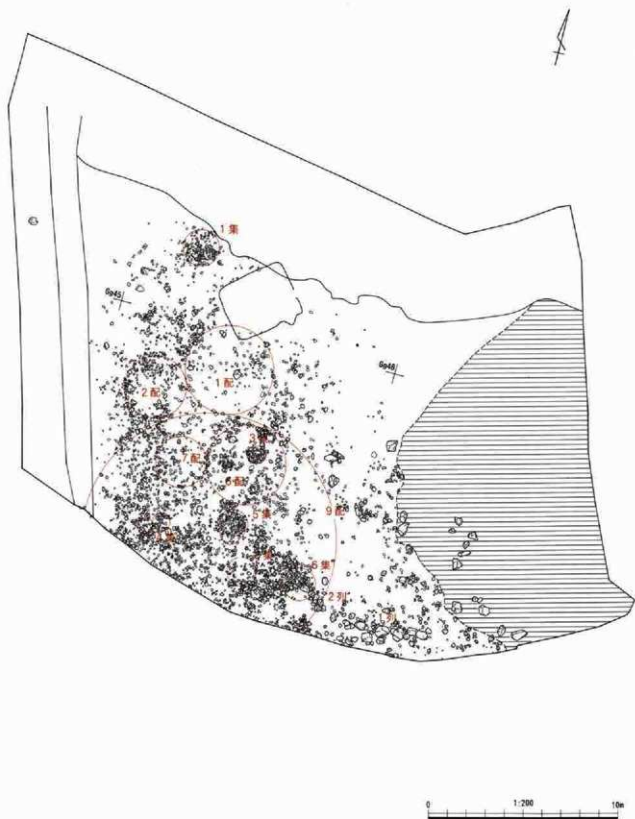
第6図 時代別遺構配置図



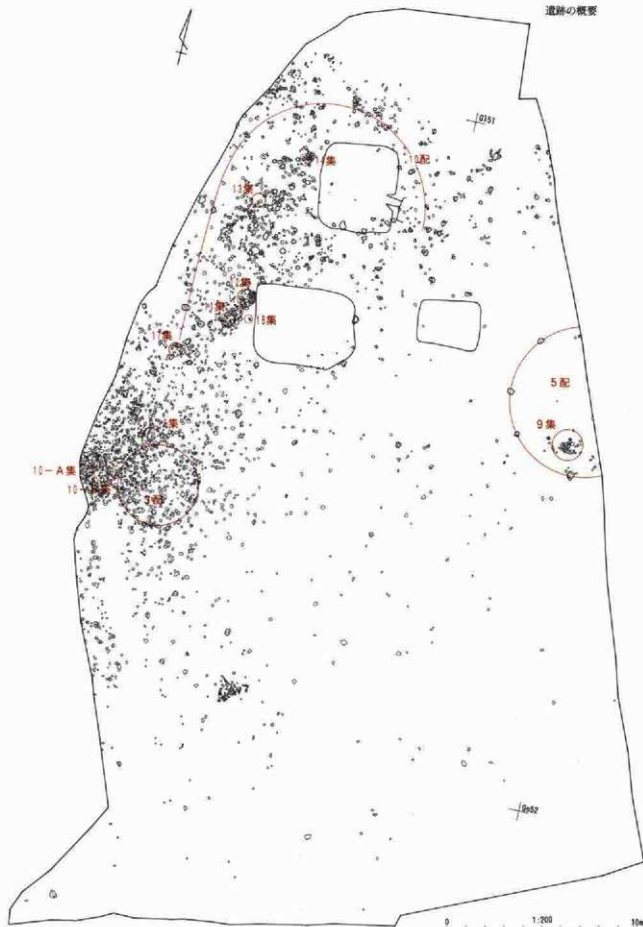
第7図 G区ルーム面コンタ図



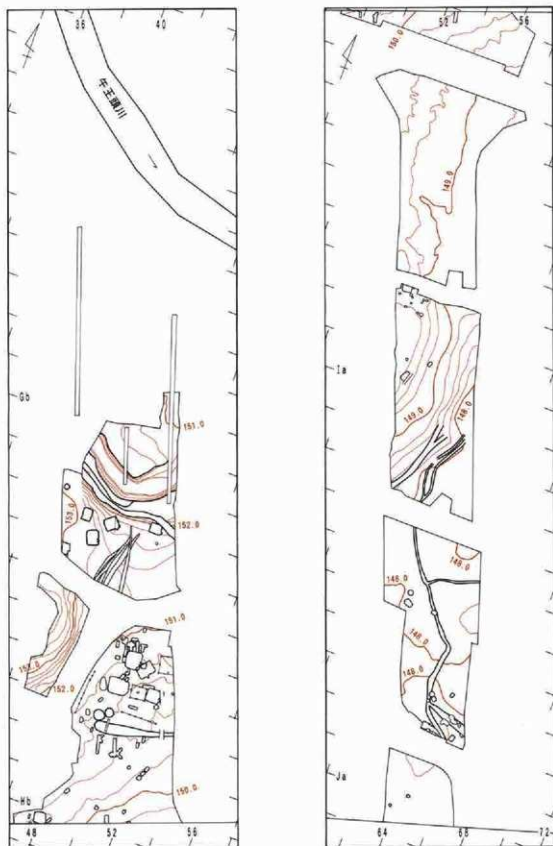
第6図 G区縄文層出土状態及びコンタ図



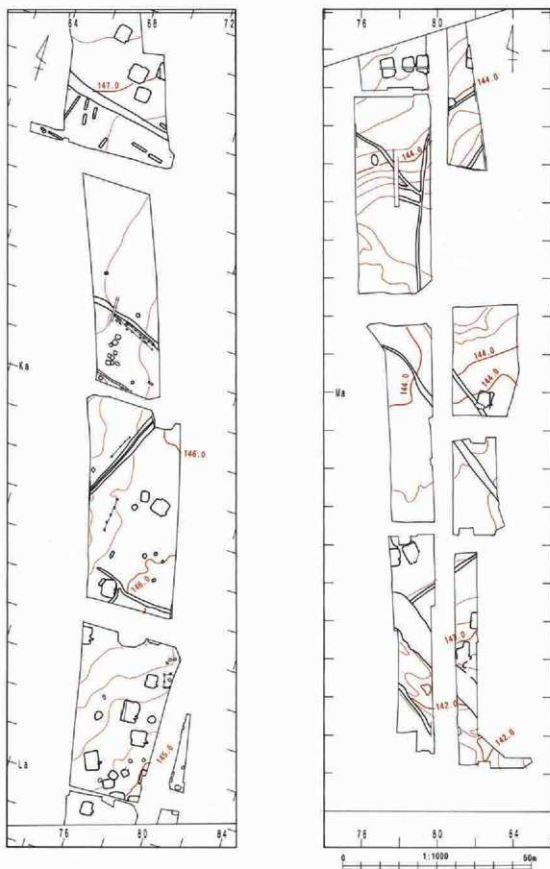
第9図 G区道北縄文遺構配置図



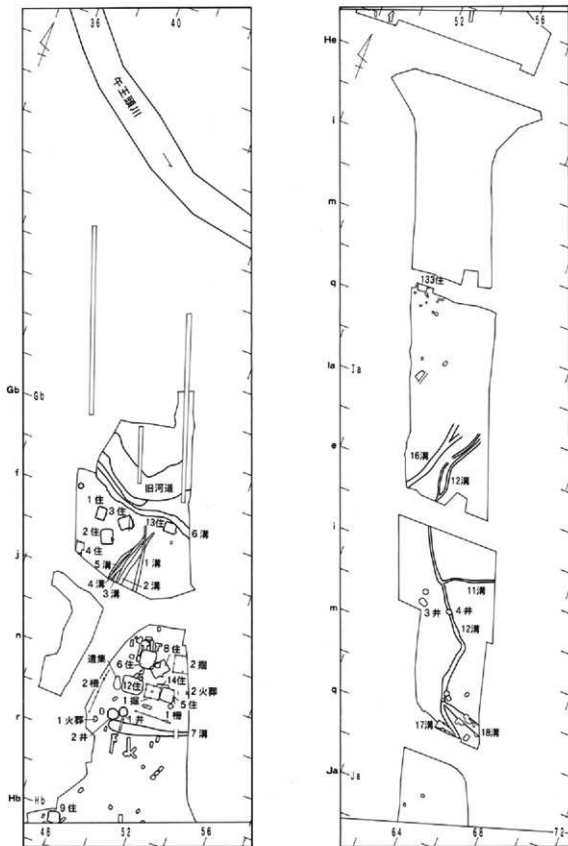
第10図 G区道南縄文遺構配置図



第11図 調査区遺構配置コンタ図(1)



第12図 調査区遺構配置コンタ図(2)



第13図 調査区遺構配置図(1)



第14図 調査区遺構配置図(2)

第2節 縄文時代

縄文時代の遺構は、G区で集石遺構16基、配石遺構8基、列石遺構2基、土坑1基、K区に土坑1基、L区に土坑1基が検出した。

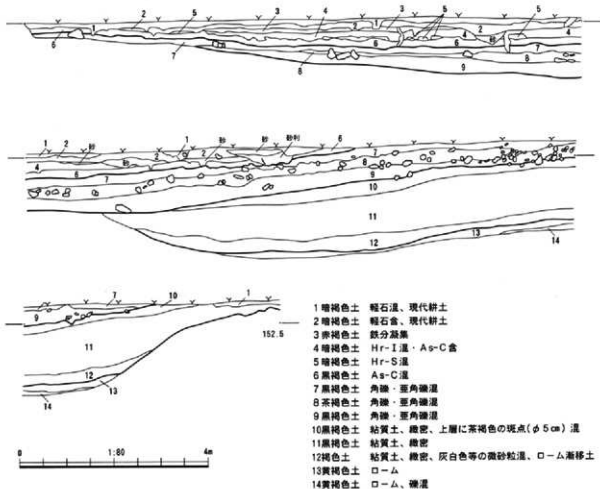
本遺跡で検出した「集石遺構」・「配石遺構」・「列石遺構」は全体的には「配石遺構」として総称されるが、礫の集中状況にあわせ本遺跡では以下の名称を用いた。「集石遺構」は礫の密集・集中する遺構、「配石遺構」は礫が整然と配置された遺構、「列石遺構」は礫が帯状に連なる遺構に対して用いた。

主な遺構はG区を中心に検出した。他の調査区においてはローム層まで掘削した住居跡等の底面や壁面で確認し、遺構空白地域ではローム層までのトレンチを設けて確認した。その結果ローム漸移層中まで縄文土器・石器の出土が見られた。しかし土器は

前期から中期までと型式が安定せず、包含層と判断し全域におよぼ精査は実施しなかった。

配石遺構は、G区北側の陣馬泥流丘の間の谷地形を呈する地点に検出した。遺構は礫を多量に含む黒色土層中にあり、礫とともに多くの土器・石器が出土した。下層は礫を含まない黒色土が堆積する。このように遺構の確認は黒色土に行うなど容易なものではなかった。調査は礫の検出作業から始まり、出土した遺物はすべて図化して取り上げた。また礫は近接する陣馬泥流丘からの礫を主としており、遺構に伴うものとの区別は困難であった。そのためすべての礫に標高等を附記し選別した。

この礫を多く含む土層内からは加曾利EII式期から加曾利EIV式期の土器と石器が多数出土した。そ



第15図 G区土層断面図

の量は遺物収納箱(60cm×38cm×15cm)に250箱程あり、その内土器が110箱程を占めた。

G区の様相については、第7図に掲載したローム面コンタ図と第8図のG区縄文礫出土状態及びコンタ図を参照されると2つの陣馬泥流丘の間は谷地形を成していることが伺える。ローム層上層は黒色土が厚く堆積している。この断面は第73・86～88図のグリッド出土遺物投影図に表しており、その図に礫を入れることにより配石遺構構築面との比較が行える。

第15図はG区道北のGjラインの断面図である。第6層As-C混黒褐色土下層に第7層黒褐色土があり、縄文時代遺物包含層で角礫・亜角礫を多く含んでいる。第8層は茶褐色土を呈し角礫を多量に含む陣馬泥流丘第二次崩落土で、加曾利EIVの時期を包括する層であると考えられる。第9層も礫を多量に含む陣馬泥流丘第一次崩落土である。礫の集中状態から西から流入堆積したことが伺える。出土土器は加曾利EIIIからEIVへの移行期と考えられる。第10層には礫が混入しない層になり、この層上面に多くの遺構が構築される。第11層上面には9号配石・10号配石が構築され、層中からはGI49-11の諸磯a式の土器が出土した。

本遺構検出の集石・配石・列石遺構の石材について飯島静男氏より次の所見をいただいた。「遺構に用いられている石は、粗粒輝石安山岩と総称したなかの角閃石を含む輝石安山岩及び角閃石を含まない粗粒の輝石安山岩の主に2種類である。量的には、前者が圧倒的に多い。遺跡内に2つある小丘状の流山は、ほとんど角閃石を含む輝石安山岩(前者)の岩層よりなり、まれに異質の安山岩を含む。集石の岩石の多くは、この流山を構成する安山岩と同質で、これらの小丘あるいは付近の同種のものから採取したものと推定される。しかし、同種のものであっても、多少円磨され亜角礫～亜円礫状の石は河川より運ばれたものであろう。粗粒輝石安山岩に同定された岩石は、流山にはほとんど含まれておらず、付近の河川その他より採取したものと考えられる。その形

状も亜円礫でないし亜角礫状のものが少なくないことも、そのことを支持する。」

以下に各遺構について述べる。

第1項 集石遺構

本調査区から礫の密集・集中する集石遺構はG区に集中し16基が検出した。遺構の分布は現道北側では2つの泥流丘に挟まれた谷地形の底面に沿うようであり、現道南側では西側の泥流丘からの斜面が緩和される地点に等高線に沿うように並んで検出した。なお、9号集石は他の集石とは構築地点が異なり、礫の少ない平坦面に検出した。遺構確認面は礫多混黒褐色土面であり、掘り込み面は黒色土のため、遺構確認は困難であった。そこで崩落礫を除去したところで確認された礫の集中を集石遺構とした。形態は礫の分布状況から推測した。平面形は集石遺構構築後の泥流丘崩落に伴い、上部礫が地形に沿って流下されたことが考えられ、これらを考慮し最も集中する箇所から推測した。遺構底面は底部に敷かれた礫の底面とした。出土した土器は主に加曾利EIII式期である。なお、7号集石、15号集石は調査時泥流丘の一部と判明し欠番とした。また、2号集石は6号配石内の一単位とした。

1号集石 (第16・17・107・108図、P L4)

Gf-45グリッドに位置する。調査区最北にあり、北側は旧流路により削平される。周辺には南9.9mに3号集石が位置する。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。

形状は礫の分布から平面形は円形を呈し、規模は礫外縁で189cm、深さは最深で19cmを測る。掘り方は平面円形を呈し、底面は瓢箪形で北側で9cmほど深く成る。確認時に直径2m程の範囲に20cm程の礫の集中が見られた。中央部から南側にかけて径20cm程の礫が集中し、北側では径4～10cm程の礫と深鉢土器口縁部が潰れるように一括集中し確認された。本遺構は底面付近の検出と考えられ、中央及び南側で検出した礫群は北側の小礫群の下面に連なる。この

このことから北側の小礫と土器の検出した部分が本遺構の中心と考えられた。中心部は10cm程の礫が5cm程の小礫及び土器を囲むようにあり、土器の下からは凹石が出土した。石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。

本遺構は全体を僅かに掘り込み、中心部をさらに窪め、8cm程の礫で底面を構築し、凹石を置き土器を配し、上層に小礫で覆うものと考えられる。

石器は中心部の土器下部の凹石や蔽石などを構築材とし、覆土中から石鏃や打製石斧が出土した。土器は中央北側で出土した深鉢口縁部一括と覆土中から深鉢土器片が出土した。出土土器は加曾利EⅢ式期である。

本遺構は北西から南東に傾斜する地点にあり、礫及び遺物の分布は地形に沿って流されているようである。

3号集石 (第18・19・108・109・110図、PL4・5)

Gh-46グリッドに位置する。6号配石内にあり、周辺には南2.6mに5号集石、南西5.2mに4号集石が位置する。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。

形状は礫の分布から平面形は円形を呈し、規模は礫外縁直径98cm、礫内縁直径70cm、深さは礫上面から底面礫直上まで24cm、掘り方底面まで29cmを測る。掘り方は平面円形を呈する。確認時径25～5cm程の礫が外縁を成すようにあり、中央に径10cm程の礫と石棒、深鉢底部が検出した。壁礫は上径21cmから7cm程の礫を楔状に縦長に巡らし、底部には径17～7cm程の礫を敷くように構築する。覆土内には24～4cm程の礫が充填されていた。壁面及び底面に使用された礫は最大7,400g、最小100gを測る。総数90個程の礫である。平均の大きさは重さ1,046gである。覆土内からは最大4,500g、最小は20gを測り、平均603gである。礫はすべて含角閃石輝石安山岩である。

構築方法は壁面に楔状に縦長の礫を配し、時計回りに底面に礫を敷いていき、壁面を2～3段積み上

げたように見られた。

本遺構の性格の手にかりとしてリン分析を中層・底面礫直上・底面礫直下の3点で実施した。その結果、底面礫直上における数値が高く、リングが富化するなんらかの動植物遺体の存在が示唆された。

これらのことから本遺構は墓として構築された遺体埋設後石積み等で上面を覆い、墓標としての石棒が置かれていたものとは考えられないだろうか。

遺物は磨石や凹石などを構築材とし、上層から下半欠損の石棒が検出した。この石棒の下半の一部は南32.7mに位置する11号集石から検出され接合関係を成す。土器は覆土中から深鉢の口縁部や底部が出土した。南側壁礫外側に出土した深鉢土器(3)はf-44、g-45,46、h-47、i-46グリッド周辺と広範囲の接合関係を持つ。出土土器は加曾利EⅢ式期である。

4号集石 (第20・21・110・111図、PL5)

Gh-i-45・46グリッドに位置する。周辺には東2.5mに5・8号集石が位置する。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。

形状は礫の分布から平面形は楕円形を呈し、規模は直径237cmを測る。掘り方は確認できなかった。確認時径45～2cm程の礫の集中が見られた。調査を進める中で、3つの単位であることが判明し、それぞれをA・B・Cとした。3つの単位の礫の分布についてエレベーションAで礫を投影した。A・B・C共に同レベルで平坦に礫を覆い、それぞれ掘り込む。Aは径15～5cm程の礫を緑石とし、中心部に土器と小礫を配する。24cm程掘り込む。Bは径22cmの比較的大きめの礫を中心に直径89cmに20～6cm程の礫を巡らし、深さ32cm程を掘り込む。CはAの南側にあり、直径28cm程の礫を中心に直径59.5cmを測り、20～7cm程の礫を配する。中心の礫下には遺物は検出しなかった。使用された礫は総数140個程で最大4,000g、最小は20gを測り、平均638gである。礫は8個の粗粒輝石安山岩が認められた他は含角閃石輝石安山岩である。

本遺構は他の集石遺構に比べ集中の在り方が異なり、配石遺構の一部の可能性がある。

遺物は磨石や凹石などを構築材の一部とし、覆土中から打製石斧の刃部と削器などが検出した。土器はAの中心に深鉢（9）が一括で出土し、南西方向の土器片と接合した。この接合は地形に沿ったものである。その他覆土中から波状口縁部等が出土した。出土土器は加曾利EIV式期である。

5号集石（第22・23・112・113・114・115図、P L 6）

Gh-46グリッドに位置する。周辺には南0.7mに8号集石、北0.4mに6号配石が位置する。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土下面である。

形状は礫の分布から平面形は円形を呈し、規模は礫外縁直径170cm、礫内縁直径137cm、深さは礫上面から底面礫直上まで32cm、掘り方底面まで39cmを測る。掘り方は南北に長い楕円形を呈し、長軸186cm、短軸158cmを測る。底面の直径は長軸120cm、短軸102cmである。確認時径27～4cm程の礫で外縁を成すようにあり、中央に径20cm程の礫が検出した。壁礫は径30～20cm程を掘り方底面縁から塊状に3～4段積み上げている。覆土内には10～4cm程の礫と上面の20～22cm程の大きめの礫で充填される。底面は中央には26cm程の礫があり、その礫上面にあわせるように10cm程の礫が敷かれていた。壁面及び底面に使用された礫の最大は12,700g、最小130gを測る。総数120個程の礫である。平均の大きさは重さ2,231gである。覆土内からは最大4,500g、最小は30g、平均520gを測る。総数280個程である。石材は壁面及び底面に10個程の粗粒輝石安山岩が認められ、他は含角閃石輝石安山岩である。覆土内はすべて含角閃石輝石安山岩である。

本遺構の性格の手がかりとしてリン分析を覆土中層・底面礫直上・底面礫直下・掘り方底面の4地点で実施した。その結果、覆土中層における数値が非常に高く、リンが富化するなんらかの動植物遺体の存在が示唆された。

これらのことから本遺構は墓として中心に大きめの礫を置き、底面から壁面にかけて3～4段積み上げて構築し、遺体埋設後は石積み等で上面を覆ったものとは考えられないだろう。

遺物は石皿や凹石などを構築材の一部とし、覆土中から使用痕ある剝片や打製石斧が検出した。土器は覆土中から土製円盤や深鉢口縁部、底部が出土した。出土土器は加曾利EIII式期のものである。

6号集石（第24・26・115・116・117・118図、P L 6）

Gi-47グリッドに位置する。周辺には西1.5mに8号集石、北西3.1mに5号集石がある。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。南東辺は2号列石と連なるように列石と同規模の礫で構築される。2号列石との新旧関係は不明である。

形状は礫の分布から平面形は円形を呈し、規模は直径162cm、深さ27cmを測り、深さは礫上面から底面礫直上まで24cm、礫直下まで30cmを測る。掘り方は確認できなかった。確認時径50cm程の礫と13cm程の礫が外縁を成すようにあり、中央に径30cm程の礫が検出した。壁礫は径50～10cm程の礫を円形に巡らし、底面には径30～5cm程の礫を敷くように構築する。覆土内には径37～4cm程の礫が南東側に厚く堆積する。石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。

構築方法は外縁に大きめの礫を置き、内側の底面に扁平な礫や小礫を充填するようである。

土器は凹石や石皿などを壁面の構築材の一部として使用し、覆土中からは打製石斧や斫石などが出土した。土器は覆土中から深鉢の口縁部、胴部が出土した。出土土器は加曾利EIII式期である。

8号集石（第25・27・28図、P L 6）

Gi-46・47グリッドに位置する。周辺には東に接して6号集石、北0.7mに5号集石がある。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。

形状は礫の分布から平面形は円形を呈し、規模は直径150cm、深さは6号配石に接する東側で28cmを

測る。掘り方は確認できなかったが、底面付近の検出と考えられる。緑石は30cm間隔に径30～6cm程の礫を配する。この緑石はこの間隔で径80～50cm程の6つの単位が認められた。中央部に径20cmから7cm程の礫を散在して敷き構築する。石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。

構築方法は底面の縁に6つの単位で礫を配し、中央に小礫群を成すように見られた。本遺構は東接する6号集石より低位に底面を構築し、6号集石同規模の集石遺構が予想された。

遺物は覆土中から深鉢の口縁部が出土した。(6)は底面近くに1片検出し、周辺のグリッドで接合関係を示す。出土土器は加曾利EⅢ式期である。

10号集石 (第29・31・118・119・120・121・122図、P.L.7)

Gp-47・48グリッドに位置する。周辺は北東2mに16号集石、南に接して3号配石がある。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。確認時1つの単位としていたが、調査段階で2つの単位が確認された。西側をA、東側をBとする。本遺構の構築面は西の泥流丘からの傾斜地を削平するように僅かな平坦面にある。遺構の掘り方は確認できなかった。

10-A集石

西側を調査区外で切られている。形状は礫の分布から平面形はほぼ円形を呈する。規模は直径90cm、深さは礫上面から底面礫上面まで21cmを測る。確認時58～5cm程の礫の集中が見られ、58cm×27cm×34cmの柱状の礫が縁を成すように検出した。壁礫は径10cm程や長軸58cm程の礫を巡らし、底面は20cm程の礫を敷くようにある。覆土内には径25～6cm程の礫が充填されていた。壁面に使用された礫の最大は3,050g、最小320gを測り、総数20個程の礫である。平均の大きさは重さ1,328gを測る。覆土内からは最大6,000g、最小は80g、平均1,060g総数85個程である。壁面の石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。覆土内は2個の粗粒輝石安山岩と他は含角閃石輝石安山岩である。

構築方法は傾斜地を平坦にし、平坦面に小礫を配し、外縁に柱状の礫を配したものと看取られる。

遺物は凹石や石皿などを構築材の一部とし、覆土中からは凹石や石剣、三角錐形石器などが出土した。土器は少なく、深鉢の口縁部が出土した。

10-B集石

形状は礫の分布から平面形は円形を呈する。規模は直径111cm、深さは縁礫上面から底面礫上面まで22cmを測る。確認時縁礫に長軸18cmほどのほぼ一定の大きさの礫で円形を巡らし、中央に22～4cm程の礫の集中が見られた。壁礫は上記の縁礫で、底面は径10～5cm程の小さな礫を敷いて構築する。覆土には径23～5cmの礫がある。壁面に使用された礫の最大は5,000g、最小100gを測る。総数25個程の礫である。平均の大きさは重さ1,094gを測る。覆土内からは最大7,500g、最小は80g、平均1,060gの総数85個程である。壁面の石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。覆土内は2個の粗粒輝石安山岩と他は含角閃石輝石安山岩である。

構築方法はAと同様に底面に小礫と扁平な礫を置き、規模の一定な礫で壁を成すようである。

本遺構のある地形は東西方向に傾斜しており、本遺構構築は平坦面を構築し造築されている。

石器は凹石や觥石などを構築材の一部とし、覆土中からは削器が検出した。土器は覆土中から深鉢の胴部と底部が出土した。出土土器はA・B集石ともに加曾利EⅢ式期である。

11号集石 (第30・32図、P.L.7)

Gn-48・49グリッドに位置する。周辺には北東に接して12号集石、東0.5mに18号集石がある。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。確認は上層の礫群を除去し集石遺構を検出した。

形状は礫の分布から円形を呈し、規模は直径71cm、深さは壁礫上面から底面礫上面まで18cmを測る。掘り方は確認できなかった。縁礫は西側で明瞭で径15～3cm程の礫を巡らし、南に径15cm程の大きい礫を置く。底面は西側で南に空間が見られるが、径13cm

5 cm程の礫を全面に敷いて構築すると考えられる。壁面に使用された礫の最大は12,000 g、最小40 gを測る。総数15個程の礫である。平均の大きさは重さ734 gを測る。覆土内からは最大2,220 g、最小は40 g、平均447 g、総数75個程である。石材は1個が粗粒輝石安山岩の他はすべて含角閃石輝石安山岩である。覆土内は8個の粗粒輝石安山岩と他は含角閃石輝石安山岩である。

遺物は3号集石と接合関係の石棒が北縁上面に出土した。土器は深鉢の胴部片が数点出土した。出土土器は加曾利EⅢ式期である。

12号集石 (第33・122・123図、P L 7)

Gn-48・49グリッドに位置する。周辺には南西に接して11号集石、南0.4 mに18号集石がある。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。遺構検出は11号集石と同様である。

形状は礫の分布から円形を呈し、規模は直径89 cmを測る。掘り方は確認できなかったが、底面付近の検出と考えられる。縁礫は径21～8 cm程の礫を巡らすが、北側の残存状態は不良である。中央に径12～6 cm程の礫がある。縁礫に使用された礫の最大は5,500 g、最小100 gを測る。総数11個程の礫である。平均の大きさは重さ1,215 gを測る。覆土内からは最大3,750 g、最小は30 g、平均360 gの、総数60個程である。石材は北側の縁礫1個が粗粒輝石安山岩の他はすべて含角閃石輝石安山岩である。覆土内は2個の粗粒輝石安山岩と他は含角閃石輝石安山岩である。

構築方法は長軸方向に縁礫を配し、中央に小礫を充填したように看取られる。

遺物は凹石を構築材の一部とし、覆土中(壁面・底面)からは石器の検出は見られなかった。土器は覆土中から深鉢の口縁部が出土した。出土土器は加曾利EⅢ式期である。

13号集石 (第34・123図、P L 8)

Gm-49グリッドに位置する。周辺には北東2.6 m

に14号集石、南4.4 mに12号集石がある。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。確認は上層の礫群を除去し集石遺構を検出した。

形状は礫の分布から円形を呈する。規模は直径71 cm、深さ縁礫上面から底面礫上面まで18 cmを測る。掘り方は確認できなかった。縁礫は径45～20 cm大の4個の礫が中央の25～20 cm程の4個と拳大の礫を囲むようにある。使用された礫の最大は39,500 g、最小250 gを測り、平均7,760 gで総数15個程である。石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。

構築方法は同規模の礫を配し、南西と北東に大きな礫を置くように見受けられた。

遺物は覆土中から敲石、土器は深鉢の口縁部と胴部片が数点出土した。出土土器は加曾利EⅢ式期である。

14号集石 (第35・124図、P L 8)

Gl-49グリッドに位置する。周辺には南西2.6 mに13号集石がある。確認面は角礫・亜角礫混黒褐色土面である。確認は上層の礫群を除去し集石遺構を検出した。

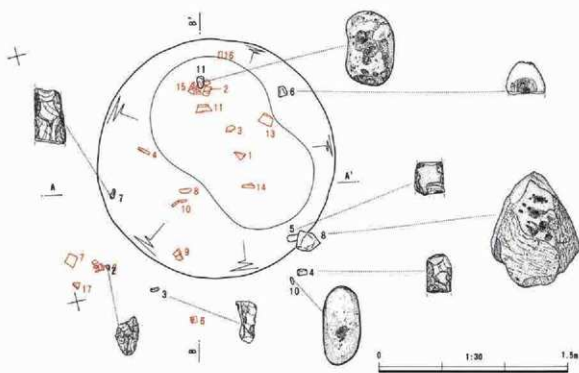
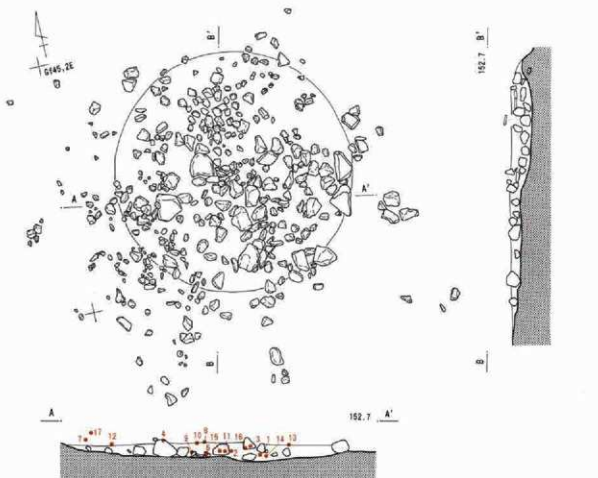
形状は礫の分布から平面形は円形を呈する。規模は直径59 cm、深さは下層礫上面まで16 cmを測る。掘り方は確認できなかった。縁礫は1.6～8 cm程の礫を東半分巡らし西側にも連なっていた可能性がある。底面は15～5 cm程の礫がある。

構築方法は窪地を作り、縁石を成し、土で埋没後礫で覆ったものと見受けられた。

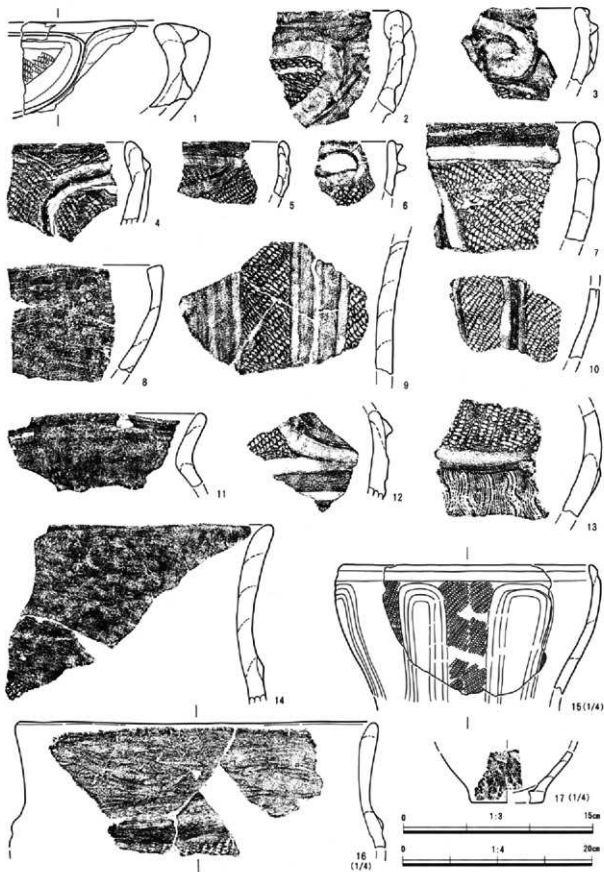
遺物は凹石を構築材の一部にし、覆土中から深鉢の口縁部と胴部片が出土した。出土土器は加曾利EⅢ式期である。

16号集石 (第36・124図、P L 8)

Go・P-48グリッドに位置する。周辺には南西2.0 mに10号集石が、北3.9 mに17号集石がある。本遺構は南側の3号配石に接する位置にある。確認面は角礫・亜角礫混黒褐色土面である。確認は上層の礫群を除去し集石遺構を検出した。

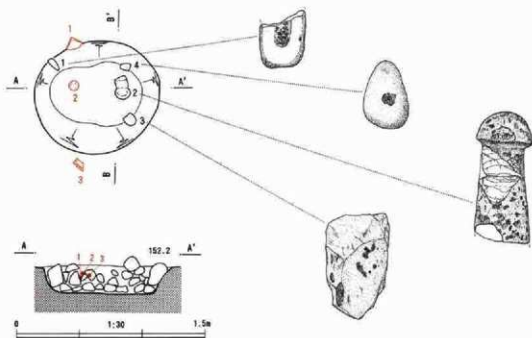
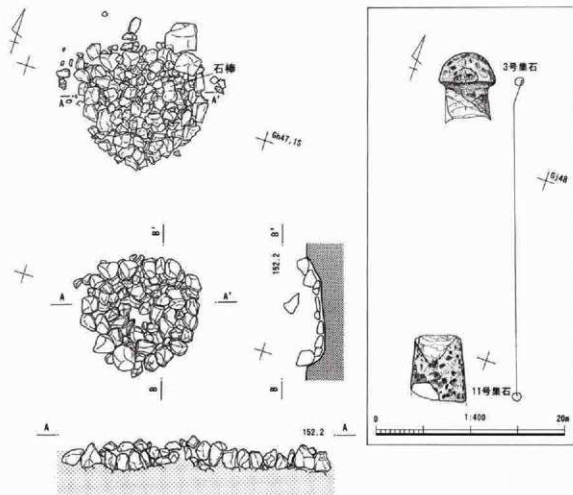


第16図 1号集石実測図

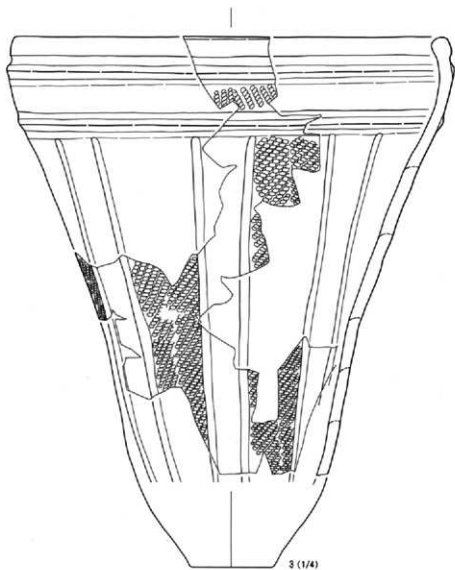
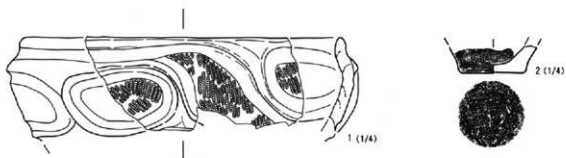


第17图 1号集石出土土器实测图

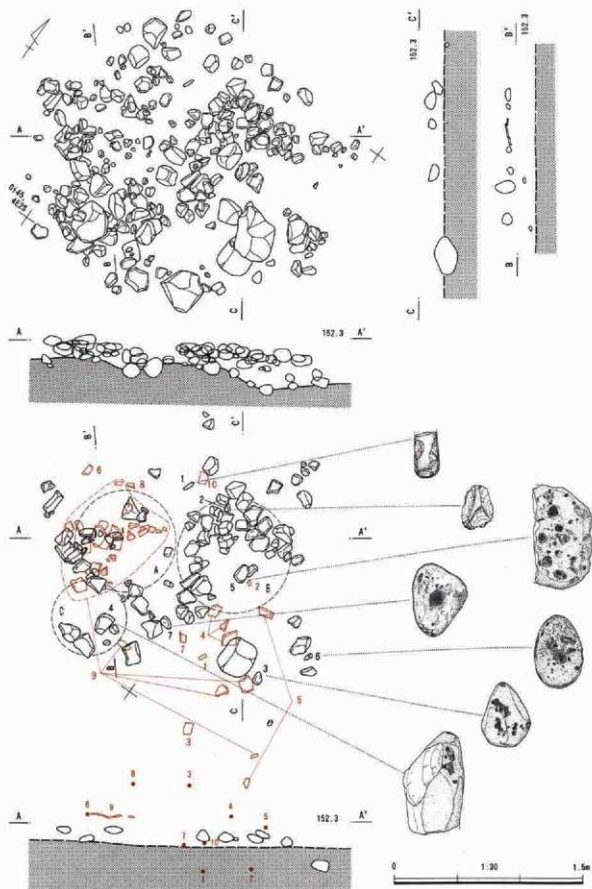
第2期 縄文時代



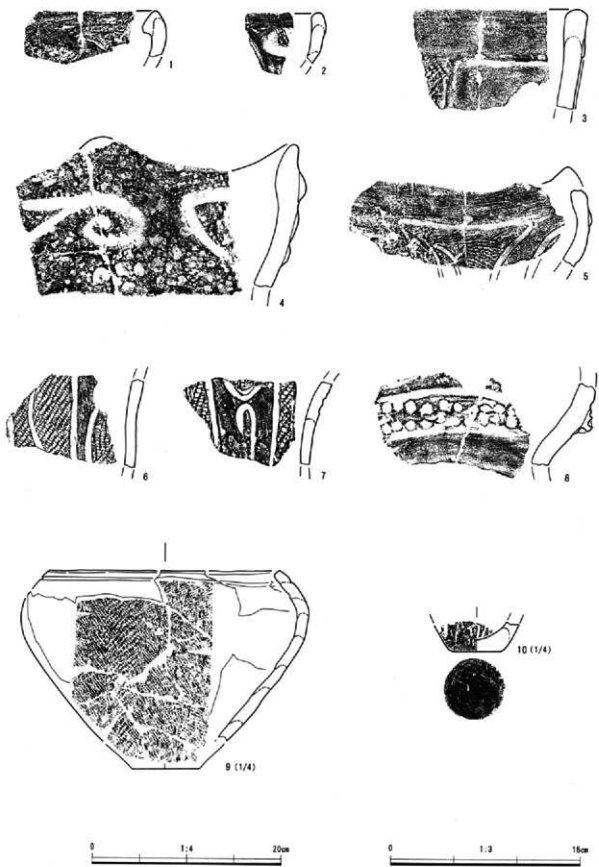
第18图 3号集石実測図



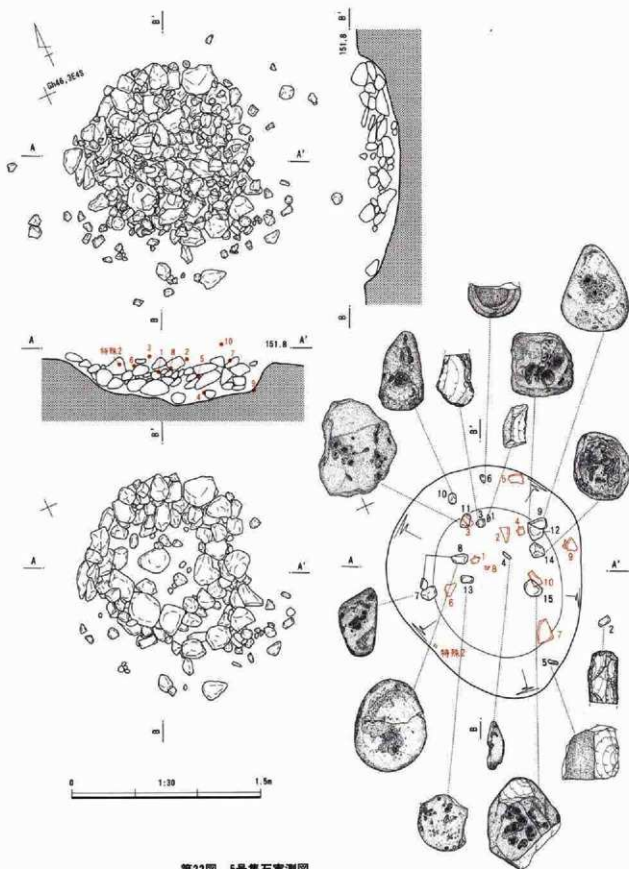
第19図 3号集石出土土器実測図



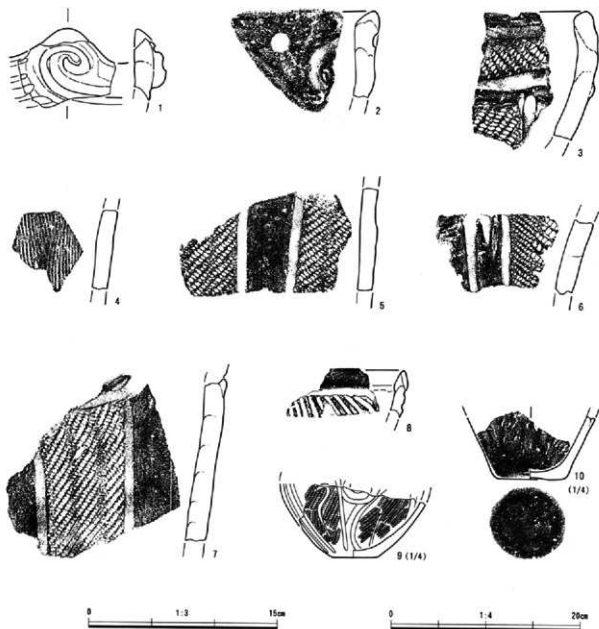
第20図 4号集石実測図



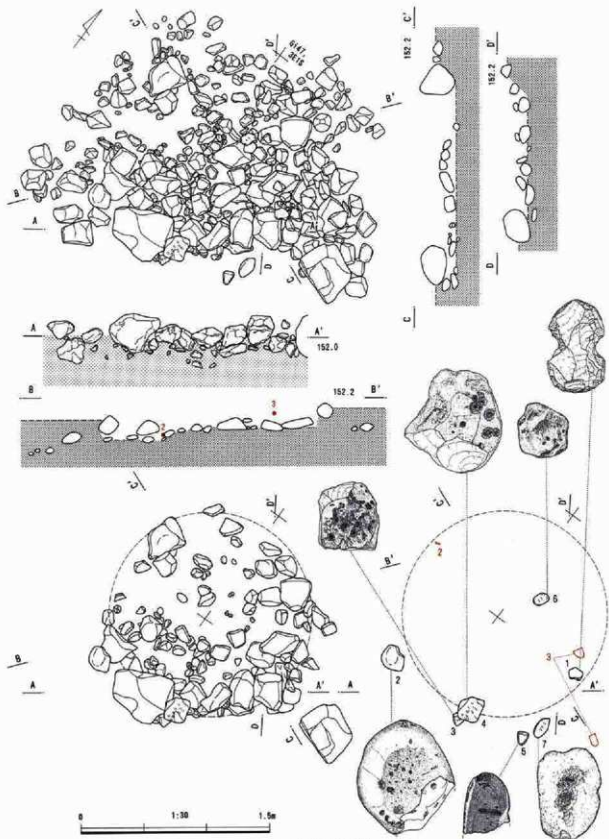
第21图 4号集石出土土器実測図



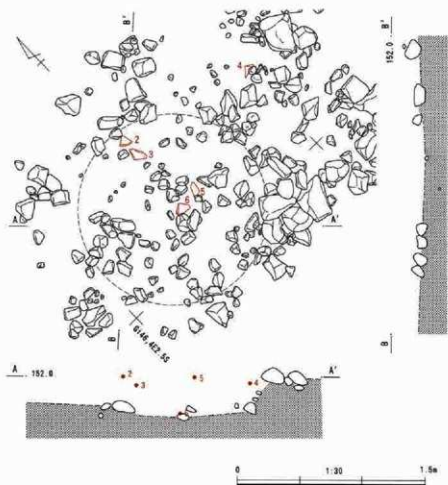
第22図 5号集石実測図



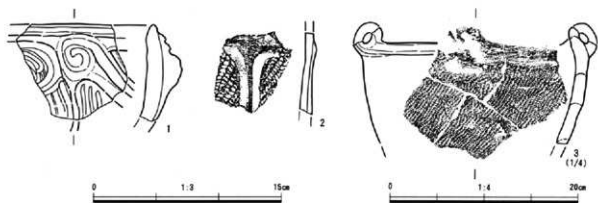
第23图 5号集石出土土器实测图



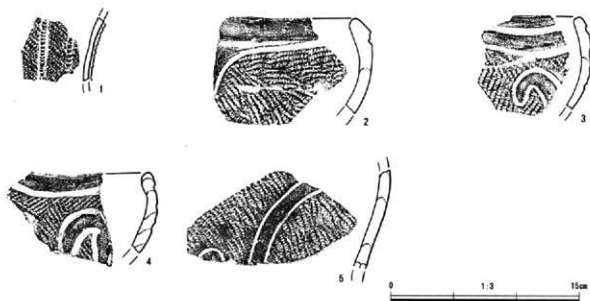
第24图 6号集石発掘図



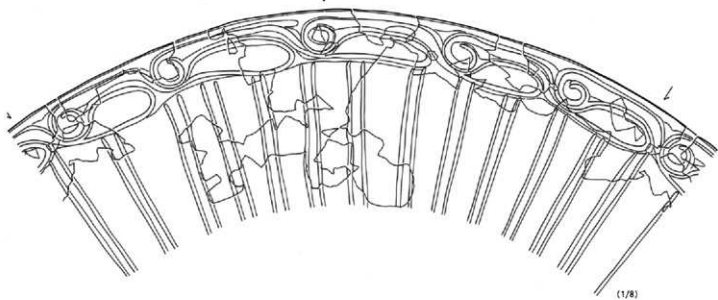
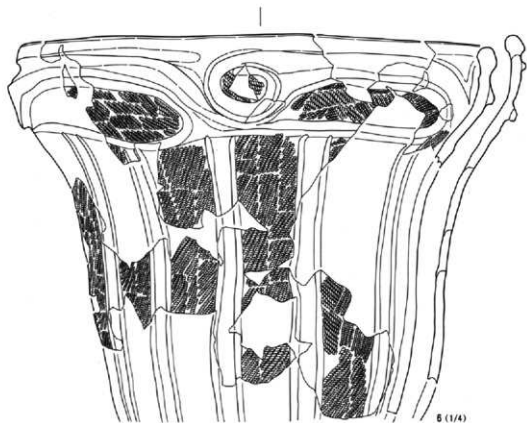
第25図 1号集石実測図



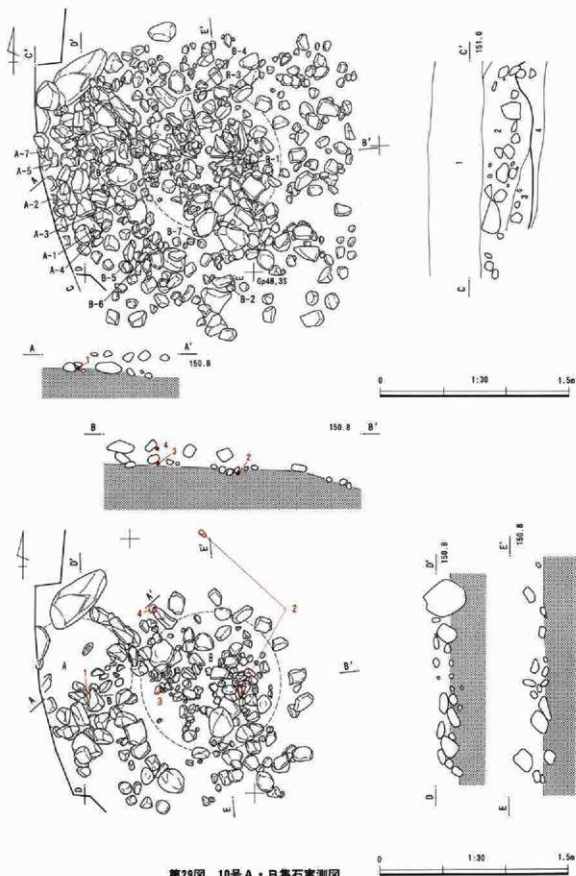
第26図 8号集石出土土器実測図



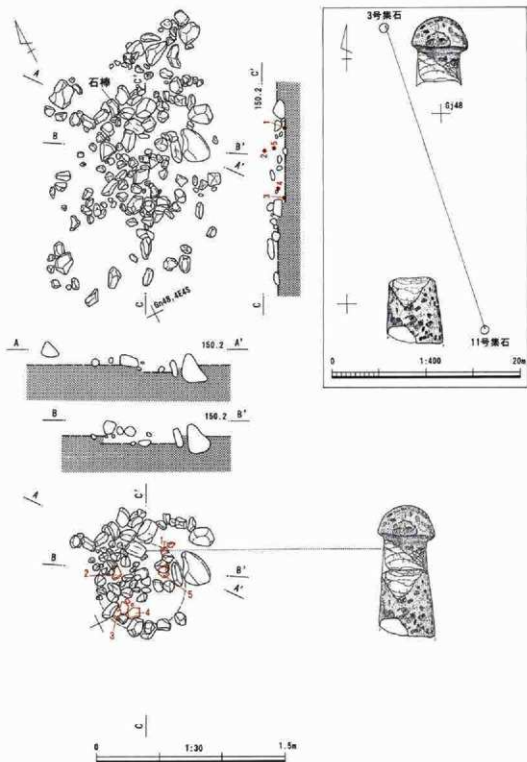
第27図 8号集石出土土器実測図(1)



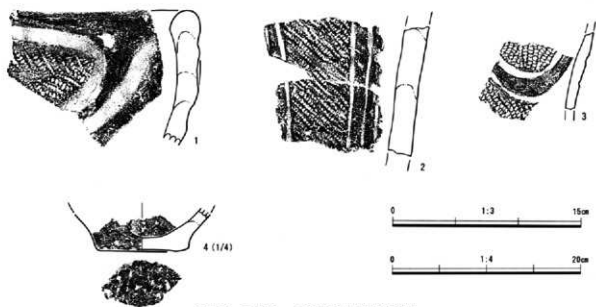
第28图 8号集石出土土器实测图(2)



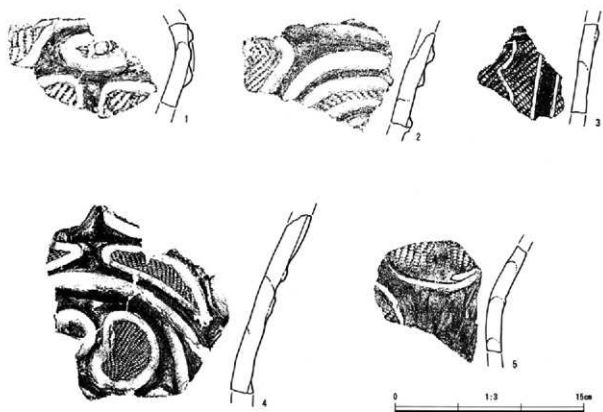
第29図 10号A・B集石実測図



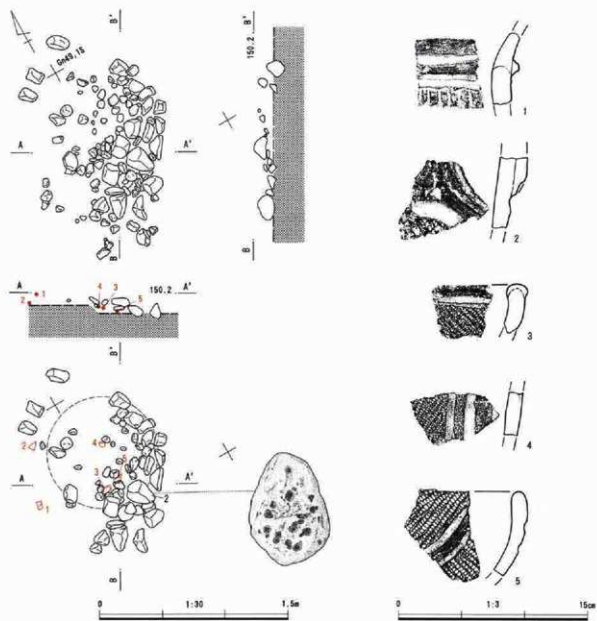
第30图 11号集石实测图



第31図 10号A・B集石出土土器実測図

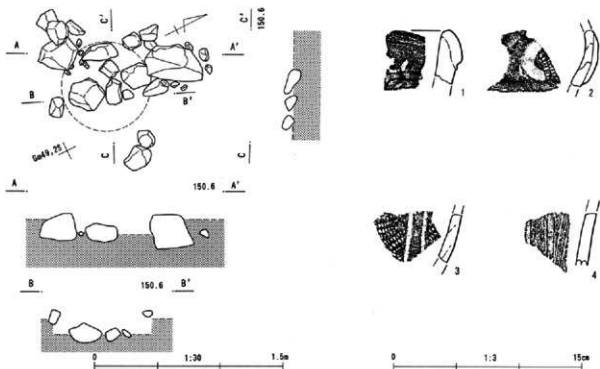


第32図 11号集石出土土器実測図

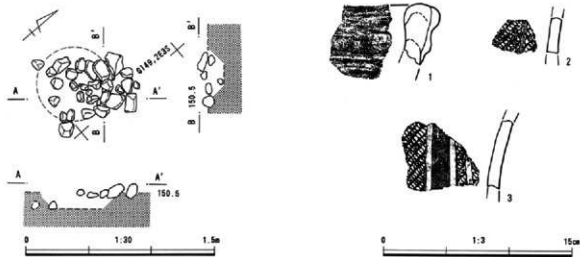


第33图 12号集石夷測図・出土土器夷測図

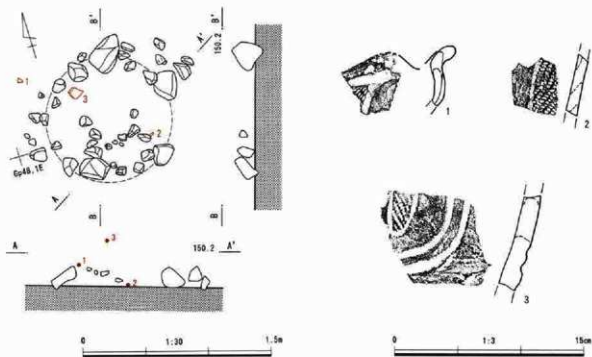
第2期 縄文時代



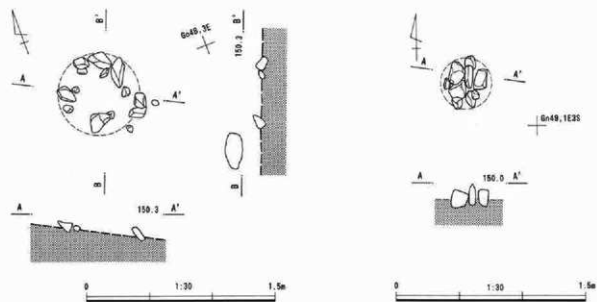
第34图 13号集石実測図・出土土器実測図



第35图 14号集石実測図・出土土器実測図



第36図 16号集石実測図・出土土器実測図



第37図 17号・18号集石実測図

形状は礫分布から平面形は円形を呈し、規模は直径100cm、深さは緑石底面まで16cmを測る。掘り方は確認できなかった。緑礫は径30～8cm程の大小の礫を組み合わせるように巡らし、中央は径13～4cm程の小さい礫が散在する。石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。

本遺構は緑礫を配し、礫混土で覆うように見受けられた。

遺物は凹石を構築材の一部とし、覆土中から深鉢の口縁部、胴部片が出土した。出土土器は加曾利EⅢ式期である。

17号集石 (第37図、P L 8)

Gn・p-48グリッドに位置する。周辺には北東2.5mに11号集石、南3.9mに16号集石がある。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。確認は上層の礫群を除去し集石遺構を検出した。

形状は礫の分布から平面形は円形を呈し、規模は長径65cmを測る。掘り込みは確認出来なかった。緑礫に径24～12cm程の礫を組み合わせて構築する。使用された礫の最大は2,200g、最小700gを測る。総数7個程の礫である。平均の大きさは重さ1,405gを測る。覆土内からは最大2,280g、最小は220g、平均535gで、総数6個程である。壁面の石材は北西の1個が粗粒輝石安山岩の他はすべて含角閃石輝石安山岩である。

遺物の出土はない。

18号集石 (第37図、P L 8)

Gn-49グリッドに位置する。周辺には西0.5mに11号集石、北0.5mに12号集石がある。形状は礫の分布から平面形は円形を呈する。規模は長径40cmを測る。径18～8cm程の礫を充填し構築する。掘り込みは確認出来なかった。本遺跡の集石遺構の中で最も小さい規模である。使用された礫の最大は3,080g、最小300g、平均1,816gを測る。石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。

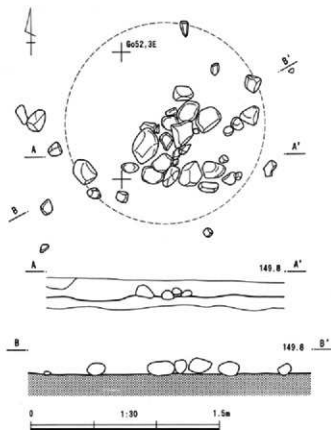
遺物の出土はない。

9号集石 (第38・118図、P L 8)

Gn・o-52グリッドに位置する。調査区西側に集中する集石遺構群から16m程離れて位置する5号配石内にある。本遺構は他の集石群とは異なる地点に検出したため番号は飛ばすがここで紹介する。

形状は礫の分布から平面形は円形を呈し、規模は直径160cmを測る。60cm間隔に径20～10cm程の礫を巡らし、中央には28～6cm程の礫を集中させる。掘り込みは確認出来なかった。石材はすべて含角閃石輝石安山岩である。

遺物は覆土中から三角錐形石器が出土した。



第38図 9号集石実測図

第4表 集石遺構出土土器観察表(1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-1集-1 第17回 P.L.51	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.3)	G区1集石 覆土	①中砂、白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②灰黄2.5Y 8/4 ③良好	内彎口縁、極めて高い隆帯による「C」 字状区画文、R.L.縄文横位充満。	V群
G-1集-2 第17回 P.L.51	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.9)	G区1集石 覆土	①中砂、白色粒子多量、石英 ・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	口唇部肥厚。「C」状区画内R.L.縄文充 満。	V群 外面黒底 内外面粗れる
G-1集-3 第17回 P.L.51	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.0)	G区1集石 覆土	①中砂、赤褐色粒多量、白色 粒・輝石・石英少量。 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③やや悪い	逆「J」字状渦巻文。最位沈線により割 部分割、L.R.縄文充満。	V群 内面黒変
G-1集-4 第17回 P.L.51	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.4)	G区1集石 覆土	①中砂、白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄2.5Y 6/4 ③やや悪い	口縁内彎。弧状隆帯貼付、携りの弱い L.R.縄文充満。	V群 内面口縁保付着
G-1集-5 第17回 P.L.51	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.3)	G区1集石 覆土	①細砂、輝石・石英・白色粒 子少量 ②橙7.5Y R6/6 ③ややよし	「C」字状区画文、R.L.縄文充満。	V群 内外面黒変
G-1集-6 第17回 P.L.51	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.3)	G区1集石 覆土	①細砂、白色粒子・輝石・石 英少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	隆帯による横位小楕円文、筋に細い縦 位沈線施文。R.L.縄文施文。	V群 外面黒底
G-1集-7 第17回 P.L.51	深鉢	口縁片 口一 底一 高(9.2)	G区1集石 覆土	①中砂、白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③ややよし	口縁下に幅広横位沈線施文。R.L.縄文 横位充満。	V群 外面淡く黒変
G-1集-8 第17回 P.L.51	浅鉢	口縁片 口一 底一 高(8.4)	G区1集石 覆土	①中砂、石英・結晶片岩多量、 輝石・白色粒子少量 ②橙7.5Y R7/6 ③良好	内外面横位磨削。	V群 内外面黒変
G-1集-9 第17回 P.L.51	深鉢	胴部片 口一 底一 高(10.5)	G区1集石 覆土	①細砂、石英・白色粒子多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③不良	最位沈線3条一単位で割部分割。R.L. 縄文充満。	V群
G-1集-10 第17回 P.L.51	深鉢	口辺部片 口一 底一 高(5.5)	G区1集石 覆土	①中砂、輝石・石英・白色粒 少量 ②明赤濁2.5Y R5/6 ③良好	「J」字状縦文、R.L.縄文充満。	V群 内面上端黒変
G-1集-11 第17回 P.L.51	両耳 蓋	口縁片 口一 底一 高(5.7)	G区1集石 覆土	①中砂、白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②明濁7.5Y R5/6 ③ややよし	口縁部外反、口辺部横位磨き。	V群
G-1集-12 第17回 P.L.51	浅鉢	胴部片 口一 底一 高(6.9)	G区1集石 覆土	①細砂、石英・白色粒子多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②灰黄2.5Y 7/2 ③良好	弧線文、横位楕円文、L.R.縄文充満。	V群
G-1集-13 第17回 P.L.51	浅鉢	胴部片 口一 底一 高(8.3)	G区1集石 覆土	①中砂、白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	横位楕円区画文内R.L.縄文充満。体部 幅1cm5本彫刻工具による最位波状沈 線文。	V群 外面一部黒変
G-1集-14 第17回 P.L.51	両耳 蓋	口縁片 口一 底一 高(14.7)	G区1集石 覆土	①中砂、石英・輝石多量、白 色粒子・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③ややよし	部厚く、重いつくり。口辺部横位磨き。 胴部R.L.縄文施文。	V群 外面保付着(黒変)
G-1集-15 第17回 P.L.51	深鉢	口縁片1/4 口(26.8) 底一 高(13.6)	G区1集石 覆土	①中砂、輝石・石英・白色粒 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③ややよし	内彎口縁。口縁下に横位沈線、下に2 重沈線による「J」字状文、外側にR.L. 縄文最位充満。	V群 外面口縁淡く黒変 内面一部淡く黒変

第4表 集石遺構出土土器観察表(2)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、或・整形の特徴	備考
G-1集 -16 第17図 P.L.51	両耳 甕	口縁片1/4 口(37.6) 底— 高13.2	G区1集石 覆土	①中砂。輝石・白色粒多量、 石英少量 ②灰黄2.5Y7/2 ③やや悪い	口縁無文部横帯で。頸部低隆帯高り、 0段3条R.L.R複筋縄文め刺位施 文。あるいは区画文か？。両脇 に把手が付くものと思われるが欠失。	V群 内面口縁帯付着
G-1集 -17 第17図 P.L.51	深鉢	胴～底部1/6 口— 底(8.0) 高(3.6)	G区1集石 覆土	①細砂。白色粒子・石英・赤 褐色粒・輝石少量 ②にぶい黄緑10YR6/3 ③やや悪い	内面段状工具による跡で。外面直撫で。	V群
G-3集 -1 第19図 P.L.52	深鉢	口縁片1/4 口(33.6) 底— 高(9.8)	G区3集石 覆土	①中砂。輝石・白色粒・石英 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄緑7.5YR7/4 ③良好	口縁部内彎。隆帯による横円区画文。 R.L縄文横・斜位充填。	V群
G-3集 -2 第19図 P.L.52	深鉢	底部片 口— 底6.8 高(2.8)	G区3集石 覆土	①中砂。白色粒・石英多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄緑10YR7/4 ③良好	胴部隆帯と両脇の沈線により分割。底 部磨き、やや上底ざみ。内面磨き。	V群 内面黒変
G-3集 -3 第19図 P.L.52	深鉢	口～胴下部 口(46.0) 底— 高(46.2)	G区3集石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 多量、赤褐色粒少量 ②灰黄2.5Y7/2 ③ややよし	口唇部肥厚、やや内傾。口縁下に隆帯 と沈線による横区画内面にR.L縄文横 位充填。胴部は2条沈線による8単位 分割。	V群 内外面一部黒変
G-4集 -1 第21図 P.L.52	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.9)	G区4集石 覆土	①中砂。白色粒・輝石多量、 石英・赤褐色粒少量 ②橙5YR6/6 ③やや悪い	口唇部内凹。内外面横位無で。	V群 内外面一部黒変
G-4集 -2 第21図 P.L.52	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.9)	G区4集石 覆土	①中砂。白色粒子・輝石・石 英少量 ②にぶい黄緑10YR6/4 ③ややよし	口縁やや内彎。横位横円文もしくは渦 巻文、R.L縄文充填。	V群
G-4集 -3 第21図 P.L.52	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.8)	G区4集石 覆土	①中砂。輝石・白色粒多量、 赤褐色粒・石英少量 ②灰黄10YR6/2 ③ややよし	口縁から3.5cm下に横位縦線跡、そこ から下に縦位横線跡付、R.L縄文充 填。	V群
G-4集 -4 第21図 P.L.52	深鉢	口縁片 口— 底— 高(11.3)	G区4集石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄緑10YR7/4 ③ややよし	波状口縁。突起先端一部欠損。逆の「 」 字状渦巻文、横円区画文。	V群 器面あばた状に割 落内外面一部黒変
G-4集 -5 第21図 P.L.52	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.0)	G区4集石 覆土	①中砂。赤褐色粒・白色粒・ 輝石・石英少量 ②明赤褐5YR5/6 ③やや悪い	波状口縁。3cm下に微隆線跡付、沈線 により弧線文もしくは渦巻文。L.R縄 文充填。	V群 外面帯付着黒変、 赤変 器面粗れる
G-4集 -6 第21図 P.L.53	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.7)	G区4集石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄緑10YR7/4 ③良好	縦位沈線、R.L縄文充填、波状懸垂文。	V群 内外面一部黒変
G-4集 -7 第21図 P.L.53	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.6)	G区4集石 覆土	①中砂。白色粒多量、石英・ 輝石少量 ②浅黄2.5Y7/3 ③良好	縦位沈線により分割。区画内弧線文、 葉手文、R.L.R複筋縄文充填。	V群 内外面割落
G-4集 -8 第21図 P.L.53	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.5)	G区4集石 覆土	①粗砂。赤褐色粒多量、白色 粒・輝石・石英少量 ②にぶい橙5YR7/4 ③やや悪い	口縁部L.R縄文横位施文、その下に2 列に円形刺位を施す隆帯付。上下に 横位沈線施文。頸部横位磨き。無文。	V群
G-4集 -9 第21図 P.L.53	浅鉢	口縁～胴下 口24.8 底— 高(18.0)	G区4集石 覆土	①中砂。赤褐色粒・白色粒多 量、輝石少量 ②橙2.5YR6/8 ③やや悪い	口縁下に沈線が1条巡る。L.Rの細か い網を沈線下に横位。その下は縦位施 文。1ヶ所所いR.L縄文を縦位施文。	V群 内外面帯付着黒変
G-4集 -10 第21図 P.L.53	深鉢	底部片 口— 底3.0 高(3.1)	G区4集石 覆土	①細砂。白色粒・輝石多量、 石英・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄緑10YR7/4 ③良好	隆帯に縦位沈線施文。R.L縄文充填。	V群 外面黒変

第4表 集石遺構出土土器観察表(3)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-5集 -1 第23回 P.L.53	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.2)	G区5集石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 子多量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	波状口縁。突起部欠損。口縁はやや内 彎気味。隆帯による逆「J」字状溝巻文 は高いが角は明確ではない。隆帯上左 側には浅い沈線が認められる。	V群
G-5集 -2 第23回 P.L.53	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.7)	G区5集石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒少 量、石英・輝石少量 ②明黄褐色10Y R6/6 ③不良	溝巻文と横文の間のφ1.5cmの円形 凹み施文。	V群
G-5集 -3 第23回 P.L.53	深鉢	口縁片 口一 底一 高(10.1)	G区5集石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②明赤褐色2.5Y R5/8 ③やや良し	口縁部横位2条沈線区画、R.L.縄文 横位充満、胴部との境に微隆線貼付、 縦位2条沈線により胴部分割、R.L.縄 文縦位充満。	V群
G-5集 -4 第23回 P.L.53	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.1)	G区5集石 覆土	①細砂。石英粒子多量、赤褐 色粒・白色粒少量 ②明赤褐色2.5Y R5/6 ③やや悪い	幅1.2cm 6本都状工具による縦位沈線。	V群 外面赤変
G-5集 -5 第23回 P.L.53	深鉢	胴部片 口一 底一 高(8.0)	G区5集石 覆土	①中砂。石英粒子多量、輝石 ・白色粒・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/8 ③やや悪い	2条沈線により縦位分割、R.L.縄文 縦位充満。	V群 外面一部煤付着黒 変
G-5集 -6 第23回 P.L.53	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.7)	G区5集石 覆土	①粗砂。白色粒・輝石多量、 赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	縦位沈線により分割、間に縦手文、L R縄文縦位施文。	V群
G-5集 -7 第23回 P.L.53	深鉢	胴部片 口一 底一 高(12.6)	G区5集石 覆土	①中砂。石英粒子多量、白色 粒・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/3 ③やや良し	弧線文、2条沈線縦位施文分割、R.L 縄文充満。	V群
G-5集 -8 第23回 P.L.53	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.7)	G区5集石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/3 ③良好(硬質)	口唇部両面から粘土貼付。口縁下に横 位沈線、その下に幅3mm竹管状工具 による斜縦位沈線施文。	V群 Gi-46-9に類似
G-5集 -9 第23回 P.L.53	深鉢	底部片 口一 底4.8 高(7.4)	G区5集石 覆土	①細砂。輝石・石英粒子多量、 白色粒少量 ②橙5Y R6/8 ③やや良し	低隆帯と両脇の浅い沈線により5単位 区画。区画内には弧線または縦手文が 沈線により施文。隆帯の途中には溝巻 もしくは円形施文。	V群 内面黒変 外面上部黒変 下部赤変
G-5集 -10 第23回 P.L.53	深鉢	底部片 口一 底7.2 高(6.6)	G区5集石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 ・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	比較的薄手。胴部は2条沈線により6 単位分割、R.L.縄文縦位充満。底部は やや上底気味。	V群
G-6集 -1 第26回 P.L.54	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.7)	G区6集石 覆土	①中砂。輝石・白色粒・石英 多量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	口縁わずかに内彎。口唇部は薄い。隆 帯による逆「J」字状溝巻文、横位横 文区画。沈線充満。	V群
G-6集 -2 第26回 P.L.54	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.3)	G区6集石 覆土	①中砂。結晶片岩・チャート ・石英多量 ②暗赤褐色2.5Y R3/2 ③良好(硬質)	「U」字状沈線文、R.L.R.複線縄文充満。	V群
G-6集 -3 第26回 P.L.54	深鉢	口縁～胴部 口(27.0) 底一 高12.3	G区6集石 覆土	①中砂。白色粒極多量、輝石 ・赤褐色粒・石英少量 ②明赤褐色5Y R5/6 ③極めて悪い	口縁に橋状突起貼付、横位低隆帯によ り区画され、R.L.縄文縦位施文。	V群 外面口辺黒変
G-8集 -1 第27回 P.L.54	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.0)	G区8集石 覆土	①中砂。結晶片岩・雲母多量、 輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい赤褐色5Y R4/3 ③良好(硬質)	かなり薄手。縦位2条隆帯上に半縦竹 管による補助沈線施文。地文はR.L.縄 文横位施文。	IV群
G-8集 -2 第27回 P.L.54	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.5)	G区8集石 覆土	①細砂。白色粒・石英・輝石 少量 ②明赤褐色2.5Y R5/6 ③やや良し	口縁部内彎。幅3mm竹管状工具によ る弧線文。内部L.R.縄文充満。	V群 外面煤付着黒変、 赤変

第2節 縄文時代

第4表 集石遺構出土土器観察表(4)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、皮・整形の特徴	備考
G-8集 -3 第27図 P.L.54	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.3)	G区8集石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 ・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	内槽口縁。口縁下に横位2条沈線、渦 巻文施文。R.L縄文充填。	V群 外面保付着黒皮
G-8集 -4 第27図 P.L.54	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.2)	G区8集石 覆土	①中砂。石英・白色粒子多量、 赤褐色粒・輝石少量 ②におい黄橙10Y R6/3 ③やや良し	波状口縁。口縁下に沈線が沿う。その 下に「J」状沈線施文。L.R縄文充填。	V群 外面黒皮
G-8集 -5 第27図 P.L.54	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.7)	G区8集石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 少量 ②明赤橙2.5Y R5/6 ③良好	細沈線による弧線文。L.R縄文充填。	V群 外面上部黒皮 下部赤皮
G-8集 -6 第28図 P.L.54	深鉢	口縁～胴下部 1/2 L50.8 底一 高(40.0)	G区8集石 覆土	①細砂。輝石・石英・白色粒 子少量 ②赤橙2.5Y R4/8 ③良好(硬質)	口縁部文様帯のJ字状渦巻文5単位施 文。蓋部は高くはつきりしており、折 面下面は角張る。胴部は2本1組の沈 線間、磨消6条施文。口縁部文様帯の 区画とずれる。0段多条R.L縄文充填。	V群
G-10集 -1 第31図 P.L.54	深鉢	口縁片 口一 底一 高(10.6)	G区10集石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②橙5Y R6/8 ③やや悪い	横位槽円区画。R.L縄文横位充填。	V群
G-10集 -2 第31図 P.L.54	深鉢	胴部片 口一 底一 高(10.1)	G区10集石 覆土	①中砂。白色粒・輝石多量、チ ャート・石英・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③不良	縦位3条以上1単位沈線により分割。 L.R縄文充填。	V群 内面剥落
G-10集 -3 第31図 P.L.54	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.7)	G区10集石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②におい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	弧状沈線。L.R縄文充填。	V群
G-10集 -4 第31図 P.L.54	深鉢	底部片 口一 底(4.8) 高(4.6)	G区10集石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 少量 ②洗黄橙10Y R8/4 ③やや悪い	内外面無文。底部中心はやや薄い。	V群
G-11集 -1 第32図 P.L.55	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.5)	G区11集石 覆土	①中砂。5mm程度、白色粒・石 英・珪質針多量、輝石・ 赤褐色粒・チャート少量 ②におい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	逆「J」字状渦巻文、2条沈線により割 部分割。R.L縄文充填。	V群 外面黒皮
G-11集 -2 第32図 P.L.55	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.6)	G区11集石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒多 量、チャート・石英少量 ②明黄橙10Y R6/6 ③やや良し	渦巻文もしくは弧線文。R.L縄文充填。	V群
G-11集 -3 第32図 P.L.55	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.1)	G区11集石 覆土	①中砂。石英・水晶小結晶・ 白色粒多量、輝石少量 ②におい橙5Y R6/4 ③良好	縦位2条沈線により割部分割。R.L縄 文充填後沈線磨消。	V群
G-11集 -4 第32図 P.L.55	深鉢	胴部片 口一 底一 高(14.1)	G区11集石 覆土	①中砂。白色粒・輝石多量、 石英・赤褐色粒少量 ②におい黄橙10Y R7/3 ③やや良し	波状口縁?双弧文、渦巻文、槽円文、 区画内R.L縄文充填。	V群 外面一部黒皮
G-11集 -5 第32図 P.L.55	深鉢	胴部片 口一 底一 高(8.4)	G区11集石 覆土	①中砂。白色粒子・石英・輝 石・赤褐色粒少量 ②におい黄橙10Y R6/3 ③良好	弧線文。R.L縄文充填。	V群 内面一部赤皮 外面一部黒皮
G-12集 -1 第33図 P.L.55	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.4)	G区12集石 覆土	①中砂。結晶片岩・石英多量、 輝石・チャート少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや良し	横位隆帯四帯に沈線、その下に縦位置 帯み。	V群 内外面黒皮

第4表 集石遺構出土土器観察表(5)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-12集 -2 第33回 P.L.55	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.6)	G区12集石 覆土	①細砂。石英・白色粒・赤褐色粒・輝石少量 ②淡黄2.5Y 8/3 ③やや良し	3方向の弧状隆帯交点部。R.L.縄文充満。	V群
G-12集 -3 第33回 P.L.55	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.8)	G区12集石 覆土	①中砂。石英・白色粒多量、輝石少量 ②明赤褐色5Y R5/6 ③不良	口縁やや内湾。口縁下に横位比線。R.L.縄文充満。	V群
G-12集 -4 第33回 P.L.55	深鉢	胴部片 口一 底一 高(3.5)	G区12集石 覆土	①細砂。石英粒子多量、輝石・白色粒少量 ②明赤褐色2.5Y R5/8 ③やや良し	3条比線により分割、R.L.縄文縦位充満。	V群
G-12集 -5 第33回 P.L.55	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.6)	G区12集石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒・輝石少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③やや良し	2条比線による弧線文。L.R.縄文充満。	V群
G-13集 -1 第34回 P.L.55	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.2)	G区13集石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③不良	弧状沈線、R.L.縄文充満。	V群
G-13集 -2 第34回 P.L.55	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.4)	G区13集石 覆土	①細砂。白色粒子・石英・チャート・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや悪い	横位帯円区画文、L.R.縄文充満。	V群 外面風化
G-13集 -3 第34回 P.L.55	深鉢	胴部片 口一 底一 高(3.8)	G区13集石 覆土	①中砂。白色粒子・石英多量、輝石少量 ②にぶい赤褐色5Y R4/4 ③不良	細比線により区画、R.L.縄文充満。	V群 器面風化
G-13集 -4 第34回 P.L.55	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.0)	G区13集石 覆土	①中砂。白色粒子・石英・輝石多量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③良好	縦位2条1単位比線により縦位分割、櫛状工具による縦位沈線充満。	V群 内面黒変
G-14集 -1 第35回 P.L.55	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.7)	G区14集石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・石英少量 ②橙5Y R7/6 ③やや良し	口唇部肥厚。横位幅広浅比線施文。	V群
G-14集 -2 第35回 P.L.55	深鉢	胴部片 口一 底一 高(2.7)	G区14集石 覆土	①細砂。チャート・輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③良好(硬質)	縦位沈線、R.L.縄文施文。	V群 14集石-3と同一 個体?
G-14集 -3 第35回 P.L.55	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.3)	G区14集石 覆土	①細砂。チャート・輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③良好(硬質)	縦位沈線分割、R.L.縄文充満。	V群 14集石-2と同一 個体?
G-16集 -1 第36回 P.L.55	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.5)	G区16集石 覆土	①細砂。白色粒子・輝石・石英少量 ②明赤褐色2.5Y R5/6 ③良好	波状口縁。口縁下に横位比線、弧線文、R.L.縄文充満。	V群
G-16集 -2 第36回 P.L.55	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.8)	G区16集石 覆土	①細砂。白色粒子・石英・輝石少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや良し	縦位沈線、R.L.縄文充満。	V群 内面黒変
G-16集 -3 第36回 P.L.55	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.5)	G区16集石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや良し	渦巻文、L.R.縄文充満。	V群

第2項 配石遺構

本調査区から礫が整然と配置された配石遺構はG区に8基検出した。1号・2号・6号・7号配石は現道北側全面に接するように検出した。なお4号配石・8号配石は調査段階において不明瞭なため欠番とした。

1号配石 (第39・40・41・42・43・44・45・124・125・126図、P L 9)

Gf-46~Gg-45・46に位置する。周辺には南西に2号配石が隣接し、南0.6mに6・7号配石がある。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。

形状は礫の分布から円形を呈すると考えられ、規模は直径4.6mを推測する。中央南東寄りに40cm×34cmの大きな礫と礫の南東に接するように深鉢土器が一括出土した。縁部は北西側で良好に残存し、径40cmから7cm程の礫を2m程の範囲で弧状に配する。

遺物は2号配石との接点に石棒基部が出土し、縁石内からは石鉢・凹石・台石などが多数検出した。土器は下記に出土状態を図化した深鉢一括出土の他、両耳壺・浅鉢が縁石内外から出土した。出土土器は加曾利EIV式期である。

2号配石 (第39・40・41・47・48・49・50・51・127・128図、P L 9)

Gg-h-45グリッドに位置する。周辺には1号配石が隣接し、南西1.2mに6・7号配石がある。確認面は角礫・亜角礫混黒褐色土面である。

形状は礫の分布から円形を呈すると考えられ、規模は直径3.3mを推測する。縁部は南西半分で良好にあり、20×15cm程の礫を15cm程の間隔で4.6mを測る。北東側は不明瞭である。遺物は、東側の1号配石接点に石棒が、西側縁辺に凹石が検出し、中央に石皿、北寄りに深鉢土器が一括出土した。その他、縁石付近から削器、敲石、凹石が出土した。土器は深鉢土器の波状口縁部、底部上底片などが出土した。出土土器は加曾利EIV式期である。

8号配石 (第39・40・41・52・53・54・55・133・134・135図、P L 10)

Gg-h-46・47グリッドに位置する。西接して7号配石が位置する。本遺構内に3号集石があり、新旧関係は不明である。確認面は角礫・亜角礫多混黒褐色土面である。

形状は礫の分布から円形を呈すると考えられる。規模は直径4.1mを推測する。縁石は北側で凹石を伴い23×15cm程の礫を4.5mの範囲で密接に配し、西側は20cm程の礫を30cm間隔で配する。配石内には4つのユニットが見られた。これらは配石と同一面にあり、掘り込みもなく配石内の単位として考えた。単位は北西・東・南東側に50~30cm程の比較的大きな礫を中心に置き、周辺に15cm程の礫を配するものと、西側の5cm程の礫に囲まれた小礫群である。

石器は北側縁部の凹石の他、打製石斧や敲石が出土した。土器は西側小礫群単位下に三角柱状土製品が出土し、縁部南側に紐通し孔を有する蓋など多数出土した。出土土器は加曾利EIV式期である。

7号配石 (第39・40・41・56・57・58・136・137図、P L 10)

Gh-45・46グリッドに位置する。東接して6号配石が位置する。確認面は角礫・亜角礫混黒褐色土面である。

形状は礫の分布から円形を呈すると考えられる。規模は直径2.6mを推測する。縁石は不明瞭であるが、25~10cm程の礫を40cm程の等間隔で配する。

石器は縁石内外から打製石斧、敲石などが出土した。土器は南東隅に両耳壺が一括出土し、その他深鉢土器片が出土した。出土土器は加曾利EIV式期である。

3号配石 (第59・129・130・131・132図、P L 11)

Gp-48グリッドに位置する。現道の南側にあり、北西方向からの傾斜地点にある。周辺には西接して10号集石があり、調査区東端に5号配石が位置する。確認面は角礫・亜角礫混黒褐色土面である。泥流丘

崩落礫群の可能性も示唆されたが、東側の弧状を呈する礫の配置及びそれに連なる同規模の礫列から配石遺構とした。

形状は礫の分布から円形を呈すると考えられる。規模は直径4.2mを推測する。緑石には15~10cm程の礫を20cmの等間隔に配される傾斜地の西側を僅かに削平し、地形に沿って構築される。配石内に径25~6cm程の礫が散在する。

石器は北隅に小さな石棒が出土し、中央部には凹石が集中して検出した。その他打製石斧等が出土した。土器は深鉢土器片が出土した。出土土器は加曾利EIV式期である。

5号配石 (第60図)

Gm~o-51・52グリッドに位置する。東半分は調査区外となり、全貌は把握できなかった。本遺構中央に9号集石がある。新旧関係は不明である。現道南側における集石・配石遺構の集中する地点より東16mと離れている。確認面は黒褐色土面である。

形状は礫の分布から円形を呈すると考える。規模は直径約8.0m程が推測され、確認長は8.0×4.3mである。35~30cm程の礫を3m間隔に配置する。

出土遺物はない。

9号配石 (第61・62・63・64・65・66・137・138・139・140・141・142・143・144・145・146図、P L11・12)

Gg~i-45~47グリッドに位置する。本遺構は6・7号配石下層の黒色土面で確認された。新旧関係は層位的に本遺構の方が古い。南西部は調査区外になり全貌は確認できなかったが、現道下で集約されるものと考えられる。

形状は礫の分布から円形を呈すると考える。規模は直径約13.6mを推測する。緑石に20cm程の礫を3.3mの間隔で配し、中央南東に10cm程の小礫群を成す。本遺構は2つの泥流丘の谷地形内に、等高線に沿って緑石を配し、南東隅が最も低くなり、小礫が集中したように見られた。

遺物は本遺構面から上層にある6号・7号配石の間層にあるものを集約した。石器はほとんどが小型である。土器は加曾利E III式期の深鉢土器片を中心に出土したが、配石礫面には加曾利E II式期の土器片も見られた。

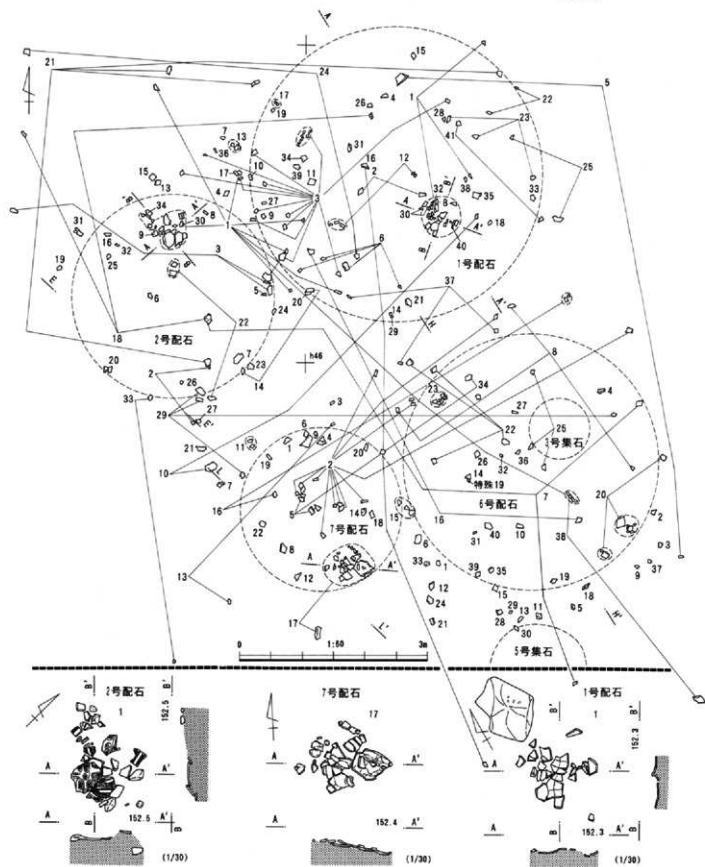
10号配石 (第67図)

GI~n-48~50グリッドに位置する。周辺には南5.6mに3号配石、南東8.5mに5号配石がある。確認面は角礫多混黒褐色土下の黒色土面である。現道北から続く谷地形上にあり、等高線に沿うように礫が点在した。形状は礫の分布から北側は半円を成し、西側は9.3m程直線的にある。規模は北側部分は地形に沿って直径10.8m程の半円を推測する。礫は径30cmから20cmの礫を3.1m間隔に配する。

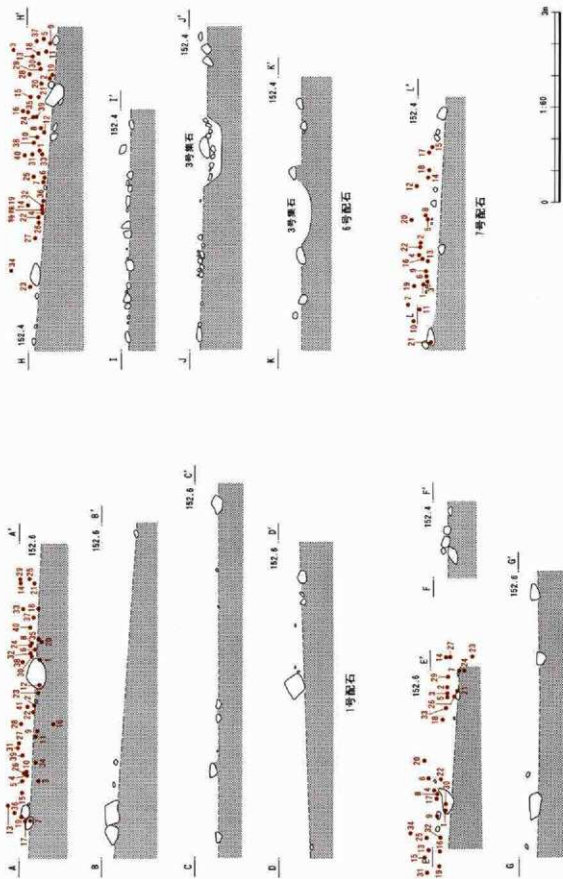
遺物の出土はない。



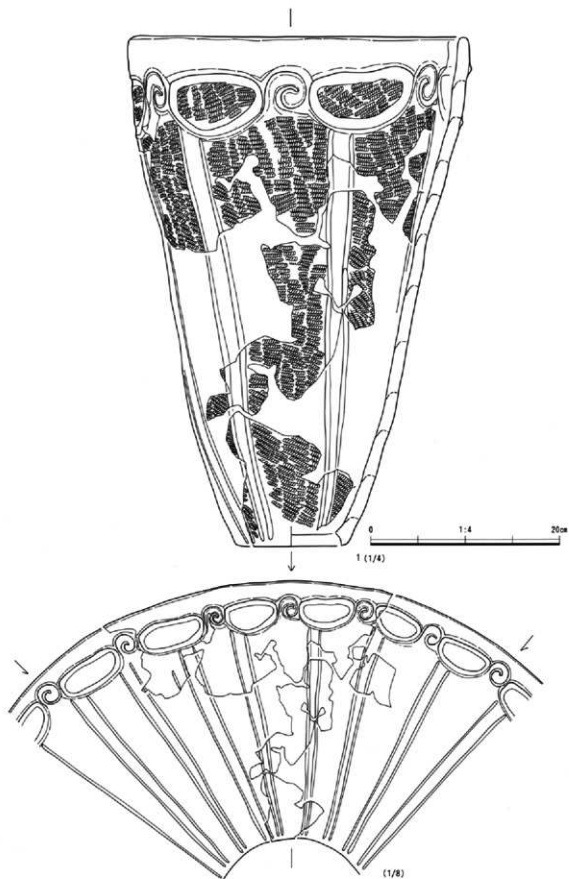
第30圖 1号・2号・6号・7号配石実測図



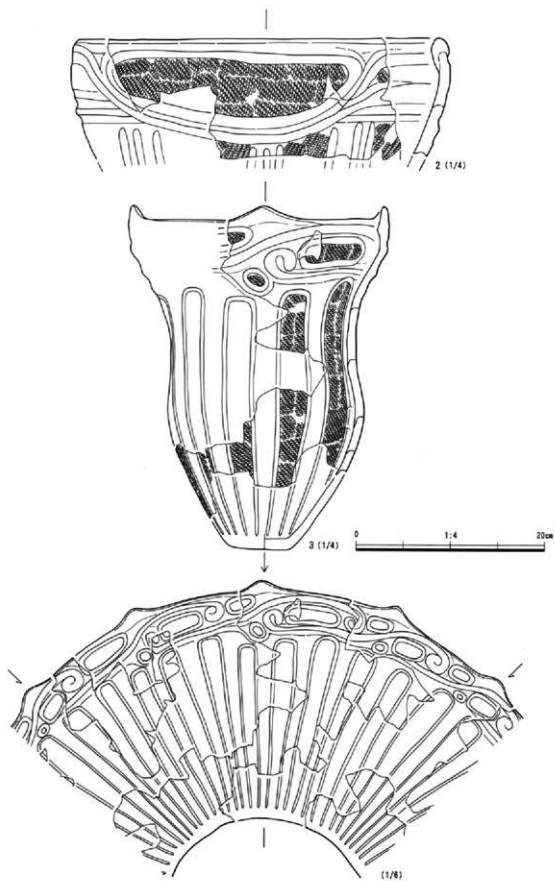
第40图 1号・2号・6号・7号配石出土土器分布图



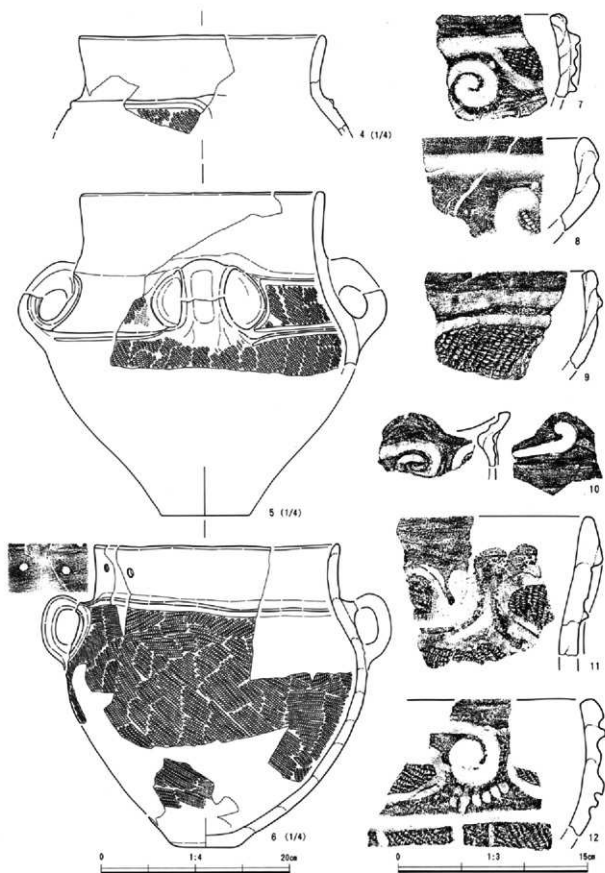
第41図 1号・2号・6号・7号配石出土器影図



第42図 1号配石出土土器実測図(1)

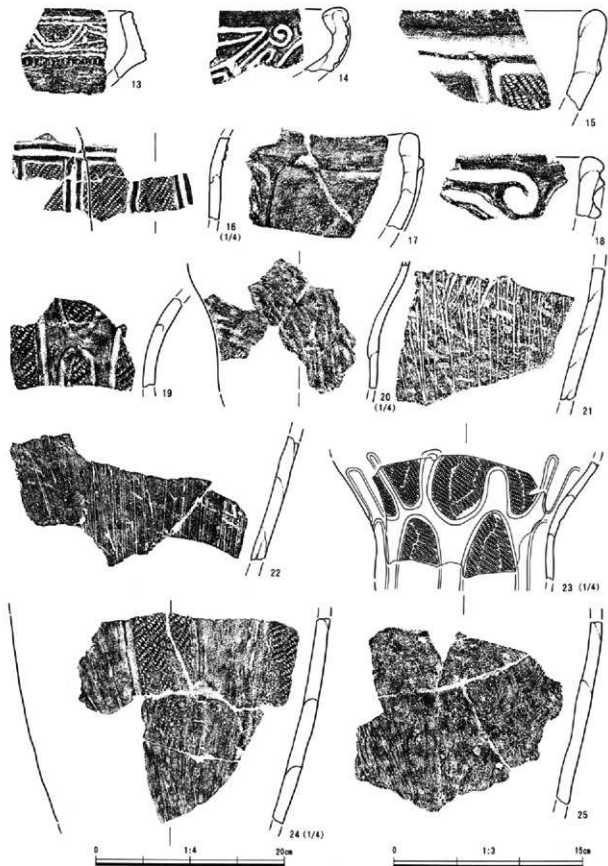


第43圖 1号配石出土土器実測図(2)

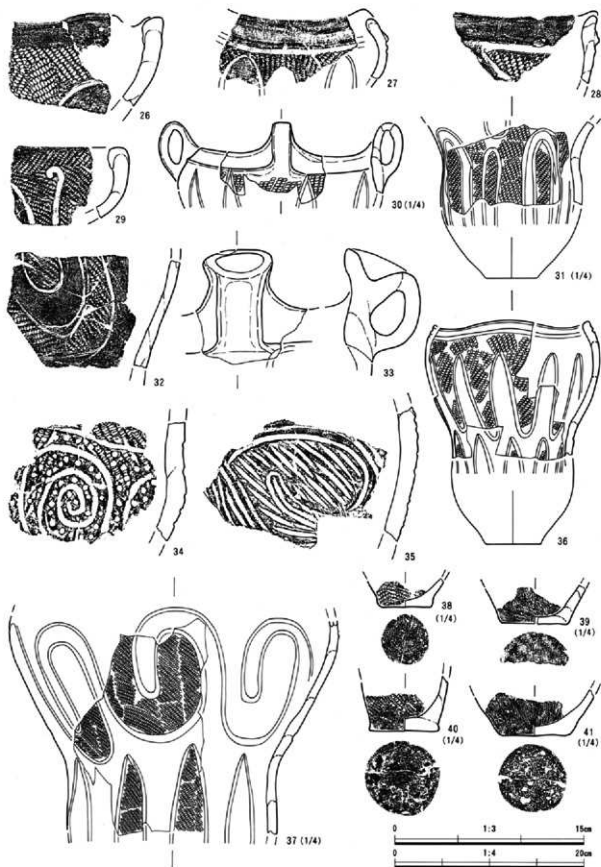


第44图 1号配石出土土器実測图(3)

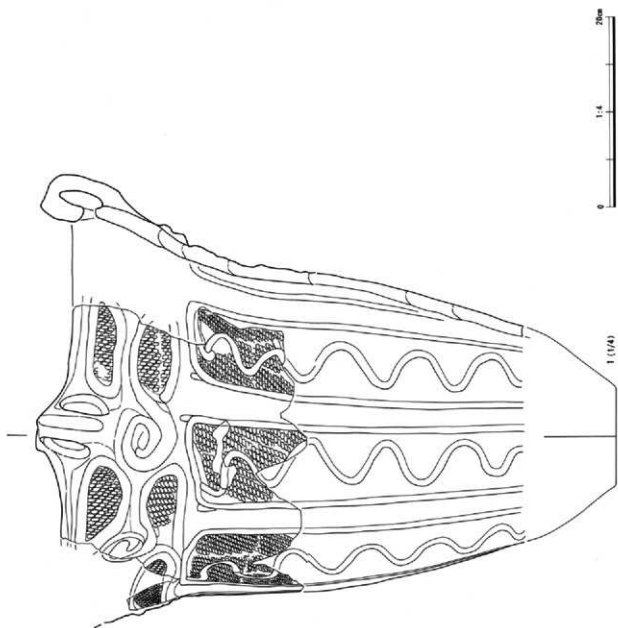
第2節 縄文時代



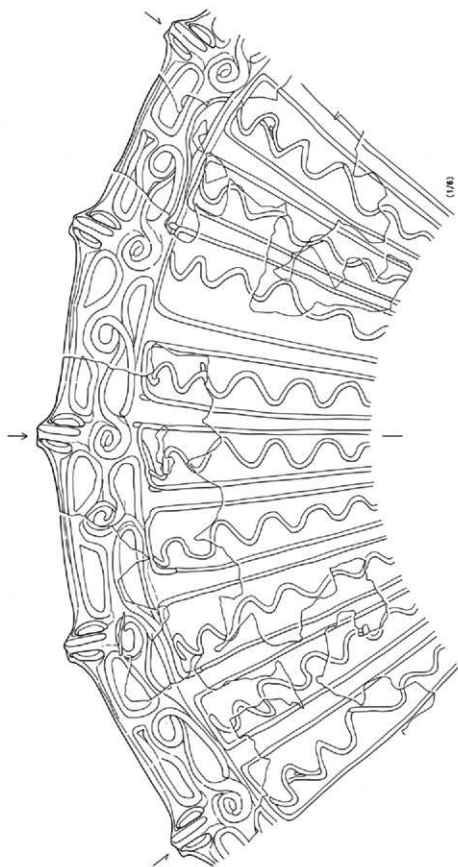
第45図 1号配石出土土器実測図(4)



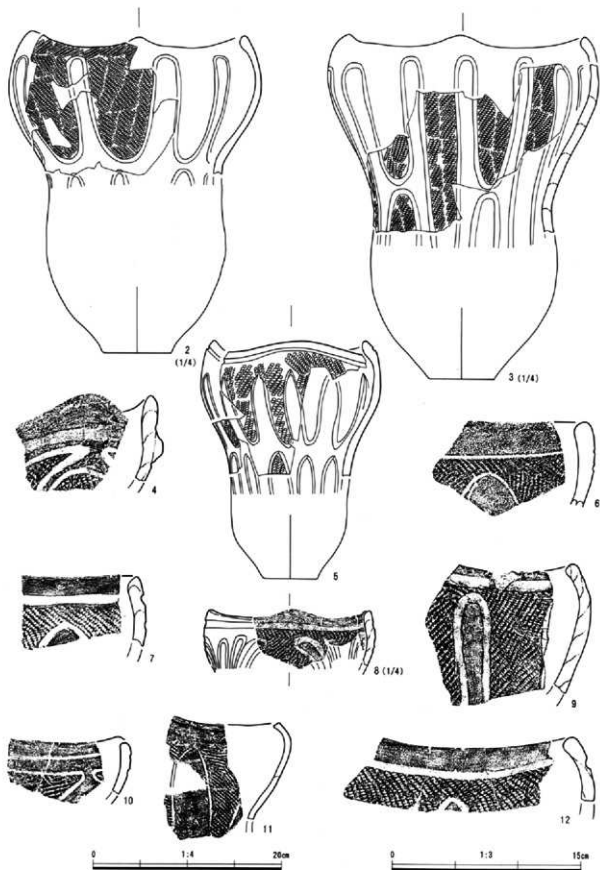
第40图 1号配石出土土器実測图(5)



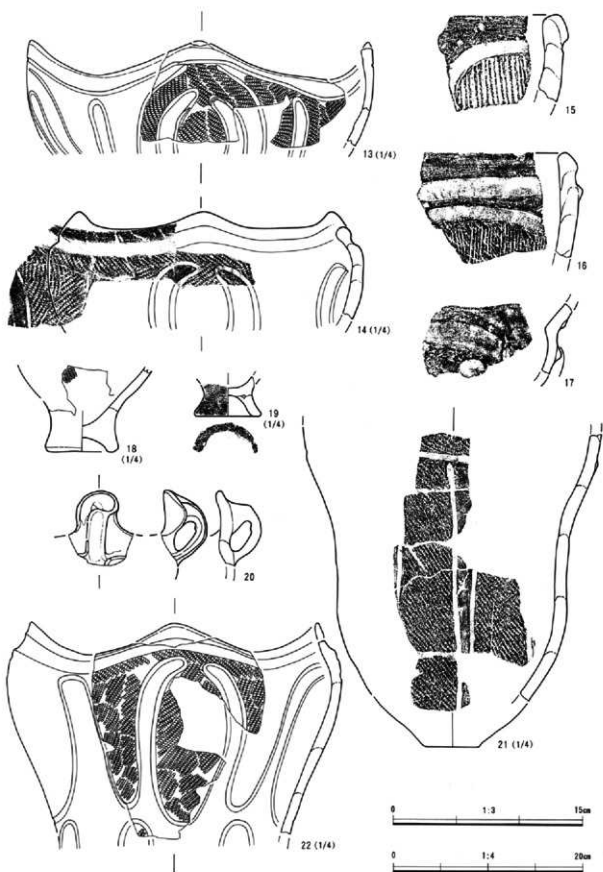
第47图 2号配石出土器実測图(1)



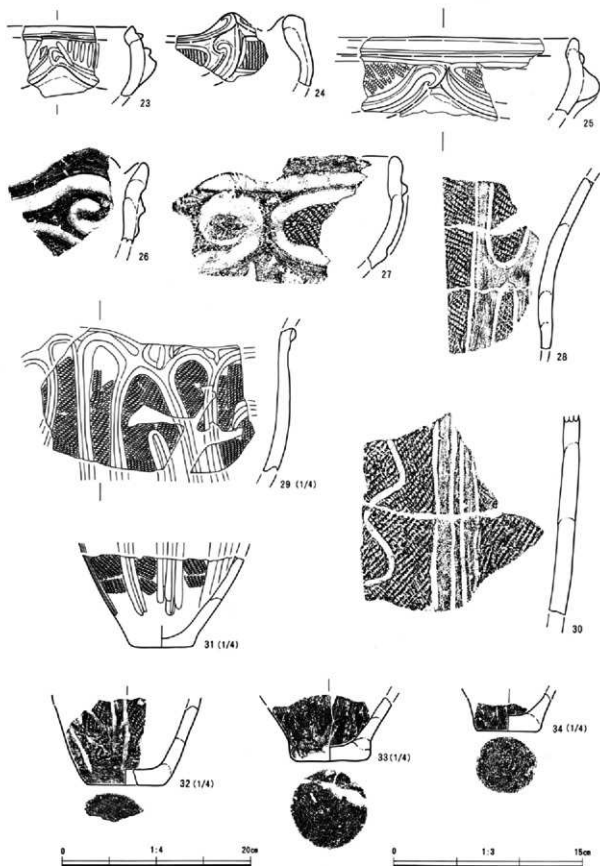
第41圖 2号配石出土器展開図(2)



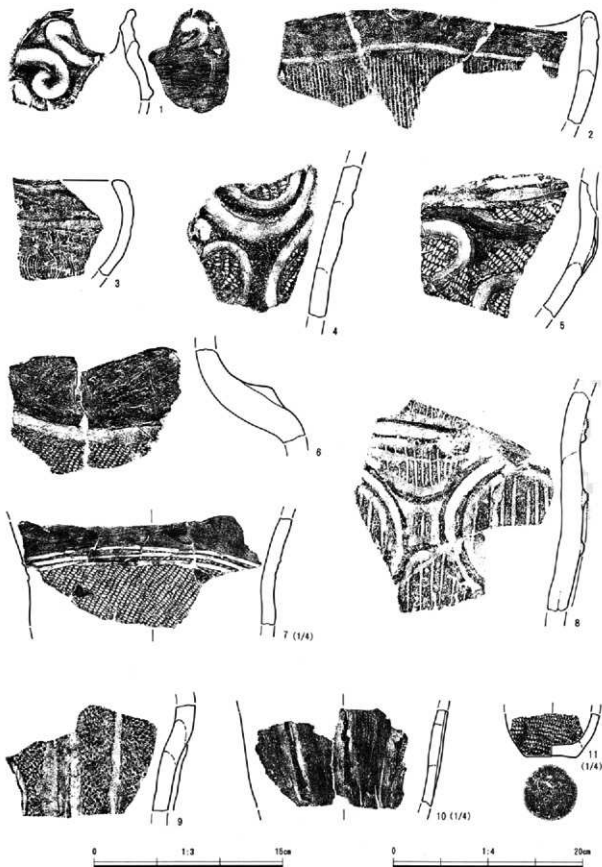
第49图 2号配石出土土器实测图(3)



第50圖 2号配石出土土器実測圖(4)

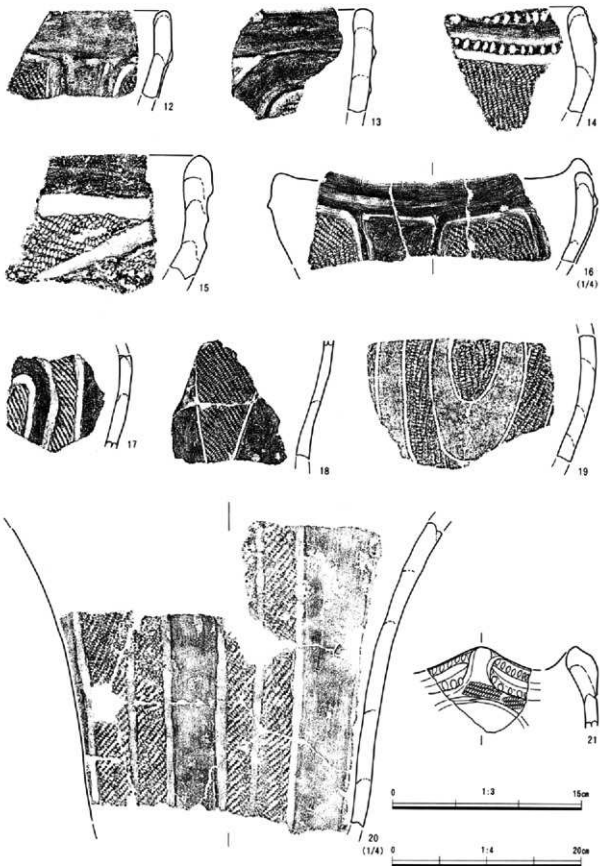


第51圖 2号配石出土土器実測図(5)

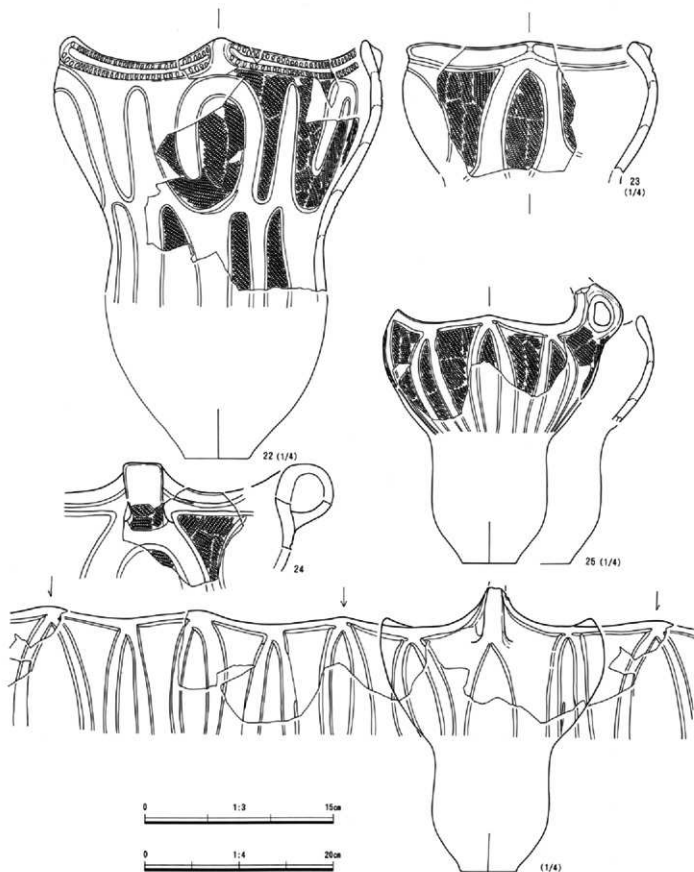


第52図 6号配石出土土器実測図(1)

第2節 縄文時代

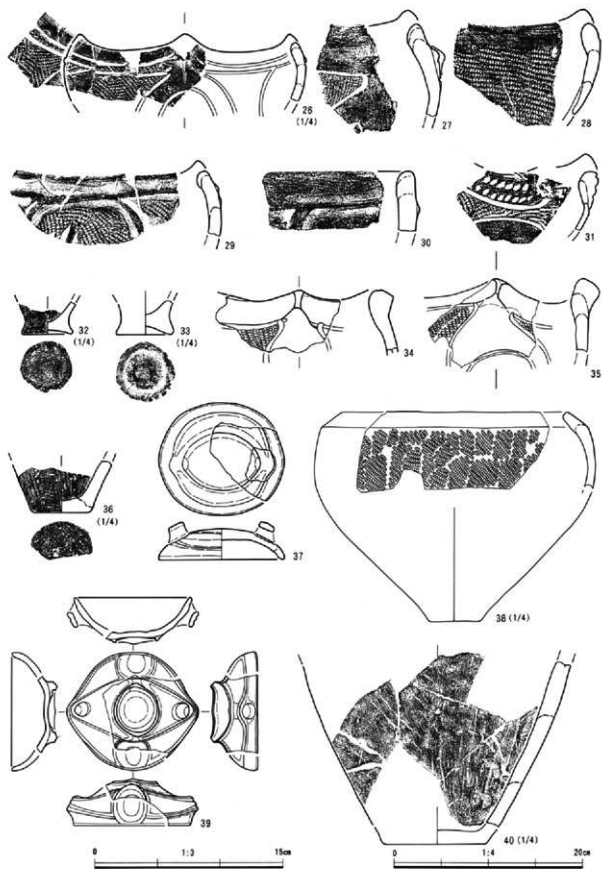


第53図 6号配石出土土器実測図(2)

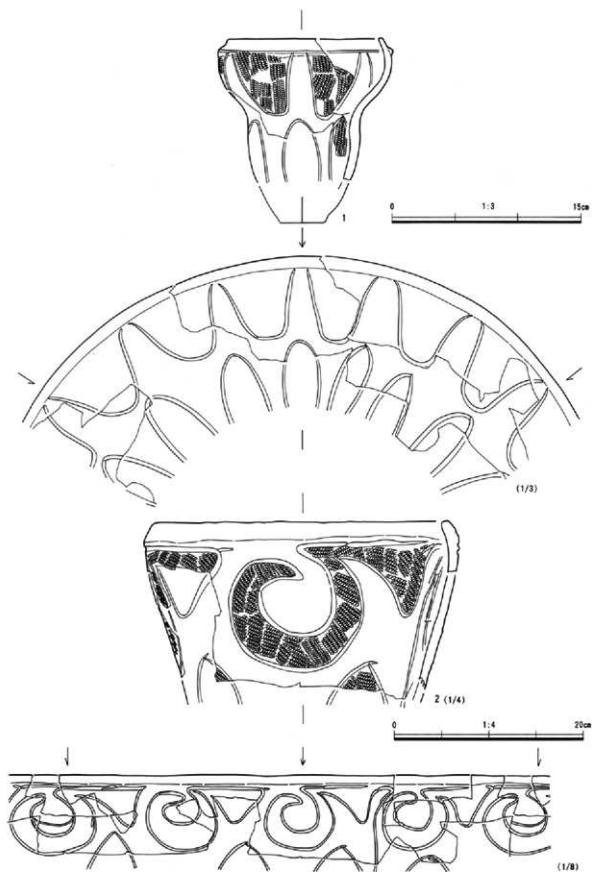


第54図 8号配石出土土器実測図(3)

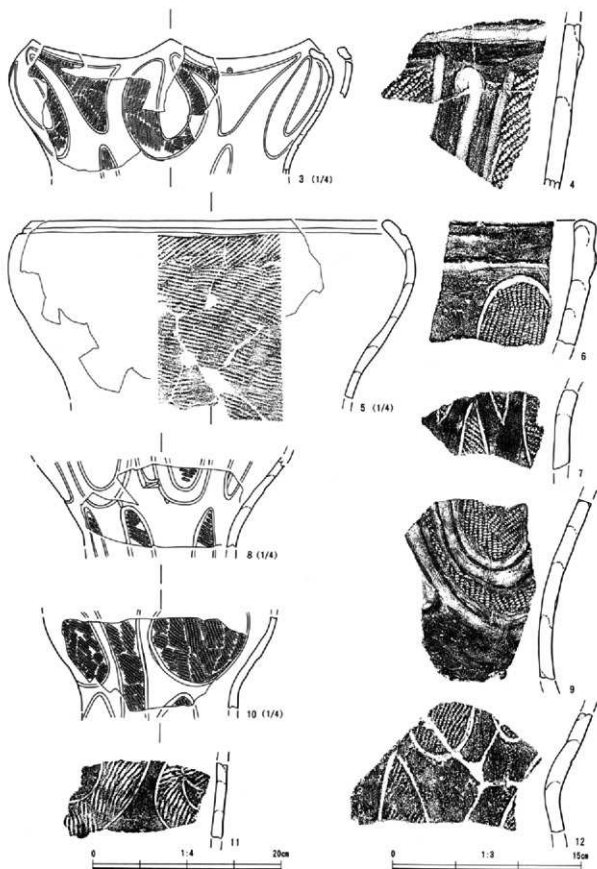
第2節 縄文時代



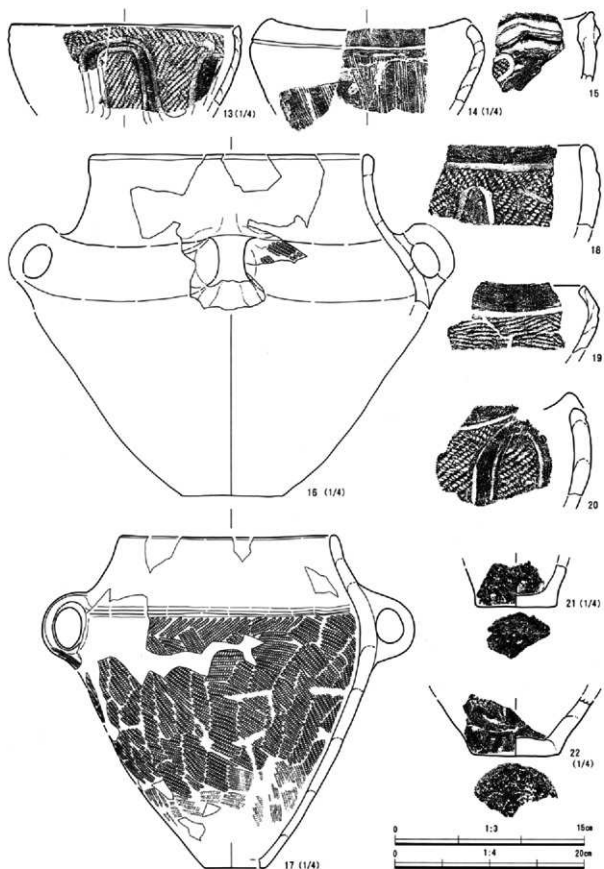
第55図 6号配石出土土器実測図(4)



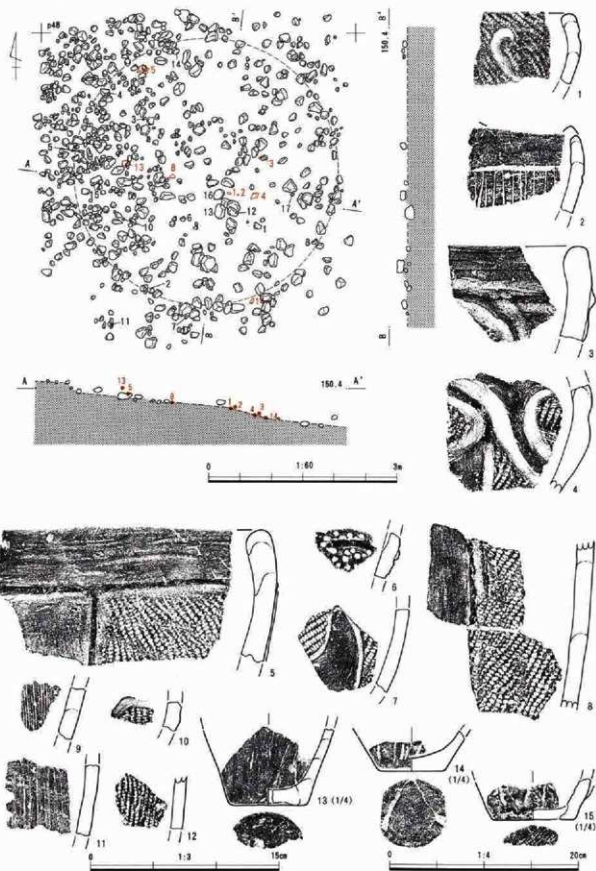
第58図 7号配石出土土器実測図(1)



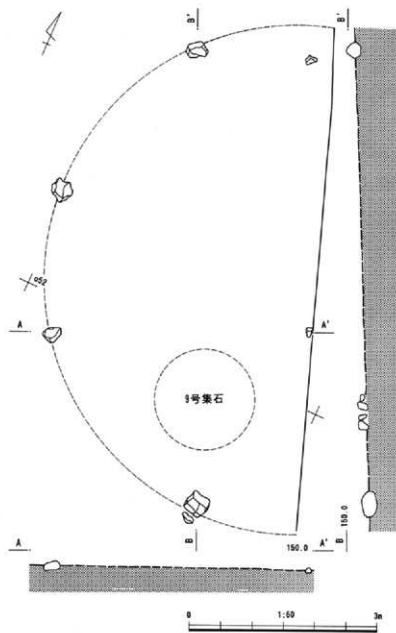
第57圖 7号配石出土土器実測図(2)



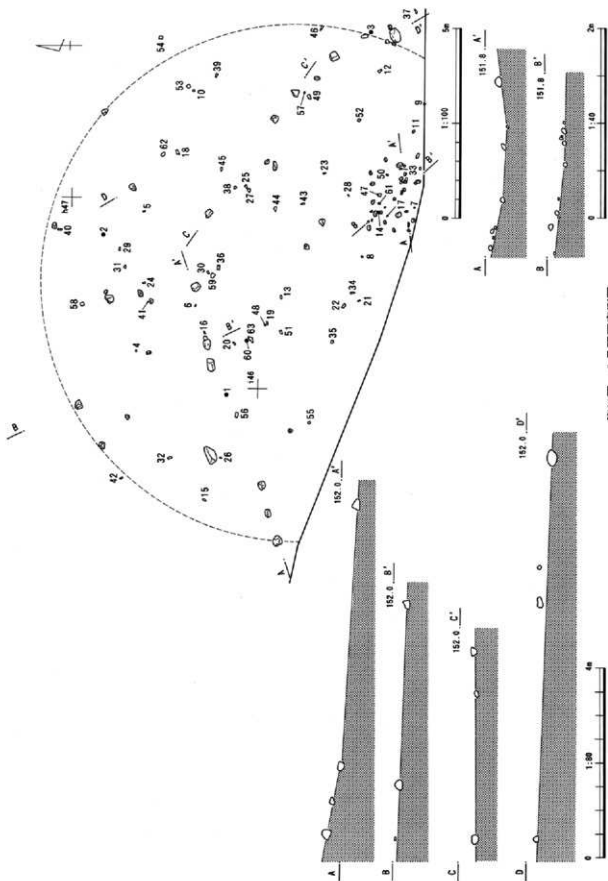
第50图 7号配石出土土器実測图(3)



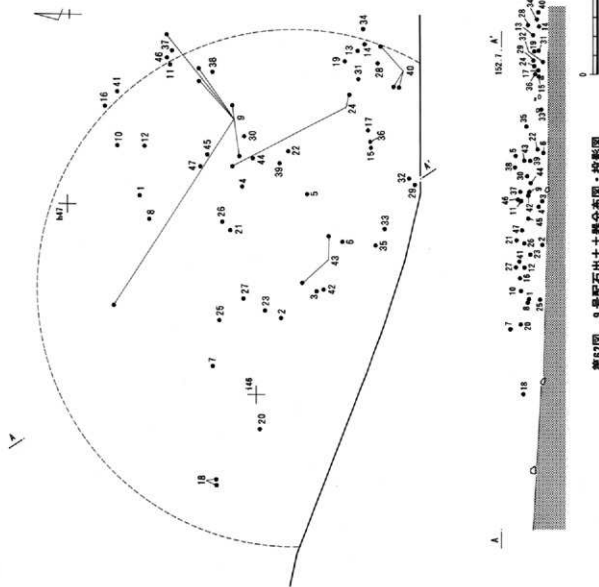
第59図 3号配石実測図・出土土器実測図



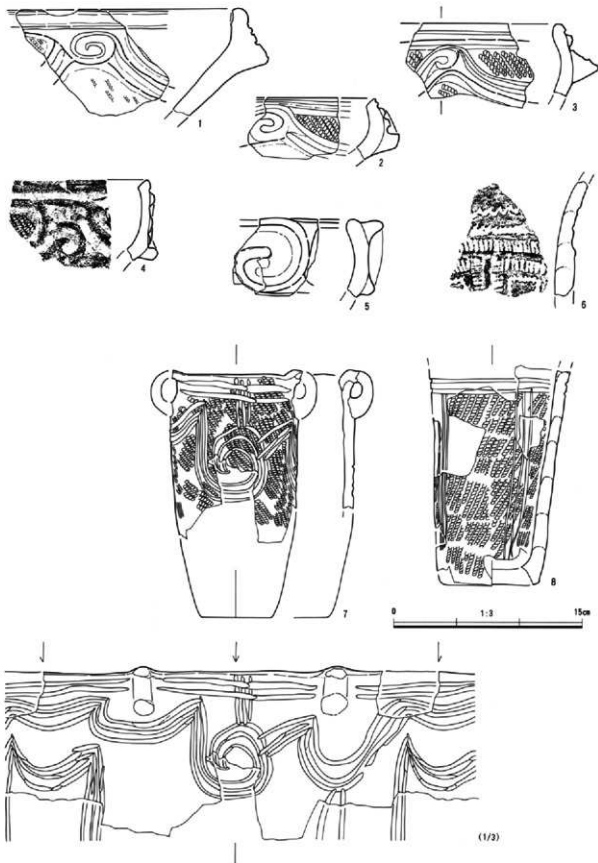
第60図 5号配石実測図



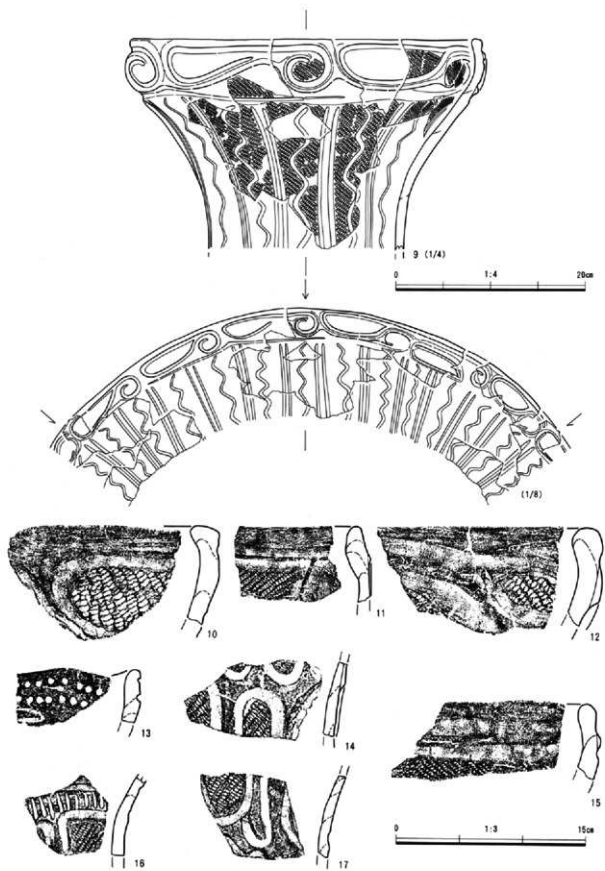
第01圖 9号配石黄洲図



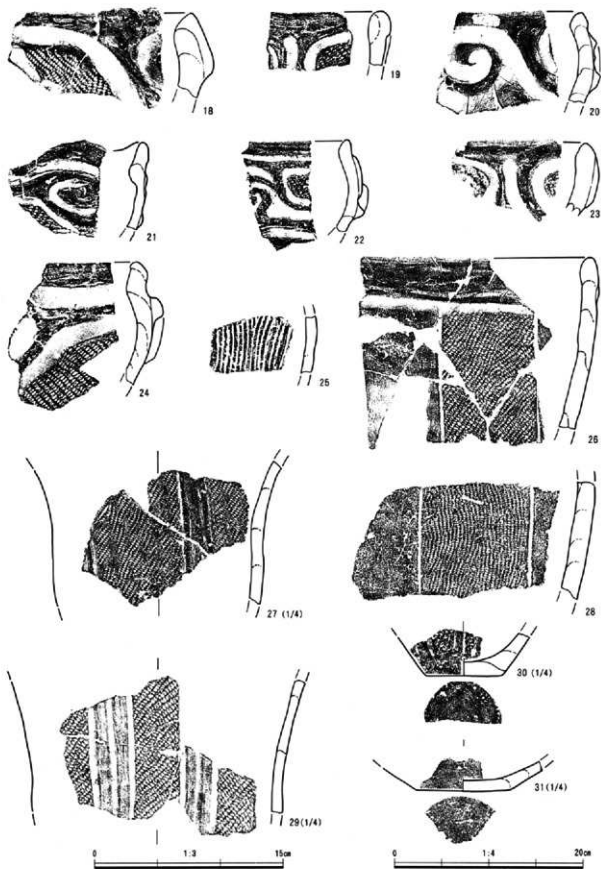
第67圖 9号配石出土層分布圖・投影圖



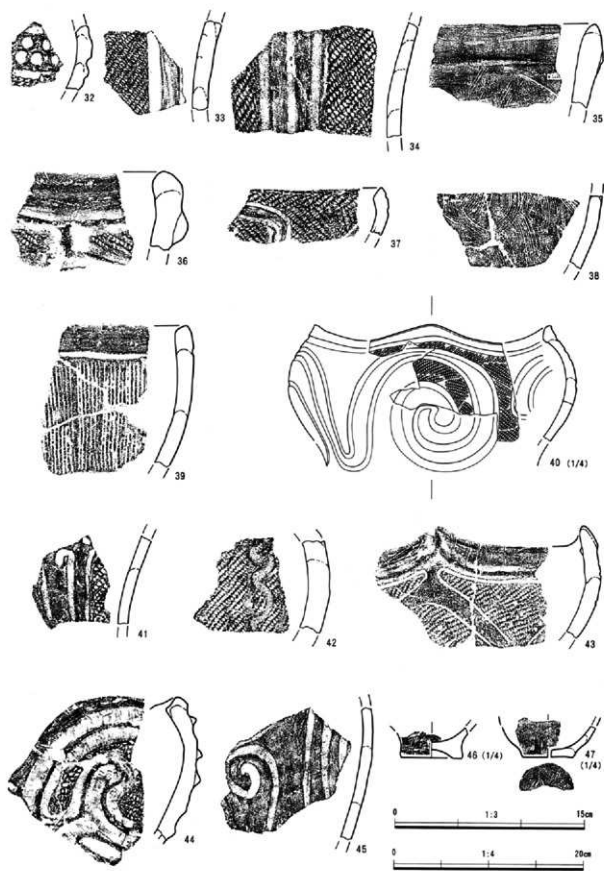
第63图 9号配石出土土器実測图(1)



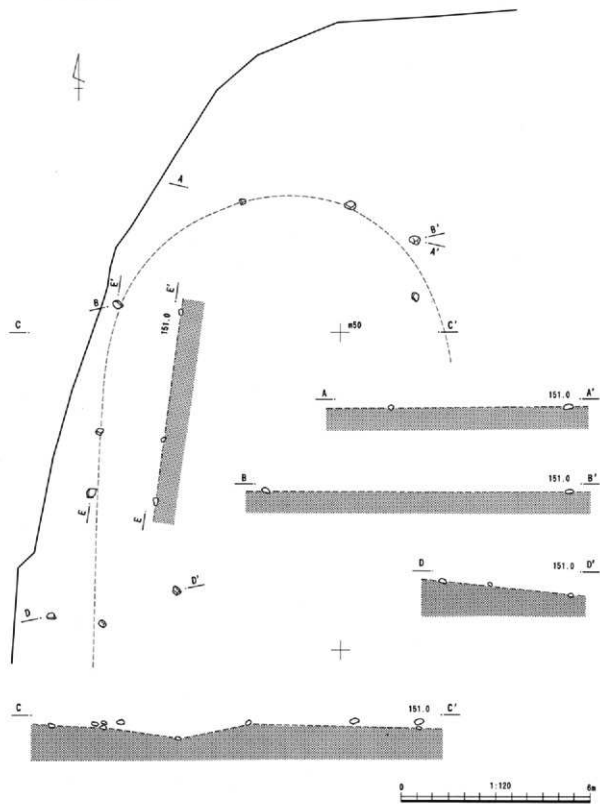
第64图 9号配石出土土器实测图(2)



第65図 9号配石出土土器実測図(3)



第66圖 9号配石出土土器実測圖(4)



第67圖 10号配石実測図

第5表 配石遺構出土土器調査表(1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・形状の特徴	備考
G-1配 -1 第42回 P.L.56	深鉢	口縁～底1/4 口36.2 底(16.0) 高53.6	G区1配石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、輝石・ 白色粒子少量 ②橙5Y R7/6 ③良好	口縁部は逆「」字状尚書文と「 \square 」字状 区画文を6単位施文。胴部は縦線筋 による懸垂文6単位施文。L.R縄文斜 め縦施文。	V群 外面口縁～胴部の 対峙する部分に黒 灰あり V群 内外面一部黒灰
G-1配 -2 第43回 P.L.56	深鉢	口縁部1/3 口(38.4) 底一 高(12.6)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒子少量 ②橙5Y R7/6 ③ややよし	口縁部縁帯と隅線沈線による「 \square 」字状 文。胴部は縦位3条沈線による分割。 R.L縄文充填。	V群 内面底部(下から 1/3部)黒灰
G-1配 -3 第43回 P.L.56	深鉢	口～底部1/2 口27.6 底6.8 高36.3	G区1配石 覆土	①細砂。赤褐色粒多量、チャート・ 石英・輝石・白色粒子少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	口縁4単位波状。口縁部文様帯波状の 下に尚書と円形文が施文。胴部は「 \square 」 に懸垂文施文。L.R縄文を縦位充填。	V群 内面底部(下から 1/3部)黒灰
G-1配 -4 第44回 P.L.57	両耳 壺	口縁部1/4 口(26.4) 底一 高(10.5)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/3 ③ややよし	口縁部瓶文帯横位磨き。頸部縁帯以下 横位?状区画文、区画内はR.L縄文横 位充填。	V群 外面狭く黒灰
G-1配 -5 第44回 P.L.57	両耳 壺	口～体部1/4 口(25.8) 底一 高(19.3)	G区1配石 覆土	①粗砂。白色粒多量、石英・ 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい赤褐色5Y R4/3 ③良好	口縁部はほぼ直立し、体部は短い。口 縁部横位磨き、頸部は微線筋で区画さ れ、途中に磨き手配付、4単位の可 能性あり。頸部・体部R.L縄文施文。	V群 内外面一部黒灰
G-1配 -6 第44回 P.L.57	両耳 壺	口～底部2/3 口26.0 底7.6 高31.8	G区1配石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、白色 粒・輝石・石英少量 ②淡黄2.5Y R/4 ③やや悪い	口縁は若干開くがほぼ直立、口縁部横 位磨き、体部との境に横位微線筋貼付 体部はかなり丸味を持つ。L.R縄文施 文。	V群 外面上半黒灰、一 部黒灰、内面上半 黒灰補修孔あり
G-1配 -7 第44回 P.L.57	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.4)	G区1配石 覆土	①中砂。輝石・白色粒子・石 英・赤褐色粒子少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	逆「」字状尚書文、L.R縄文縦位施文。 縁帯は高くしっかりしている。	V群 外面風化
G-1配 -8 第44回 P.L.57	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.2)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒子多量、輝石・ 赤褐色粒子少量 ②明黄褐色10Y R7/6 ③やや悪い	口縁下に幅広く沈線施文。逆「」字状尚 書文、L.R縄文充填。	V群 内外面風化
G-1配 -9 第44回 P.L.57	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.7)	G区1配石 覆土	①細砂。輝石・白色粒子多量、 石英・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/4 ③良好(硬質)	横位簡円文施文。L.R縄文充填。	V群 外面黒灰
G-1配 -10 第44回 P.L.57	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.3)	G区1配石 覆土	①細砂。白色粒・石英・輝 石少量 ②橙2.5Y R6/8 ③良好(硬質)	波状口縁。突起部分は外に反り返る。 その下に逆「」字状尚書文施文。内面 には「」字状尚書文沈線施文。	V群 内面一部黒灰
G-1配 -11 第44回 P.L.57	深鉢	口縁片 口一 底一 高(10.8)	G区1配石 覆土	①粗砂。赤褐色粒多量、輝石・ 白色粒子少量 ②にぶい黄褐色10Y R4/3 ③やや悪い	施帯による「」字状尚書文。0段多条 L.R縄文充填。	V群
G-1配 -12 第44回 P.L.57	深鉢	口縁片 口一 底一 高(10.6)	G区1配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・白色粒・ 石英・輝石少量 ②淡黄2.5Y R/4 ③やや不良	逆「」字状尚書文、その下に連続判突 文施文。胴部との境は横位沈線により 区画される。胴部は縦位2条沈線より 分割される。L.R縄文充填。	V群
G-1配 -13 第45回 P.L.58	浅鉢	口縁片 口一 底一 高(5.2)	G区1配石 覆土	①中砂。雲母・石英多量、赤 褐色粒・輝石少量 ②にぶい橙5Y R7/4 ③良好	幅7mm半管竹管による放射状沈線で環状 施文。胴部に縦位刻み。	IV群
G-1配 -14 第45回 P.L.58	浅鉢	口縁片 口一 底一 高(5.0)	G区1配石 覆土	①中砂。石英・雲母・結晶片 岩・輝石少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	口唇部は肉張る。半管竹管による平行 沈線で「」字状尚書文と斜行文施文。	V群 口唇～外面赤色塗 彩内面黒色塗彩
G-1配 -15 第45回 P.L.58	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.8)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒子多量、石英・ 輝石・赤褐色粒子少量 ③明黄褐色10Y R7/6 ④やや悪い	細線線による区画文。L.R縄文充填。	V群
G-1配 -16 第45回 P.L.58	深鉢	胴部片 口一 底一 高(15.0)	G区1配石 覆土	①中砂。石英・チャート・白 色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい橙5Y R6/3 ③ややよし	横位2条縁帯により胴部と区画。頸部 瓶文帯あり。胴部は縦位2条縁帯より 4単位分割、R.L縄文充填。間に縦 位波状縁帯懸垂。	V群 内面黒灰

第5表 配石遺構出土土器観察表(2)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、或・整形の特徴	備考
G-1配 -17 第45図 P.L.58	深鉢	口縁片 □— 底— 高(7.6)	G区1配石 覆土	①細砂。白色粒子多量、輝石・ 石英・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③やや不良	縦い波状口縁。口縁下に横位細線帯貼 付、そこから下に縦位細線帯貼付分割。	V群 外面煤付着黒炭 内面黒炭
G-1配 -18 第45図 P.L.58	深鉢	口縁片 □— 底— 高(4.5)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒多量、赤褐色 粒・石英・輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③やや悪い	横位逆「の」字状渦巻文。R.L縄文充満。 沈線は深く明瞭。	V群
G-1配 -19 第45図 P.L.58	深鉢	胴部片 □— 底— 高(7.1)	G区1配石 覆土	①中砂。5mm膠。白色粒多量。 輝石・石英少量 ②淡黄褐色2.5Y R8/4 ③ややよし	縦位沈線で胴部分割、間に「U」[「〇」]字 状沈線文、R.L縄文縦位充満。	V群 外面黒炭黒炭
G-1配 -20 第45図 P.L.58	深鉢	胴部片 □— 底— 高(13.5)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③良好	外面無で、無文。内面磨き。	V群 内面黒炭
G-1配 -21 第45図 P.L.58	深鉢	胴部片 □— 底— 高(10.2)	G区1配石 覆土	①細砂。白色粒子・赤褐色粒 ・子多量、輝石・石英少量 ②淡黄褐色10Y R4/2 ③良好	1cm~1.2cm間隔で縦位又は斜縦位沈 線施文。内面横位無で。	V群 外面煤付着(黒炭)
G-1配 -22 第45図 P.L.58	深鉢	胴部1/4 □— 底— 高(9.8)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒子・石英・輝 石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③良好	幅1.8cm10本の細い帯状工具による 縦位沈線。内面横位磨き。	V群 外面黒炭
G-1配 -23 第45図 P.L.58	深鉢	胴部1/3 □— 底— 高(12.8)	G区1配石 覆土	①細砂。白色粒・輝石・石英 少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	沈線による波状文。口縁部の方がやや 間隔が乱れる。内部にL.R縄文充満。	V群 内外面口縁の胴部 煤付着黒炭
G-1配 -24 第45図 P.L.58	深鉢	胴部片1/4 □— 底— 高(21.6)	G区1配石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 ・チャート少量 ②黄褐色7.5Y R7/8 ③悪い	縦位2条微線線により胴部分割、R.L 縄文縦位充満。	V群 外面一部淡く黒炭
G-1配 -25 第45図 P.L.58	深鉢	胴部片 □— 底— 高(14.3)	G区1配石 覆土	①粗砂。赤褐色粒・白色粒子 多量、輝石・石英少量 ②明黄褐色10Y R7/6 ③ややよし	細かい帯状工具による弧線文。下半は 縦位磨き。内面横位磨き。	V群 外面黒炭、赤炭あ り内面一部黒炭
G-1配 -26 第46図 P.L.59	深鉢	口縁片 □— 底— 高(7.1)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒子多量、石英 ・赤褐色粒子・輝石少量 ②淡黄褐色10Y R5/2 ③不良	縦い波状口縁。弧線文、外にR.L縄文 充満。	V群 口唇部炭化物付着
G-1配 -27 第46図 P.L.59	深鉢	口縁片 □— 底— 高(4.6)	G区1配石 覆土	①中砂。石英・白色粒・赤褐 色粒多量、輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/3 ③ややよし	縦い波状、内湾口縁。口縁より1.5cm 下に横位微線帯・沈線施文。下の区画 には「〇」字状縦位沈線文、R.L縄文充満。	V群 内外面炭化物付着 黒炭
G-1配 -28 第46図 P.L.59	深鉢	口縁片 □— 底— 高(5.1)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・石 英・チャート・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③ややよし	口縁下に横位細線帯貼付、下に「〇」字 状区画、R.L縄文充満。	V群 内外面炭化物付着
G-1配 -29 第46図 P.L.59	深鉢	口縁片 □— 底— 高(5.4)	G区1配石 覆土	①中砂。8mm膠。白色粒子・ 輝石・赤褐色粒・石英少量 ②明黄褐色10Y R7/6 ③悪い	沈線による弧線文、兼手文施文。L.R 縄文口縁部横位、胴部縦位施文。	V群 外面最大径前後帯 状に黒炭
G-1配 -30 第46図 P.L.59	深鉢	口縁把手 □(19.0) 底— 高(8.5)	G区1配石 覆土	①中砂。石英・輝石・白色粒 子多量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	波状、内湾口縁。筒状把手貼付、口縁 より2cm下に微線帯貼付、胴部以下に は「八」の字形波状縦位沈線文。粗粒 のL.R縄文充満。	V群
G-1配 -31 第46図 P.L.59	深鉢	胴部1/3 □— 底— 高(9.3)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石多量、 石英少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③ややよし	沈線による「〇」字状懸垂文、R.L縄文 充満。	V群 外面下部黒炭 内面黒炭
G-1配 -32 第46図 P.L.59	深鉢	胴部片 □— 底— 高(8.4)	G区1配石 覆土	①中砂。白色粒子・石英・輝 石・赤褐色粒子少量 ②明黄褐色10Y R7/6 ③やや悪い	縦位沈線による「の」字状渦巻文施文、L R縄文充満。	V群 器面炭化

第5表 配石遺構出土土器観察表(3)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③構成	文様、成・整形の特徴	備考
G-1配 -33 第46回 P.L.59	深鉢	口縁部把手 口一 底一 高(8.8)	G区1配石 覆土	①中砂、白色粒・石英・輝石 多量 ②におい堀7.5Y R5/4 ③ややよし	波状、内湾口縁。横状把手頂部はラッ パ状に開く。把手上に明瞭な波線はな い。把手右下に弧状波線あり。	V群 外面保付着黒変
G-1配 -34 第46回 P.L.59	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.3)	G区1配石 覆土	①粗砂、赤褐色粒多量、白色 粒・輝石・石英少量 ②におい堀7.5Y R7/4 ③良好(硬質)	頸部横位波線で胴部と区画。胴部に波 線による逆「J」字状渦巻文、渦巻の間 に朝実文施文。地文はR.L織文。	V群 外面上半黒変
G-1配 -35 第46回 P.L.59	深鉢	胴部片 口一 底一 高(10.2)	G区1配石 覆土	①粗砂、チャート・石英・結晶片 岩多量、輝石・赤褐色粒子少量 ②におい黄褐色10Y R7/2 ③良好(硬質)	波線による横位逆「J」字状渦巻文、斜 行波線充満。	V群 外面一部黒変
G-1配 -36 第46回 P.L.59	深鉢	口縁一割1/3 口(12.3) 底一 高(10.9)	G区1配石 覆土	①細砂、輝石・石英・白色粒 少量 ②槽5Y R6/6 ③ややよし	口縁下に横位波線1条、波線による波 状文上下2段施文、その中にR.L織文 充満。	V群 内外口縁黒変
G-1配 -37 第46回 P.L.59	深鉢	胴部1/4 口一 底一 高(22.4)	G区1配石 覆土	①中砂、白色粒多量、輝石・ 石英少量 ②槽7.5Y R7/6 ③不良	口辺部は波線による「の」字状渦巻文、 胴部は山形垂懸文、区画内にL.R細い 織文充満。	V群 口辺保付着黒変
G-1配 -38 第46回 P.L.59	深鉢	底部片 口一 底5.1 高(3.0)	G区1配石 覆土	①中砂、石英・チャート結晶 片岩多量、輝石少量 ②灰黄褐色10Y R6/2 ③ややよし	胴下端までL.R織文縦位又は斜め縦位 施文。底部はやや上底気味。内面磨き。	V群 外面黒斑あり
G-1配 -39 第46回 P.L.59	深鉢	底部1/2 口一 底(7.0) 高(4.1)	G区1配石 覆土	①中砂、石英・チャート結晶 片岩多量、輝石少量 ②におい黄褐色10Y R7/4 ③良好	底部は胴部比べやや薄手。内外面磨 き。	V群 内面黒変、外面 一部淡く黒変
G-1配 -40 第46回 P.L.59	深鉢	底部片 口一 底7.0 高(5.8)	G区1配石 覆土	①細砂、白色粒子多量、輝石 ・石英・赤褐色粒子少量 ②浅黄褐色10Y R8/4 ③ややよし	胴部L.R織文縦位施文。底部はやや上 底気味。	V群 内面炭化物付着 (黒変)
G-1配 -41 第46回 P.L.59	深鉢	底部片 口一 底7.2 高(4.8)	G区1配石 覆土	①中砂、赤褐色粒・石英・輝 石・白色粒少量 ②槽7.5Y R7/6 ③ややよし	無文。外面に縦位研磨の際の条線がみ られる。内面横位磨き。底部中央はや や上底気味。	V群
G-2配 -1 第47-48 回 P.L.60	深鉢	口一胴部2/3 口45.0 底一 高(52.0)	G区2配石 覆土	①中砂、赤褐色粒・白色粒子 ・輝石多量 ②明赤褐色2.5Y R5/8 ③やや悪い	口縁突起4個付、内面に有孔。口縁 2段分削、突起下に逆「J」字状渦巻文、 間に「の」字又は逆「の」字状渦巻文、胴 部「の」状波線内波状懸垂8単位施文。	V群
G-2配 -2 第49回 P.L.60	深鉢	口縁部1/3 口(22.8) 底一 高(14.6)	G区2配石 覆土	①中砂、白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒子少量 ②黄褐色7.5Y R7/8 ③やや悪い	口縁に無文帯及び横位波線を施文しな い。波線による波状文。口縁はL.R織 文横位、波状文内は縦位充満。	V群 外部口辺保付着黒 変茶葉黒変、内面 黒変
G-2配 -3 第49回 P.L.60	深鉢	胴部1/3 口一 底一 高(17.4)	G区2配石 覆土	①細砂、白色粒・輝石・石英 少量 ②槽5Y R7/6 ③やや悪い	波状波線文2段施文。R.L織文縦位充 満施文。	V群 外面一部黒変
G-2配 -4 第49回 P.L.60	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.6)	G区2配石 覆土	①中砂、白色粒子・輝石・赤 褐色粒子少量 ②におい黄褐色10Y R6/4 ③やや悪い	波状口縁。突起下には双弧状波線文 施文。R.L織文充満。	V群
G-2配 -5 第49回 P.L.60	深鉢	口一胴部1/2 口(12.4) 底一 高(10.8)	G区2配石 覆土	①細砂、輝石・白色粒子・石 英粒子少量 ②槽7.5Y R6/8 ③良好	口縁は緩い波状口縁、口縁下に波線1 条施文。波状波線を上下2段にずらし て施文。R.L織文充満。	V群 内面胴上部～外面 口縁黒変
G-2配 -6 第49回 P.L.60	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.6)	G区2配石 覆土	①中砂、白色粒子・石英・輝 石・赤褐色粒少量 ②明黄褐色10Y R6/6 ③やや不良	口縁下に横位細波線施文。その下に波 状波線文? R.L織文充満。	V群 内外面風化
G-2配 -7 第49回 P.L.60	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.5)	G区2配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石・石英 少量 ②灰黄褐色10Y R5/2 ③良好(硬質)	口縁下に横位波線、「の」状波線文、R L織文充満。	V群 外面黒変

第5表 配石遺構出土土器観察表(4)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
G-2配 -8 第49回 P.L.60	深鉢	口緣片 □(18.0) 底— 高(5.7)	G区2配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③ややよし	4単位波状口縁、波状の下には双弧状 文施文、それらの間には縦位波線2条 1単位のもの2単位垂下。R.L.縄文 充満。	V群 外面煤付着黒変
G-2配 -9 第49回 P.L.60	深鉢	口緣片 □— 底— 高(10.1)	G区2配石 覆土	①細砂、白色粒・赤褐色粒 子・輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③良好(硬質)	口縁下に縦位波線、胴部に波状文。 R.L.縄文充満。	V群 外面淡く黒変
G-2配 -10 第49回 P.L.61	深鉢	口緣片 □— 底— 高(4.0)	G区2配石 覆土	①中砂、石英・白色粒多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや悪い	緩い波状、内彎口縁。口縁下に横位細 波線、途中に双弧文、0段多糸R.L.細 縄文充満。	V群 内外面淡く黒変
G-2配 -11 第49回 P.L.61	深鉢	口緣片 □— 底— 高(7.5)	G区2配石 覆土	①細砂、白色粒・石英・輝 石少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③良好(硬質)	薄手。波状口縁、細波線による波状文。 L.R.縄文充満。	内外面炭化物付着 L.R.縄文充満。
G-2配 -12 第49回 P.L.61	深鉢	口緣片 □— 底— 高(4.8)	G区2配石 覆土	①中砂、輝石・石英・白色粒 子少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	口縁部は緩い波状口縁。口縁下に深い 横位波線、その下に波状文。L.R.縄文 充満。	V群 外面淡く黒変
G-2配 -13 第50回 P.L.61	深鉢	口緣部1/4 □(35.4) 底— 高(10.5)	G区2配石 覆土	①中砂、結晶片岩多量、輝石 ・石英・白色粒子少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	4単位波状口縁。口縁下に横位波線施 文。波状口縁下に2重双弧文、波状の 間に縦位波線による懸垂文。L.R.縄文 充満。	V群 内面口縁一部煤付 着(黒変) 内面器面が粗れる
G-2配 -14 第50回 P.L.61	深鉢	口緣片 □(30.0) 底— 高(9.7)	G区2配石 覆土	①中砂、白色粒多量、輝石・ 赤褐色粒子・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③不良	4単位波状口縁、突起下に双弧文、R L.縄文充満。	V群 外面黒変
G-2配 -15 第50回 P.L.61	深鉢	口緣片 □— 底— 高(6.7)	G区2配石 覆土	①中砂、白色粒・石英・輝 石・チャート少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③ややよし	横位槽門区画内に幅2.3cm 6本棒状 工具による縦位波線充満。	V群 外面黒変
G-2配 -16 第50回 P.L.61	深鉢	口緣片 □— 底— 高(8.6)	G区2配石 覆土	①中砂、白色粒・赤褐色粒多 量、輝石・石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	横位槽門区画内に幅1.2cm 7本棒状工 具による縦位または斜位波線充満。	V群 外面黒変
G-2配 -17 第50回 P.L.61	深鉢	胴部片 □— 底— 高(5.5)	G区2配石 覆土	①中砂、白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②褐色10Y R4/1 ③悪い	太波線による逆「の」字状渦巻文、内外 面に部分的に赤色塗彩残る。	V群 内外面赤色塗彩 器面粗れる
G-2配 -18 第50回 P.L.61	深鉢	胴下～底部 □— 底7.6 高(9.1)	G区2配石 覆土	①中砂、白色粒多量、輝石・ 石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③ややよし	上底、胴部にはやや厚い。外面胴部 L.R.細縄文縦位施文。	V群 外面底部一部炭化 物付着 内面炭化物付着
G-2配 -19 第50回 P.L.61	深鉢	底部1/2 □— 底(6.8) 高(4.2)	G区2配石 覆土	①中砂、チャート・石英多量、 輝石・白色粒・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好	高い上底。内外面磨き。	V群
G-2配 -20 第50回 P.L.61	深鉢	口縁部把手 □— 底— 高(5.9)	G区2配石 覆土	①中砂、石英多量、赤褐色粒 ・白色粒・輝石少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	波状、内彎口縁。頂部に浅波線による 逆「の」字状渦巻文、横位把手中央は僅 かに窪む。下には双弧状波線が配置 されるものと思われる。	V群
G-2配 -21 第50回 P.L.61	深鉢	胴～胴下1/8 □— 底— 高(28.1)	G区2配石 覆土	①中砂、赤褐色粒・白色粒少 量、石英・輝石少量 ②黄褐色10Y R8/4 ③ややよし	胴部との間に横位隆帯付、波線による 槽門区画文。胴部には縦位2条波線に より分断。L.R.縄文縦位施文。	V群 外面胴部煤付着黒 変
G-2配 -22 第50回 P.L.61	深鉢	口縁部1/4 □(30.6) 底— 高(20.3)	G区2配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石多量、 石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	波状、内彎口縁。口縁下に幅広波線が 沿う。その下に双弧状波線文、胴部に 「の」字状波線文。R.L.縄文充満。	V群 外面大きい黒斑あ り
G-2配 -23 第51回 P.L.61	深鉢	口緣片 □— 底— 高(4.9)	G区2配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石多量、 石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	口縁下に横位隆帯。隆帯による「の」字 状区画内縦位波線充満。隆帯の交点に は有略渦巻文、頸部は磨き、無文帯あ り。	V群 内面～口唇部黒変

第5表 配石遺構出土土器観察表(5)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③構成	文様、成・整形の特徴	備考
G-2配 -24 第51図 P.L.61	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.5)	G区2配石 覆土	①細砂。白色粒子・石英粒子 多量、輝石少量 ②におい黄7.5Y R7/4 ③やや良し	波状、内脣口縁。口唇部沈線、頂部左 側は「の」字状磨手文。隆帯と沈線による 横門区画と「の」字状磨手文。区画内 黒赤文R縦位施文。	V群 口唇部炭化物付着 黒炭
G-2配 -25 第51図 P.L.62	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.0)	G区2配石 覆土	①中砂。チャート・石英多量、 輝石・白色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③やや悪い	内脣口縁。口縁1.5cm下に横位隆帯粘 付区画、連続状2重隆帯頂部に逆「の」 字状渦巻文。RL縄文充填。	V群 外面口縁煤付着淡 く黒炭
G-2配 -26 第51図 P.L.62	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.5)	G区2配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・赤褐 色粒・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	波状口縁。突起下に逆「の」字状渦巻文。 沈線は深く明瞭。	V群 内面口縁黒炭
G-2配 -27 第51図 P.L.62	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.8)	G区2配石 覆土	①粗砂。白色粒・赤褐色粒多 量、輝石・石英・チャート少量 ②におい黄褐10Y R/5/4 ③やや不良	口縁部「の」字状渦巻文、横位横門文施 文。胴部はその下に2条1単位沈線に より縦位分割、RL縄文充填。	V群 外面頂部黒炭
G-2配 -28 第51図 P.L.62	深鉢	胴部片 口一 底一 高(13.4)	G区2配石 覆土	①中砂。結晶片岩多量、白色粒 ・輝石・赤褐色粒・チャート少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	縦位沈線により分割、間に「U」形「の」字 状沈線文施文、L R縄文充填。	V群 外面下部黒炭 内面下部黒炭
G-2配 -29 第51図 P.L.62	深鉢	胴上部1/4 口一 底一 高(15.0)	G区2配石 覆土	①粗砂。白色粒・赤褐色粒・ 石英・輝石少量 ②橙5Y R7/6 ③やや悪い	縦位「の」字状隆帯とその内側に沿う沈 線により区画され、内部にRL縄文を 充填する。	V群 外面上部一部黒炭
G-2配 -30 第51図 P.L.62	深鉢	胴部片 口一 底一 高(15.6)	G区2配石 覆土	①粗砂。輝石・白色粒多量、 石英・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	縦位4条沈線による分割。間にRL縄 文充填、その後波状沈線垂下。	V群 内面煤付着黒炭
G-2配 -31 第51図 P.L.62	深鉢	胴一底部2/3 口一 底6.6 高(9.8)	G区2配石 覆土	①中砂。輝石・白色粒子多量、 赤褐色粒子少量 ②明黄褐2.5Y R5/8 ③やや悪い	胴部隆帯と隆帯脇沈線2条〜3条を 1単位とし、7単位施文。RL縄文と L R縄文を縦位充填。	V群 内面黒炭
G-2配 -32 第51図 P.L.62	深鉢	底部1/4 口一 底(8.2) 高(8.3)	G区2配石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、白色 粒・輝石少量 ②におい橙5Y R6/4 ③やや悪い	縦位2条沈線により分割、間にRL縄 文縦位充填後、縦位波状沈線施文。	V群 外面上部一部黒炭
G-2配 -33 第51図 P.L.62	深鉢	底部片 口一 底8.6 高(7.5)	G区2配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	底部は厚手であるが中心はやや薄い。	V群 内面黒炭 外面底部黒斑あり
G-2配 -34 第51図 P.L.62	深鉢	底部片 口一 底6.4 高(4.1)	G区2配石 覆土	①粗砂。石英・白色粒多量、 赤褐色粒・輝石少量 ③明黄褐10Y R7/6 ③やや悪い	底部はかなり厚手。縦位2条沈線施文。	V群 内面淡く黒炭 外面被蝕、器面粗 れる
G-6配 -1 第52図 P.L.62	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.1)	G区6配石 覆土	①細砂。白色粒子・石英粒子 多量、赤褐色粒・輝石少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	波状口縁。外面突起下に逆「の」字状渦 巻文、裏手状渦巻文、内面「の」字状渦 巻文。	V群 内外面炭化物付着 黒炭
G-6配 -2 第52図 P.L.62	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.7)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒多量、石英・ 輝石・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③やや悪い	緩い波状口縁、口唇部に指頭圧痕あり。 口縁下に横位沈線、下に幅9mm 4本櫛 状工具による縦位沈線施文。	V群 外面一部黒炭
G-6配 -3 第52図 P.L.62	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.5)	G区6配石 覆土	①細砂。石英・白色粒子多量、 輝石少量 ②におい黄2.5Y 6/3 ③やや良し	内脣口縁。口縁より3.5cm下に横位沈 線、幅1.6cm 9本櫛状工具による縦 位波状沈線施文。	V群
G-6配 -4 第52図 P.L.63	深鉢	胴部片 口一 底一 高(12.0)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③不良	渦巻文又は横門文、RL縄文充填。	V群
G-6配 -5 第52図 P.L.63	深鉢	胴部片 口一 底一 高(10.8)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②におい黄褐10Y R6/3 ③やや良し	横位横門区画又は渦巻文、胴部「の」字 状沈線、RL縄文充填。	V群

第2節 縄文時代

第5表 配石遺構出土土器観察表(8)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、或・整形の特徴	備考
G-6配-6 第52図 P.L.63	両耳 壺	胴部片 口一 底一 高(7.1)	G区6配石 覆土	①中砂、白色粒・石英少量、 結晶片若・赤褐色粒少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③悪い	口縁部磨き、体部との境に微隆帯貼付。 R.L縄文縦文施文。	V群 外面黒変あり
G-6配-7 第52図 P.L.63	深鉢	胴部片 口一 底一 高(11.1)	G区6配石 覆土	①中砂、輝石多量、白色粒・ 石英少量 ②灰黄橙10Y R5/2 ③ややよし	胴部無文帯横位磨き。幅4mm3条横位 沈線により胴部と区画、胴部R.L縄文 縦文施文。	V群 外面黒変あり
G-6配-8 第52図 P.L.63	深鉢	胴部片 口一 底一 高(17.0)	G区6配石 覆土	①中砂、輝石・石英・白色粒 子多量、赤褐色粒少量 ②ふい黄橙10Y R6/4 ③ややよし	胴部に横位2条1単位隆帯貼付、胴部 と区画、胴部に2条弧状隆帯貼付、そ の間を上下1条帯等で「x」状に連結す る。縦位沈線充満。	V群 外面一部黒変
G-6配-9 第52図 P.L.63	深鉢	胴部片 口一 底一 高(8.3)	G区6配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石・石英 少量 ②ふい黄橙10Y R6/4 ③やや悪い	胴に沈線を伴う縦位隆帯により分割、 間に沈線懸垂。R.L.R復助縄文縦位充 満。	V群 外面淡く黒変
G-6配-10 第52図 P.L.63	深鉢	胴部片 口一 底一 高10.2	G区6配石 覆土	①中砂、赤褐色粒・石英・輝 石・白色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	縦位微隆帯貼付により胴部分割。縦位 磨き。内面横撫で。	V群
G-6配-11 第52図 P.L.63	深鉢	底部片 口一 底5.5 高(4.6)	G区6配石 覆土	①中砂、白色粒・石英多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②ふい黄橙10Y R7/3 ③良好	外面胴部R.L縄文縦位斜位施文。底部 撫で、やや上底灰味。内面撫で。	V群 外面黒変
G-6配-12 第53図 P.L.63	深鉢	口縁～胴部 口一 底一 高(6.8)	G区6配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石・石英 少量 ②浅黄2.5Y7/4 ③やや悪い	口縁部横位磨き、4cm下に横位微隆帯。 下に縦位、弧状微隆帯R.L縄文充満。	V群 口縁内外面黒変
G-6配-13 第53図 P.L.63	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.1)	G区6配石 覆土	①中砂、白色粒・石英多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②灰黄2.5Y7/2 ③ややよし	口縁部～外面良く研磨。微隆帯による 弧線文。内面横位撫で。	V群
G-6配-14 第53図 P.L.63	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.2)	G区6配石 覆土	①中砂、石英・輝石・赤褐色 粒・白色粒少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③ややよし	内脣口縁。口縁沿いに連続刻み、口縁 3cm下に刻み付き隆帯貼付、その下に 幅広横位浅沈線施文。R.L縄文横位施 文。	V群 外面一部黒変
G-6配-15 第53図 P.L.63	深鉢	口縁片 口一 底一 高(9.8)	G区6配石 覆土	①中砂、白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒子少量 ②浅黄2.5Y8/4 ③ややよし	口縁より3cm下に幅広横位沈線、そこ から斜め下に斜位沈線、R.L縄文充満。	V群
G-6配-16 第53図 P.L.63	深鉢	口縁片 口(33.6) 底一 高(9.6)	G区6配石 覆土	①中砂、白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②ふい黄橙10Y R6/4 ③ややよし	波状口縁。口縁下に幅広沈線、その 下に隆帯「T」字状に貼付。R.L縄文充 満。	V群 外面一部黒変
G-6配-17 第53図 P.L.64	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.3)	G区6配石 覆土	①中砂、石英・白色粒子多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②ふい黄橙10Y R6/3 ③良好	沈線による渦巻文。L.R縄文充満。	V群 外面帯付着黒変
G-6配-18 第53図 P.L.64	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.2)	G区6配石 覆土	①中砂、赤褐色粒・白色粒・ 石英・輝石少量 ②ふい黄橙10Y R6/3 ③良好	薄手。波状細沈線。L.R縄文縦位充満。	V群
G-6配-19 第53図 P.L.64	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.9)	G区6配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②ふい黄橙10Y R7/4 ③不良	2条細沈線による「J」字状渦巻文。R L縄文充満。	V群 外面一部帯付着 内面黒変
G-6配-20 第53図 P.L.64	深鉢	胴部片1/3 口一 底一 高(32.1)	G区6配石 覆土	①中砂、輝石・白色粒・赤褐 色粒多量、石英少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③良好	胴部は2条1単位沈線により8単位分 割、R.L縄文縦位充満後沈線懸垂。	V群 外面淡く黒変 黒変部箇所粗れる
G-6配-21 第53図 P.L.64	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.7)	G区6配石 覆土	①中砂、赤褐色粒・白色粒・ 輝石少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	縦い波状、内脣口縁。口縁沿いに2条 連続刻み文、間に浅い沈線施文。突起 部には縦位貼付文、下に沈線による弧 線文、間にL.R縄文充満。	V群 内面灰化物付着 (黒変) 6配-22と同一個体?

第5表 配石遺構出土土器観察表(7)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③構成	文様、成・整形の特徴	備考
G-6配 -22 第54回 P.L.64	深鉢	□~胴上1/3 □(34.0) 底— 高26.6	G区6配石 覆土	①中砂、φ6mm礫・輝石・石英・白色粒子少量 ②黄褐色7.5Y R7/8 ③やや良し	4単位波状口縁。口縁に2条連続刺突文、間に沈線施文。波状部突起は構状把手の省略形。口縁下に「J」字状渦巻文、胴部に波状施文。L.R縄文充満。	V群 内面上部保付着(黒変) 6配-21と同一個体?
G-6配 -23 第54回 P.L.64	深鉢	□縁片1/4 □(25.6) 底— 高(13.4)	G区6配石 覆土	①中砂、輝石・石英・白色粒子少量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	口縁4単位波状口縁。頂部に弧状沈線文、L.R縄文充満。	V群 内面炭化付着(黒変) 外面保付着(黒変)
G-6配 -24 第54回 P.L.64	深鉢	□縁部把手 □— 底— 高(9.6)	G区6配石 覆土	①中砂、石英多量、輝石・白色粒子少量 ②灰黄褐色10Y R4/2 ③良好(硬質)	波状、内彎口縁。構状把手1/2次、口縁より1.5cm下に沈線が殆う。把手下に沈線による弧線文、左右は三角形文となり、L.R縄文充満。	V群 内外面黒色(焼し?)
G-6配 -25 第54回 P.L.64	深鉢	□縁部3/4 □19.0 底— 高(14.7)	G区6配石 覆土	①中砂、輝石多量、石英・白色粒子少量 ②黄褐色2.5Y 7/6 ③やや良し	口縁部は4単位波状口縁、1カ所に構状突起貼付。双弧状沈線8単位施文、L.R縄文充満。	V群 内外面黒曜(焼し)の可能性あり
G-6配 -26 第55回 P.L.65	深鉢	□縁片1/3 □(24.2) 底— 高(6.1)	G区6配石 覆土	①中砂、白色粒多量、輝石・赤褐色粒・石英少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/3 ③悪い	波状口縁。口縁より1.5cm下に横位隆帯との両側に沈線文。口縁頂部に弧線文、L.R縄文充満。	V群 外面炭化付着(黒変) 内面下部一部保付着(黒変)
G-6配 -27 第55回 P.L.65	深鉢	□縁片 □— 底— 高(7.1)	G区6配石 覆土	①中砂、白色粒・石英多量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄2.5Y 6/3 ③やや良し	波状口縁、口縁部内彎。口縁より3cm下に横位隆帯貼付。その下に双弧文又は渦巻文沈線施文。L.R縄文「フ」部分に充満。	V群 外面保付着(黒変)
G-6配 -28 第55回 P.L.65	深鉢	□縁片 □— 底— 高(7.1)	G区6配石 覆土	①細砂、白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③やや良し	外面口縁磨き、L.R縄文斜位施文。内面撫で。	V群 口縁から4.5cm間帯状に保付着黒変
G-6配 -29 第55回 P.L.65	深鉢	□縁片1/4 □(19.0) 底— 高(5.1)	G区6配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/3 ③やや良し	緩い波状口縁?口縁下に微線跡、そこから下に微線跡による逆の「J」字状渦巻文、L.R縄文充満。	V群 外面保付着黒変
G-6配 -30 第55回 P.L.65	深鉢	□縁片 □— 底— 高(4.6)	G区6配石 覆土	①中砂、石英・輝石・白色粒・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/4 ③やや良し	口縁より3cm下に横位隆帯跡、そこから下に弧状隆帯貼付。外面磨き、内面横位撫で。	V群 外面淡く黒変
G-6配 -31 第55回 P.L.65	深鉢	□縁片 □— 底— 高(4.7)	G区6配石 覆土	①中砂、石英・白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい橙5Y R7/4 ③良好	薄手。波状口縁。口縁沿いに横位2条連続刺突文、その下に横位沈線、弧状沈線文。	V群 外面保付着(黒変)
G-6配 -32 第55回 P.L.65	深鉢	底部片 □— 底5.3 高(3.3)	G区6配石 覆土	①中砂、結晶片岩・チャート・石英・輝石少量 ②橙7.5Y R7/6 ③良好	内外面磨き、底部上底。	V群 外面黒変
G-6配 -33 第55回 P.L.65	深鉢	底部片 □— 底6.2 高(3.6)	G区6配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②浅黄2.5Y 7/3 ③不良	胴部縦位撫で、底部上底。	V群 内面黒変
G-6配 -34 第55回 P.L.65	深鉢	□縁片 □— 底— 高(5.1)	G区6配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石・赤褐色粒・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③良好	内彎、波状口縁。頂部に揃み出し状の突起貼付。下に双弧状沈線施文、L.R縄文充満。	V群 外面黒変あり
G-6配 -35 第55回 P.L.65	深鉢	□縁片 □— 底— 高(6.0)	G区6配石 覆土	①中砂、赤褐色粒多量、輝石・石英・白色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③良好	波状口縁、やや内彎意味。頂部に揃み出し状の小突起貼付。下に双弧状沈線施文、L.R縄文充満。	V群 外面下淡く黒変
G-6配 -36 第55回 P.L.65	深鉢	底部片 □— 底6.6 高(5.4)	G区6配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石・石英少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③やや良し	外面胴部磨き、底部部後磨き、中央わずかに凹む。内面撫で。	V群 内面黒変
G-6配 -37 第55回 P.L.65	蓋	□縁片 □(10.0) 横— 高(2.5)	G区6配石 覆土	①細砂、輝石・石英・白色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R5/4 ③良好	内外面磨き。やや楕円形。縦通し孔は左右2ヵ所には付くものと考えられるが上下については不明。	V群 外面黒変

第5表 配石遺構出土土器観察表(8)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、或・整形の特徴	備考
G-6配 -38 第55図 P.L.65	鉢	口縁1/4 口(23.6) 底一 高(8.0)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	口縁部内帯。無文部を設け、体部縄文 はLR縦位施文。	V群 はLR縦位施文。
G-6配 -39 第55図 P.L.65	蓋	1/2 口(9.2) 胴3.5 高3.5	G区6配石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 子少量 ②ぶい黄橙10Y R6/3 ③良好(硬質)	表・裏とも研磨。外面は特に良く研磨 上から見るや微隆線により人の目状に なっており、両側に約1cm程の紐通し 孔があく。微隆線部に沈線が沿う。	V群 類し後外面赤色塗 彩
G-6配 -40 第55図 P.L.65	深鉢	胴下部1/3 口一 底一 高(17.3)	G区6配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 少量 ②ぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	外面縦位帯で後磨き。幅6mm4本帯状 工具による斜位沈線を一部に残す。内 面横位無で。	V群 内外面赤 内面狭く黒変
G-7配 -1 第56図 P.L.65	深鉢	口縁~胴1/2 口(12.4) 底一 高(11.1)	G区7配石 覆土	①細砂。輝石・白色粒子・赤 褐色粒子・石英少量 ②橙2.5Y R6/8 ③良好	口縁下に横位微隆線貼付、細沈線によ る三角形に近い波状文、胴部に「ㇿ」 沈線懸垂。LR縄文充満。	V群 内外面黒変
G-7配 -2 第56図 P.L.66	深鉢	口~胴上3/4 口31.4 底一 高19.0	G区7配石 覆土	①細砂。輝石・赤褐色粒少量 、白色粒子少量 ②明黄褐10Y R6/6 ③やや悪い	沈線による渦文4単位、その間に三 角形に近い波状文、胴部にやや対峙す る位置よりずれて「ㇿ」状沈線懸垂。 LR縄文充満。	V群 口縁内外面帯付着 黒変
G-7配 -3 第57図 P.L.65	深鉢	口縁片1/4 口(30.0) 底一 高(12.3)	G区7配石 覆土	①細砂。石英・白色粒子少量、 輝石・赤褐色粒少量 ②ぶい黄橙10Y R6/4 ③ややよし	口縁内帯、波状口縁。上半は細沈線に よる「ㇿ」字状渦巻きモチーフと逆三 角形意匠の連続。下半は「ㇿ」字状沈線懸 垂、縄文LR縦・斜め充満。	V群 補修孔あり 内外面帯付着黒変
G-7配 -4 第57図 P.L.66	深鉢	胴部片 口一 底一 高(12.9)	G区7配石 覆土	①中砂。白色粒少量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②ぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	横位幅広低隆帯により胴部と分割、胴 部は2条沈線により縦位分割、その間 に華手状沈線文、外にLR縄文縦位充 満。	V群
G-7配 -5 第57図 P.L.66	深鉢	口縁~胴1/3 口(37.8) 底一 高(18.8)	G区7配石 覆土	①中砂。石英・白色粒子少量、 輝石・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③ややよし	口縁部横位磨き、横位沈線1条、その 下はLR縄文横位、胴部から胴部に縦 位施文。	V群 内面口縁部帯付着 (黒変)
G-7配 -6 第57図 P.L.66	深鉢	口縁片 口一 底一 高(9.7)	G区7配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・石英・輝 石・白色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③良好	口縁より3cm下に横位微隆線貼付、そ の下に「ㇿ」字状沈線内LR縄文充満。	V群 外面黒斑
G-7配 -7 第57図 P.L.66	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.3)	G区7配石 覆土	①粗砂。赤褐色粒少量、石英 ・輝石・白色粒子少量 ②ぶい黄7.5Y R5/4 ③やや悪い	弧線文、山形波状沈線文、LR縄文充 満。	V群
G-7配 -8 第57図 P.L.66	深鉢	胴部1/3 口一 底一 高(9.5)	G区7配石 覆土	①細砂。白色粒・輝石・石英 少量 ②橙7.5Y R7/6 ③ややよし	沈線による波状文、「ㇿ」LR縄文縦 位充満。各所に沈線の引き直しがみら れる。	V群 内面一部黒変
G-7配 -9 第57図 P.L.66	深鉢	胴部片 口一 底一 高18.8	G区7配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②ぶい橙7.5Y R6/4 ③やや悪い	微隆線と幅広浅沈線による渦文、 R.L縄文充満。	V群 外面黒斑 内面一部黒変
G-7配 -10 第57図 P.L.66	深鉢	胴部1/3 口一 底一 高(9.7)	G区7配石 覆土	①細砂。白色粒・輝石・石英 少量 ②橙5Y R7/6 ③ややよし	沈線による双弧状文、間の縦位沈線と 山形沈線は下に懸垂。LR細縄文充満。	V群 内面一部黒変
G-7配 -11 第57図 P.L.66	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.9)	G区7配石 覆土	①中砂。白色粒子・輝石・石 英少量 ②ぶい黄橙10Y R6/4 ③ややよし	細沈線による弧線文、0段多糸LR縄 文充満。	V群
G-7配 -12 第57図 P.L.66	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.4)	G区7配石 覆土	①細砂。白色粒子・赤褐色粒 子少量、輝石・石英少量 ②ぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	細沈線文による波状、山形文R.L縄 文充満。	V群 外面一部黒変
G-7配 -13 第58図 P.L.67	深鉢	口縁片 口(24.4) 底一 高(8.3)	G区7配石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 子少量 ②ぶい黄橙10Y R6/3 ③良好(硬質)	「ㇿ」字状沈線施文。R.L縄文口縁横位、 その他縦位充満。	V群 内外面黒変 G h-45-6に類似

第5表 配石道構出土土器観察表(9)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③構成	文様、成・整形の特徴	備考
G-7配 -14 第58図 P.L.67	深鉢	口縁片1/4 口(22.8) 底— 高(8.2)	G区7配石 覆土	①細砂、白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	口縁部内側。緩い波状口縁、口縁より2cm下に幅3mm竹管状工具による横位沈線、その下に幅9mm木部状工具による縦位沈線同向施文。	V群 外面割部保付着 (黒変)
G-7配 -15 第58図 P.L.67	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.5)	G区7配石 覆土	①細砂、白色粒・石英・輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/3 ③ややよし	波状、内側口縁。口縁より2cm下に微線状、その間には浅い沈線、頂部下に双弧状沈線文。R.L.縄文充満。	V群 外面保付着(黒変)
G-7配 -16 第58図 P.L.67	両耳 壺	口縁部1/5 口(29.0) 底— 高(16.2)	G区7配石 覆土	①中砂、白色粒・石英・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	橋状把手を頸部に付す。4単位?口縁部磨き無文、頸部の縄文はL.R.縦位、斜位施文。	V群 外面口縁抜く黒変 斜位施文。
G-7配 -17 第58図 P.L.67	両耳 壺	口—割下3/4 口22.6 底(6.5) 高35.0	G区7配石 覆土	①中砂、石英・白色粒多量、輝石・赤褐色粒少量 ②浅黄橙10Y R8/4 ③悪い	口縁や内側。口縁部磨き無文、胴部との境に横位微線貼付し区画。胴側に橋状把手貼付。胴部は細長い樽形の器形を呈する。	V群 外面割部上半と下 端に黒変あり 内面割部黒変
G-7配 -18 第58図 P.L.67	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.4)	G区7配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②黄橙7.5Y R7/8 ③ややよし	口縁より2cm下に横位沈線、「日」字状沈線文、外側にR.L.縄文充満。	V群 外面下層保付着 (黒変) 内面保付着(黒変)
G-7配 -19 第58図 P.L.67	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.2)	G区7配石 覆土	①細砂、石英・輝石・白色粒少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③良好(硬質)	口縁内側、横位沈線下に無部L.縄文斜位施文。	V群 外面保付着(黒変)
G-7配 -20 第58図 P.L.67	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.9)	G区7配石 覆土	①細砂、輝石・石英・白色粒子少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③ややよし	緩い波状口縁。口縁沿いに細沈線1条、波状の頂部下に「日」字状沈線文、R.L.縄文充満。	V群
G-7配 -21 第58図 P.L.67	深鉢	底部片 口— 底(8.8) 高(4.0)	G区7配石 覆土	①中砂、白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	外面底は研磨、光沢をもつ。	V群
G-7配 -22 第58図 P.L.67	深鉢	底部片 口— 底(9.6) 高(6.2)	G区7配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石多量、赤褐色粒・石英少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/3 ③やや悪い	底部中心は肥厚。胴部R.L.縄文充満。	V群
G-3配 -1 第59図 P.L.68	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.4)	G区3配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐10Y R5/4 ③不良	煎手状沈線施文。R.L.縄文口縁横位、その他縦位充満。	V群 外面被熱風化
G-3配 -2 第59図 P.L.68	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.1)	G区3配石 覆土	①中砂、赤褐色粒・チャート・石英・輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/3 ③ややよし	緩い波状口縁、竹管状工具による横位沈線下に篋状工具による縦位沈線施文。	V群
G-3配 -3 第59図 P.L.68	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.5)	G区3配石 覆土	①中砂、白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③やや悪い	口縁や内側。横位沈線下に横位又は渦巻き隆帯貼付区画。	V群
G-3配 -4 第59図 P.L.68	深鉢	口辺部片 口— 底— 高(8.4)	G区3配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石多量、石英・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	沈線による横位区画もしくは渦巻文。胴部2条沈線により分割。R.L.縄文充満。	V群
G-3配 -5 第59図 P.L.68	深鉢	口縁片 口— 底— 高(10.4)	G区3配石 覆土	①中砂、石英・白色粒多量、輝石・角閃石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③やや悪い	口縁横位磨き、その下に横位微線、そこから縦位微線貼付。R.L.縄文充満。	V群
G-3配 -6 第59図 P.L.68	深鉢	胴部片 口— 底— 高(3.5)	G区3配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②浅黄橙7.5Y R8/6 ③不良	横位隆帯区画内φ4mm棒状工具による刺突文。	V群
G-3配 -7 第59図 P.L.68	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.5)	G区3配石 覆土	①細砂、白色粒子・石英・輝石少量 ②黄灰2.5Y 4/1 ③ややよし	逆「日」字状渦巻文、R.L.縄文充満。	V群

第5表 配石遺構出土土器観察表⑩

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
G-3配-8 第59図 P.L.68	深鉢	胴部片 口一 底一 高(13.1)	G区3配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄緑10Y R7/3 ③不良	縦位微線縁により分割。R.L縄文縦位充填。	V群 外周上部淡く黒変
G-3配-9 第59図 P.L.68	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.1)	G区3配石 覆土	①中砂。5mm輝・輝石多量、白色粒子・石英・チャート少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや悪い	櫛状工具による縦位沈線文。	V群
G-3配-10 第59図 P.L.68	深鉢	胴部片 口一 底一 高(2.3)	G区3配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③やや悪い	浅沈線による弧線文、L.R縄文充填。	V群
G-3配-11 第59図 P.L.68	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.4)	G区3配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒・チャート少量 ②にぶい黄緑10Y R7/4 ③良好	内面横位磨き、外面幅1cm本櫛状工具による縦位沈線文。	V群 外面一部黒変
G-3配-12 第59図 P.L.68	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.1)	G区3配石 覆土	①中砂。白色粒子・石英多量、輝石・チャート少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③やや悪い	R.L縄文施文。	V群
G-3配-13 第59図 P.L.68	深鉢	底部片 口一 底(8.4) 高(8.1)	G区3配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	胴部縦位磨き。底面無で。内面磨き。	V群 外周底部黒変
G-3配-14 第59図 P.L.68	深鉢	底部片 口一 底7.0 高(4.1)	G区3配石 覆土	①粗砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや悪い	3条沈線により8単位分割。底部厚手。	V群 内面淡く黒変外面赤変
G-3配-15 第59図 P.L.68	深鉢	底部片 口一 底9.0 高(4.3)	G区3配石 覆土	①中砂。白色粒・石英多量、輝石・赤褐色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや悪い	縦位隆帯及び脇沈線により区画、L.R縄文充填。	V群 底部網代痕
G-9配-1 第63図 P.L.68	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.4)	G区9配石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒子多量 ②橙5Y R6/6 ③やや悪い	口縁下に横位隆帯。途中に逆の「J」字状渦巻文、そこから両側に「八」字状に2重隆帯貼付、両側は「C」字状区画。体部磨消。地文R.L縄文。	V群
G-9配-2 第63図 P.L.68	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.7)	G区9配石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒子多量、赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	口縁や内側。口縁下に横位沈線、高い隆帯による逆の「J」字状渦巻文、R.L縄文横位施文。頸部無文帯あり。	V群 内外面黒変
G-9配-3 第63図 P.L.68	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.9)	G区9配石 覆土	①中砂。結晶片岩・石英多量、輝石・赤褐色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや悪い	口縁や内側。口縁下に横位隆帯、その上下に沈線、隆帯による逆の「J」字状渦巻文、間に沈線施文。両側に「C」字状区画、R.L縄文充填。頸部縄文施文。	V群 外面口縁淡く黒変
G-9配-4 第63図 P.L.68	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.3)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄7.5Y R5/4 ③良好	口縁より1.0cm下に横位沈線、隆帯による横位閉門文、逆の「J」字状渦巻文、R.L縄文充填。頸部無文帯あり。	V群
G-9配-5 第63図 P.L.68	深鉢	口縁部突起 口一 底一 高(6.1)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石多量、赤褐色粒・石英少量 ②にぶい黄7.5Y R7/4 ③ややよし	口縁内側。高い隆帯による逆の「J」字状渦巻文。	V群
G-9配-6 第63図 P.L.68	深鉢	胴部片 口一 底一 高(8.9)	G区9配石 覆土	①粗砂。結晶片岩・微細雲母多量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい赤褐2.5Y R5/4 ③ややよし	キャットピク文を「J」字状施文、区画内ベン先状刺突文。	IV群
G-9配-7 第63図 P.L.68	深鉢	口一胴部3/4 口9.6 底一 高(13.6)	G区9配石 覆土	①粗砂。輝石・白色粒子・赤褐色粒子やや多く含む。 ②明赤褐2.5Y R5/8 ③良好	口縁部に横位把手2単位貼付。口縁下に横位隆帯2条。胴部に沈線による渦巻文・弧線・直線文、渦巻文の上に縦位線3条施文。地文はL.R縄文縦位施文。	V群 内面及び外面口縁部黒変
G-9配-8 第63図 P.L.69	深鉢	口縁一底2/3 口一 底7.4 高(17.3)	G区9配石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒子・輝石少量 ②橙5Y R6/8 ③ややよし	頸部に横位2条沈線施文。胴部は縦位3条沈線により4単位分割。底部はわずかに上底。地文は糸間があくR.L縄文縦位施文。	V群 外面周上部及び内面黒変

第5表 配石遺構出土土器観察表①①

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-9配 -9 第64図 P.L.69	深鉢	口~胴上1/2 口37.4 底一 底一 高(22.1)	G区9配石 覆土	①中砂。赤褐色粒多量、輝石・石英・白色粒少量 ②にぶい楕5Y R6/4 ③良好	口縁部に渦巻文と横位楕円区画文、胴部は2条沈線より分割、L R縦文縦位充填後波状沈線懸垂。頸部に幅広い無文部を設ける場所あり。	V群 内面口縁を除き淡く黒変
G-9配 -10 第64図 P.L.69	深鉢	口縁片 口一 底一 底一 高(7.7)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・石英多量、赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R5/3 ③やや良し	口唇部に渦巻文と横位楕円区画文、R L縦文充満。	V群
G-9配 -11 第64図 P.L.69	深鉢	口縁片 口一 底一 底一 高(6.0)	G区9配石 覆土	①中砂。石英・白色粒多量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/3 ③良好	口縁やや内湾。3cm下に横位微隆線、斜位微隆線。L R縦文充満。	V群 内面窪付着黒変 外面黒変
G-9配 -12 第64図 P.L.69	深鉢	口縁片 口一 底一 底一 高(7.6)	G区9配石 覆土	①中砂。石英・白色粒多量、雲母・チャート・輝石少量 ②灰黄褐色10Y R5/2 ③良好	口唇部肥厚。口縁やや内湾。横位楕円区画内0段多条R L縦文横位充満。	V群
G-9配 -13 第64図 P.L.69	深鉢	口縁片 口一 底一 底一 高(4.2)	G区9配石 覆土	①中砂。赤褐色粒子極多量、輝石・白色粒子少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③不良	波状口縁。口縁下に刺突文が2列沿う。波状突出部下に双文施文。	V群 外面黒変
G-9配 -14 第64図 P.L.69	深鉢	胴部片 口一 底一 底一 高(5.8)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒子多量、輝石・赤褐色粒子・石英少量 ②明赤褐色5Y R5/6 ③やや良し	「U」「n」字状沈線文、R L縦文充満。	V群 内面黒変
G-9配 -15 第64図 P.L.69	深鉢	口縁片 口一 底一 底一 高(5.9)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒子多量、石英・輝石・赤褐色粒少量 ②明黄褐色10Y R7/6 ③やや悪い	口縁下に横位微隆線貼付。両脇に幅広い横位沈線が沿う。その下にR L縦文横位施文。	V群 外面黒変
G-9配 -16 第64図 P.L.69	深鉢	胴部片 口一 底一 底一 高(6.4)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・赤褐色粒・石英少量 ②にぶい楕7.5Y R6/4 ③良好	横位沈線及び「Γ」状沈線、渦巻沈線文、R L縦文縦位充満。	V群 内面一部黒変
G-9配 -17 第64図 P.L.69	深鉢	胴部片 口一 底一 底一 高(6.4)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒子・石英・輝石少量 ②にぶい楕5Y R6/4 ③やや良し	「U」字状沈線間に煎手状沈線? R L縦文充満。	V群 外面窪付着
G-9配 -18 第65図 P.L.69	深鉢	口縁片 口一 底一 底一 高(6.6)	G区9配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・白色粒・輝石・植物繊維少量 ②淡黄褐色7.5Y R8/4 ③やや良し	口唇部突起貼付。沈線と低隆帯による渦巻文、R L縦文充満。	V群
G-9配 -19 第65図 P.L.69	深鉢	口縁片 口一 底一 底一 高(4.2)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒子・輝石・石英多量、赤褐色粒少量 ②明赤褐色5Y R5/6 ③やや悪い	沈線と低隆帯による横位楕円文、中央に沈線。R L縦文充満。	V群
G-9配 -20 第65図 P.L.69	深鉢	口縁片 口一 底一 底一 高(7.1)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/4 ③やや良し	明瞭な沈線による「の」字状渦巻文。	V群 外面一部黒変
G-9配 -21 第65図 P.L.69	深鉢	口縁片 口一 底一 底一 高(6.9)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒・石英・輝石少量 ②にぶい楕7.5Y R5/4 ③やや悪い	薄手。波状口縁。頂部下に低隆帯と沈線による「逆」の字状渦巻文、R L縦文縦位施文。	V群 外面淡く黒変
G-9配 -22 第65図 P.L.70	深鉢	口縁片 口一 底一 底一 高(7.1)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい楕7.5Y R6/4 ③やや良し	比較的薄手。隆帯による「C」字状区画文と「の」字状渦巻文。R L縦文充満。頸部無文帯あり。	V群 外面一部黒変
G-9配 -23 第65図 P.L.70	深鉢	口縁片 口一 底一 底一 高(5.7)	G区9配石 覆土	①粗砂。白色粒・輝石多量、石英・赤褐色粒少量 ②にぶい楕7.5Y R6/4 ③やや悪い	口縁やや内湾。渦巻文、横位楕円文、R L縦文充満。	V群 外面淡く黒変
G-9配 -24 第65図 P.L.70	深鉢	口縁片 口一 底一 底一 高(9.7)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒子・輝石・赤褐色粒子・石英少量 ②楕7.5Y R7/6 ③やや良し	「C」字状区画文又は渦巻文、L R縦文施文。	V群

第2節 縄文時代

第5表 配石遺構出土土器観察表(1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①粘土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
G-9配 -25 第65図 P.L.70	深鉢	胴部片 口— 底— 高(4.4)	G区9配石 覆土	①粗砂。結晶片岩・微細霞母 多量・石英・輝石少量 ②にふい燻7.5Y R6/3 ③やや悪い	比較的薄手。幅2cm6本棒状工具による縦位弧状沈線。	V群
G-9配 -26 第65図 P.L.70	深鉢	口縁片 口— 底— 高(13.4)	G区9配石 覆土	①中砂。石英・白色粒・輝石 少量 ②灰黄褐10Y R4/2 ③ややよし	口縁部やや内湾。口縁部横位磨き。口縁より3cm下に横位微隆帯。縦位2条縦沈線により胴部分割。R.L縄文縦位充満。	V群 内外面煤付着 (黒変)
G-9配 -27 第65図 P.L.70	深鉢	胴部片 口— 底— 高(15.1)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・赤褐色 色粒・輝石少量 ②にふい黄褐10Y R7/3 ③やや悪い	胴部縦位2条微隆線により分割。R.L縄文縦位充満。	V群 内面黒変 外面胴下半赤変
G-9配 -28 第65図 P.L.70	深鉢	胴部片 口— 底— 高(9.2)	G区9配石 覆土	①中砂。石英・長石・白色粒 ・輝石・赤褐色粒少量 ②燻5Y R6/6 ③ややよし	縦位細沈線で分割。R.L縄文斜め縦位充満。	V群 外面赤変
G-9配 -29 第65図 P.L.70	深鉢	胴部片 口— 底— 高(13.9)	G区9配石 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒 少量 ②燻7.5Y R6/6 ③ややよし	縦位3条沈線により胴部分割。R.L縄文縦位充満。	V群 内面上部赤変
G-9配 -30 第65図 P.L.70	深鉢	底部片 口— 底8.0 高(4.5)	G区9配石 覆土	①中砂。輝石・白色粒・石英 多量 ②にふい黄褐10Y R7/4 ③ややよし	縦位2〜3条沈線により8単位分割。R.L縄文充満後磨き。内面撫で	V群 外面煤付着黒変
G-9配 -31 第65図 P.L.70	浅鉢	底部片 口— 底(10.0) 高(3.3)	G区9配石 覆土	①粗砂。赤褐色粒多量、白色 粒・輝石・石英少量 ②にふい燻7.5Y R6/4 ③良好	外面底はややザラつく。それ以外はよく研磨。	V群 外面一部黒変
G-9配 -32 第66図 P.L.70	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.0)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒極多量、輝石 ・石英少量 ②灰黄褐10Y R6/2 ③ややよし	横位沈線間によつて1cm位の棒状工具による円形刺突文2列充満。	V群
G-9配 -33 第66図 P.L.70	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.8)	G区9配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・白色粒・ 石英・輝石少量 ②にふい黄褐10Y R5/3 ③良好	縦位2条以上の沈線により胴部分割。R.L縄文充満。	V群 外面煤付着(黒変)
G-9配 -34 第66図 P.L.70	深鉢	胴部片 口— 底— 高(9.0)	G区9配石 覆土	①粗砂。白色粒・輝石多量、 赤褐色粒子・石英少量 ②燻7.5Y R6/6 ③やや悪い	縦位3条1単位沈線により胴部分割。R.L縄文充満。	V群 内外面一部黒変
G-9配 -35 第66図 P.L.70	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.6)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③ややよし	口縁部横位磨き。口縁から3cm下に横位微隆帯貼付。幅1.6cm8本棒状工具による斜行沈線文。	V群 外面一部黒変
G-9配 -36 第66図 P.L.71	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.2)	G区9配石 覆土	①中砂。石英・白色粒多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③悪い	口縁横位磨き。下に小突起貼付。その下に双弧文? R.L縄文充満。	V群 外面黒変
G-9配 -37 第66図 P.L.71	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.8)	G区9配石 覆土	①中砂。石英・白色粒多量、 赤褐色粒・輝石少量 ②にふい燻7.5Y R6/4 ③良好	内湾口縁。「日」字状沈線文。L.R縄文口縁のみ横位。他は縦位施文。	V群 外面黒変
G-9配 -38 第66図 P.L.71	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.2)	G区9配石 覆土	①中砂。赤褐色粒・白色粒・ 石英・輝石少量 ②燻5Y R6/6 ③ややよし	幅1.4cm8本棒状工具による弧線文。	V群 外面黒変
G-9配 -39 第66図 P.L.71	深鉢	口縁片 口— 底— 高(11.2)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②燻5Y R6/6 ③やや不良	口縁下に横位沈線。幅1.5cm6本棒状工具による縦位沈線施文。	V群 外面炭化物付着 (黒変)
G-9配 -40 第66図 P.L.71	深鉢	口縁部1/4 口(25.2) 底— 高(12.3)	G区9配石 覆土	①中砂。白色粒・石英・輝石 少量 ②灰黄褐10Y R6/2 ③ややよし	縦位波状。内湾口縁。口縁以上に沈線。頂部下に両側状沈線文。L.R縄文充満。	V群 外面煤付着黒変

第5表 配石遺構出土土器観察表(1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-9配 -41 第66回 P.L.71	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.8)	G区9配石 覆土	①細砂、白色粒・石英・輝石 少量 ②にぶい橙10Y R7/4 ③やや良し	縦位穴線により分割、握手状沈線施文。 R.L.縄文充填。	V群 外面赤変 内面黒変
G-9配 -42 第66回 P.L.71	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.2)	G区9配石 覆土	①中砂、石英・白色粒多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③やや良し	器形は内彎する。R.L.縄文縦位施文後、 縦位波状沈線施文。	V群
G-9配 -43 第66回 P.L.71	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.8)	G区9配石 覆土	①中砂、白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや悪い	波状口縁、突起下面口縁から2cm下に 微隆線貼付。細沈線による弧線文及び 三角形文。L.R.縄文充填。	V群 内外面付着 (黒変)
G-9配 -44 第66回 P.L.71	深鉢	口縁片 口一 底一 高(11.6)	G区9配石 覆土	①中砂、白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②明黄褐10Y R7/6 ③やや悪い	口唇部浅沈線、内彎口縁。弧状又は渦 巻状2重隆帯貼付。R.L.縄文充填。	V群
G-9配 -45 第66回 P.L.71	深鉢	胴部片 口一 底一 高(10.4)	G区9配石 覆土	①中砂、4mm級、白色粒・輝 石・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	薄手。「」字状褐色及び縦位沈線文。 内外面ともよく研磨。沈線間の低隆帯 上に赤色塗彩残る。	V群 赤色塗彩
G-9配 -46 第66回 P.L.71	深鉢	底部片 口一 底一 高6.6 高(3.3)	G区9配石 覆土	①中砂、石英・白色粒多量、 赤褐色粒・輝石少量 ②橙2.5Y R6/8 ③やや良し	外面磨き。底部上底。内面撫で。	V群
G-9配 -47 第66回 P.L.71	瓢形 土器	胴下～底1/2 口一 底5.4 高(3.3)	G区9配石 覆土	①細砂、石英・白色粒・輝石 少量 ②灰褐7.5Y R4/2 ③良好(硬質)	内外面よく研磨。	V群 赤色塗彩?

第3項 列石遺構

本遺跡から礫を帯状に連ねた列石遺構は2基検出した。

1号列石 (第68・69図、P.L9)

Gi-48・49グリッドに位置する。西接して2号列石がある。確認面は角礫・亜角礫混黒褐色土面である。東側に泥流丘があり、75cm×50cm×35cmの礫を等高線に沿うように5.45mにわたり帯状に構築される。遺物は列石に伴うか不明であるが、隙間に3個の土器片が出土した。

2号列石 (第68図、P.L9)

Gi-47グリッドに位置する。東接して1号列石、西接して6号集石がある。確認面は角礫・亜角礫混黒褐色土面である。25cm×15cm×12cmの礫を傾斜地を囲むように1.85mにわたり弧状を呈する。西側は6号集石の縁石に連なるものとみられる。6号集石は列石遺構を利用し構築したものと考えられる。遺物の出土はない。

第6表 集石遺構一覧表

番号	位置 グリッド	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	断面形	時代	備考
1	Gf-45	円形	径 189	19	2	E III	
2	Gh-46	円形	径 98	24	1	E III	
4	Gh-i-45	(全体)	237X79.5			E IV	
4A		楕円形		24			
4B		(A+B-C)	89	32			
4C		円形	59.5	26			
5	Gh-i-46	楕円形		39	z'	E III	
6	Gi-47	円形	径 162	27		E III	
8	Gi-46-47	円形	径 150	11		E III	
9	Gm-o-52	円形	径 160	18		E III	

番号	位置 グリッド	平面形	規模 (cm)	深さ (cm)	断面形	時代	備考
10A	Gp-47-48	円形	径 90	21		E III	
10B			径 111	22		E III	
11	Gn-48-49	円形	径 71	18		E III	
12	Gn-48-49	円形	径 89	16		E III	
13	Gm-49	円形	径 71	19		E III	
14	Gi-49	円形	径 59	21		E III	
16	Go-p-48	円形	径 100	16		E III	
17	Go-o-48	円形	径 65	-		E III	
18	Gn-49	円形	径 40	-		E III	

第7表 配石遺構一覧表

番号	位置 グリッド	平面形	直径 (cm)	時代	備考
1	Gf-46 g-45-46	円形	461	E IV	
2	Gg-h-45	円形	325	E IV	
3	Gp-48	円形	420	E IV	
5	Gm-o-52 n-51-52	円形	801	E IV	

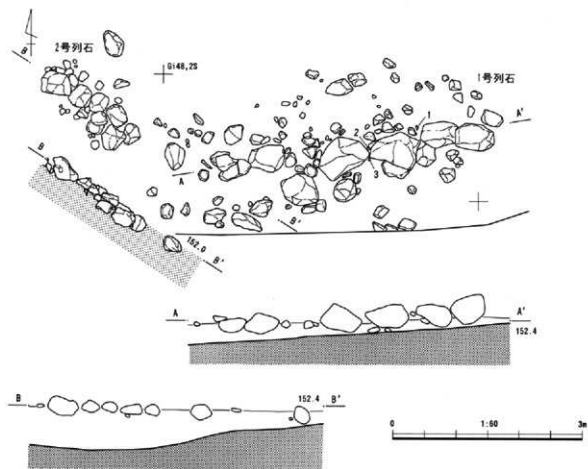
番号	位置 グリッド	平面形	直径 (cm)	時代	備考
6	Gg-46 h-46-47	円形	406	E IV	
7	Gh-45-46	円形	257	E IV	
9	Gg-h-i- 45-46-47	円形	1,360	E III	
10	Gl-m-n- 48-49-50	円形	1,082	E III	

第8表 列石遺構一覧表

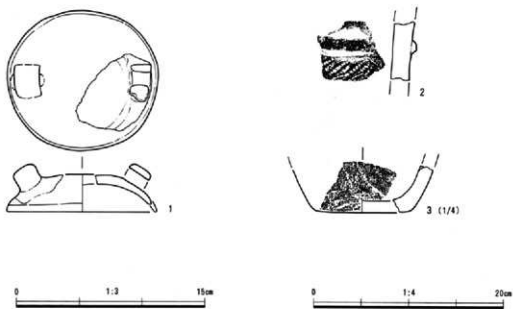
番号	位置 グリッド	長さ(m)	主軸方位	出土遺物	時代	備考
1	Gi-48-49	5.45	W-174.5°-N			
2	Gi-47	1.85	W-44.5°-N			

第9表 列石遺構出土土器類表

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
G-1列 -1 第69図 P.L71	蓋	1/4 □— 横— 高(2.9)	G区1列石 覆土	①中砂。赤褐色粒少量、輝石・石英・白色粒少量 ②にぶい濁7.5Y R5/4 ③やや良し	内外面研磨。かなり丸味を持つ。紐通し孔φ1cm。	V群
G-1列 -2 第69図 P.L71	深鉢	口辺部片 □— 底— 高(4.7)	G区1列石 覆土	①中砂。石英・白色粒少量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい濁10Y R7/4 ③やや悪い	横位縁部帯付、LR縄文施文。	V群
G-1列 -3 第69図 P.L71	深鉢	底部片 □— 底(5.2) 高(4.9)	G区1列石 覆土	①中砂。輝石・白色粒少量、赤褐色粒・石英少量 ②にぶい濁7.5Y R5/4 ③やや良し	割部撫で、底部磨き。	V群 外面一部帯付着



第68图 1号・2号列石实测图



第69图 1号列石出土土器实测图

第4項 土坑

本遺跡から検出した縄文時代と認定された土坑は3基である。分布は各調査地点にわたり、G区に1基、K区に1基、L区に1基である。

J1号土坑 (第70図、P.L13)

Gg-44グリッドに位置する。確認面はローム面である。県教委試掘時に確認された遺構である。周辺には配石遺構群が存在する。平面形は円形を呈し、規模は直径113cm、深さ44cmを測る。底面は丸底状を呈し、壁面は垂直気味に立ち上がる。壁面にはローム層中の礫が突出していた。出土遺物はない。

J2号土坑 (第70・147図、P.L13)

K1-78グリッドに位置する。周辺には縄文時代

の遺構はない。北壁際試掘により確認された。平面形は南北にやや長い楕円形を呈し、底面は平坦で、壁面は斜めに立ち上がる。遺物は石皿が土坑中位に出土した。

J3号土坑 (第70・71図、P.L13)

Lc-78・79グリッドに位置する。141号住居跡床面下に検出した。平面形は円形を呈し、規模は直径170cm、深さ109.5cmを測る。底面は平坦で、壁面は垂直気味に立ち上がる。遺物は底面に2個体の完形土器が出土した。中央部の深鉢土器は正位に置かれていたものが圧力により割れたように出土した。胴部に1孔を穿つ土器である。南壁際の橋状把手を有する鉢形土器半分が横位に出土した。

出土土器は加曾利EIV式期である。

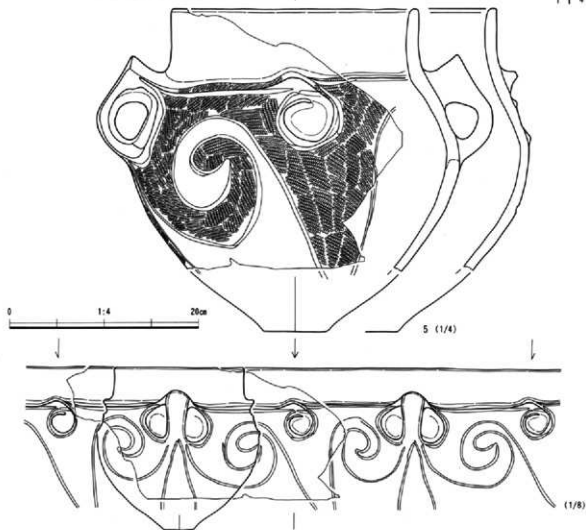
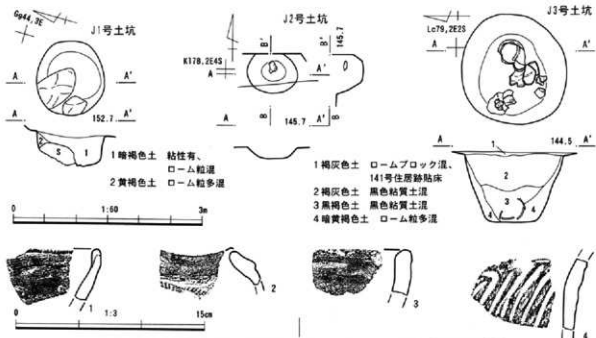
第10表 縄文時代土坑一覧表

番号	位置グリッド	規模 (cm)		平面形	深さ (cm)	断面形	出土遺物	時代	備考
		南北	東西						
1	Gg-44	108	118	円形	44	1			
2	K1-78	(61.5)	77	楕円形	44	1			
3	Lc-78-79	166	173.5	円形	109.5	1		EIV	

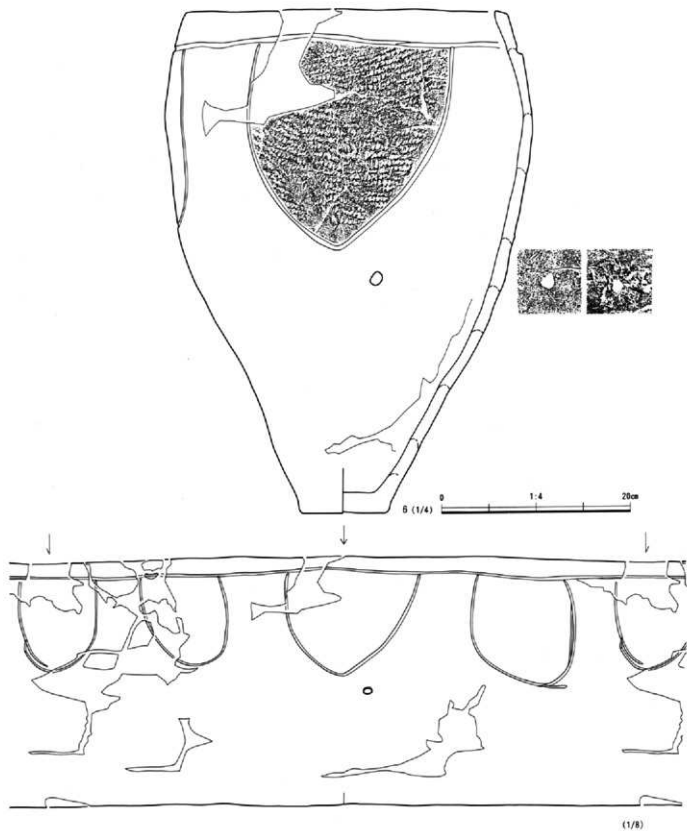
第11表 J3号土坑出土土器調査表

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
J3土坑 -1 第70図 P.L72	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.0)	J3土坑 覆土	①中砂。白色粒・輝石・赤褐色粒・石英少量 ②浅黄緑10Y R8/4 ③良好	内面～口唇部横位施文。体部磨き。	V群 内面黒斑
J3土坑 -2 第70図 P.L72	深鉢	口縁片 口一 底一 高(2.5)	J3土坑 覆土	①中砂。輝石・石英・白色粒・チャート少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好(硬質)	内彎、波状口縁。内面横位施文。口唇部～口縁磨き、弧状沈線文。L.R縄文施文。	V群
J3土坑 -3 第70図 P.L72	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.6)	J3土坑 覆土	①細砂。石英・輝石・赤褐色粒・白色粒少量 ②にぶ黄緑10Y R7/4 ③ややよし	内外面横位磨き。	V群 内外面黒斑
J3土坑 -4 第70図 P.L72	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.6)	J3土坑 覆土	①中砂。チャート・輝石・石英・白色粒少量 ②にぶ黄緑7.5Y R7/4 ③良好	横位沈線区画内に幅1.0cm半縦竹管による斜行沈線文充填。地文はL.R縄文横位施文。	V群 外面黒変あり
J3土坑 -5 第70図 P.L72	浅鉢	口縁～体部 1/2 口(26.6) 底一 高(27.2)	J3土坑 覆土	①中砂。石英・輝石・赤褐色粒多量、白色粒少量 ②橙5Y R6/8 ③良好	口縁磨き。胴部に橋状把手2単位貼付。胴に突起及び逆の「J」字状渦巻文貼付。両脇に沈線施文。把手の左右に逆の「J」字状渦巻文と「の」字状渦巻文が交互に施文。L.R縄文充填。	V群 外面胴部炭化物付着一部黒変
J3土坑 -6 第71図 P.L72	深鉢	ほぼ完形 口34.2 底9.6 高52.8	J3土坑 覆土	①中砂。φ7mm礫白色粒子・輝石多量 ②にぶ黄緑10Y R6/4 ③やや悪い	口縁下に横位沈線。その部分から下に「U」字状区画文、その中に粗いL.R縄文充填。胴部ほどに外面からの打撃によるφ1.5cmの孔あり。	V群 外面黒・赤変あり、胴部対峙する部分に黒斑。内面上半黒変、下半磨面粗れ

土坑



第70図 J1号・2号・3号土坑実測図・J3号土坑出土土器実測図



第71圖 J 3号土坑出土土器実測図

第5項 遺構外出土土器・土製品

G区グリッド出土土器

(第73～97図、P.L14・73～93)

遺跡全体のほとんどの土器がG区から出土したものであった。集石・配石遺構も全てG区にあり、そうした関係からも土器に限らず石器もG区のものほとんどである。ここにはIII群(前期後半)～VI群(後・晩期)までの土器があるが、そのほとんどをV群(中期後半)土器が占める。III群土器は小形破片からかなり大形で復原実測すると完形品に近い状態になるものまである。牛頭川左岸の台地上の沼南遺跡ではI群(早期燃糸文)土器が残されていたが、右岸の本遺跡ではIII群土器がこの場所に残された最初の段階のものと考えられる。III群土器では大形破片には諸磯式期の深鉢(g47-2)や浅鉢(i48-1、149-11)があり、小破片まで含めるとa、b、cの各段階のものがある。

IV群土器は中期前葉の五領ヶ台式土器と中葉の勝板式・阿玉台式土器に大別される。五領ヶ台式土器にはあまり大形の破片はないが、勝板式土器にはh45-17のように比較的大形の破片もあった。この土器は胴部のキャピラ文の曲陰帯やペン先状刺突文と胴下部の三角区画文の特徴的な深鉢である。

主体を占めるV群土器は何段階かに分けることができる。

第1段階 器形はキャリバー形であり、横位隆帯により口縁部文様帯と頸部無文帯、胴部文様帯に明瞭に区分するものである(150-2、h46-2・27)。この段階の口縁部文様帯は高い明瞭な隆帯によって区画される。地文には燃糸文と縄文がある。集石・配石遺構以前のものと考えられる。

第2段階 器形はキャリバー形を呈するものが主であるが、筒形を呈するものもある。h46-17は頸部に横位沈線を実施し胴部と区画するものであり、胴部も3条沈線により分割される。頸部には波状沈線が施され、下に胴部沈線を実施部分では渦巻きとなる。地文は縄文である。g45-3は口縁部の文様帯は高い隆帯により渦巻き文を施す点は第1段階のh46-2や

同27に類似するが、頸部に無文帯は存在するものの隆帯による区画は無い。胴部は縄文のみであり、沈線で何単位かに分割されることはない。口縁部文様帯に充填されるのは縦位沈線である。隆帯の付け方を見るとh46-2や同27に類似するが、隆帯の下端のみを捉えれば連弧文のように見えなくもない。第1段階のものよりも新しい要素を持ちながら、第2段階の他ものともやや違う要素を持つ個体であるといえる。

第3段階 器形はキャリバー形を呈し、口縁部がかなり内彎するものと底部から口縁部にかけてやや直線的に開くもの、口縁部に突起を有し、波状口縁となるもの(o50-1)がある。頸部無文帯は消滅し、口縁部文様帯と胴部文様帯は直接接合する。口縁部文様帯と胴部文様帯が明確に区分されるものとその区分が不明瞭なものがある。平縁と突起を有するものの大形品は集石・配石遺構からのものが多い。口縁部文様帯では隆帯による渦巻き文と横位楕円区画文が明確であり、胴部沈線間に磨削が入り、縄文は充填となる。後半では口縁部文様帯は沈線により区画されるものが増え、胴部の沈線による懸垂文も上端で「∩」字状に繋がるものも出てくる。

第4段階 器形はバラエティに富み、今までの深鉢に加え、鉢や両耳壺、蓋など様々なものが出現する。深鉢形土器ではキャリバー形の平縁もあるが、波状口縁となるものが増える。口縁部文様帯を区画するものは無くなる。口縁沿いに沈線や連続刺突文を施したり、口唇部を磨く程度である。口縁部文様帯が口縁部までせり上がるものが出てくる。沈線による「∩」字状文が連結する波状文であり、縄文充填後継手状沈線を実施するものもそうでないものがある。g45-1のように縦位2条微隆帯により胴部が何単位かに分割されるものもある。胴部文様帯が上下二段に分かれるものも多く認められ、沈線による渦巻き文と波状文が組み合わされるものと渦巻き文のみものがある。波状文の上端が「∩」字状文のように丸くならず百合花びらのように「八」状に尖るものがある。口縁部に沈線が1条巡るのみで縄文を施

すものがある。h48-2やg46-1のように上端が付いて一つの下向き弧線文となっており、その脇は三角区画文となる。

h45-4は瓢形を呈する小形の深鉢形土器であり、口縁下の横位微隆帯に紐ずれがある小さい孔が8個開く。文様も2条微隆帯による弧線文であり、内外面を赤色塗彩している点でも他のものと趣を異にする。蓋はグリッドからはi45-19の1点のみであるが、これは比較的浅い作りとなっており、紐通し孔は2単位もしくは4単位付くものと考えられる。h45-4の蓋はこうしたものではなく、6配石-37のように微隆帯で文様を付け、丁寧に磨いた上に赤色塗彩した作りのものと思われる。実際にはこの2点は径が合わないで別のものであるが、これに近いものがあったと考えられる。

VI群土器は注口土器の注口破片が2点出土している。いずれもその作りや焼きの状態からV群ではなくVI群と考えた。他にわずかに称名寺式の深鉢や加曾利B式と思われる土器片も出土した。

H・I区グリッド出土土器 (第99図、P L93)

H区ではIII群・V群・VI群土器が検出されたが、その点数は少なかった。晩期の壺形土器の口縁部と思われる破片もあった。

I区ではIV群～VI群土器が検出されたが、その点数は少なかった。木葉痕がある底部が1点あった。

J区グリッド出土土器

(第100・101・102図、P L 14・94・95・137・138)

III群～VI群土器が検出されたが、Jr-72からJs-72グリッドにかけて比較的多く、IV群とVI群土器が出土した。IV群とVI群の土器が多く、V群の土器は比較的少なかった。VI群中の称名寺式土器の口縁は同一個体の可能性もある。底部に網代痕のある破片も2点あった。

K区・L区・M区グリッド出土土器

(第103・105図、P L96)

K区ではIII群～VI群までの土器が検出された。V群がやや多いものの、III群からVI群まで数量的には比較的均等に出土した。周辺では比較的数の少ない

IV群の中には五領々台式土器の破片も含まれている。

L区ではV群とVI群土器がわずかに出土しただけであった。

M区ではIII群とVI群土器が検出されたが、V群土器はほとんど出土しなかった。底部に木葉痕のある底部も1点あった。

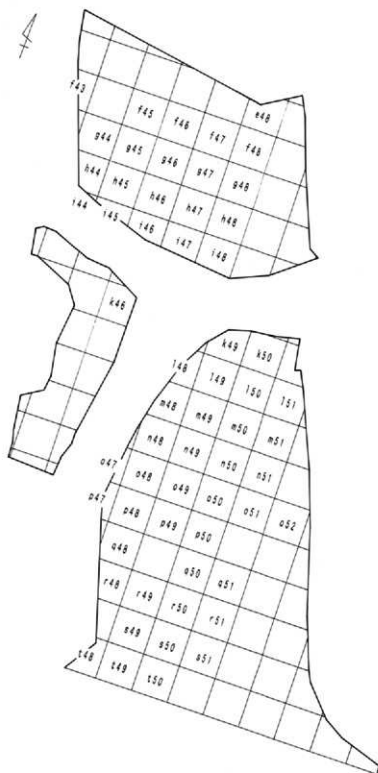
特殊土製品 (第106図、P L97)

現在、土製円板もしくは土製円盤と呼称されているものについては、本来土器片を打ち欠いたり、磨って円形に仕上げたものであり、土製品ではない。円形土器片と呼ぶべきであるという意見も前々からあり、筆者もその方が適切であると思われるが、本報告書の中では従来の「土製円板」を用いた。土製円板は14点出土したが、径2cm程の小形のものから径5.5cm程の大形のものまで様々であるが、小形のものが多い。ほとんどが完形品であるが、半分欠損しているものも1点ある。調整加工からは打ち欠きだけのものと打ち欠き後磨いたものに2分できる。この点については他の遺跡と同様である。なお、ターレット状の付着物のあるものは確認できなかった。

他に厚さ5cm以上もある土製品の破片が4点ある。完形品であればかなり大形になるものと思われるが、部分破片であるため全体の形は不明である。表面は指撫によって調整されている。胎土も焼きもおよそ他の縄文土器とはかけ離れており、縄文土器よりも奈良・平安時代の新しいものに近い。出土位置や検出状況から縄文時代のものとしたが、検討の余地はあるものと思われる。

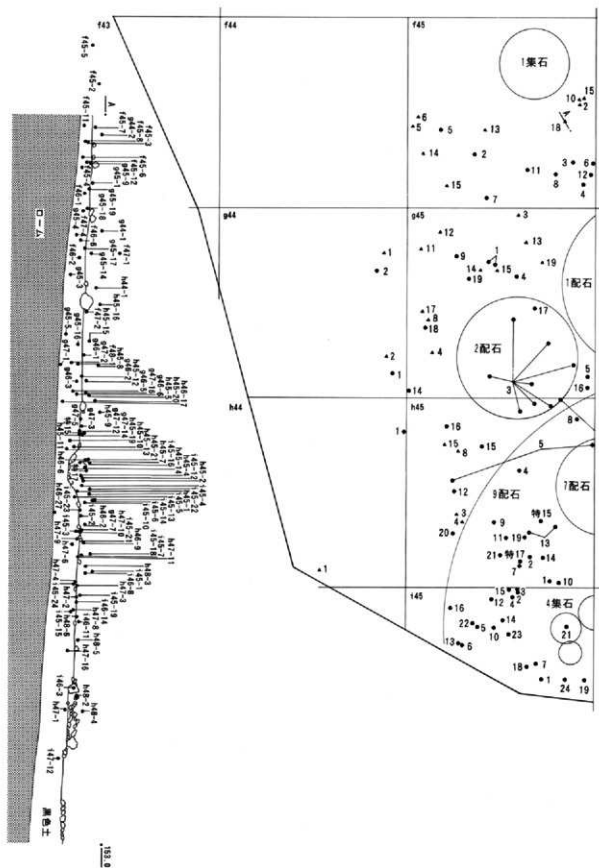
三角柱形土製品については県内でも出土例は少なく、三角の頂部が磨れていたり欠けているものが多い。本例も2頂部に連続する剝離痕が認められる。表面には指撫で痕が残る。下部1/3程が残存しているものと思われる。

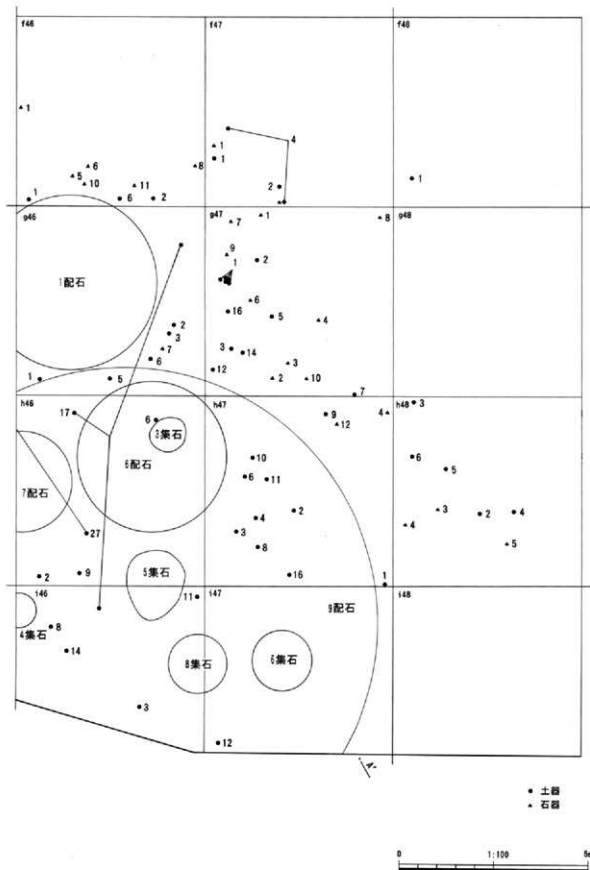
土製耳飾りについては1点が検出されたが、中期には比較的少ない環状を呈するものであった。中期に一般的な耳栓タイプのものはなかった。



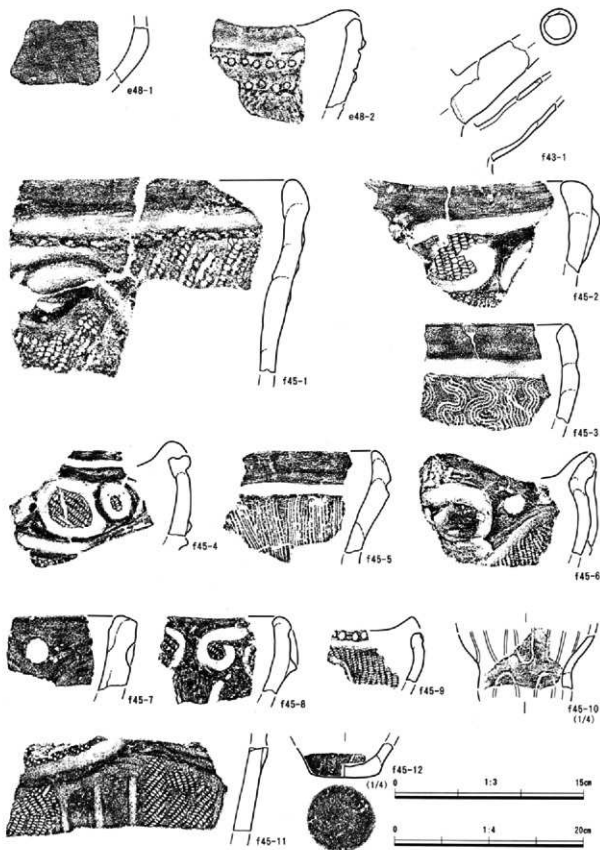
第72図 G区グリッド配置図



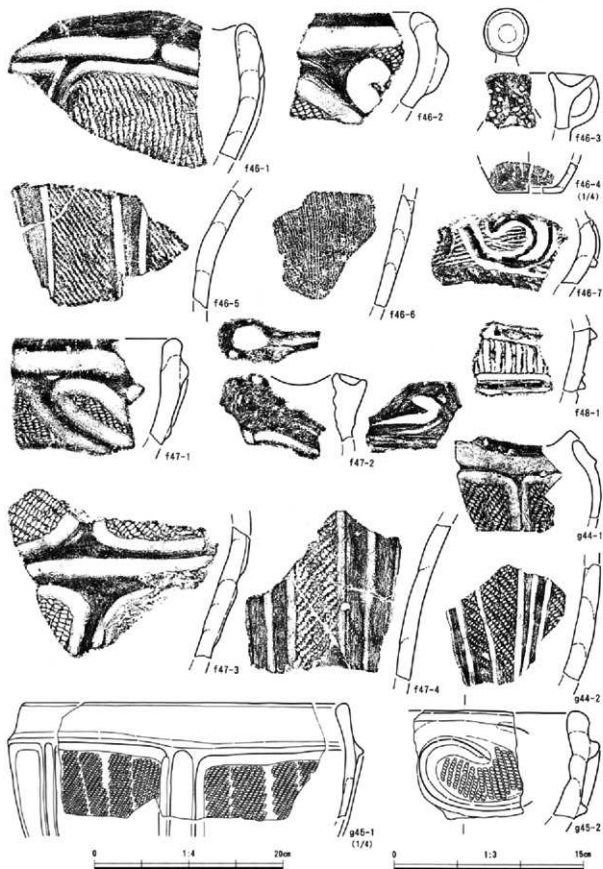




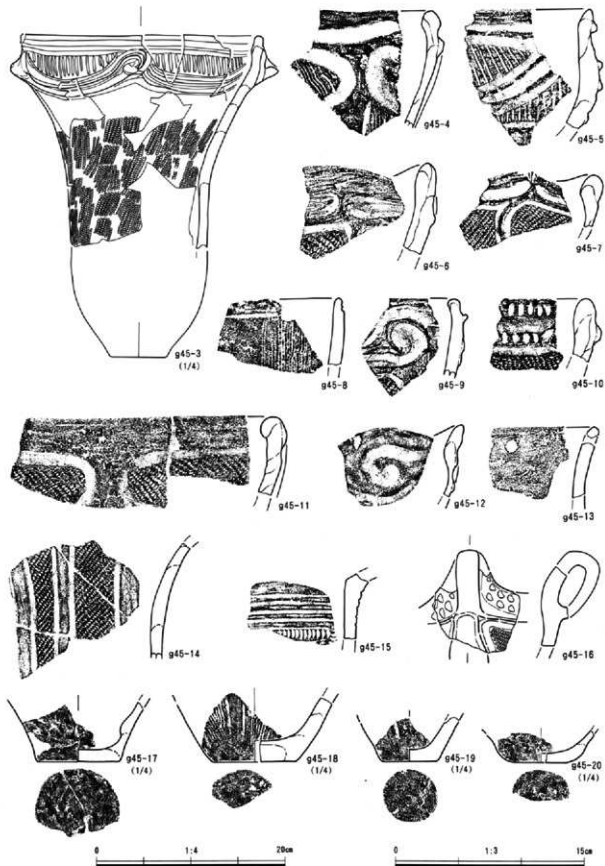
第73図 G区グリッド出土土器分布図(1)



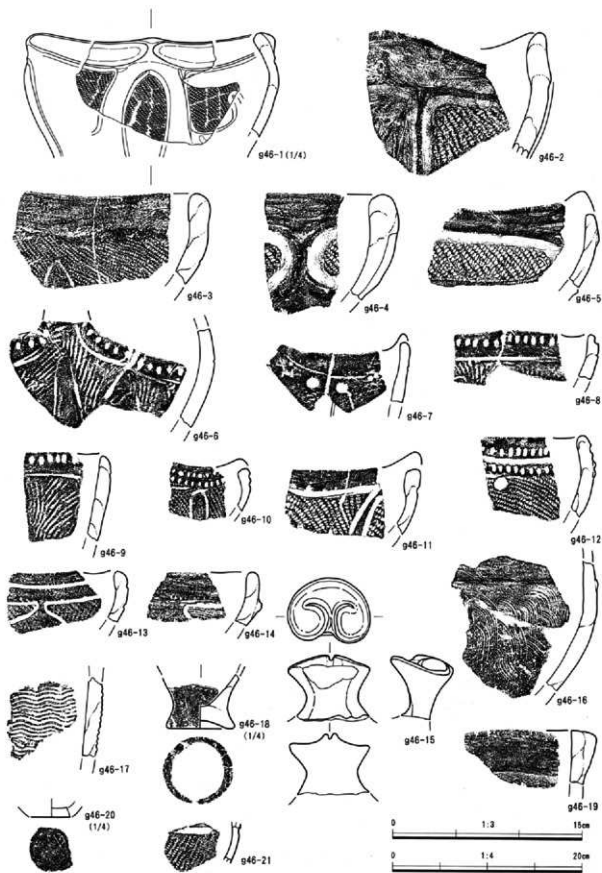
第74図 G区グリッド出土土器実測図(1)



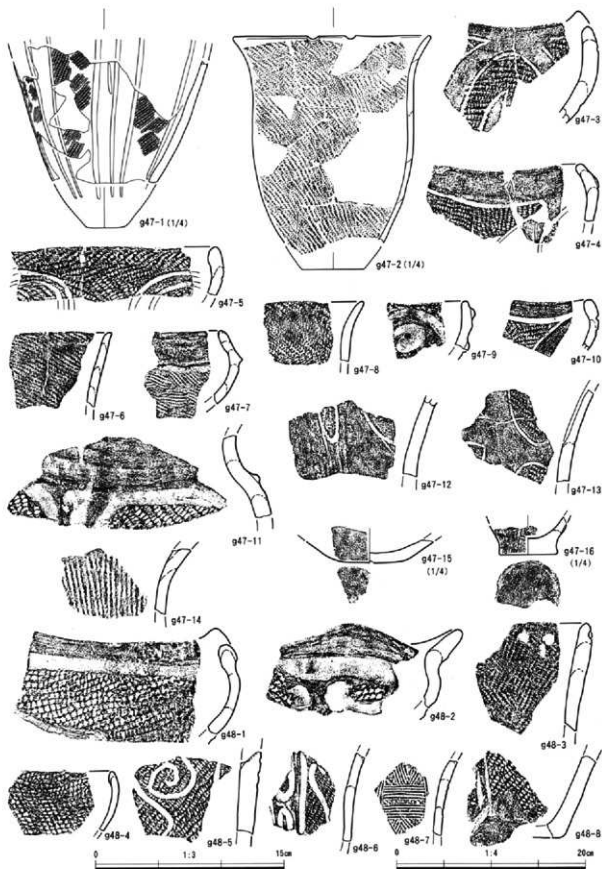
第75図 G区グリッド出土土器実測図(2)



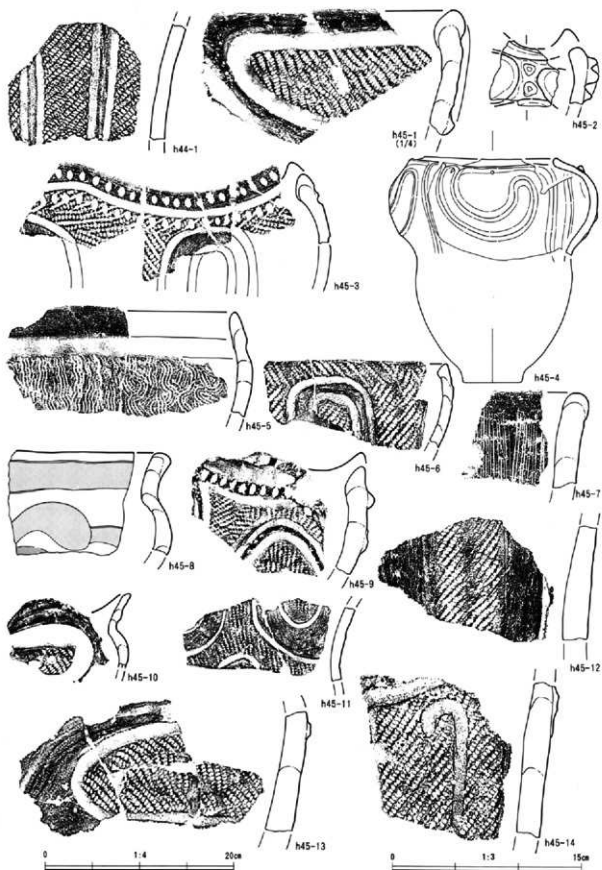
第76図 G区グリッド出土土器実測図(3)



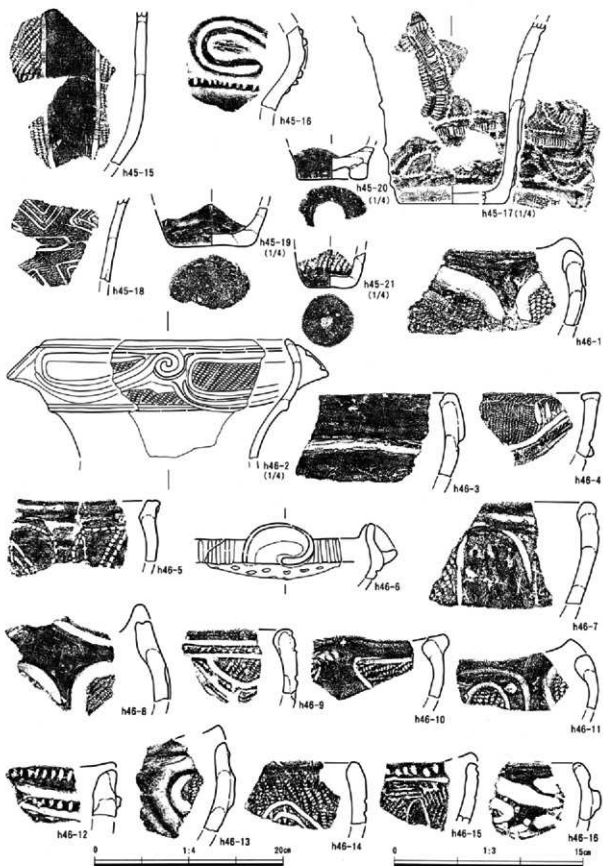
第77図 G区グリッド出土土器実測図(4)



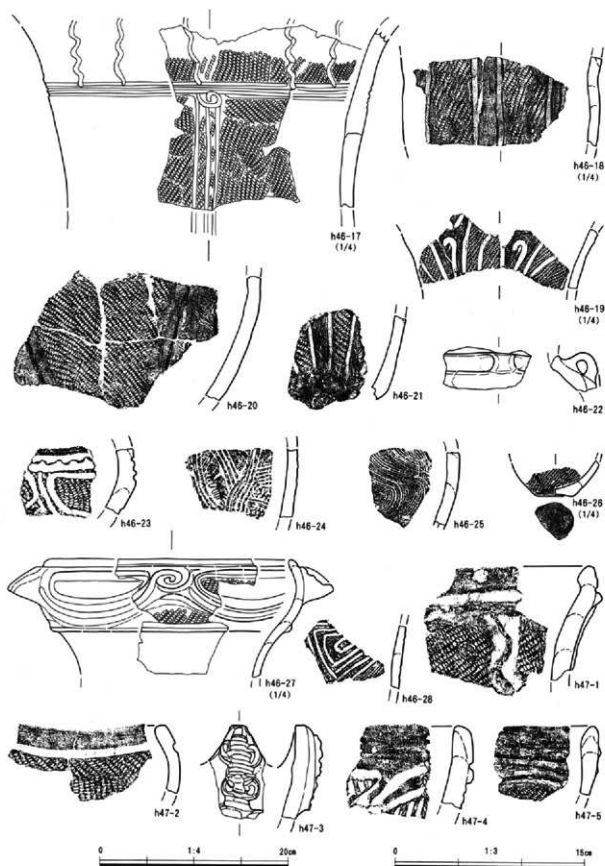
第78図 G区グリッド出土土器実測図(5)



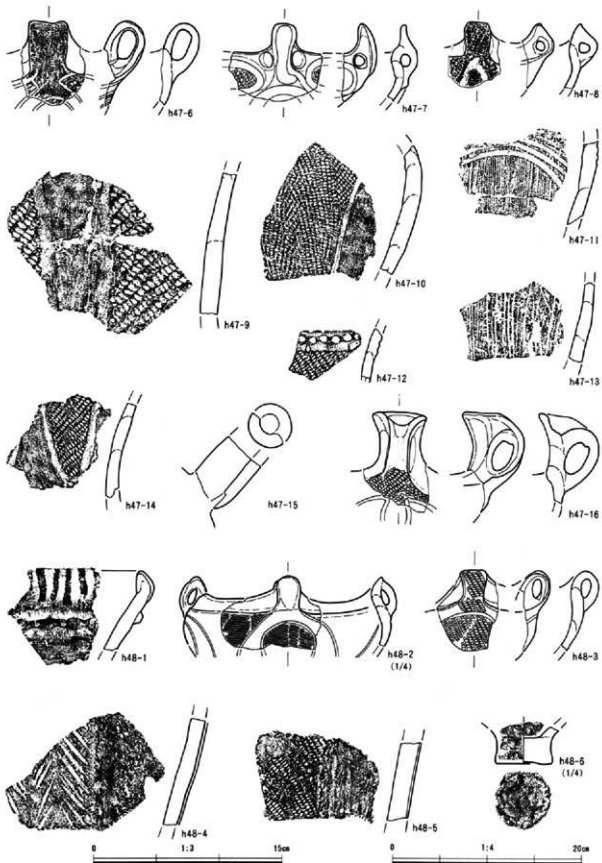
第79図 G区グリッド出土土器実測図(6)



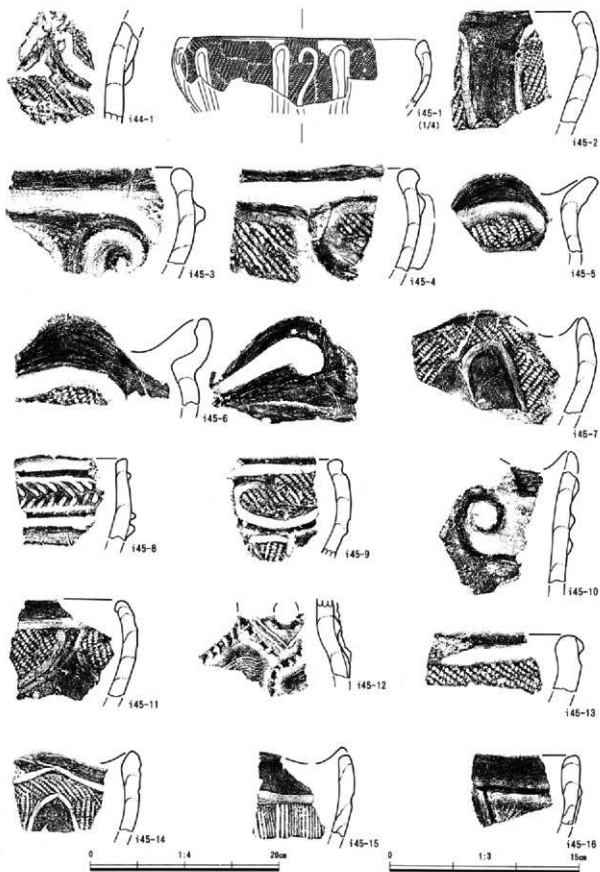
第80図 G区グリッド出土土器実測図(7)



第81図 G区グリッド出土土器実測図(8)

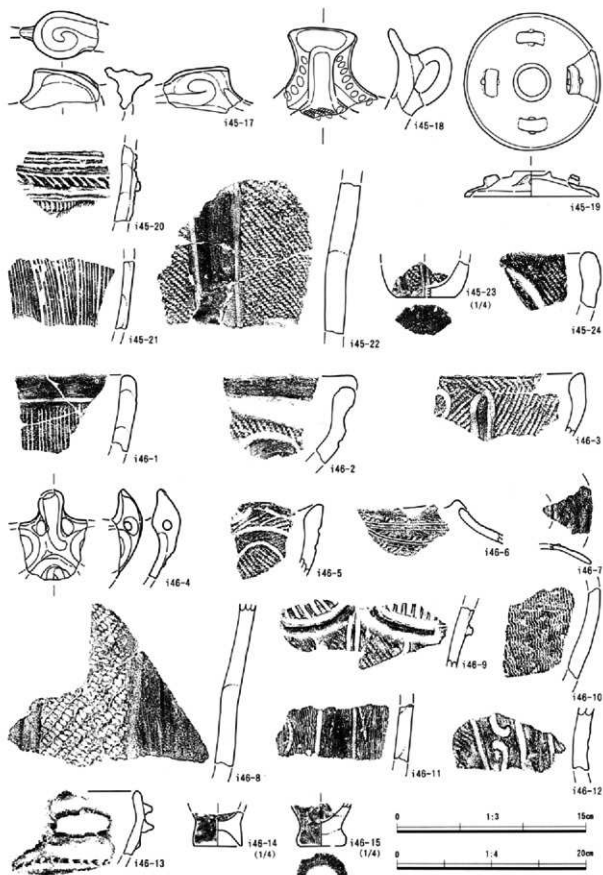


第82図 G区グリッド出土土器実測図(9)

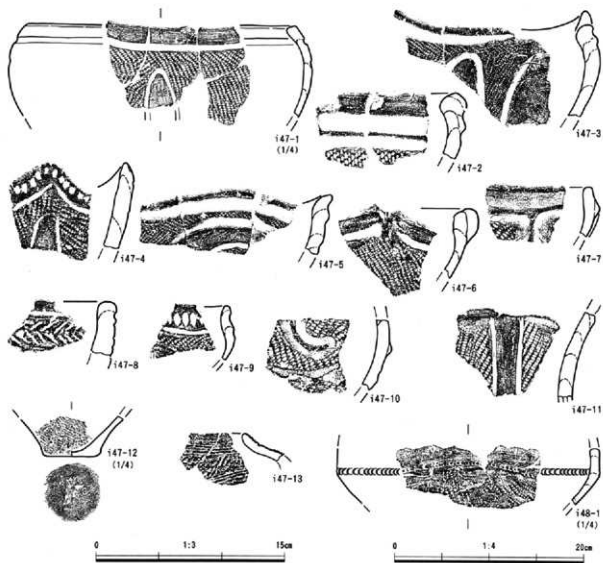


第83図 G区グリッド出土土器実測図(10)

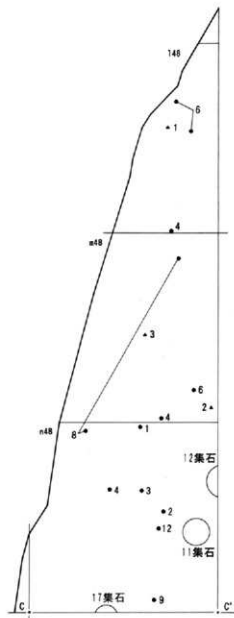
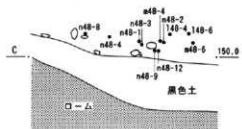
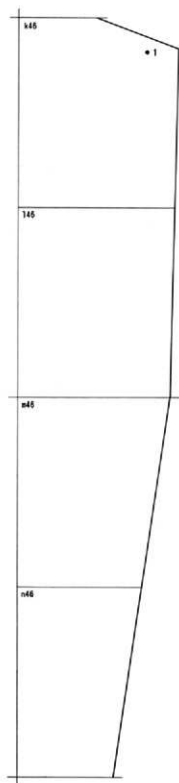
第2節 縄文時代

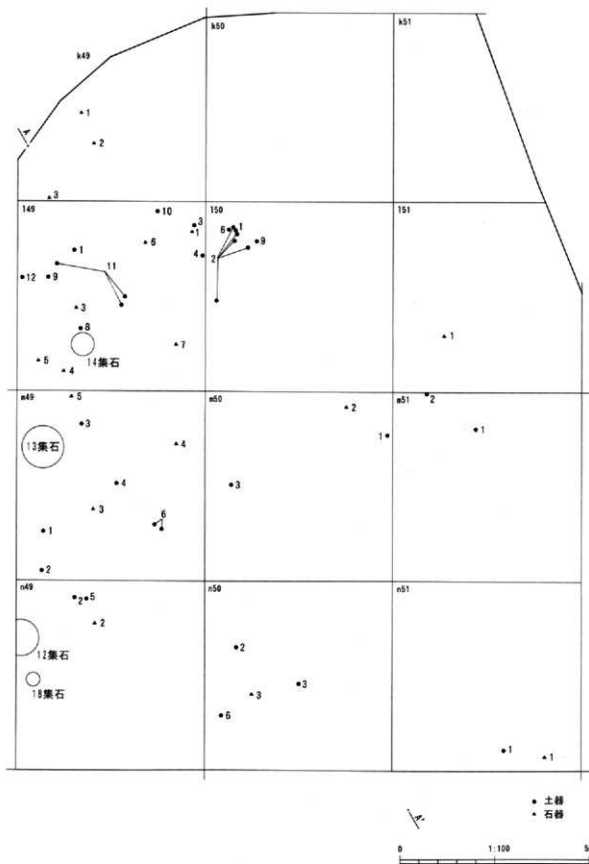


第84図 G区グリッド出土土器実測図(11)

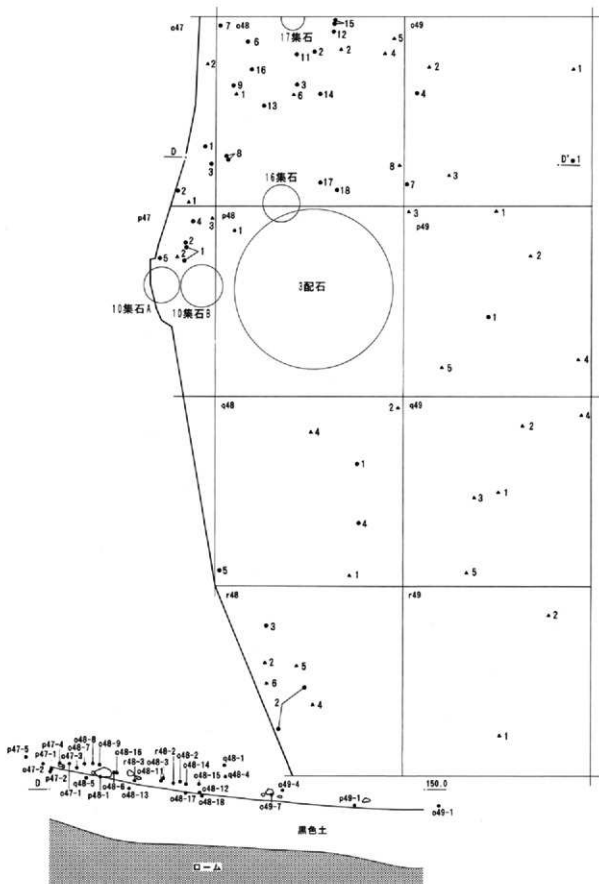


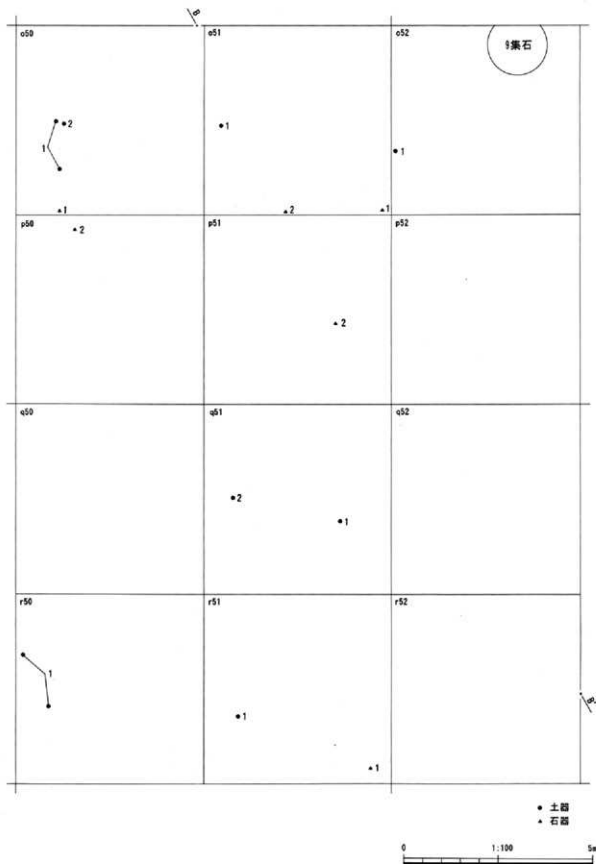
第85図 G区グリッド出土土器実測図(12)



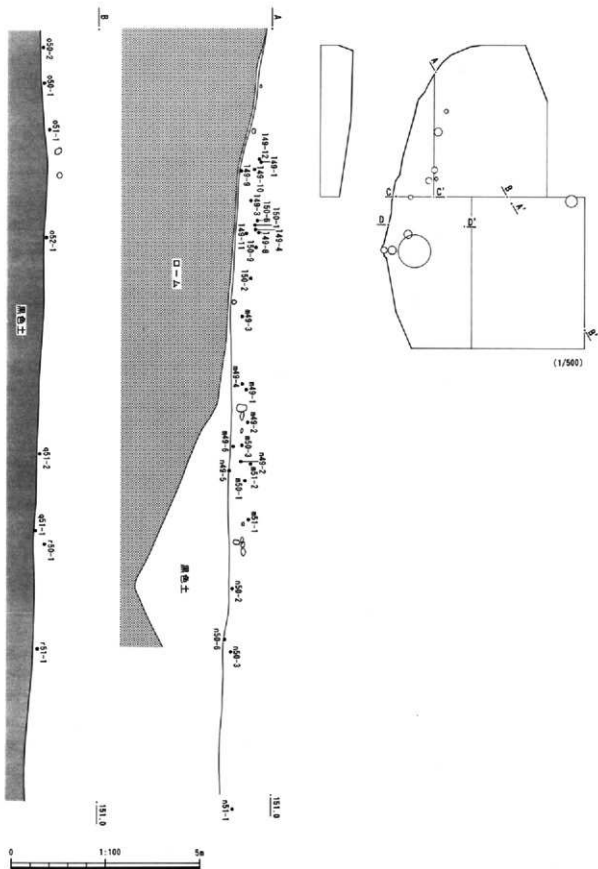


第06図 G区グリッド出土土器分布図(2)

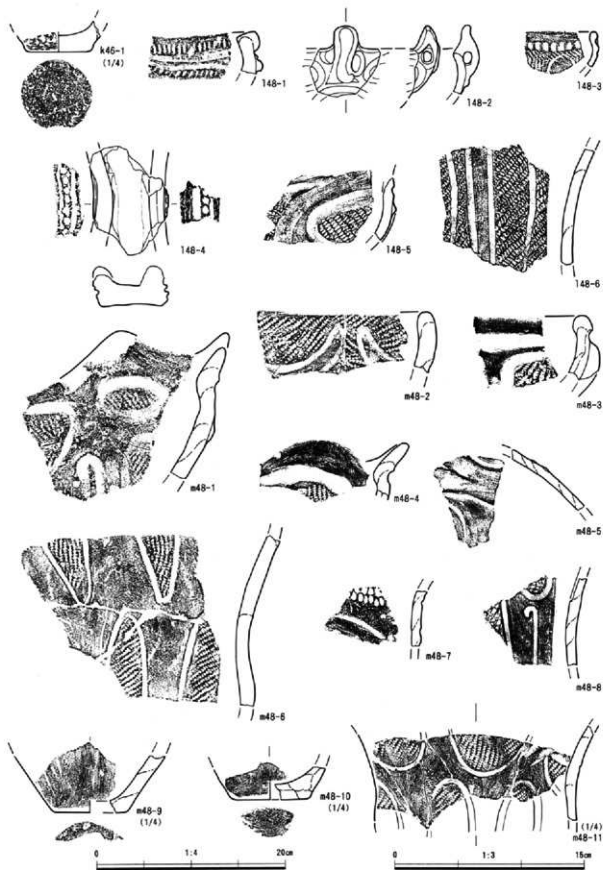




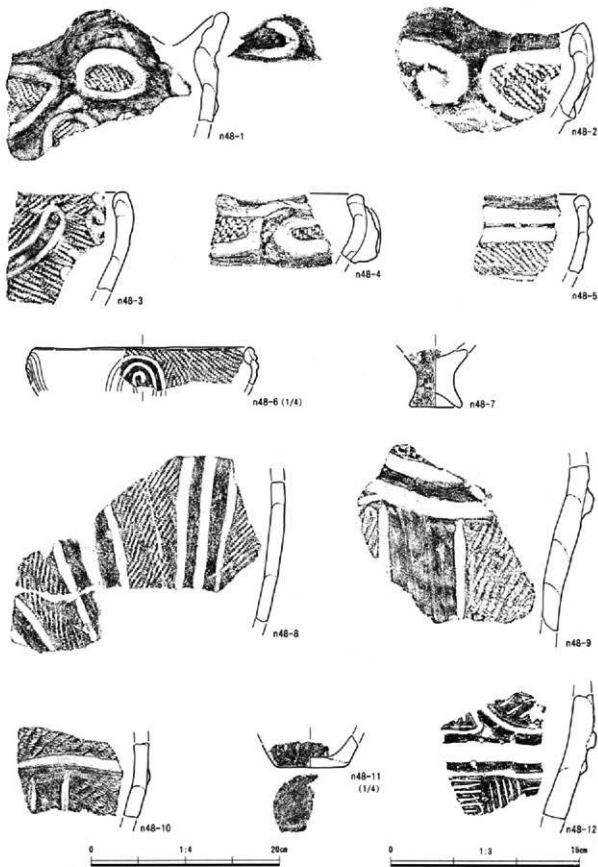
第87図 G区グリッド出土土器分布図(3)



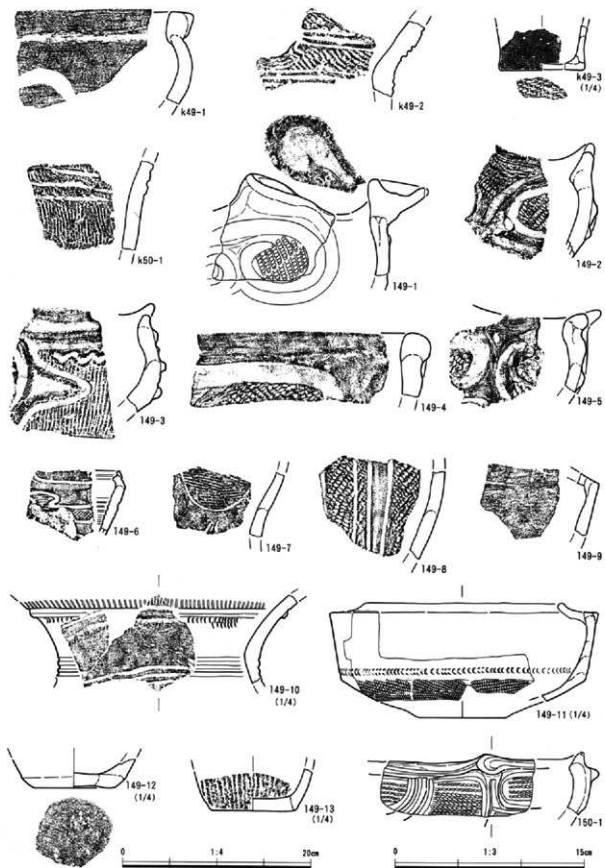
第80図 G区グリッド出土土器投影図



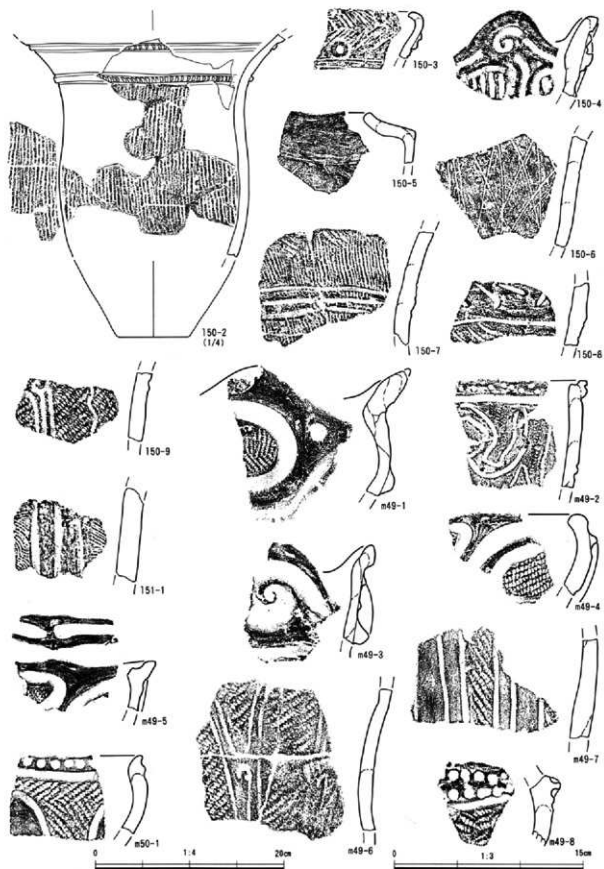
第89図 G区グリッド出土土器実測図 (13)



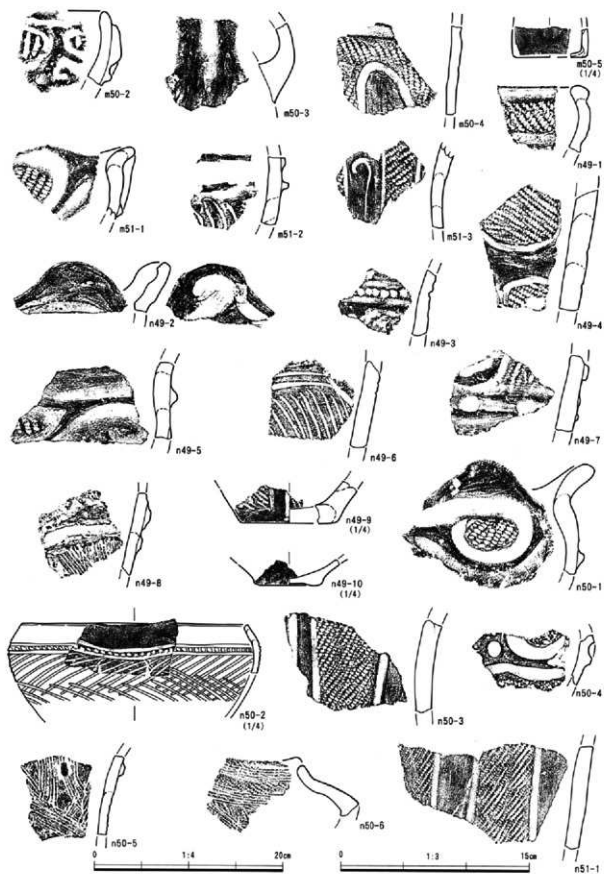
第90図 G区グリッド出土土器実測図(14)



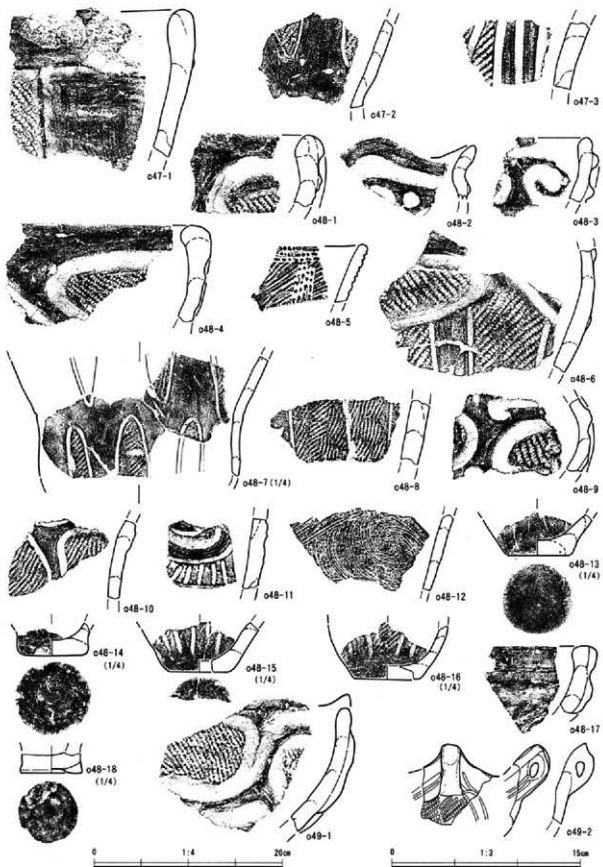
第91図 G区グリッド出土土器実測図(15)



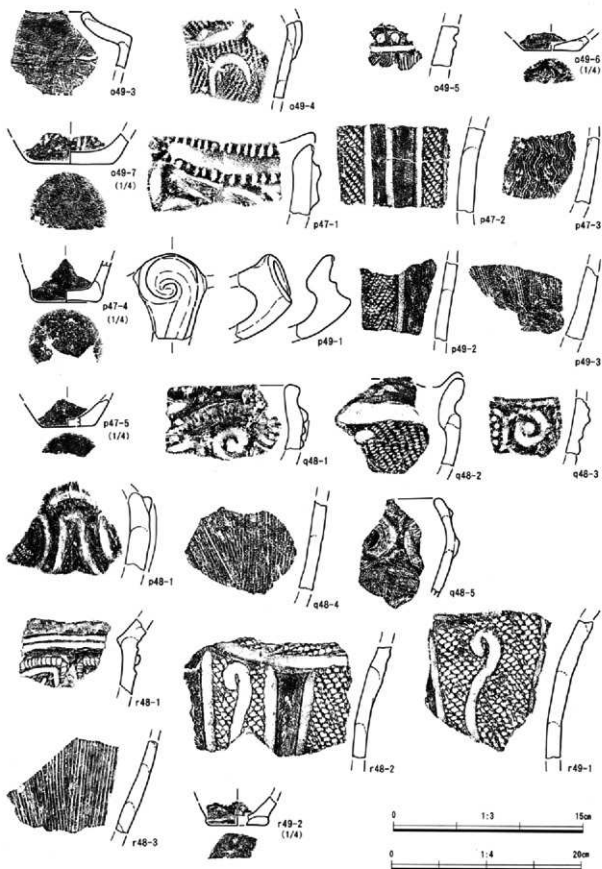
第42図 G区グリッド出土土器実測図(16)



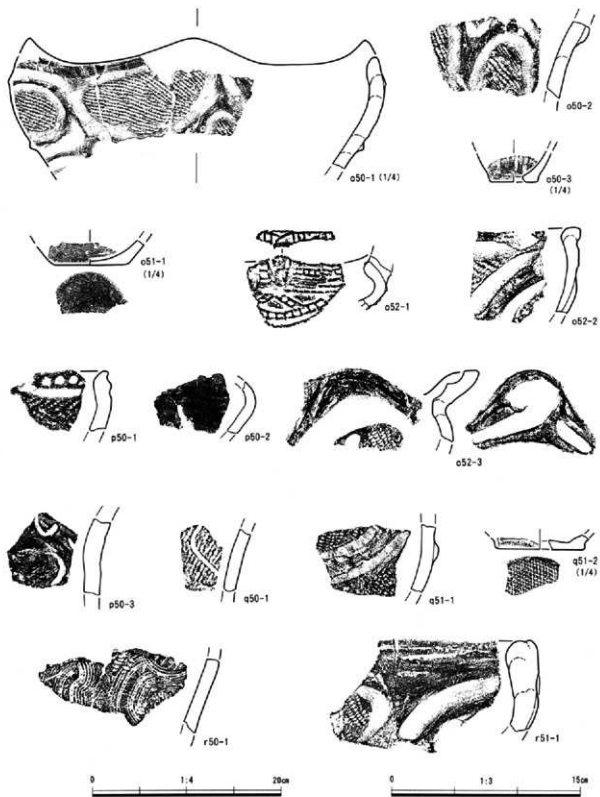
第93図 G区グリッド出土土器実測図 (17)



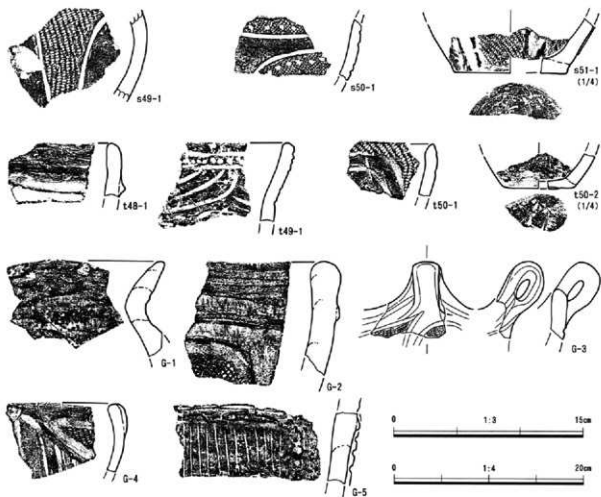
第94図 G区グリッド出土土器実測図(18)



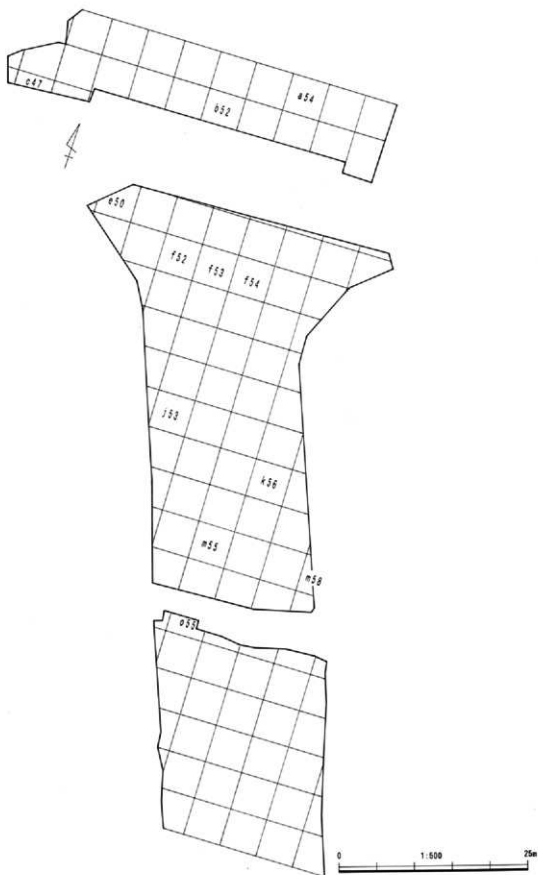
第95図 G区グリッド出土土器実測図(19)



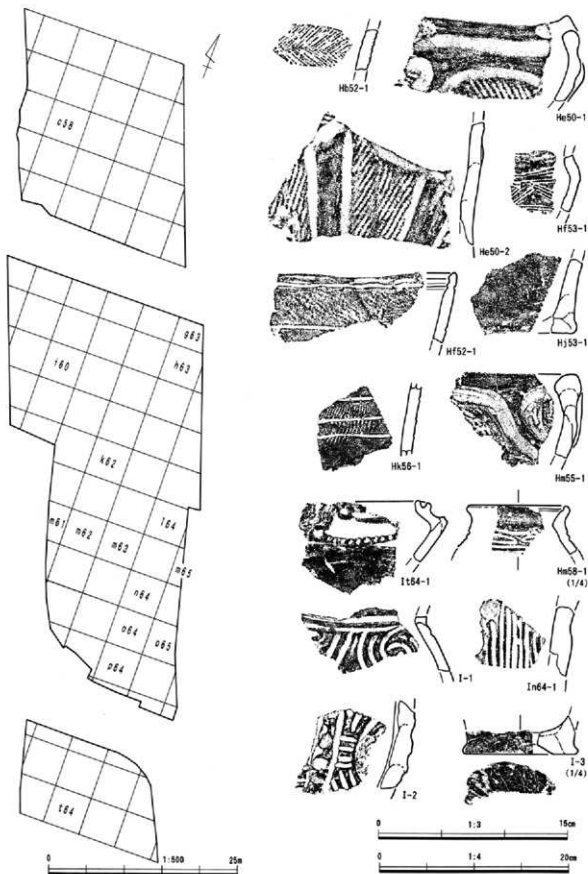
第96図 G区グリッド出土土器実測図(20)



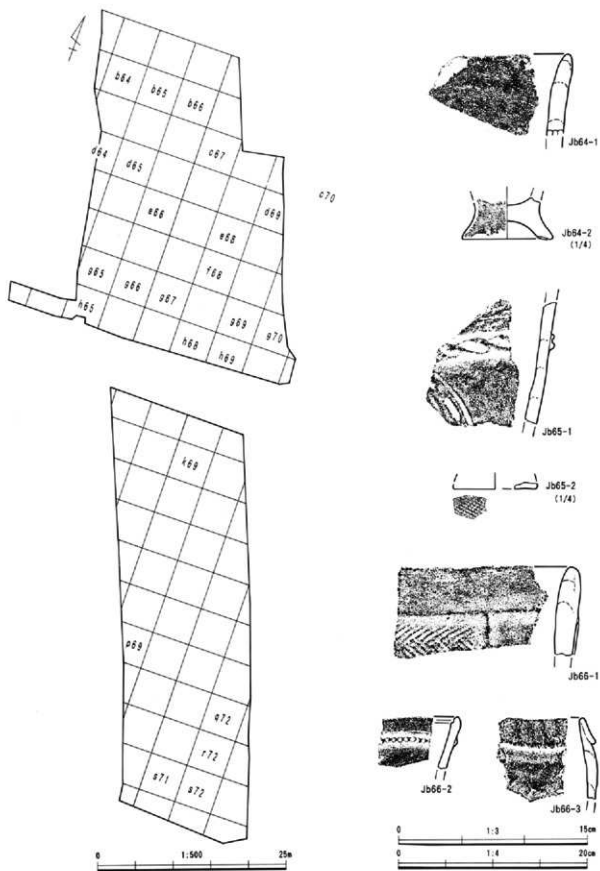
第97図 G区グリッド出土土器実測図(21)



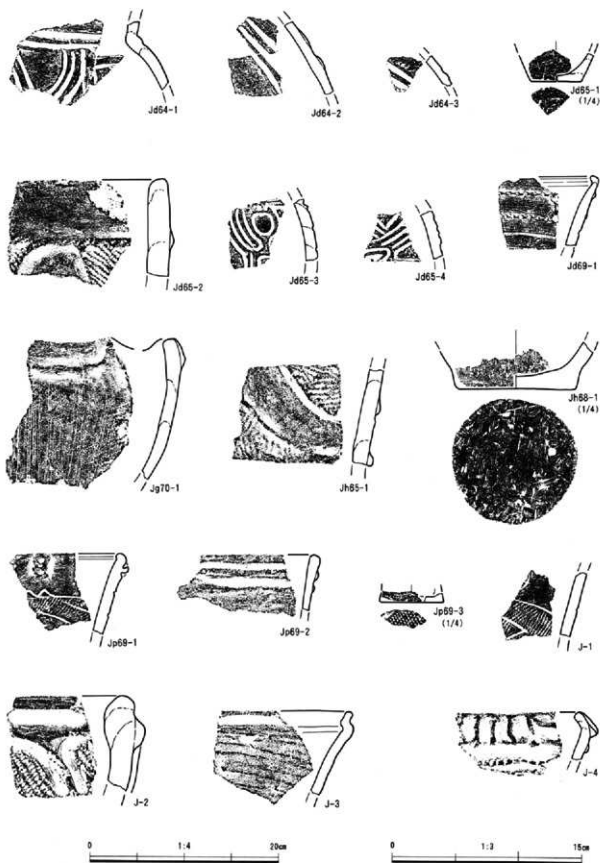
第00図 H区グリッド配置図



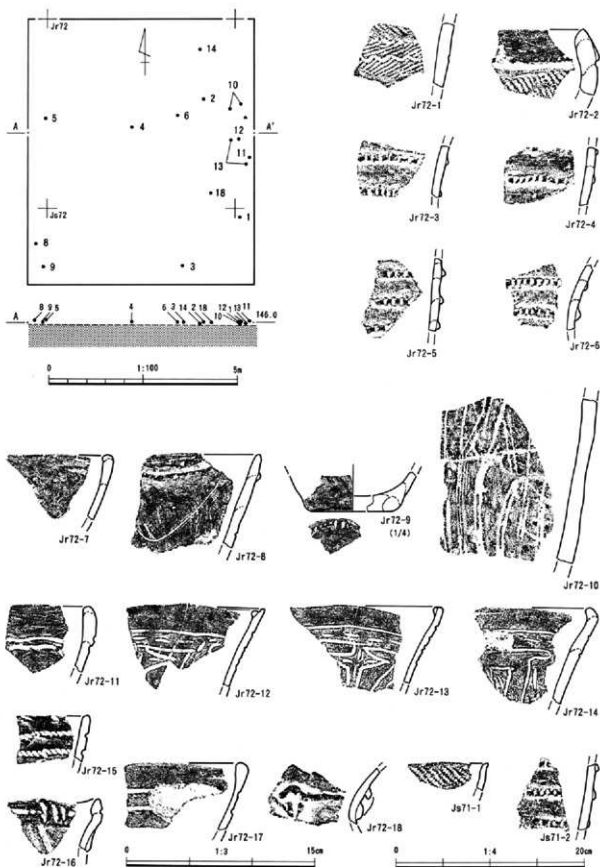
第99図 Ⅰ区グリッド配置図、H区・Ⅰ区グリッド出土土器実測図



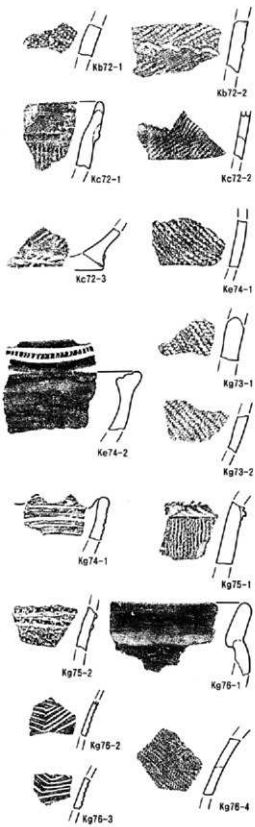
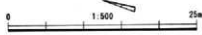
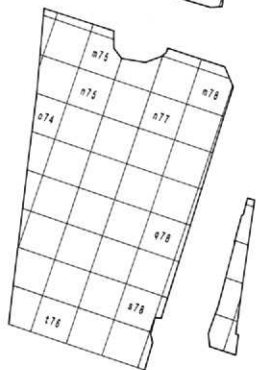
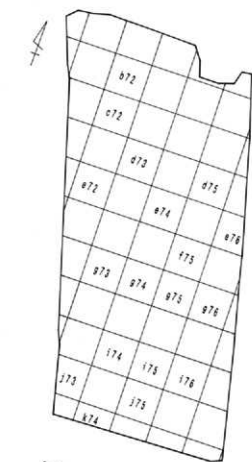
第100図 J区グリッド配置図・出土土器実測図(1)



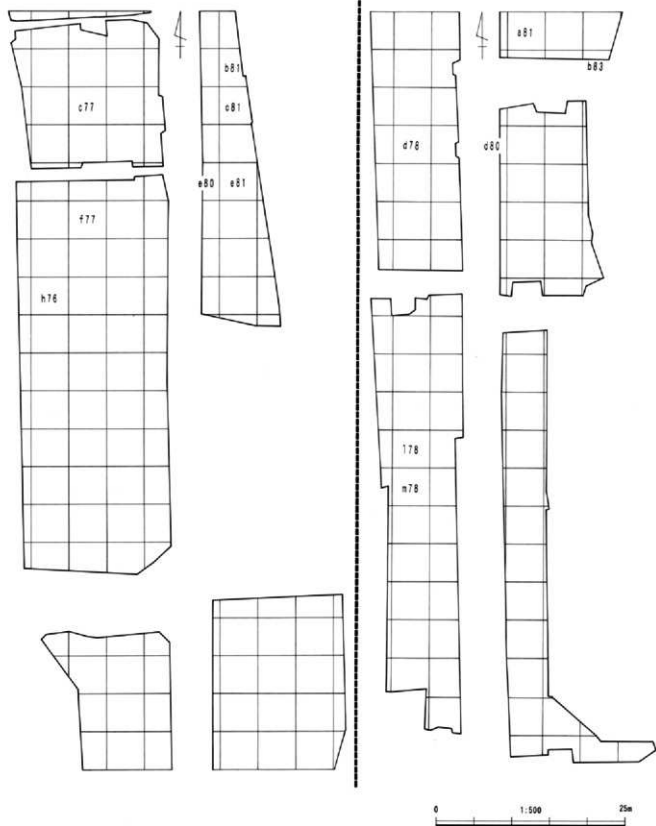
第101図 J区グリッド出土土器実測図(2)



第102図 J区グリッド出土土器実測図(3)



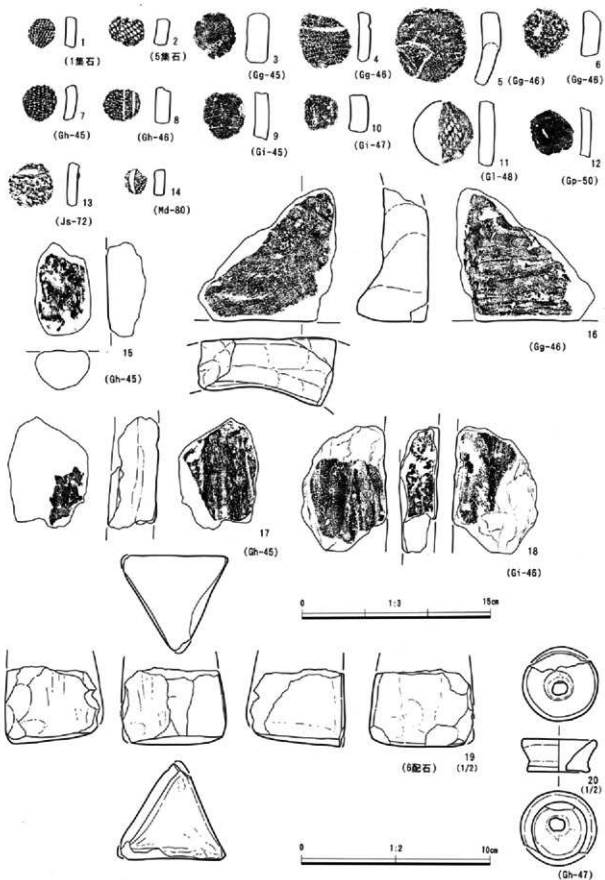
第103図 K区グリッド配置図・出土土器実測図



第104図 L区・M区グリッド配置図



第105図 K区・L区・M区グリッド出土土器実測図



第106図 特殊土製品実測図

第12表 G区グリッド出土土器観察表(1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Ge-48G -1 第74回 P.L.73	洗鉢	胴部片 口一 底一 高(4.5)	G区 e-48	①中砂、石英・白色粒多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/3 ③良好	内外面横位磨き。	V群
Ge-48G -2 第74回 P.L.73	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.1)	G区 e-48	①中砂、輝石・白色粒多量、 赤褐色粒・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	波状口縁。横位2条微隆線の内納いに 幅5mm棒状工具による円形刺突文 施文。	V群
Gf-43G -1 第74回 P.L.73	注口 土器	注口部 口一 底一 高一	G区 f-43	①細砂。白色粒・輝石多量、 石英・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	外面磨き、内面に接合痕残す。	VI群
Gf-45G -1 第74回 P.L.73	深鉢	口縁片 口一 底一 高(15.1)	G区 f-45	①粗砂、石英多量、赤褐色粒・ 輝石・白色粒・チャート少量 ②明黄褐色10Y R7/6 ③やや悪い	口縁僅かに内傾。口縁下に横位横位沈 線、その下に横位微隆線貼付、2条微 隆線による渦巻文、R.L.縄文施文。	V群
Gf-45G -2 第74回 P.L.73	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.2)	G区 f-45	①粗砂。赤褐色粒・輝石・石 英・白色粒少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③ややよし	横位「J」字状渦巻文、横位横位文、L R縄文充填。	V群 外面一部黒変
Gf-45G -3 第74回 P.L.73	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.7)	G区 f-45、 g-45	①細砂。白色粒子・石英・輝 石・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/4 ③良好	内湾口縁。口縁下に浅い幅広沈線横位 施文。幅1.1cm 4本帯状工具による縦 位波状文施文。	V群 外面黒変
Gf-45G -4 第74回 P.L.73	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.1)	G区 f-45	①中砂。白色粒子・赤褐色粒 子・石英・輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/3 ③良好	波状口縁。口唇部に沈線施文。隆帯に よる円形文、横位横位文、内部にR.L 縄文充填。	V群
Gf-45G -5 第74回 P.L.73	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.1)	G区 f-45	①中砂。白色粒・石英・赤褐 色粒・輝石少量 ②にぶい褐7.5Y R5/3 ③やや悪い	口縁下に深い横位沈線、その下に幅 1.1cm 6本の棒状工具による縦位沈線 施文。	V群 外面黒付着
Gf-45G -6 第74回 P.L.73	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.9)	G区 f-45	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 石英・輝石少量 ②明黄褐色10Y R7/6 ③不良	波状口縁。突起下に沈線による逆「J」 字状渦巻文、横位横位文、間に円 形刺突文、L.R縄文充填。	V群 外面黒変 被熱器面粗れる
Gf-45G -7 第74回 P.L.73	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.9)	G区 f-45	①中砂。7mm礫、白色粒・赤 褐色粒・石英・輝石少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや悪い	断面つくり、口唇部は角張る。弧線 文、間にφ2cmの円形凹み施文。	V群
Gf-45G -8 第74回 P.L.73	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.8)	G区 f-45	①粗砂。白色粒・石英・輝石 ・角閃石少量 ②にぶい赤褐色5Y R5/4 ③ややよし	「J」字状渦巻文、横位横位文、胴部は 2条沈線により分割、R.L.縄文充填。	V群
Gf-45G -9 第74回 P.L.73	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.8)	G区 f-45	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②灰黄褐色10Y R4/2 ③良好	口縁部内湾。口縁に押圧、その下に浅 い沈線施文。弧状沈線施文、R.L.縄文 充填。	V群 外面黒付着黒変
Gf-45G -10 第74回 P.L.73	深鉢	胴部片 1/4 口一 底一 高(5.5)	G区 f-45	①中砂。赤褐色粒多量、輝石 ・白色粒子・石英少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③やや悪い	口辺部波状沈線文、胴部「J」状沈線文、 R.L.縄文充填。	V群
Gf-45G -11 第74回 P.L.73	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.6)	G区 f-45	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②浅黄2.5Y 7/4 ③不良	横位横位文又は渦巻文、胴部3条沈線 により分割、R.L.縄文充填。	V群
Gf-45G -12 第74回 P.L.73	深鉢	底部片 口一 底 7.2 高(3.6)	G区 f-45	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/4 ③不良	胴部縦位磨き。丸底。	V群 内面黒変

第12表 G区グリッド出土土器観察表(2)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gf-46G -1 第 75周 P L 74	深鉢	口縁片 口一 底一 高(10.6)	G区 f-46	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R 6/3 ③やや悪い	深い波状口縁。口縁下に幅広い沈線、突起下に揃い出し状微線貼付、その下に高状微線貼付。R L 縄文充填。	V群 外面一部黒変
Gf-46G -2 第 75周 P L 74	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.5)	G区 f-46	①中砂。白色粒少量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R 7/4 ③ややよし	口縁部内湾。口縁下に幅広い沈線施文、湖の「J」字状渦巻文、R L 縄文充填。基部・沈線は明瞭。	V群 外面一部黒変着 (黒変)
Gf-46G -3 第 75周 P L 74	深鉢	口縁部突起 長(4.3) 幅(3.7) 厚(3.5)	G区 f-46	①中砂。白色粒・石英少量、輝石・赤褐色粒少量 ②暗灰黄2.5Y 5/2 ③やや悪い	ラッパ状に先端が圓く筒状突起部分、刺突文は周縁から施文。	V群
Gf-46G -4 第 75周 P L 74	深鉢	底部片 口一 底一 高(6.8) 幅(3.2)	G区 f-46	①粗砂。赤褐色粒・輝石・石英・白色粒子少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③良好(硬質)	薄手。縦位沈線により割部区画、R L 縄文充填。	V群 外面一部黒変
Gf-46G -5 第 75周 P L 74	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.2)	G区 f-46	①中砂。赤褐色粒・白色粒・石英少量、輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R 7/3 ③やや悪い	縦位2条沈線により分割、L R 縄文充填。	V群
Gf-46G -6 第 75周 P L 74	深鉢	胴部片 口一 底一 高(8.8)	G区 f-46	①中砂。白色粒・石英・赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R 6/4 ③やや悪い	幅1.2cm 6本柳状工具による縦位、波状沈線文。	V群 外面黒変着黒変
Gf-46G -7 第 75周 P L 74	深鉢	口辺部片 口一 底一 高(5.1)	G区 f-46	①粗砂。結晶片岩・微細雲母多量、石英・輝石少量 ②にぶい赤褐色5Y R 5/4 ③やや悪い	口縁部文様帯は隆部による「J」字状渦巻文、地文は帯赤土L横位施文、頸部無文帯あり。	V群 外面一部黒変
Gf-47G -1 第 75周 P L 74	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.3)	G区 f-47	①中砂。白色粒少量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②明黄褐色10Y R 7/6 ③やや悪い	口縁やや内傾。口縁下に幅広い沈線、その下に横位楕円区画文、R L 縄文充填。	V群 内外周風化
Gf-47G -2 第 75周 P L 74	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.4)	G区 f-47	①中砂。輝石・石英・白色粒子・赤褐色粒少量 ②明赤褐色2.5Y R 5/6 ③ややよし	波状口縁。口唇部に沈線、突起部で縦手状に巻く。内面にも同様な渦巻き施文。外面突起下には楕円又は円形文施文。	V群
Gf-47G -3 第 75周 P L 74	深鉢	胴部片 口一 底一 高(10.5)	G区 f-47	①中砂。白色粒少量、石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R 6/4 ③ややよし	隆部による楕円区画文又は渦巻文、中程に幅広い沈線施文。0段多条R L 縄文充填。	V群 外面黒変着黒変
Gf-47G -4 第 75周 P L 74	深鉢	胴部片 口一 底一 高(12.3)	G区 f-47	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②明黄褐色10Y R 7/6 ③やや悪い	縦位3条1単位沈線により割部分割、R L 縄文縦位充填。	V群 外面一部黒変
Gf-48G -1 第 75周 P L 74	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.1)	G区 f-48	①細砂。輝石多量、石英・白色粒少量。 ②にぶい黄褐色10Y R 6/3 ③ややよし	隆部とその周縁沈線により区画、内部に縦位沈線充填。	V群
Gg-44G -1 第 75周 P L 74	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.1)	G区 R-44	①細砂。石英・輝石・白色粒子少量 ②にぶい黄褐色10Y R 7/4 ③ややよし	薄手。波状、内湾口縁。口縁より2cm下に微線貼付、そこから下に「J」字状微線貼付。R L 縄文充填。	V群 外面口縁炭化物付着 (黒変)
Gg-44G -2 第 75周 P L 74	深鉢	口縁片 口一 底一 高(9.1)	G区 R-44	①中砂。赤褐色粒・石英・白色粒・輝石少量 ②暗7.5Y R 6/6 ③ややよし	縦位3条沈線により割部分割、L R 縄文充填後、沈線磨面。	V群 外面一部黒変
Gg-45G -1 第 75周 P L 74	深鉢	口~胴部1/4 口(34.0) 底一 高(11.8)	G区 R-45	①細砂。輝石・石英・白色粒子少量 ②明黄褐色10Y R 7/6 ③ややよし	口縁横位磨り。口縁下に横位隆部貼付、胴部を2条1単位隆部で分割する。8分割? R L 縄文縦位施文。	V群 外面黒変着黒変

第12表 G区グリッド出土土器観察表(3)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gg-45G -2 第75図 P L 74	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.4)	G区 R-45	①中砂。6mm礫、白色粒・輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R 6/3 ③不良	口唇部やや肥厚、やや内傾、高い隆帯による逆「の」字状渦巻文、L R縄文充満。	V群 風化顯著
Gg-45G -3 第76図 P L 75	深鉢	口縁→胴上 部1/2 口 25.6 底一 高(22.2)	G区 R-45	①細砂。輝石・石英・白色粒子少量 ②橙2.5Y R 6/8 ③ややよし	口縁部文様帯は2重の隆帯による逆「の」字状渦巻文と「ㄣ」字状弧線文、弧線文の間には縦比線充満。頸部に無文部分があるが、胴部との間に区画はない。胴部R L縄文縦位施文。	V群 内面及び外面口縁 僅付着黒変
Gg-45G -4 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口一 底一 高(9.3)	G区 R-45	①細砂。白色粒子・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色7.5Y R 5/3 ③良好	渦巻文又は横位柵文施文。内部に帯状工具による沈線充満。	V群
Gg-45G -5 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口一 底一 高(9.3)	G区 R-45	①中砂。輝石・白色粒子少量、石英少量 ②橙7.5Y R 6/6 ③ややよし	口縁下と頸部に横位隆帯貼付区画、口縁部文様帯斜め弧状隆帯貼付、左上斜位、右下斜位沈線充満。	V群 外面一部黒変
Gg-45G -6 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.1)	G区 R-45	①細砂。白色粒子・石英・輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R 6/3 ③ややよし	緩い波状口縁。横み出し状隆帯により連続、横位柵文区画。胴部縦位隆帯により分割。	V群 外面一部黒変
Gg-45G -7 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.1)	G区 R-45	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒子少量 ②灰黄褐色10Y R 5/2 ③良好	波状口縁。突起下には横み出し状の隆帯貼付、その下に弧状隆帯貼付。R L縄文縦位施文。	V群 外面一部黒変
Gg-45G -8 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.2)	G区 R-45	①中砂。白色粒子・石英・赤褐色粒子・輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R 6/4 ③不良	口縁下に横位細沈線施文。幅1cm本帯状工具による縦位沈線施文。無文部分あり。	V群 内外面風化
Gg-45G -9 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.2)	G区 R-45	①細砂。φ5mm礫、白色粒子・輝石・石英少量 ②橙5Y R 6/6 ③良好	細隆帯による「の」字状渦巻文貼付、その下に「ㄩ」状沈線。R L縄文充満。	V群
Gg-45G -10 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.0)	G区 R-45	①中砂。白色粒子・輝石・石英少量 ②にぶい黄褐色10Y R 7/3 ③ややよし	口縁と口縁下隆帯上に連続形施文。その下に横位比線、R L縄文施文。	V群 外面僅付着黒変
Gg-45G -11 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.2)	G区 R-45	①中砂。白色粒少量、輝石・石英・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄褐色10Y R 7/4 ③やや悪い	横位柵文区画? R L縄文充満。	V群 内外面風化
Gg-45G -12 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.7)	G区 R-45	①中砂。輝石・石英・白色粒・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y R 6/3 ③ややよし	波状、内彎口縁。薄手。沈線による「の」字状渦巻文。	V群 口縁一部黒変
Gg-45G -13 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.5)	G区 R-45	①粗砂。4mmチャート礫、輝石・石英・白色粒子少量 ②灰黄褐色10Y R 4/2 ③やや悪い	口縁外反。内外面横位磨き、φ1cm貫通部4mmの修繕孔あり。	V群
Gg-45G -14 第76図 P L 75	深鉢	胴部片 口一 底一 高(8.9)	G区 R-45	①細砂。輝石少量、石英・白色粒子少量 ②残黄褐色10Y R 8/4 ③ややよし	縦位2条沈線により胴部分割、R L縄文縦位充満。	V群 内外面上部淡く黒変
Gg-45G -15 第76図 P L 75	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.1)	G区 R-45	①中砂。結晶片岩・輝石・石英・白色粒子少量 ②にぶい赤褐色5Y R 4/4 ③ややよし	口縁外屈。幅7mm平軌竹管による平行沈線。頸部に4単位施文。下に横位爪形刻み。	IV群 内面淡く黒変
Gg-45G -16 第76図 P L 75	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.3)	G区 R-45	①中砂。5mm礫、石英・白色粒少量、輝石・赤褐色粒少量 ②残黄褐色10Y R 8/4 ③ややよし	波状、内彎口縁。口縁下に断面三角形棒状工具による2列の連続刻突文。横位帯手部分欠損。下に微隆線による双弧文、外の三角形部分にL R縄文充満。	V群 外面胴部炭化物付 着黒変 内面黒変

第12表 G区グリッド出土土器観察表(4)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③地成	文様、成・整形の特徴	備考
Gg-45G -17 第 76回 P.L.75	深鉢	底部片 2/3 口— 底 8.8 高(6.2)	G区 R-45	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄緑5Y R6/4 ③ややよし	内外面磨き。底部と割部の境は角張る。	V群 内面黒変
Gg-45G -18 第 76回 P.L.75	深鉢	底部片 口— 底(8.8) 高(6.7)	G区 R-45	①中砂。白色粒多量、赤褐色 粒・輝石・石英少量 ②明黄緑10Y R6/6 ③ややよし	底部厚手。縦位2条線により分割、 無余文L縦位、斜め縦位施文。	V群 外面赤変、器面粗 れる
Gg-45G -19 第 76回 P.L.75	深鉢	底部片 口— 底 6.0 高(3.9)	G区 R-45	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②にぶい黄緑7.5Y R6/4 ③ややよし	内外面磨き。縦位2条線により分割。	V群 外面赤変・黒変
Gg-45G -20 第 76回 P.L.75	浅鉢	底部片 1/2 口— 底(6.0) 高(3.1)	G区 R-45	①細砂。白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄緑10Y R6/3 ③ややよし	丸底。体部は薄く開いて立ち上がる。	V群 外面塗付着黒変
Gg-46G -1 第 77回 P.L.76	深鉢	口縁片 1/4 口(25.2) 底— 高(10.9)	G区 R-46	①中砂。石英・白色粒・輝石 多量 ②明黄緑10Y R7/6 ③ややよし	緩い波状、内側口縁。波状頂部下に横 み出し状の突起貼付。その下に「f」字 状比線文、右に逆「J」字状渦巻文。L R縄文充満。	V群 外面口辺塗付着黒 変
Gg-46G -2 第 77回 P.L.76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(9.8)	G区 R-46	①細砂。石英・白色粒子・輝 石少量 ②にぶい黄緑10Y R6/4 ③ややよし	波状口縁。口縁部磨き、その下に隆帯 が沿う。波状頂部下に横み出し状の隆 帯貼付。下の区画も隆帯により分割さ れる。LR縄文充満。	V群
Gg-46G -3 第 77回 P.L.76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.1)	G区 R-46	①中砂。石英・白色粒子多量、 赤褐色粒子・輝石少量 ②にぶい黄緑10Y R7/4 ③やや悪い	口辺部横位磨き、縦位線による波状文。 LR縄文施文。	V群 口縁部炭化物付着 黒変
Gg-46G -4 第 77回 P.L.76	深鉢	口縁片 口— 底— 高 8.2	G区 R-46	①中砂。白色粒子多量、石英・ 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄緑10Y R6/4 ③ややよし	隆帯と脇施線による横位槽円文又は渦 巻文、RL縄文充満。	V群 外面黒斑
Gg-46G -5 第 77回 P.L.76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.9)	G区 R-46	①中砂。白色粒・輝石・赤褐 色粒・石英少量 ②にぶい黄緑10Y R7/4 ③良好(硬質)	波状口縁。沈線による横位槽円文。R L縄文充満。	V群 外面一部黒変
Gg-46G -6 第 77回 P.L.76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.7)	G区 R-46	①細砂。赤褐色粒、輝石・石 英・白色粒子少量 ②にぶい黄緑10Y R7/4 ③悪い	4単位波状口縁。口縁沿いに刺突文、 その下に細沈線が沿う。細沈線波状文、 RL縄文充満。	V群 外面赤変、黒斑
Gg-46G -7 第 77回 P.L.76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.6)	G区 R-46	①細砂。赤褐色粒・輝石・石 英・白色粒子少量 ②にぶい黄緑10Y R7/4 ③悪い	口唇部小突起貼付、口縁下に横位細沈 線が沿う。その下に細沈線山形波状文、 外側にRL縄文充満。φ1cm、貫通部 分0.5cmの補修孔あり。	V群 外面赤変(風化)
Gg-46G -8 第 77回 P.L.76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.4)	G区 R-46	①細砂。赤褐色粒・輝石・石 英少量 ②浅黄緑10Y R8/4 ③悪い	緩い波状口縁。口縁沿いに連続刺突文、 その下に横位細沈線。下の区画には細 沈線波状文、RL縄文充満。	V群 外面一部黒変 G R-46-9に類似
Gg-46G -9 第 77回 P.L.76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.6)	G区 R-46	①細砂。赤褐色粒・輝石・石 英少量 ②浅黄緑10Y R8/4 ③悪い	口縁沿いに連続刺突文、その下に横位 細沈線。RL縄文施文。	V群 G R-46-8に類似
Gg-46G -10 第 77回 P.L.76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.3)	G区 R-46	①中砂。石英・白色粒子多量、 赤褐色粒子・輝石少量 ②にぶい黄緑10Y R7/3 ③良好	波状口縁。口縁下に連続刺突文2条施 文、その下に「f」字状文。LR縄文充満。	V群
Gg-46G -11 第 77回 P.L.76	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.0)	G区 R-46	①中砂。石英・白色粒子・輝 石・赤褐色粒子少量 ②浅黄緑10Y R8/4 ③やや悪い	波状口縁。口縁下に横位比線、弧線文。 LR縄文充満。	V群 内外面風化

第12表 G区グリッド出土土器観察表(5)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gg-46G -12 第 77回 P L 76	深鉢	口縁片 □ 口一 底一 高(6.2)	G区 R-46	①細砂。白色粒子・石英・赤褐色粒子・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	波状口縁。口縁下に2条刺突文が近い。間に横位沈線1条施文。φ1cm、貫通部分0.5cm程の補修孔あり。	V群 口唇部内面黒変、赤変
Gg-46G -13 第 77回 P L 76	深鉢	口縁片 □ 口一 底一 高(4.0)	G区 R-46	①細砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや悪い	波状口縁。口縁下に2条横位細沈線、下の縁から沈線双弧文施文。0段多条のRL細弧文充満。	V群 内外面黒変
Gg-46G -14 第 77回 P L 76	深鉢	口縁片 □ 口一 底一 高(4.0)	G区 R-46	①細砂。白色粒・石英多量、輝石・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③やや悪い	口縁下に微隆線、その下に双弧文、LR細弧文充満。	V群 外面僅付着(黒変)
Gg-46G -15 第 77回 P L 76	深鉢	口縁部突起 □ 口一 底一 高(5.1)	G区 R-46	①中砂。石英・結晶片岩多量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/2 ③良好	上面に隆帯によるハート形渦巻文施文。	V群
Gg-46G -16 第 77回 P L 76	浅鉢	胴部片 □ 口一 底一 高(10.1)	G区 R-46	①中砂。赤褐色粒・白色粒・石英・輝石少量 ②橙5Y R7/6 ③やや悪い	口縁部横位磨き。頸部に微隆線、胴部に幅1.0cm6本の櫛状工具による流水沈線文施文。	V群 外面黒変、赤変
Gg-46G -17 第 77回 P L 76	深鉢	胴部片 □ 口一 底一 高(6.2)	G区 R-46	①中砂。白色粒子・石英多量、赤褐色粒子・チャート・輝石少量 ②灰黄2.5Y 7/2 ③良好	幅1.8cm6本櫛状工具による横位波状文施文。	V群
Gg-46G -18 第 77回 P L 76	深鉢	底部片 □ 口一 底 7.0 高(5.7)	G区 R-46	①中砂。石英・赤褐色粒多量、白色粒・輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③不良	無文。胴部縦位磨き。底部上底。	V群 外面黒変、粗れる
Gg-46G -19 第 77回 P L 76	深鉢	口縁片 □ 口一 底一 高(4.1)	G区 R-46	①中砂。輝石・白色粒子多量、石英少量 ②にぶい褐7.5Y R5/3 ③やや良い	口縁は部厚く、角張る。内面横位削り。	V群 外面赤色塗彩
Gg-46G -20 第 77回 P L 76	深鉢	底部片 □ 口一 底(4.5) 高(0.9)	G区 R-46	①中砂。石英・白色粒・赤褐色粒・輝石少量 ②橙7.5Y R6/8 ③良好	やや薄手。内面無で、外面磨き。	V群
Gg-46G -21 第 77回 P L 76	浅鉢	胴部片 □ 口一 底一 高(3.3)	G区 R-46	①細砂。石英粒子多量、白色粒・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③良好	薄手。頸部に幅0.7cm横位沈線、下にRL細弧文施文。内面～沈線部分まで赤色塗彩残る。	V群 赤色塗彩
Gg-47G -1 第 78回 P L 77	深鉢	胴下部片 □ 口一 底一 高(14.5)	G区 R-47, i-46	①中砂。輝石・赤褐色粒・白色粒子・チャート少量 ②橙5Y R6/8 ③やや良い	胴部縦位3条沈線による懸垂文6単位、2条1単位施文。RL細弧文充満。	V群 内面黒変
Gg-47G -2 第 78回 P L 77	深鉢	1/3 □(20.8) 口一 底一 高(21.7)	G区 R-47	①中砂。輝石・石英・白色粒少量 ②明赤7.5Y R5/6 ③やや良い	口唇部に2ヶ1対の凹み(1ヶ欠損)。胴面全面に横位RL細弧文施文。	III群 外面僅付着黒変 内面器面割落
Gg-47G -3 第 78回 P L 77	深鉢	口縁片 □ 口一 底一 高(7.5)	G区 R-47	①中砂。石英・白色粒多量、輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③不良	口縁内側。細沈線による逆「J」字状渦巻文、RL細弧文充満。	V群 外面一部黒斑 内面黒変
Gg-47G -4 第 78回 P L 77	深鉢	口縁片 □ 口一 底一 高(4.5)	G区 R-47	①中砂。石英・白色粒多量、赤褐色粒・輝石少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③やや良い	内唇口縁。細沈線による渦巻文又は双弧文。LR細弧文充満。	V群 外面淡く黒変
Gg-47G -5 第 78回 P L 77	深鉢	口縁片 □ 口一 底一 高(3.8)	G区 R-47	①中砂。石英・白色粒多量、輝石・赤褐色粒少量 ②灰黄褐10Y R4/2 ③やや良い	内唇口縁。「J」字状沈線文、LR細弧文口縁横位、縦位充満。	V群 外面黒変

第12表 G区グリッド出土土器観察表(8)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gg-47G -6 第78図 P.L.77	深鉢	口縁片 □— 底— 高(5.9)	G区R-47, i-48	①中砂。石英・輝石・白色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	口縁外反。R.L縄文横位施文。	田群
Gg-47G -7 第78図 P.L.77	深鉢	口縁片 □— 底— 高(5.7)	G区R-47	①中砂。石英・白色粒少量、輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③ややよし	口縁より2.5cm下に横位微線紋、L.R縄文施文。	V群 内外面煤付着(黒変)
Gg-47G -8 第78図 P.L.77	深鉢	口縁片 □— 底— 高(4.7)	G区R-47	①中砂。輝石・チャート・白色粒・石英少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③良好	口縁外反。R.L縄文横位施文。	田群
Gg-47G -9 第78図 P.L.77	深鉢	口縁片 □— 底— 高(3.9)	G区R-47	①細砂。石英・白色粒子少量、輝石・赤褐色粒少量 ②灰黄2.5Y 7/2 ③良好(硬質)	口縁やや内彎。沈線による逆「J」字状渦巻文。	V群
Gg-47G -10 第78図 P.L.77	深鉢	口縁片 □— 底— 高(4.0)	G区R-47	①細砂。チャート・石英・白色粒子少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	内彎口縁。口縁より1.2cm下にへら状工具による横位、弧状細沈線。R.L縄文充填。	V群 外面一部黒変
Gg-47G -11 第78図 P.L.77	深鉢	頸部片 □— 底— 高(6.3)	G区R-47	①中砂。石英・チャート・結晶片岩少量、輝石少量 ②橙7.5Y R6/6 ③ややよし	口縁外反。肩部に横位隆帯付、兼手状沈線文、横位槽凹文?内部に0段多糸R.L横位充填。	V群 外面狭く黒変、赤変 内面一部狭く黒変
Gg-47G -12 第78図 P.L.77	深鉢	胴部片 □— 底— 高(6.3)	G区R-47	①中砂。石英・白色粒・赤褐色粒少量、輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③やや悪い	弧状、「U」字状細沈線、R.L縄文充填。	V群 外面上部狭く黒変 下部赤変、内面上部黒変、器面風化
Gg-47G -13 第78図 P.L.77	深鉢	胴部片 □— 底— 高(7.4)	G区R-47	①中砂。石英・輝石・白色粒・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/8 ③やや悪い	「n」「U」字状細沈線文、L.R縄文充填。	V群
Gg-47G -14 第78図 P.L.77	深鉢	胴部片 □— 底— 高(5.0)	G区R-47	①粗砂。石英・結晶片岩少量、赤褐色粒少量 ②にぶい赤褐2.5Y R5/4 ③ややよし	0段多糸条赤文L.L縦位施文。	V群 外面黒変
Gg-47G -15 第78図 P.L.77	浅鉢	底部片 1/8 □— 底(7.6) 高(2.4)	G区R-47	①中砂。赤褐色粒・白色粒・輝石少量、石英少量 ②にぶい橙7.5Y R7/3 ③ややよし	外面胴部磨き、底部無調整ザラつく。内面磨き。	V群 外面一部黒変
Gg-47G -16 第78図 P.L.77	深鉢	底部片 □— 底 6.2 高(3.9)	G区R-47	①中砂。5mm礫、結晶片岩・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	縦位隆帯により6単位分節、底部部厚いつくり。外面磨で、内面磨き。	V群 外面一部黒変
Gg-48G -1 第78図 P.L.77	深鉢	口縁片 □— 底— 高(7.1)	G区R-48	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③良好	波状内彎口縁。幅広沈線による横位槽凹区画文、L.R.L複筋縄文充填。	V群 外面黒変あり
Gg-48G -2 第78図 P.L.77	深鉢	口縁片 □— 底— 高(6.2)	G区R-48	①中砂。白色粒少量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②淡黄橙10Y R8/4 ③ややよし	波状口縁。突起部外反、口縁やや内彎。逆「J」字状渦巻文。L.R.L複筋縄文充填。	V群 外面黒変
Gg-48G -3 第78図 P.L.77	深鉢	口縁片 □— 底— 高(8.4)	G区R-48	①中砂。赤褐色粒・輝石・石英・白色粒子少量 ②橙2.5Y R6/8 ③ややよし	口縁沿いに平截竹管状工具による円形回転刺突文。L.R縄文施文。	V群 内外面風化
Gg-48G -4 第78図 P.L.77	深鉢	口縁片 □— 底— 高(4.7)	G区R-48	①中砂。白色粒少量、輝石・赤褐色粒・石英少量 ②橙7.5Y R6/6 ③ややよし	薄手。内彎口縁。L.R.L複筋縄文施文。	V群

第12表 G区グリッド出土土器観察表(7)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土・着色調成	文様・成・整形の特徴	備考
Gg-48G -5 第78図 P L 77	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.3)	G区R-48	①中砂。輝石・白色粒多量、 石英・赤褐色粒少量 ②にぶい赤褐色Y R5/4 ③ややよし	縦位沈線により胴部分割、R L縦文縦 位施文後沈線による逆の「J」字状渦巻 文。	V群 外面黒変
Gg-48G -6 第78図 P L 77	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.0)	G区R-48	①中砂。赤褐色粒多量、輝石 ・石英・白色粒少量 ②明赤褐色S Y R5/6 ③良好	縦位沈線により分割、「H」「U」字 状沈線文。R L縦文縦位充填後波状沈 線懸垂。	V群 内面黒変
Gg-48G -7 第78図 P L 77	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.9)	G区R-48	①中砂。白色粒・石英・赤褐 色粒・輝石少量 ②にぶい赤褐色Y R5/4 ③ややよし	縦2mm半横竹管による平行沈線で横位 ・斜位施文。地文はR L縦文横位施文。	旧群 外面淡く黒変
Gg-48G -8 第78図 P L 77	深鉢	胴～底部 口一 底一 高(6.5)	G区R-48	①中砂。白色粒・赤褐色粒多 量、輝石・石英少量 ②橙7.5 Y R7/6 ③ややよし	縦位3条沈線により分割、R L縦文縦 位充満。	V群
Gh-44G -1 第79図 P L 78	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.2)	G区h-44	①粗砂。チャート・結晶片岩 多量、石英・輝石少量 ②橙7.5 Y R6/6 ③良好	縦位2条沈線により分割、R L縦文縦 位充満。	V群
Gh-45G -1 第79図 P L 78	深鉢	口縁片 口一 底一 高(13.1)	G区h-45	①粗砂。φ8mm粒、白色粒多 量、輝石・石英少量 ②淡黄2.5 Y R/3 ③不良	特に大形。口唇部肥厚。「C」字状区画 内R L縦文横位施文。	V群 内面黒変
Gh-45G -2 第79図 P L 78	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.2)	G区h-45	①中砂。白色粒・輝石多量、 赤褐色粒・石英少量 ②にぶい黄褐色10 Y R7/3 ③良好	口縁やや内湾。楕円区画の交点で「X」 字状を呈し、間に三角形に近い回転軸 突文を上下2つ施す。	V群 外面淡く黒変
Gh-45G -3 第79図 P L 78	深鉢	口縁片 口(28.0) 底一 高(5.2)	G区G-45、 h-45、 i-45	①中砂。石英多量、輝石・白 色粒子・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄褐色10 Y R7/3 ③やや悪い	4単位波状口縁。口縁下に刺突文2列、 その間に沈線。「H」字状2重弧線文。 L R縦文充満。	V群 外面一部黒変 内面黒変 G h-45-6に類似
Gh-45G -4 第79図 P L 78	瓢形 土函	口縁片 1/4 口(10.6) 底一 高(7.7)	G区h-45	①中砂。輝石・石英・白色粒 少量 ②にぶい黄褐色10 Y R6/4 ③良好	薄手。内湾口縁。肩部に横位微隆線、 φ2mmの粗孔が12個開くものと推定さ れる。2重微隆線による渦巻又は弧線 文、懸垂文。外面良く研磨、内面磨き。	V群 内面僅し黒色処理 外面赤色塗彩
Gh-45G -5 第79図 P L 78	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.2)	G区h-45	①細砂。白色粒子・石英多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5 Y7/3 ③不良	口縁下に幅広沈線、幅9mm4本櫛状工 具による波状沈線文。	V群 外面黒斑赤変あり
Gh-45G -6 第79図 P L 78	深鉢	口縁片 口(24.4) 底一 高(6.6)	G区h-45、 h-46、 h-47	①中砂。輝石・石英・白色粒 少量 ②橙2.5 Y R6/6 ③良好(硬質)	「H」字状沈線施文、R L縦文口縁横位、 他は縦位充満。	V群 外面黒斑赤斑 G h-45-3に類似
Gh-45G -7 第79図 P L 78	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.2)	G区h-45	①中砂。白色粒多量、輝石・ 赤褐色粒・石英少量 ②淡黄2.5 Y6/2 ③不良	口唇部肥厚、やや外反。幅1.7cm8本 櫛状工具に縦位沈線文。	V群 外面黒変
Gh-45G -8 第79図 P L 78	洗鉢	口縁片 口一 底一 高(8.0)	G区h-45	①細砂。石英・白色粒子多量、 雲母・輝石少量 ②にぶい赤褐色Y R5/4 ③良好	口唇部外反。赤色塗彩による渦巻又は 弧状文。内面部分的に赤色塗彩残る。	V群 外面黒斑 赤色塗彩
Gh-45G -9 第79図 P L 78	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.5)	G区h-45	①中砂。石英・白色粒子多量、 赤褐色粒・輝石少量 ②淡黄2.5 Y7/3 ③ややよし	波状口縁。口縁下に刻み付き帯部によ る横位楕円文、下に「H」状隆帯貼付。 R L縦文充満。	V群 外面隆帯着黒変
Gh-45G -10 第79図 P L 78	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.6)	G区h-45	①中砂。石英・チャート・結 晶片岩・赤褐色粒子少量 ②淡黄2.5 Y8/3 ③良好(硬質)	薄手。口唇部外反、口縁突起下に逆 「の」字状渦巻文、R L縦文充満。	V群 内面磨面粗れる

第12表 G区グリッド出土土器観察表(※)

番号	容種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様・成・彫形の特徴	備考
Gh-49G -11 第 79回 P L 78	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.8)	G区 h-45	①中砂。赤褐色粒多量、輝石・白色粒子・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや悪い	縦沈線による渦巻文、R L縄文充填。	V群 外面黒炭
Gh-49G -12 第 79回 P L 78	深鉢	胴部片 口— 底— 高(8.8)	G区 h-45	①中砂。白色粒子多量、輝石・石英・珪母少量 ②灰黄2.5Y 6/2 ③やや良い	縦位2条沈線により分節、0段多糸R L縄文縦位充填。	V群 外面黒炭 G h-45-13に類似
Gh-49G -13 第 79回 P L 78	深鉢	胴部片 口— 底— 高(9.3)	G区 h-45、 h-46	①中砂。白色粒子多量、輝石・石英少量 ②灰白5Y 7/2 ③やや悪い	横位横円文、区画内R L縄文充填。	V群 外面黒炭 G h-45-12に類似
Gh-49G -14 第 79回 P L 78	深鉢	胴部片 口— 底— 高(12.0)	G区 h-45	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②灰黄2.5Y 7/2 ③不良	横位横円文、胴部縦位沈線後R L縄文充填、その上に敷手沈線文、内面研磨。	V群
Gh-49G -15 第 80回 P L 79	深鉢	胴部片 口— 底— 高(12.0)	G区 h-45	①粗砂。白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③良好	縦位沈線分節。R L縄文充填。	V群 外面黒付着(黒炭)
Gh-49G -16 第 80回 P L 79	深鉢	胴部片 口— 底— 高(4.8)	G区 h-45	①細砂。輝石多量、石英・白色粒子少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや良い	2重隆帯による逆「J」字状渦巻文、下に刻み付横位隆帯付、頸部無文帯あり。	V群 外面黒炭あり
Gh-49G -17 第 80回 P L 79	深鉢	胴-底部1/3 口— 底 11.2 高(18.9)	G区 g-45、 h-45	①粗砂。結晶片岩多量、石英・輝石少量 ②赤10Y R5/8 ③不良	胴部弧状キョウダラ文、その脇にベン先状刺突文が沿う。胴下部は隆帯とベン先状刺突文による三角区画文。下端は無文。	IV群 内面黒炭
Gh-49G -18 第 80回 P L 79	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.7)	G区 h-45	①中砂。輝石・白色粒子多量、石英少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③やや良い	縦沈線による三角区画文。L R細縄文充填。	VI群 外面一部黒炭
Gh-49G -19 第 80回 P L 79	深鉢	底部片 口— 底 9.2 高(4.0)	G区 h-45	①中砂。5mm程、赤褐色粒多量、白色粒・石英・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや良い	底部中心やや肥厚、磨き。	V群
Gh-49G -20 第 80回 P L 79	深鉢	底部片 口— 底 7.4 高(3.3)	G区 h-45	①細砂。白色粒子・輝石・赤褐色粒・石英少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや悪い	底部は上底。ドーナツ状に貼付。	V群
Gh-49G -21 第 80回 P L 79	深鉢	底部片 口— 底 5.4 高(3.7)	G区 h-45	①中砂。輝石・赤褐色粒子多量、白色粒子・石英少量 ②にぶい褐7.5Y R6/3 ③良好	R L縄文縦位施文。底部中心はやや上底。	V群 外面底部黒炭あり
Gh-49G -1 第 80回 P L 79	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.9)	G区 h-46	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや良い	波状口縁。隆帯による渦巻文、横位横円文、R L縄文充填。	V群 外面黒付着(黒炭)
Gh-49G -2 第 80回 P L 79	深鉢	口縁片 口(27.0) 底— 高(12.0)	G区 h-46	①中砂。石英・結晶片岩多量、白色粒・輝石少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③やや良い	内彎口縁。横位隆帯区画内に2重隆帯による逆「J」字状渦巻文4単位、「C」字状区画文。地文はR L縄文施文。頸部無文帯あり。	V群 内外面口辺部黒炭 G h-46-27と同一個体?
Gh-49G -3 第 80回 P L 79	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.6)	G区 h-46	①中砂。白色粒・石英・チャート・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③良好(硬質)	口縁部内彎。口縁から3.5cm下の折返し部分に横位沈線。	V群 外面一部黒炭、赤色塗彩 内面黒斑
Gh-49G -4 第 80回 P L 79	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.0)	G区 h-46	①中砂。輝石多量、石英・白色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	口縁やや内傾。口唇部角張る。曲隆帯同様に沈線、その上区画に短沈線2条、L R縄文横位、斜位施文。	V群

第12表 G区グリッド出土土器観察表(9)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gh-46G -5 第80回 P.L.79	深鉢	口縁片 □ — 底— 高(4.8)	G区h-46, i-47	①中砂、石英・雲母多量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	口唇部外反、浅沈線施文。結節沈線による斜行、弧線文。	IV群
Gh-46G -6 第80回 P.L.79	深鉢	口縁片 □ — 底— 高(4.4)	G区h-46	①中砂、雲母・石英少量、輝石・白色粒少量 ②にぶい赤褐色5Y R5/4 ③良好	内腹口縁。口縁下に逆「J」字状高隆帯及び縦線帯貼付。頸部に三角刺突文。	IV群 内面一部傷付着
Gh-46G -7 第80回 P.L.79	深鉢	口縁片 □ — 底— 高(7.9)	G区h-46	①細砂、白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや良し	口縁部内彎。口縁下に横位沈線、下に「n」字状沈線文、外にLR縄文縦位充満。	V群 外面傷付着黒変
Gh-46G -8 第80回 P.L.79	深鉢	口縁片 □ — 底— 高(6.3)	G区h-46	①中砂、輝石・白色粒・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや良し	波状口縁、口唇部に沈線1条、渦巻文、横位櫛門文、RL縄文充満。	V群 外面黒斑狭く黒変
Gh-46G -9 第80回 P.L.79	深鉢	口縁片 □ — 底— 高(4.9)	G区h-46	①細砂、石英・白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y R/4 ③やや良し	口縁部内彎。口縁下に横位2条沈線、「C」字状沈線施文。地文はLR縄文横位施文。	V群 口唇部黒斑
Gh-46G -10 第80回 P.L.79	深鉢	口縁片 □ — 底— 高(4.8)	G区h-46	①細砂、石英・白色粒・輝石少量 ②淡黄2.5Y R8/4 ③やや良し	内縁内彎、極く緩い波状。双弧状細沈線、外側の三角区画内LR縄文充満。	V群 内面黒変(黒色塗膜状物質あり)
Gh-46G -11 第80回 P.L.79	深鉢	口縁片 □ — 底— 高(4.2)	G区h-46	①細砂、石英・白色粒子・輝石少量 ②淡黄2.5Y R/3 ③良好(硬質)	薄手。波状、内彎口縁。「n」字状沈線文。RL縄文充満。	V群 外面黒変 内面一部黒変
Gh-46G -12 第80回 P.L.79	深鉢	口縁片 □ — 底— 高(3.7)	G区h-46	①中砂、白色粒少量、石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好	厚手。口縁と口縁より3cm下に隆状工具による刻み、間に浅沈線。	V群
Gh-46G -13 第80回 P.L.79	深鉢	口縁片 □ — 底— 高(7.0)	G区h-46	①中砂、白色粒子・石英・赤褐色粒・輝石少量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	波状口縁、口縁内彎。隆帯による渦巻文、RL縄文充満。	V群
Gh-46G -14 第80回 P.L.79	深鉢	口縁片 □ — 底— 高(5.8)	G区h-46	①中砂、赤褐色粒・白色粒・石英・輝石少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや良し	口縁やや内彎。波状細沈線文。RL縄文充満。	V群
Gh-46G -15 第80回 P.L.79	深鉢	口縁片 □ — 底— 高(4.8)	G区h-46	①中砂、赤褐色粒少量、石英・輝石・白色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	波状口縁?口縁部に刺突文、その下に横位沈線。「n」字状細沈線文、RL縄文充満。	V群
Gh-46G -16 第80回 P.L.79	深鉢	口縁片 □ — 底— 高(4.4)	G区h-46	①中砂、赤褐色粒少量、白色粒・石英少量 ②にぶい濁7.5Y R5/3 ③やや良し	口縁内彎。横位櫛門区画、渦巻文、斜行沈線文。	V群 外面傷付着(黒変)
Gh-46G -17 第81回 P.L.80	深鉢	頸部片 1/4 □ — 底— 高(19.1)	G区R-46, h-46, i-46	①中砂、輝石多量、白色粒子・石英少量 ②橙5Y R7/6 ③やや良し	頸部無地文帯あり。口縁部より波状沈線垂下、頸部との境に横位3条沈線施文。頸部は縦位3条沈線で分割、交点に渦巻文。地文はLR粗い縄文施文。	V群 内外面傷付着狭く黒変
Gh-46G -18 第81回 P.L.80	深鉢	頸部片 □ — 底— 高(9.4)	G区h-46	①中砂、白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②明黄濁10Y R7/6 ③良好	縦位2条沈線により分割、RL縄文縦位充満。	V群 外面上部黒変 内面黒変
Gh-46G -19 第81回 P.L.80	深鉢	頸部片 □ — 底— 高(6.2)	G区h-46, i-46	①細砂、石英・輝石・白色粒少量 ②にぶい濁7.5Y R6/4 ③良好	縦位2条沈線により分割、RL縄文縦位充満。波状沈線懸垂、無文部に横手施文。	V群 外面一部黒変、赤変 内面黒変

第12表 G区グリッド出土土器類表(10)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gh-46G -20 第81図 P.L.80	深鉢 胴部片	口— 底— 高(9.8)	G区h-46	①中砂。白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③やや悪い	縦位微線縁。L R縄文充満。	V群 外面煤付着黒変
Gh-46G -21 第81図 P.L.80	深鉢 胴部片	口— 底— 高(6.2)	G区h-46	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③ややよし	縦位2条沈線により分割。L R縄文縦位充満。	V群
Gh-46G -22 第81図 P.L.80	深鉢 頸部片	口— 底— 高(3.4)	G区h-46	①中砂。石英・白色粒・輝石多量。結晶片若・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y 7/3 ③ややよし	内外面磨き。口縁は外反して立ち上がる。肩部は内彎する。縦通し孔はφ1.2cm。	V群 内外面赤色塗彩
Gh-46G -23 第81図 P.L.80	深鉢 胴部片	口— 底— 高(5.1)	G区h-46	①細砂。石英・白色粒子多量。輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい褐7.5Y R6/3 ③ややよし	頸部に横位2条沈線、下縁上に連続刺突文、その下に沈線による横位楕円区画文、R L縄文充満。	V群
Gh-46G -24 第81図 P.L.80	深鉢 胴部片	口— 底— 高(5.3)	G区h-46	①中砂。結晶片若多量。輝石・石英・白色粒子少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	幅4mm平軌竹管による平行沈線で弧状施文。一部へつ状刻みと平軌竹管による爪形文施文。	IV群
Gh-46G -25 第81図 P.L.80	深鉢 胴部片	口— 底— 高(6.0)	G区h-46	①細砂。白色粒・石英・赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③ややよし	幅2cm10本部状工具による弧状沈線文。	V群
Gh-46G -26 第81図 P.L.80	深鉢 底部片 3/4	口(22.2) 底(4.0) 高(3.7)	G区h-46	①細砂。石英・チャート・輝石・白色粒子少量 ②淡黄2.5Y 7/2 ③良好(硬質)	薄手。胴部R L縄文縦位・斜位施文。底部磨き、やや上底灰味。内面磨き、一部赤色塗彩残存。	V群 外面黒斑 赤色塗彩
Gh-46G -27 第81図 P.L.80	深鉢 口へ胴部片	口(22.2) 底— 高(12.1)	G区h-45, h-46	①中砂。石英・結晶片若多量。白色粒・輝石少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③ややよし	内彎口縁。横位隆帯区画内に2重隆帯による逆の「J」字状刺突文4単位、「C」字状区画文。地文はR L縄文施文。頸部無文帯あり。	V群 外面口縁一部黒変 内面一部黒変 Gh-46-8と同一器体?
Gh-46G -28 第81図 P.L.80	深鉢 胴部片	口— 底— 高(5.0)	G区h-46	①中砂。石英・白色粒・輝石少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③良好	薄手。沈線による三角形区画文。	VI群
Gh-47G -1 第81図 P.L.80	深鉢 口縁片	口— 底— 高(9.0)	G区h-47	①中砂。白色粒・輝石多量。石英少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	口縁より3cm下に横位隆帯貼付、その上に沈線、頸部に波状隆帯貼付。R L縄文充満。	V群
Gh-47G -2 第81図 P.L.80	深鉢 口縁片	口— 底— 高(5.3)	G区h-47	①中砂。白色粒・チャート・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③ややよし	口縁より1.5cm下に竹管状工具による横位沈線。R L縄文横位・縦位施文。	V群 外面煤付着黒変
Gh-47G -3 第81図 P.L.80	深鉢 口縁部突起	口— 底— 高(7.3)	G区h-47	①中砂。白色粒・輝石多量。赤褐色粒・石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや不良	波状口縁。横位短沈線を施す縦位隆帯を2段貼付。	IV群 内面一部黒変
Gh-47G -4 第81図 P.L.80	深鉢 口縁片	口— 底— 高(6.5)	G区h-47	①中砂。赤褐色粒多量。白色粒・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	横位楕円区画文、内面縦位沈線充満。	V群 内面黒変
Gh-47G -5 第81図 P.L.80	深鉢 口縁片	口— 底— 高(5.4)	G区h-47	①中砂。赤褐色粒・石英多量。白色粒・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③ややよし	微線縁による横位弧状貼付文。区画内R L縄文充満。	V群 内面黒変
Gh-47G -6 第82図 P.L.81	深鉢 口縁部把手	口— 底— 高(6.6)	G区h-47	①細砂。5mm塵。輝石・石英・白色粒・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③良好	波状・内彎口縁。櫛状把手下に双弧状細沈線施文。L R縄文充満。	V群 外面口縁～櫛状部煤付着黒変、内面下縁灰化物付着黒変

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (11)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gh-47G -7 第 82回 P.L.81	深鉢	口縁部把手 口一 底一 高(6.2)	G区h-47	①中砂。白色粒・輝石多量、 赤褐色粒・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③良好	波状、内彎口縁。横状把手上に浅沈線による下向き順手文、下に微隆線による弧線文、両側に横位槽内区画内R.L.縄文充填。	V群 内面～外面口縁帯 付着黒変
Gh-47G -8 第 82回 P.L.81	深鉢	口縁部把手 口一 底一 高(5.2)	G区h-47	①細砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③やや良し	波状、内彎口縁。横状把手下に双弧状微隆線貼付、外にR.L.縄文充填。	V群 外面黒変
Gh-47G -9 第 82回 P.L.81	深鉢	胴部片 口一 底一 高(11.2)	G区h-47	①中砂。白色粒極多量、雲母 ・輝石・石英少量 ②褐色10Y R4/1 ③やや良し	縦位2条沈線により胴部分割、0段多 糸R.L.縄文充填。	V群
Gh-47G -10 第 82回 P.L.81	深鉢	胴部片 口一 底一 高(10.1)	G区h-47	①細砂。輝石・白色粒・石英 少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	斜位縦位線、R.L.縄文充填。	V群 内面一部帯付着黒 変外面一部黒変
Gh-47G -11 第 82回 P.L.81	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.5)	G区h-47	①粗砂。結晶片若多量、チャ ート・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③不良	幅5mm竹管状工具による3条沈線状 施文。地文は幅1.2cm 8本櫛状工具 による縦位沈線文。	V群
Gh-47G -12 第 82回 P.L.81	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.2)	G区h-47	①中砂。輝石・赤褐色粒・白 色粒・石英少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③やや良し	横位2条沈線間に円形刺突文、下にR L.縄文横位施文。	V群
Gh-47G -13 第 82回 P.L.81	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.2)	G区h-47	①粗砂。5mm角礫、チャート多 量、輝石・石英・白色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや良し	幅1.1cm 4本櫛状工具による縦位沈 線文。	V群 外面黒斑、赤斑
Gh-47G -14 第 82回 P.L.81	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.4)	G区h-47	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③良好	波状沈線文? R.L.縄文縦位充填。	V群 内外面一部黒変
Gh-47G -15 第 82回 P.L.81	注口 土器	注口片 長(4.9) 幅(3.7) 厚(1.0)	G区h-47	①中砂。輝石・石英・白色粒 子少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③やや悪い	外面磨き。内面磨で。	VI群
Gh-47G -16 第 82回 P.L.81	深鉢	口縁部把手 口一 底一 高(7.8)	G区h-47	①中砂。5mmチャート礫、輝石 ・石英・白色粒・チャート少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③やや良し	波状、内彎口縁。横状把手頂部はラッ パ状に開く。把手上は浅く凹む。把手 下に双弧状微隆線施文、R.L.縄文充填。	V群 内外面黒変
Gh-48G -1 第 82回 P.L.81	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.1)	G区h-48	①中砂。白色粒・赤褐色粒多 量、輝石・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	口唇部内側、折り返し口縁、口縁に幅 5mm粘土細線位貼付、下に横位押圧隆 帯貼付。外面に指紋が残る。	IV群
Gh-48G -2 第 82回 P.L.81	深鉢	口縁片 口(22.8) 底一 高(7.7)	G区h-48	①中砂。石英・白色粒・輝石 多量、赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや良し	波状、内彎口縁。横状把手中央に幅広 浅沈線、下に弧状細沈線、口縁より2. 5cm下に微隆線貼付、L.R.縄文充填。	V群 外面口縁黒変、 下半赤変 内面下半黒変
Gh-48G -3 第 82回 P.L.81	深鉢	口縁部把手 口一 底一 高(6.3)	G区h-48	①細砂。赤褐色粒多量、輝石 ・石英・白色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③良好	波状、内彎口縁。横状把手下に縦沈線 による弧線文。L.R.縄文縦位充填。	V群 外面一部帯付着黒 変
Gh-48G -4 第 82回 P.L.81	深鉢	胴部片 口一 底一 高(8.1)	G区h-48	①中砂。石英・白色粒多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③不良	縦位微隆線により分割、矢羽状沈線充 填。	V群 外面一部帯付着
Gh-48G -5 第 82回 P.L.81	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.1)	G区h-48	①中砂。白色粒・石英多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②淡黄橙10Y R8/4 ③不良	縦位微隆線により分割、L.R.縄文縦位 充填。	V群

第12表 G区グリッド出土土器観察表(12)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gh-48G -6 第82図 P.L.81	深鉢	底部片 口— 底 6.0 高(3.8)	G区 h-48	①中砂、白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい赤褐色Y R5/4 ③やや悪い	底部は厚く、外面中心はやや上底気味となる。内面磨た工具による横で。	V群 内面黒変
Gi-44G -1 第83図 P.L.82	深鉢	胴部片 口— 底— 高(7.9)	G区 i-44	①中砂、赤褐色粒多量、白色粒・石英・輝石少量 ②にぶい黄褐色Y R4/3 ③悪い	横位槽内区画文交点部分。区画内及び下側にR.L.縄文横位施文。	V群
Gi-45G -1 第83図 P.L.82	深鉢	口縁片 1/4 口(26.0) 底— 高(7.1)	G区 h-45, i-45, i-48	①中砂、白色粒多量、輝石・石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	「n」状比線文による懸垂文垂下、その間に断手文施文。4単位?地文はR.L.縄文充満。	V群 内外黒変
Gi-45G -2 第83図 P.L.82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(8.7)	G区 i-45	①中砂、5mm ² 、白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい黄褐色Y R6/4 ③ややよし	「n」状比線文、区画内R.L.縄文充満。	V群 外面保付着(黒変) 内面磨面粗れる
Gi-45G -3 第83図 P.L.82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.5)	G区 i-45	①中砂、結晶片岩多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	隆帯と比線による横位槽円文と逆の「j」字状渦巻文。R.L.縄文充満。	V群
Gi-45G -4 第83図 P.L.82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(8.0)	G区 i-45	①中砂、結晶片岩多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③ややよし	口縁下に横位沈沈線、隆帯による横位槽円文、R.L.縄文縦位施文。	V群
Gi-45G -5 第83図 P.L.82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.8)	G区 i-45	①中砂、白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②黄2.5Y 7/3 ③良好	口唇部外反、横位渦巻文。R.L.縄文充満。	V群 内面口縁炭化物付着(黒変)
Gi-45G -6 第83図 P.L.82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.8)	G区 i-45	①中砂、赤褐色粒・白色粒多量、輝石・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	波状内彎口縁、突起下に横位渦巻文、R.L.縄文充満。内面横位断手文。	V群
Gi-45G -7 第83図 P.L.82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.5)	G区 i-45	①細砂、白色粒子・輝石・石英少量 ②暗灰黄2.5Y 5/2 ③ややよし	波状口縁、「n」状比線、R.L.縄文充満。	V群 外面黒変
Gi-45G -8 第83図 P.L.82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.4)	G区 i-45	①中砂、白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色Y R7/2 ③ややよし	口縁下に2条横位隆帯貼付、その間に矢羽状比線文充満、その下に横位隆帯を貼付し、頸部と区画。	V群 外面一部黒変
Gi-45G -9 第83図 P.L.82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.7)	G区 i-45	①中砂、白色粒・石英・輝石少量 ②にぶい赤褐色Y R5/4 ③良好	口縁下に横位沈線、横位槽円文、胴部縦位沈線、R.L.縄文充満。	V群 外面黒変
Gi-45G -10 第83図 P.L.82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(8.4)	G区 i-45	①中砂、5mm ² 、白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色Y R7/3 ③ややよし	波状口縁、突起下に逆の「j」字状渦巻文。	V群 外面口縁保付着(黒変)
Gi-45G -11 第83図 P.L.82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.6)	G区 i-45	①中砂、白色粒・石英多量、輝石・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y 7/3 ③ややよし	口縁下に横位沈線、横位槽円文、胴部縦位沈線、R.L.縄文充満。比線は極めて浅く不明瞭、隆帯の貼付もない。	V群 内面黒変
Gi-45G -12 第83図 P.L.82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.7)	G区 i-45	①中砂、雲母・白色石英多量 ②にぶい黄褐色Y R7/3 ③ややよし	波状口縁、中央にφ1.5cm程の孔があく。口縁や隆帯頂部に刻み、幅1cm 4本の柳状工具による波状比線文、幅6mm手執竹管による結輪沈線施文。	IV群
Gi-45G -13 第83図 P.L.82	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.1)	G区 i-45	①中砂、赤褐色粒・白色粒子・石英・輝石少量 ②明赤褐色2.5Y R5/6 ③ややよし	口唇部肥厚、口縁下に横位比線、R.L. R複筋縄文横位施文。	V群

第12表 G区グリッド出土土器観察表(13)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
GI-45G -14 第 83回 P.L.82	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.3)	G区 I-45	①中砂。赤褐色粒・白色粒多量、輝石・石英少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③やや良し	口縁下に細沈線、「冂」字状沈線、R.L 縄文充塞。	V群 外面塚付着(黒変)
GI-45G -15 第 83回 P.L.82	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.4)	G区 I-45	①細砂。白色粒・石英・輝石 少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	波状口縁。口縁下に横位沈線、その下 に幅1.6cm 6本帯状工具による縦位沈 線施文。	V群 口縁赤色塗彩
GI-45G -16 第 83回 P.L.82	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.4)	G区 I-45	①中砂。石英・白色粒子多量、 輝石少量 ②灰黄褐10Y R6/2 ③良好(硬質)	口縁下に横位微線施、そこから下に弧 状微線貼付。	V群 内面塚付着(黒変)
GI-45G -17 第 84回 P.L.83	深鉢	口縁部突起 口一 底一 高(3.3)	G区 I-45	①中砂。輝石・石英多量、白 色粒・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	内側口縁。内面・外面・上面の3面に 沈線による渦巻文施文。	V群 上面～内面一部黒 変
GI-45G -18 第 84回 P.L.83	深鉢	口縁部把手 口一 底一 高(7.0)	G区 I-45	①中砂。輝石・石英・白色粒 ・赤褐色粒少量 ②灰黄2.5Y 6/2 ③やや良し	波状、内側口縁。頂部は瘤状に窪む。 柄杓部分欠損。口縁沿いに刺突文2列 が連続し、間に浅沈線を施す。L.R縄 文充塞。	V群 内外面淡く黒変
GI-45G -19 第 84回 P.L.83	蓋	口縁片 1/6 口(10.8) 横一 高(1.7)	G区 I-45	①細砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②褐灰10Y R4/1 ③良好	薄手。φ6mm孔あり。	V群
GI-45G -20 第 84回 P.L.83	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.0)	G区 I-45	①中砂。結晶片岩多量、輝石 ・石英・白色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや良し	刺み付き横位隆帯貼付、両脇に半縦竹 管による平行沈線、下に連続爪形文。	IV群 外面塚付着(黒変)
GI-45G -21 第 84回 P.L.83	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.3)	G区 I-45, i-45	①細砂。石英・白色粒子・輝 石少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好(硬質)	薄手。幅1.8cm 7本の帯状工具による 縦位沈線文。	V群
GI-45G -22 第 84回 P.L.83	深鉢	胴部片 口一 底一 高(11.8)	G区 I-45	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②暗灰黄2.5Y 5/2 ③不良	縦位2条沈線で分割。L.R.L複節縄文 充塞。	V群
GI-45G -23 第 84回 P.L.83	深鉢	底部片 口一 底一 高(3.3) 高(3.7)	G区 I-45	①中砂。赤褐色粒・輝石・石 英・白色粒子少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	縦位2条沈線より分割、L.R.L複節 縄文充塞。	V群 外面底黒変
GI-45G -24 第 84回 P.L.83	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.3)	G区 4 集石 覆土	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③不良	口縁やや内側、弧状沈線、L.R縄文 施文。	V群 外面塚付着黒変
GI-46G -1 第 84回 P.L.83	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.9)	G区 I-46	①細砂。石英・輝石・白色粒 子・赤褐色粒少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③やや悪い	口縁部僅かに内傾。口縁から1.5cm下 に横位細沈線、下に幅1.2cm 5本縦位 沈線充塞。	V群 口唇部黒変 外面黒変
GI-46G -2 第 84回 P.L.83	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.3)	G区 I-46	①中砂。白色粒・輝石多量、 石英・赤褐色粒少量 ②暗灰黄2.5Y 5/2 ③やや悪い	緩い波状口縁。口縁下沿いに幅広浅沈 線、下に弧状沈線文、R.L.R複節縄文 横位充塞。	V群
GI-46G -3 第 84回 P.L.83	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.8)	G区 I-46	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや良し	平口縁。「冂」字状沈線文、R.L縄文口 縁横位、下は縦位施文。	V群
GI-46G -4 第 84回 P.L.83	深鉢	口縁部突起 口一 底一 高(7.2)	G区 I-46	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石多量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	波状、内側口縁。柄杓把手上に浅沈線 による下向き刺突文、下に沈線による 縦位帯形文又は渦巻文、両側は横位帯 形区画文。	V群 内面～口縁部化物 付着黒変

第12表 G区グッド出土土器観察表(14)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
GI-46G -5 第84回 P.L.83	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.5)	G区I-46	①中砂。石英・白色粒多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③不良	縦い波状口縁。口縁沿いに船沈線、突出部分で途切れ、下に弧状細沈線施文。 L.R縄文光肌。	V群
GI-46G -6 第84回 P.L.83	深鉢	口縁片 口一 底一 高(2.6)	G区I-46	①中砂。白色粒多量、石英・ 輝石少量 ②赤褐2.5Y R4/6 ③良好	波状口縁。内側。幅3mm半截竹管による平行沈線、地文はL.R縄文横線施文。	田群
GI-46G -7 第84回 P.L.83	蓋	口縁片 口(12.0) 一 一 高(1.4)	G区I-46	①細砂。輝石・石英・白色粒 子少量 ②黄灰2.5Y5/1 ③良好	内外面無で。中央付近に狭み出し状に 微粒線貼付。	V群
GI-46G -8 第84回 P.L.83	深鉢	胴部片 口一 底一 高(12.7)	G区I-46	①中砂。輝石・石英・白色粒 少量 ②黄灰2.5Y5/1 ③良好	縦い幅広沈線により分割、0段多条R L縄文縦線施文。	V群
GI-46G -9 第84回 P.L.83	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.8)	G区I-46	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③良好(硬質)	高い隆帯による横位槽門区画。竹管状 工具による縦位、斜縦位沈線充満、縦 位2条沈線により分割、波状波線懸垂。 地文はR.L縄文横線施文。	V群 5集石-8に類似
GI-46G -10 第84回 P.L.83	深鉢	胴部片 口一 底一 高(7.2)	G区I-46	①中砂。輝石・石英・白色粒 子・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや悪い	幅1.1cm本柳状工具による縦位波状 沈線文。	V群 内外面一部黒変
GI-46G -11 第84回 P.L.83	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.4)	G区I-46	①中砂。輝石・白色粒・石英 少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	縦位2条沈線により分割、幅6mm本 柳状工具による縦位沈線充満後波状文 懸垂。	V群 外面淡く黒変 内面赤変
GI-46G -12 第84回 P.L.83	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.8)	G区I-46	①中砂。輝石・白色粒・石英 少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	縦位2条沈線により分割、上下兼手沈 線文、L.R縄文縦線施文。	V群
GI-46G -13 第84回 P.L.83	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.0)	G区I-46	①粗砂。結晶片岩・微細雲母 多量、輝石・石英少量 ②灰褐7.5Y R4/2 ③良好	口縁下に横位槽門隆帯貼付、その下に 幅6mm半截竹管による爪形刻み付き隆 帯貼付。	IV群 外面黒付着黒変
GI-46G -14 第84回 P.L.83	深鉢	底部片 口一 底5.0 高(3.7)	G区I-46	①細砂。白色粒・石英・輝石 少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③ややよし	上底かなり小さい。内外面無で。	V群
GI-46G -15 第84回 P.L.83	深鉢	底部片 口一 底(5.2) 高(4.5)	G区I-46	①中砂。白色粒・輝石・石英 少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	小形、底部は厚く、中央はやや凹む。 胴部に2条沈線懸垂。	V群 内面黒変
GI-47G -1 第85回 P.L.84	深鉢	口縁~胴部 口(28.4) 一 一 高(7.7)	G区R-45, I-47	①中砂。結晶片岩・チャート ・石英・輝石少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	口縁下に深い横位沈線施文。「J」字状 細沈線、R.L縄文光肌。	V群 外面口縁黒変
GI-47G -2 第85回 P.L.84	深鉢	口縁片 口一 底一 高5.2	G区I-47	①中砂。白色粒子・石英・輝 石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや不良	口唇部肥厚、やや内傾。口縁下に横位 幅広沈線、その下に横位槽門区画文。 L.R縄文横線施文。	V群 外面黒変
GI-47G -3 第85回 P.L.84	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.2)	G区I-47	①細砂。白色粒子・石英多量、 輝石・赤褐色粒子少量 ②橙5Y R6/6 ③やや不良	波状口縁。口縁沿いに沈線、その下に 「J」字状沈線施文、その外側にR.L細 縄文充満。	V群 外面黒付着(黒変)
GI-47G -4 第85回 P.L.84	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.8)	G区I-47	①中砂。石英・白色粒子多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや不良	波状口縁。口縁沿いに刺突文、その下 に細沈線が紛う。突出部下には「J」字 状細沈線、L.R縄文充満。	V群 外面口縁黒付着 (黒変)

第12表 G区グリッド出土土器観察表(15)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・形状の特徴	備考
GI-47G-5 第 858回 P.L.84	深鉢	口縁片 □— 底— 高(4.7)	G区 I-47	①中砂。白色粒子・石英・輝石少量 ②赤褐色2.5Y R5/6 ③やや不良	幅広い波状口縁。口唇部外反。口縁下に幅広浅沈線が沿う。波状突出部下に弧状沈線施文。R.L.細かゝ編文充満。	V群 外面一部保付着(黒染)
GI-47G-6 第 858回 P.L.84	深鉢	口縁～胴部 □— 底— 高(5.6)	G区 I-47	①細砂。白色粒子・赤褐色粒子・輝石・石英少量 ②灰黄褐色10Y R5/2 ③やや不良	口縁部に狭み出し状の突起貼付。胴部から口縁沿いに横位沈線施文。L.R.編文縦位施文。	V群 内外黒染
GI-47G-7 第 858回 P.L.84	深鉢	口縁片 □— 底— 高(3.8)	G区 I-47	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	口縁下に幅広沈線。「T」字形に細線貼付。その脇は無で、R.L.編文縦位施文。	V群 外面口縁一部黒染
GI-47G-8 第 858回 P.L.84	深鉢	口縁片 □— 底— 高(4.3)	G区 I-47	①中砂。輝石・赤褐色粒・白色粒・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③不良	口唇部やや肥厚。口縁下に横位沈線。その下に横位矢羽状沈線施文。	V群 器面粗れる
GI-47G-9 第 858回 P.L.84	深鉢	口縁片 □— 底— 高(4.3)	G区 I-47	①中砂。白色粒子・石英・赤褐色粒子・輝石少量 ②灰黄褐色10Y R5/2 ③やや悪い	波状口縁？薄手。口縁下に細長い刺突文、横位沈線。L.R.編文充満。	V群 外面黒染
GI-47G-10 第 858回 P.L.84	深鉢	胴部片 □— 底— 高(5.5)	G区 I-47	①中砂。結晶片岩・チャート多量、石英・白色粒子少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	隆帯による「」字状刺突文、R.L.編文充満。	V群 外面赤黒染
GI-47G-11 第 858回 P.L.84	深鉢	胴部片 □— 底— 高(6.9)	G区 I-47	①中砂。石英・チャート・赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好(硬質)	横位隆線により区画。胴部は縦位2条沈線により分帯。R.L.編文充満。	V群
GI-47G-12 第 858回 P.L.84	深鉢	底部片 □— 底 6.2 高(4.2)	G区 I-47	①中砂。白色粒子・石英・赤褐色粒・輝石少量 ②灰黄褐色10Y R6/3 ③良好	底部はやや丸底気味。薄手。L.R.編文縦位～斜縦位施文。	V群 外面底部保付着(黒染)
GI-47G-13 第 858回 P.L.84	浅鉢	口縁片 □— 底— 高(3.4)	G区 I-47	①粗砂。白色粒多量、赤褐色粒・輝石・石英少量 ②にぶい赤褐色2.5Y R5/4 ③ややよし	波状、内傾口縁。幅8mm本型工具による横位沈線。地文はL.R.編文横位施文。	III群
GI-48G-1 第 858回 P.L.84	浅鉢	胴部～胴部 □— 底— 高(5.8)	G区 h-47, i-47, i-48	①中砂。白色粒子・輝石・石英少量 ②赤褐色2.5Y R4/6 ③良好	胴部は横位磨き。幅5mm半截竹管による爪形文1条横位施文。胴部はR.L.編文施文。	III群 内面一部黒染
Gk-46G-1 第 898回 P.L.85	深鉢	底部片 □— 底(7.0) 高(3.2)	G区 k-46	①中砂。白色粒・輝石・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	胴部縦位磨き。2条沈線により縦位分帯。底部内外磨き。	V群 被熱、器面剥落
GI-48G-1 第 898回 P.L.85	深鉢	口縁片 □— 底— 高(3.3)	G区 I-48	①細砂。輝石・石英多量、白色粒子少量 ②にぶい褐色7.5Y R5/3 ③ややよし	内傾口縁。口唇部内反。口縁部貼付、横位刻み列施文。隆帯脇に沈線施文。	IV群
GI-48G-2 第 898回 P.L.85	深鉢	口縁部把手 □— 底— 高(5.5)	G区 I-48	①中砂。輝石・石英・白色粒多量、赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	内傾口縁。橋状把手上に浅沈線による扇状渦巻文、両側に横位楕円区画。下に弧状沈線。沈線内に赤色線形残る。	V群 外面赤色線形 内面炭化物付着黒染
GI-48G-3 第 898回 P.L.85	深鉢	口縁片 □— 底— 高(2.8)	G区 I-48	①細砂。輝石・石英・白色粒子少量 ②にぶい黄橙10Y R6/3 ③ややよし	内傾口縁。口縁下に横位沈線+半月形刺突文。その下に「n」状細沈線。R.L.細編文充満。	V群 外面保付着(黒染)
GI-48G-4 第 898回 P.L.85	深鉢	口縁部把手 □— 底— 高(8.6)	G区 I-48	①粗砂。8mm赤褐色粒多量、輝石・石英・白色粒子少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや悪い	かなり大形の口縁部把手部分と思われる。両側に沈線間にφ5mm程の連続円形刺突文を施す。	V群

第12表 G区グリッド出土土器観察表(16)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、或・整形の特徴	備考
Gn-48G-5 第89回 P.L.85	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.7)	G区1-48	①中砂。5mmチャート、白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②ふい黄褐色10Y R7/3 ③良好(硬質)	低隆線と沈線による横位楕円区画内R.L.縄文充填。	V群 外面一部黒変
Gn-48G-6 第89回 P.L.85	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.0)	G区1-48	①中砂。チャート・輝石・石英・白色粒少量 ②ふい黄褐色10Y R7/3 ③良好(硬質)	縦位2条1単位沈線により分割、R.L.縄文縦位充填後緩い波状沈線懸垂。	V群 外面一部黒変
Gm-48G-1 第89回 P.L.85	深鉢	口縁片 口一 底一 高(10.3)	G区m-48	①粗砂。石英多量、白色粒子・赤褐色粒・輝石少量 ②ふい黄褐色10Y R6/4 ③悪い	波状口縁、突起下で横位楕円文、胴部に沈線による「n」字状懸垂文。R.L.縄文充填。	V群 内面黒斑
Gm-48G-2 第89回 P.L.85	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.8)	G区m-48, m-49	①中砂。赤褐色粒多量、輝石・白色粒子少量 ②ふい橙7.5Y R7/4 ③ややよし	沈線による弧状文。L.R.縄文口縁横位、下縦位充填。	V群 外面黒斑
Gm-48G-3 第89回 P.L.85	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.8)	G区m-48	①中砂。赤褐色粒多量、輝石・白色粒子少量 ②ふい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	口縁下に横位沈線。横位楕円文、間の隆帯は太く高い。L.R.縄文充填。	V群 外面一部黒変
Gm-48G-4 第89回 P.L.85	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.4)	G区m-48	①細砂。白色粒子多量、石英・輝石少量 ②明赤褐色2.5Y R5/6 ③良好(硬質)	波状口縁、突起部分外反。突起下に逆「の」字状渦巻文。R.L.縄文充填。	V群 口縁一部黒斑
Gm-48G-5 第89回 P.L.85	風形土器	胴部片 口一 底一 高(4.8)	G区m-48	①細砂。白色粒子・石英・輝石少量 ②褐色10Y R5/1 ③良好(硬質)	微隆線による渦巻文。内外面ともよく研磨後焼し。	V群 内外面赤色塗彩
Gm-48G-6 第89回 P.L.85	深鉢	胴部片 口一 底一 高(13.3)	G区m-48, n-48, n-49	①中砂。輝石・石英・白色粒子・赤褐色粒少量 ②ふい黄褐色10Y R6/3 ③良好	沈線による縦位花弁状波状2段段文。R.L.縄文充填。	V群 内外面一部煤付着(黒変)
Gm-48G-7 第89回 P.L.85	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.3)	G区m-48	①中砂。白色粒子・石英多量、赤褐色粒多量、輝石少量 ②ふい黄褐色10Y R5/3 ③やや不良	横位2条連続刺突文、その下に2条細沈線による横位楕円文。	V群 器面風化
Gm-48G-8 第89回 P.L.85	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.7)	G区m-48	①細砂。赤褐色粒・白色粒子・輝石・石英少量 ②洗黄2.5Y 7/3 ③良好(硬質)	胴部縦位沈線による分割、間に「U」字状文、その下に順手文。R.L.縄文充填。	V群
Gm-48G-9 第89回 P.L.85	深鉢	底部片 1/4 口一 底(4.0) 高(6.0)	G区m-48	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	縦位2条～3条沈線により分割、R.L.縄文充填。	V群
Gm-48G-10 第89回 P.L.85	深鉢	底部片 口一 底(4.2) 高(3.3)	G区m-48	①細砂。白色粒子多量、石英・輝石少量 ②ふい黄7.5Y R5/4 ③やや不良	部厚いつくり、底はやや丸味をもつ。胴部撫で、無文。	V群
Gm-48G-11 第89回 P.L.85	深鉢	胴部片 1/3 口一 底一 高(9.8)	G区m-48, m-49, o-48	①中砂。輝石・白色粒・赤褐色粒・石英少量 ②ふい黄褐色10Y R7/3 ③ややよし	胴部「U」「n」字状沈線文、R.L.縄文充填。	V群
Gn-48G-1 第90回 P.L.86	深鉢	口縁片 口一 底一 高(8.6)	G区n-48	①中砂。石英多量、チャート・輝石・白色粒子少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	波状口縁、突起部外反。沈線による横位楕円文、L.R.縄文充填。沈線や隆帯は浅く不明瞭。内面黒線文。	V群 内面煤付着(黒変)
Gn-48G-2 第90回 P.L.86	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.6)	G区n-48	①細砂。赤褐色粒多量、白色粒子・輝石少量 ②ふい赤褐色5Y R5/4 ③良好	波状口縁、突起下に沈線による逆「の」字状渦巻文、横位楕円文、R.L.縄文充填。	V群 外面一部煤付着(黒変)

第12表 G区グリッド出土土器観察表(17)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①粘土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gn-48G -3 第 90回 P.L.86	深鉢	口縁片 □— 底— 高(7.8)	G区 n-48	①粗砂。赤褐色粒少量、白色 粒子・輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/3 ③やや悪い	弧状沈線文、L.R縄文充満。	V群 外面一部保付着 (黒炭)
Gn-48G -4 第 90回 P.L.86	深鉢	口縁片 □— 底— 高(5.2)	G区 n-48	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/4 ③良好	横位閉口文、淡色文、0段3条R.L.R 複線縄文充満。	V群
Gn-48G -5 第 90回 P.L.86	深鉢	口縁片 □— 底— 高(6.1)	G区 n-48	①中砂。白色粒少量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/4 ③良好	口縁下に横位2条組広浅沈線、下にR L縄文充満。	V群 外面黒斑
Gn-48G -6 第 90回 P.L.86	深鉢	口縁片 □(22.6) 底— 高 3.8	G区m-48, n-48	①中砂。赤褐色粒・輝石・白 色粒・石英少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや良し	「冂」字状沈線文、内部に縦手状沈線 施文。R.L縄文口縁横位、他縦位・斜 位施文。	V群 内外面黒炭
Gn-48G -7 第 90回 P.L.86	深鉢	底部片 □— 底(4.2) 高(4.5)	G区 n-48	①中砂。石英・赤褐色粒少量、 輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③やや悪い	上底、底径は小さく、胴部との境は耳 飾り状に括れ立ち上がる。	V群
Gn-48G -8 第 90回 P.L.86	深鉢	胴部片 1/3 □— 底— 高(10.9)	G区m-48, n-48	①中砂。5mm角粒、白色粒子 ・輝石・石英少量 ②明赤褐2.5Y R5/8 ③やや悪い	縦位3条沈線により分割、R.L縄文縦 位充満。	V群 外面黒炭風化
Gn-48G -9 第 90回 P.L.86	深鉢	胴部片 □— 底— 高(12.9)	G区 n-48	①中砂。石英・輝石・赤褐色 粒・チャート少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③やや良し	隆帯と四編の浅沈線による訓色又は槽 施文。R.L縄文口縁横位2条沈線により分割、 R.L縄文充満。	V群 内外面一部黒炭
Gn-48G -10 第 90回 P.L.86	深鉢	胴部片 □— 底— 高(5.8)	G区 n-48	①細砂。赤褐色粒・白色粒子 ・石英・輝石少量 ②褐10Y R4/4 ③良好	頸部横位微線とその上縁に浅沈線、 縦位2条沈線により割部分割、0段3 条R.L.R縄文充満。	V群 外面炭化物付着 (黒炭)
Gn-48G -11 第 90回 P.L.86	深鉢	底部片 □— 底 7.2 高(3.3)	G区 n-48	①中砂。白色粒・石英・輝石 ・赤褐色粒少量 ②明黄褐10Y R6/6 ③やや悪い	縦位沈線で割部分割。器面磨き。	V群 器面風化
Gn-48G -12 第 90回 P.L.86	深鉢	胴部片 □— 底— 高(9.9)	G区 n-48	①中砂。白色粒・赤褐色粒多 量、輝石・石英少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③やや良し	横位2条隆帯、弧状隆帯貼付。上下の 区画内に幅2mm棒状工具による横位・ 斜位沈線充満。	V群
Gk-49G -1 第 91回 P.L.87	浅鉢	口縁片 □— 底— 高(7.2)	G区 k-49	①中砂。石英・チャート少量、 白色粒・赤褐色粒少量 ②浅黄褐10Y R8/4 ③良好	口唇部上端平坦で断面方形、2cm下に 横位沈線、胴部弧状に赤色塗彩残る。 内面も部分的に赤色塗彩残る。	V群 口唇部黒斑 赤色塗彩
Gk-49G -2 第 91回 P.L.87	深鉢	胴部片 □— 底— 高(6.0)	G区 k-49	①中砂。白色粒少量、石英・ 輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③やや良し	幅7mm半箆竹管による横位平行沈線2 単位3条施文。R.L縄文横位施文。	II群
Gk-49G -3 第 91回 P.L.87	深鉢	底部片 1/4 □— 底(9.0) 高(4.7)	G区 k-49	①中砂。赤褐色粒・白色粒・ 輝石・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	非常に薄手。外面割部磨き。底面網代 板あり。内面磨き。	II群 内面黒炭 器面剥落
Gk-50G -1 第 91回 P.L.87	深鉢	胴部片 □— 底— 高(6.9)	G区 k-50	①中砂。白色粒・石英少量、 輝石・赤褐色粒少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③やや悪い	横位3条沈線、地文は横赤文R縦位施 文。	V群 外面一部保付着
Gf-49G -1 第 91回 P.L.87	深鉢	口縁片 □— 底— 高(8.4)	G区 I-49	①中砂。赤褐色粒・石英少量、 輝石・白色粒少量 ②橙2.5Y R6/8 ③やや良し	波状、内湾口縁。口唇部に沈線による 逆「J」字状渦巻文、その下に沈線による 逆「J」字状渦巻文、R.L縄文充満。	V群 器面風化

第12表 G区グリッド出土土器観察表(18)

番号	器種	器目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③構成	文様、成・整形の特徴	備考
GI-49G-2 第91図 P.L.87	深鉢	口縁片 □— 底— 高(8.1)	G区1-49	①中砂、白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/3 ③良好	波状口縁、やや内傾。突起下に渦巻文は円形文、右に横位楕円区画文、R.L.縄文光輝。	V群 外面一部黒変
GI-49G-3 第91図 P.L.87	深鉢	口縁片 □— 底— 高(7.6)	G区1-49	①中砂、白色粒少量、輝石・石英少量 ②明赤褐色5Y R5/6 ③ややよし	波状口縁。口縁下に横位帯帯貼付、弧状隆帯に三角隆帯連結、波状沈線。地文は黒赤文L縦位施文。	V群 外面帯付着黒変
GI-49G-4 第91図 P.L.87	深鉢	口縁片 □— 底— 高(5.0)	G区1-49	①中砂、白色粒・輝石少量 ②黄褐色2.5Y R/4 ③ややよし	口縁やや直立気味、口唇部肥厚。横位楕円文、渦巻文、内部R.L.縄文光輝。	V群
GI-49G-5 第91図 P.L.87	深鉢	口縁片 □— 底— 高(6.2)	G区1-49	①中砂、白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/2 ③良好	波状口縁。渦巻文、楕円区画内R.L.縄文光輝。	V群 内面下端黒変
GI-49G-6 第91図 P.L.87	深鉢	口縁片 □— 底— 高(5.1)	G区1-49	①中砂、白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y 7/3 ③ややよし	口縁内傾。口唇部に刻み、内面1条横位線縁貼付、半截竹管による6条横位平行沈線。外面口縁下へ頸部に横位沈線+「U」状沈線。L.R.細縄文光輝。	V群
GI-49G-7 第91図 P.L.87	深鉢	胴部片 □— 底— 高(5.1)	G区1-49	①中砂、石英少量、輝石・白色粒・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③ややよし	細沈線による「U」字状文、「八字」状沈線文、内部にL.R.細縄文光輝。	V群 内面黒変
GI-49G-8 第91図 P.L.87	深鉢	胴部片 □— 底— 高(6.9)	G区1-49	①中砂、チャート・石英・輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③良好(硬質)	胴部縦位2条沈線により分割、R.L.縄文縦位光輝後沈線磨滅。	V群 内面黒変
GI-49G-9 第91図 P.L.87	浅鉢	胴部片 □— 底— 高(4.6)	G区1-49	①細砂、輝石・石英・白色粒少量 ②暗赤褐色5Y R3/3 ③良好	有幾層折口縁。内外面ともよく研磨。	Ⅲ群 G1-49-11、 G1-50-5と 同一個体?
GI-49G-10 第91図 P.L.87	深鉢	頸部片 □— 底— 高(9.3)	G区1-49	①中砂、輝石・石英・白色粒少量 ②にぶい赤褐色5Y R5/4 ③ややよし	口縁部文様帯横位隆帯で区画、上縁に沈線、その両脇に半截竹管による刻み底文。頸部無文帯帯磨き、横位3条沈線により頸部と区画。	V群 外面一部黒変
GI-49G-11 第91図 P.L.87	浅鉢	□〜体部1/4 □— 底— 高(9.2)	G区1-49	①中砂、輝石・石英・白色粒少量 ②赤褐色2.5Y R4/6 ③良好	有幾層折口縁。口縁〜頸部横位磨き。幅5mm半截竹管による彫形文。体部R.L.縄文横位、斜位施文。	Ⅲ群 G1-49-9、 G1-50-5と 同一個体?
GI-49G-12 第91図 P.L.87	深鉢	底部片 □— 底 8.4 高(3.0)	G区1-49	①中砂、白色粒少量、石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/4 ③やや悪い	外面胴部縦位磨き、底面上磨きで磨面磨き。底部と胴部の変換点は焼成後研磨。内面無文、接合痕を明顯に残す。	V群
GI-49G-13 第91図 P.L.87	深鉢	胴下〜底部 □— 底(9.0) 高(4.5)	G区1-49、 1-50	①中砂、5mm混、白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい暗5Y R6/4 ③やや悪い	黒赤文L縦位施文。	V群 内面炭化物付着黒変 外面黒く黒・赤変
GI-50G-1 第91図 P.L.87	深鉢	口縁片 □— 底— 高(4.8)	G区1-50	①中砂、輝石・石英・白色粒少量 ②暗赤褐色10 Y 4/1 ③良好	縦い波状口縁。口縁下に沈線と隆帯、途中に隆帯による逆の「U」字状渦巻文、下に2重隆帯による横位楕円区画、黒赤文L横位光輝。	V群 外面黒変
GI-50G-2 第92図 P.L.88	深鉢	頸〜胴部1/2 □— 底— 高(23.5)	G区1-47、 1-49、 1-50	①細砂、輝石・白色粒子少量、石英少量 ②褐色5Y R6/6 ③ややよし	爪形刻み付き横位隆帯2条により頸部無文帯区画。同隆帯両側に沈線施文。胴部に黒赤文L縦位施文。	V群 外面帯付着黒変
GI-50G-3 第92図 P.L.88	深鉢	口縁片 □— 底— 高(3.7)	G区1-50	①中砂、白色粒少量、輝石・石英・赤褐色粒・チャート少量 ②淡黄2.5Y R/3 ③ややよし	幅4mm半截竹管による矢羽状沈線文、その下に同竹管による横位平行沈線2単位4条、両者の間にφ1.3cmのボタン状貼付文。	Ⅲ群 外面口縁黒変

第12表 G区グリッド出土土器観察表(18)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①粘土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
GI-50G -4 第 92図 P L.88	深鉢	口縁片 □ 一 底一 高(6.3)	G区1-50	①中砂。白色粒・石英・輝石 多量 ②にぶい褐7.5Y R5/3 ③やや良し	波状口縁。突起下に沈線による「」字 状渦巻文、口縁下に沈線が沿う。渦巻 下に長状隆帯による横円区画、区画内 縦位沈線充満。	V群 外面口縁黒変
GI-50G -5 第 92図 P L.88	浅鉢	口縁~胴部 □ 一 底一 高(3.9)	G区1-50	①中砂。輝石・石英・白色粒 少量 ②赤褐2.5Y R4/6 ③良好	有稜屈折口縁。内外面横位磨き、内面 に接合痕及び指痕或残す。	II群 G1-49-9・11と 同一個体?
GI-50G -6 第 92図 P L.88	深鉢	胴部片 □ 一 底一 高(8.7)	G区1-50	①粗砂。結晶片岩・微細雲母多 量、石英・チャート・輝石少量 ②にぶい赤褐5Y R5/3 ③良好	寛状工具による縦位沈線と斜行沈線に より帯目字文施文。	V群
GI-50G -7 第 92図 P L.88	深鉢	胴部片 □ 一 底一 高(8.8)	G区1-50	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②にぶい赤褐5Y R5/3 ③不良	中央に横位隆帯と脇沿いの沈線により 上下区画。破片上端にL R縄文施文。 地文は幅1.2cm 5本帯状工具による縦 位沈線文。	V群 外面淡く黒変
GI-50G -8 第 92図 P L.88	深鉢	胴部片 □ 一 底一 高(4.5)	G区1-50	①中砂。チャート多量、石英 ・輝石・白色粒子少量 ②橙2.5Y R6/8 ③やや良し	竹管状工具による横位沈線により胴部 と区画。上に列点文、下に斜行沈線施 文。	VI群
GI-50G -9 第 92図 P L.88	深鉢	胴部片 □ 一 底一 高(5.3)	G区1-50	①中砂。白色粒・角閃石・輝石 多量、石英・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③やや悪い	縦位3条沈線途中に帯手状渦巻沈線 文、R L縄文縦位充填後波状沈線懸垂。	V群 内面炭化物付着黒 変
GI-51G -1 第 92図 P L.88	深鉢	胴部片 □ 一 底一 高(7.3)	G区1-51	①中砂。赤褐色粒多量、白色 粒・輝石少量 ②にぶい褐7.5Y R7/4 ③やや悪い	縦位3条沈線により分割、幅1.0cm 5 本帯状工具による波状、斜行沈線文。	V群 外面下端黒変
Gm-49G -1 第 92図 P L.88	深鉢	口縁片 □ 一 底一 高(9.7)	G区m-49	①中砂。赤褐色粒・輝石・石 英・白色粒子少量 ②橙5Y R6/8 ③やや良し	波状口縁。突起部分は反外し、その下 に渦巻又は横円沈線文、隆帯は高く三 叉部は幅1.5cmの円形凹み施文。内部 R L縄文充満。	V群 内外面赤変部あり
Gm-49G -2 第 92図 P L.88	深鉢	口縁片 □(19.0) 一 底一 高(8.4)	G区m-49, n-48	①中砂。白色粒子・輝石・石 英少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③良好	平縁。口唇部に幅5mm程の沈線が一条 通り区画、口縁部刻文文、2条沈線に よる曲・直線文施文。条間の粗いL R 縄文充満。	VI群 内外面黒斑
Gm-49G -3 第 92図 P L.88	深鉢	口縁片 □ 一 底一 高(7.8)	G区m-49	①中砂。5mm磨、赤褐色粒多 量、白色粒子・輝石・少量 ②橙5Y R6/6 ③やや良し	波状口縁。突起下に沈線による「」字 状渦巻文施文。	V群
Gm-49G -4 第 92図 P L.88	深鉢	口縁片 □ 一 底一 高(6.3)	G区m-49	①細砂。4mmチャート片、白色粒 子・輝石・石英・赤褐色粒子少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③やや良し	横位横円文、渦巻文施文。隆帯は比較 的高くしっかりしている。L R縄文充 満。	V群 外面淡く黒変
Gm-49G -5 第 92図 P L.88	深鉢	口縁片 □ 一 底一 高(3.8)	G区m-49	①細砂。赤褐色粒・輝石・石 英少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③良好(硬質)	緩い波状口縁。横位横円文、渦巻文施 文。R L縄文充満。口唇部沈線は突起 部分で途切れる。	V群
Gm-49G -6 第 92図 P L.88	深鉢	胴部片 □ 一 底一 高(11.2)	G区m-49	①中砂。白色粒・赤褐色粒多 量、輝石・石英少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや不良	細沈線による「n」字状文、間に「V」 字状文。途中に帯手状沈線文施文。R L縄文縦位充満。	V群 外面風化 内面黒変
Gm-49G -7 第 92図 P L.88	深鉢	胴部片 □ 一 底一 高(7.7)	G区m-49	①中砂。白色粒子・石英多量、 輝石・赤褐色粒子少量 ②橙5Y R6/6 ③やや不良	3条縦位沈線により胴部分割、L R縄 文充満。	V群 内面黒変
Gm-49G -8 第 92図 P L.88	深鉢	口辺部片 □ 一 底一 高(5.5)	G区m-49	①粗砂。赤褐色粒多量、白色 粒子・石英・輝石少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③やや不良	横位隆帯の上下端に幅8mmの円形刻 文列が沿う。その下に横位沈線、R L 縄文施文。	V群

第12表 G区グリッド出土器類表(20)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gm-50G -1 第 92回 P.L.88	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.2)	G区m-50	①細砂。石英・輝石・白色粒子少量 ②褐色5Y R6/6 ③良好	口縁部φ8mm円形刺突文列が沿う。その下に横位沈線、弧線文施文。LR縄文充填。	V群 口唇部一部外反
Gm-50G -2 第 93回 P.L.89	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.8)	G区m-50	①中砂。白色粒子・石英・輝石多量 ②にぶい褐色7.5Y R6/4 ③やや悪い	口縁下に横位沈線、隆帯による横位槽円文、交点下に「J」字状渦巻文施文。横門区画内に縦位沈線充填。	V群 内外面一部黒変
Gm-50G -3 第 93回 P.L.89	浅鉢	把手 口一 底一 高(6.3)	G区m-50	①中砂。白色粒子・輝石・石英・赤褐色粒子少量 ②褐色7.5Y R7/6 ③ややよし	把手の中央部が浅く凹む。外面磨き、内面撫で。	V群
Gm-50G -4 第 93回 P.L.89	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.9)	G区m-50	①中砂。白色粒・輝石・石英・チャート少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/3 ③良好	横位沈線。その下に「J」状沈線。RL縄文施文。	V群
Gm-50G -5 第 93回 P.L.89	深鉢	底部片 口一 底(4.0) 高(3.0)	G区m-50	①細砂。輝石・石英・白色粒子少量 ②状黄褐色10Y R6/2 ③良好	薄手。底部中央はやや上底ぎみ。内外面磨き。	田群 外面淡く黒変
Gm-51G -1 第 93回 P.L.89	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.5)	G区m-51	①中砂。石英・白色粒子多量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/4 ③やや悪い	波状口縁。横位槽円文又は渦巻文、区画内LR縄文充填。	V群
Gm-51G -2 第 93回 P.L.89	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.2)	G区m-51	①粗砂。赤褐色粒多量、輝石・石英・白色粒子少量 ②にぶい褐色5Y R6/4 ③不良	横位隆帯2条。その下に弧状沈線文。	V群
Gm-51G -3 第 93回 P.L.89	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.7)	G区m-51	①中砂。白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい褐色5Y R6/4 ③ややよし	縦位2条沈線により胴部分割。その間に脈手状沈線文施文。RL縄文縦位充填。	V群
Gm-49G -1 第 93回 P.L.89	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.2)	G区n-49	①中砂。白色粒・輝石・石英・チャート・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/4 ③良好	横位槽円文、RLR複形縄文充填。	V群
Gm-49G -2 第 93回 P.L.89	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.7)	G区n-49	①中砂。チャート・赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③良好	波状口縁。突起外反。外面渦巻沈線文、内面突起下に「J」字状渦巻沈線文、口縁沿いに沈線施文。	V群
Gm-49G -3 第 93回 P.L.89	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.2)	G区n-49	①中砂。白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/3 ③やや悪い	浅い横位沈線間に円形刺突文、胴部弧線文RL縄文充填。	V群
Gm-49G -4 第 93回 P.L.89	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.4)	G区n-49	①中砂。8mmチャート粒・白色粒・輝石多量、石英・チャート・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R5/3 ③ややよし	上「U」字状、下「J」字状沈線文施文。内部LR縄文充填。	V群
Gm-49G -5 第 93回 P.L.89	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.1)	G区n-49	①細砂。石英・白色粒子多量、輝石・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄褐色10Y R5/4 ③ややよし	横位槽円文又は渦巻文、RL縄文充填。	V群 外面一部黒変
Gm-49G -6 第 93回 P.L.89	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.7)	G区n-49	①中砂。結晶片若多量、輝石・石英・白色粒・チャート少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③やや悪い	弧状隆帯。隆に沈線が沿い横位弧状沈線下に斜め縦位沈線施文。	V群
Gm-49G -7 第 93回 P.L.89	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.9)	G区n-49	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒子・輝石・石英少量 ②褐色7.5Y R4/3 ③不良	弧状隆帯。洗滌帯間にφ1.5cmの浅い円形凹み。RL縄文充填。	V群

第12表 G区グリッド出土土器観察表(21)

番号	部種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Gn-49G -8 第 93回 P L 89	深鉢	胴部片 □ 口一 底一 高(6.4)	G区 n-49	①中砂、白色粒・輝石・石英・赤褐色粒・チャート少量 ②にぶい黄褐色10Y R 6/3 ③やや良し	横位沈線下に幅2cm 8本環状工具による沈線文。	V群
Gn-49G -9 第 93回 P L 89	深鉢	底部片 1/6 □(10.6) 口一 底一 高(4.2)	G区 n-49	①粗砂、白色粒・赤褐色粒・輝石少量 ②橙5Y R 6/8 ③やや良し	縦位2条沈線で胴部分割、R L 縄文充満。	V群 内面黒変
Gn-49G -10 第 93回 P L 89	浅鉢	底部片 □ 口一 底(7.2) 高(2.6)	G区 n-49	①中砂、赤褐色粒少量、石英・チャート・輝石少量 ②にぶい赤褐色5Y R 5/4 ③やや良し	薄手、体部磨き、底部中央は特に薄くやや上底ぎみ。	V群 外面炭化物付着(黒変)
Gn-50G -1 第 93回 P L 89	深鉢	口縁片 □ 口一 底一 高(8.7)	G区 n-50	①中砂、石英少量、赤褐色粒・輝石・白色粒子・チャート少量 ②にぶい黄褐色10Y R 6/4 ③やや良し	波状口縁、突起部外反。沈線による逆「J」字状渦巻文、L R 縄文充満。	V群 内面黒変
Gn-50G -2 第 93回 P L 89	浅鉢	口縁片 □ 口一 底一 高(5.1)	G区 n-50	①細砂、輝石・石英・チャート・赤褐色粒子少量 ②にぶい黄褐色10Y R 7/4 ③良好(硬質)	口縁部磨き。口縁から2.5cm下に横位2条沈線、その間に幅3mm竹管による刺突文、その下に幅3mm斜行沈線施文。	VI群
Gn-50G -3 第 93回 P L 89	深鉢	胴部片 □ 口一 底一 高(7.3)	G区 n-50	①中砂、輝石・石英・白色粒子少量 ②橙2.5Y R 6/8 ③やや良し	縦位2条沈線により胴部分割、R L 縄文縦位充満。	V群
Gn-50G -4 第 93回 P L 89	深鉢	胴部片 □ 口一 底一 高(3.9)	G区 n-50	①中砂、赤褐色粒・輝石・石英少量 ②にぶい黄褐色10Y R 7/3 ③良好(硬質)	渦巻文又は精文、横位隆帯途中にφ1.2cmの円形刺突文、R L R 複筋縄文充満。	V群
Gn-50G -5 第 93回 P L 89	深鉢	胴部片 □ 口一 底一 高(6.2)	G区 n-50	①中砂、石英・白色粒子少量、輝石・チャート少量 ②橙7.5Y R 6/6 ③良好	幅3mm平截竹管による斜格子文、貼付文。	III群
Gn-50G -6 第 93回 P L 89	浅鉢	口縁片 □ 口一 底一 高(3.4)	G区 n-50	①中砂、5mm粒、輝石・石英・白色粒子少量 ②橙5Y R 6/6 ③やや良し	波状口縁。逆「く」の字状に折曲する。幅3mm平截竹管による平行沈線を口縁下と体部との変換部分に施文。	III群
Gn-51G -1 第 93回 P L 89	深鉢	胴部片 □ 口一 底一 高(7.9)	G区 n-51, n-52	①中砂、白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R 6/6 ③やや良し	縦位2条沈線により胴部分割、R L 縄文縦位充満。	V群
Go-47G -1 第 94回 P L 90	深鉢	口縁片 □ 口一 底一 高(11.5)	G区 o-47	①中砂、輝石・白色粒・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R 7/4 ③やや良し	微隆線を横位、縦位「T」字状貼付、分割。無文部幅が広い。L R 縄文充満。	V群 外面黒変
Go-47G -2 第 94回 P L 90	深鉢	胴部片 □ 口一 底一 高(7.0)	G区 o-47	①中砂、白色粒・石英・赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R 7/3 ③良好	「V」字状波状沈線2段施文? R L 縄文量位充満。	V群 外面黒変
Go-47G -3 第 94回 P L 90	深鉢	胴部片 □ 口一 底一 高(5.2)	G区 o-47	①中砂、白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R 6/4 ③良好	縦位3条沈線により胴部分割、R L 縄文縦位充満後波状沈線施文。	V群 内面磨面粗れる
Go-48G -1 第 94回 P L 90	深鉢	口縁片 □ 口一 底一 高(5.6)	G区 o-48	①中砂、白色粒極少量、輝石・石英少量 ②にぶい黄褐色10Y R 6/3 ③やや不良	口唇部肥厚、内傾。隆帯と脇沈線による横位格子文、R L 縄文横位充満。	V群 外面黒変
Go-48G -2 第 94回 P L 90	深鉢	口縁片 □ 口一 底一 高(4.3)	G区 o-48	①中砂、赤褐色粒少量、白色粒・石英・輝石少量 ②橙7.5Y R 7/6 ③やや良し	薄手。突起部外反、波状口縁。口縁沿いに幅広沈線、渦巻沈線文、φ1.3cm 円形文。	V群 外面一部黒変

第12表 G区グリッド出土土器観察表(22)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
Go-48G -3 第 94回 P.L.90	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.0)	G区 0-48	①中砂。赤褐色粒・石英・白色粒子・輝石少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや不良	口縁下に横位沈線。沈線による横位横円文、逆のJ字状渦巻文施文。	V群
Go-48G -4 第 94回 P.L.90	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.6)	G区 0-48	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒・石英・輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③不良	口唇部肥厚、内傾。横位横円文施文、R.L.縄文充満。	V群
Go-48G -5 第 94回 P.L.90	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.7)	G区 0-48	①細砂。結晶片岩多量、赤褐色粒子・石英・海綿骨針少量 ②淡黄2.5Y 7/3 ③良好	口縁下に幅4mm半横竹管による横位結節沈線3条、縦位4条同沈線施文。地文は同竹管による斜行平行沈線。	IV群
Go-48G -6 第 94回 P.L.90	深鉢	胴部片 口一 底一 高(9.7)	G区 0-48	①中砂。白色粒・赤褐色粒多量、輝石・石英少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③ややよし	沈線による横位横円文。胴部縦位2条沈線により分割。R.L.縄文充満。	V群 外面黒変
Go-48G -7 第 94回 P.L.90	深鉢	胴部片 1/3 口一 底一 高(12.5)	G区 0-48	①中砂。輝石・角閃石多量、白色粒・赤褐色粒少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③ややよし	花卉状波状文2段施文、R.L.縄文充満。	V群 内面黒変
Go-48G -8 第 94回 P.L.90	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.0)	G区 0-48	①中砂。チャート・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや悪い	縦位細沈線で胴部分割、R.L.縄文充満。	V群 内面剥落
Go-48G -9 第 94回 P.L.90	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.7)	G区 0-48	①中砂。白色粒子・石英・輝石・赤褐色粒子少量 ②にぶい褐7.5Y R5/3 ③ややよし	横手文、横位横円文、横位横手文。R.L.縄文充満。	V群 外面黒変
Go-48G -10 第 94回 P.L.90	深鉢	胴部片 口一 底一 高(6.1)	G区 0-48	①中砂。白色粒子・石英・チャート・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	J字状沈線、R.L.縄文充満。	V群 内面下階黒変
Go-48G -11 第 94回 P.L.90	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.5)	G区 0-48	①中砂。チャート・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	沈線による渦巻文、竹管状工具による沈線間に鹿状工具による沈線施文。	V群
Go-48G -12 第 94回 P.L.90	深鉢	底部片 口一 底一 高(6.0)	G区 0-48	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒・輝石・石英少量 ②灰褐7.5Y R4/2 ③良好	波状口縁。口縁沿いに平行沈線、幅6mm半横竹管による渦巻文。地文L.R.縄文。	III群
Go-48G -13 第 94回 P.L.90	深鉢	底部片 口一 底 7.0 高(4.2)	G区 0-48	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	縦位沈線、垂直磨き。	V群 外面底黒変
Go-48G -14 第 94回 P.L.90	深鉢	底部片 口一 底 7.2 高(3.4)	G区 0-48	①中砂。赤褐色粒・石英・白色粒子・輝石少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	底部はやや厚手。垂直磨き。	V群
Go-48G -15 第 94回 P.L.90	深鉢	底部片 口一 底(7.0) 高(5.2)	G区 0-48	①中砂。白色粒子多量、輝石・石英・赤褐色粒子少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや悪い	縦位沈線により胴部分割、R.L.縄文充満。	V群 外面赤変
Go-48G -16 第 94回 P.L.90	深鉢	底部片 口一 底(7.0) 高(5.7)	G区 0-48	①中砂。白色粒子・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	縦位2条沈線により分割、R.L.縄文縦位充満。	V群 内面黒変
Go-48G -17 第 94回 P.L.90	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.2)	G区 0-48	①中砂。赤褐色粒・白色粒多量、輝石・石英少量 ②黄灰2.5Y 4/1 ③やや悪い	口縁下横位幅広沈線、その下に沈線による渦巻文。	V群

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (23)

番号	部類	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Go-48G -18 第 94回 P L 90	深鉢	底部片 □ 底 6.6 高(2.1)	G区 0-48	①細砂、白色粒子・輝石・石英少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③やや悪い	底部中心は上底。接合痕を明確に残す。	V群 内面黒変 外面黒変黒変
Go-49G -1 第 94回 P L 90	深鉢	口縁片 □ 底— 高(10.2)	G区 0-49	①中砂。チャート・輝石・石英・白色粒・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③やや良い	波状口縁。隆帯と脇沈線による横位構内文。渦巻文。L R 縄文充填。	V群 外面一部黒変
Go-49G -2 第 94回 P L 90	深鉢	口縁部把手 □ 底— 高(6.3)	G区 0-49	①中砂。石英・チャート・結晶片若く多量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/3 ③良好	波状、内槽口縁。横状把手下に双弧状細沈線文内 L R 縄文充填。	V群 内外面部分的に黒変
Go-49G -3 第 95回 P L 91	浅鉢	口縁片 □ 底— 高(4.4)	G区 0-49	①中砂。白色粒・赤褐色粒・石英・輝石少量 ②赤褐2.5Y R4/6 ③良好(硬質)	「く」字状屈曲口縁。内外面研磨。	田群
Go-49G -4 第 95回 P L 91	深鉢	胴部片 □ 底— 高(6.0)	G区 0-49	①中砂。白色粒子・石英・輝石・赤褐色粒子少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや良い	横位閉門文又は渦巻文、縦位「n」状沈線、R L 縄文充填。	V群 器面粗れる
Go-49G -5 第 95回 P L 91	深鉢	頸部片 □ 底— 高(3.1)	G区 0-49	①中砂。赤褐色粒多量、白色粒子・輝石・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R5/4 ③不良	横位2条沈線間にφ7mmの円形刺突文短文。その下に細1.1cm 6本型状工具による沈線施文。	V群
Go-49G -6 第 95回 P L 91	浅鉢	底部片 □ 底— 高(5.8) 高(1.5)	G区 0-49	①中砂。赤褐色粒・輝石・白色粒・石英少量 ②灰黄褐10Y R4/2 ③やや良い	薄手。内面撫で、外面磨き。	V群 外面炭化物付着(黒変)
Go-49G -7 第 95回 P L 91	深鉢	底部片 □ 底(8.6) 高(3.3)	G区 0-49	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③不良	2条沈線により縦位分割、R L 縄文充填。底部中心やや上底さみ。	V群 外面黒化
Gp-47G -1 第 95回 P L 91	深鉢	口縁片 □ 底— 高(5.4)	G区 P-47	①中砂。白色粒多量、輝石・石英少量 ②暗灰黄2.5Y 5/2 ③やや悪い	緩い波状口縁。口唇部とその下の隆帯に刻み施文。頂部下に弧状隆帯貼付。	V群 外面黒変
Gp-47G -2 第 95回 P L 91	深鉢	胴部片 □ 底— 高(6.6)	G区 P-47	①細砂。石英・白色粒多量、輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③やや良い	縦位3条沈線により分割、R L 縄文充填。	V群 内面黒変
Gp-47G -3 第 95回 P L 91	深鉢	胴部片 □ 底— 高(5.3)	G区 P-47	①細砂。白色粒子多量、輝石・石英少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/3 ③やや悪い	縦6mm 4本型状工具による縦位波状沈線文。	V群 外面黒変
Gp-47G -4 第 95回 P L 91	深鉢	底部片 □ 底 3.5 高(4.1)	G区 P-47	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや悪い	外面胴部磨き。底部撫で、上底さみ。内面指撫で。	V群 内面炭化物付着黒変
Gp-47G -5 第 95回 P L 91	深鉢	底部片 □ 底(3.0) 高(2.7)	G区 P-47	①中砂。白色粒・石英・輝石多量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	外面磨き。底部平坦。内面撫で。	V群 内面黒変
Gp-48G -1 第 95回 P L 91	深鉢	口縁片 □ 底— 高(6.2)	G区 P-48	①中砂。輝石多量、白色粒・石英・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③やや悪い	波状口縁？弧状隆帯を「n」字状に連結する。R L 縄文充填。	V群
Gp-49G -1 第 95回 P L 91	深鉢	口縁部突起 □ 底— 高(6.6)	G区 P-49	①中砂。白色粒・輝石多量、石英・赤褐色粒少量 ②にぶい赤褐2.5Y R5/4 ③やや良い	口縁部の「z」字状渦巻突起。彫りが深く明確。横状に貼付され、中空となる。	V群

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (24)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土受色調②焼成	文様、或・整形の特徴	備考
Gp-49G-2 第 95図 P.L.91	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.2)	G区P-49	①細砂。白色粒子・石英・輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③ややよし	縦位沈線により分割、R.L縄文充填。	V群
Gp-49G-3 第 95図 P.L.91	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.6)	G区P-49	①中砂。白色粒・石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③ややよし	幅8mm本帯状工具による縦位沈線文。	V群
Gq-48G-1 第 95図 P.L.91	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.1)	G区Q-48	①中砂。チャート・石英多量、白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③やや悪い	口縁やや内傾。沈線による逆「J」字状渦巻文、横位楕円区画文。	V群
Gq-48G-2 第 95図 P.L.91	深鉢	口縁片 口— 底— 高(6.8)	G区Q-48	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②淡黄橙10Y R8/4 ③良好	波状口縁。口唇部外反。突起下に沈線による逆「J」字状渦巻文、R.L縄文充填。	V群
Gq-48G-3 第 95図 P.L.91	深鉢	口辺部片 口— 底— 高(4.3)	G区Q-48	①中砂。白色粒・赤褐色粒少量、石英・輝石少量 ②明赤褐10Y R6/6 ③不良	沈線による逆「J」字状渦巻文、横位楕円区画内、幅3mm棒状工具による刺突文充填。	V群 器面風化
Gq-48G-4 第 95図 P.L.91	深鉢	胴部片 口— 底— 高(7.1)	G区Q-48	①中砂。石英・白色粒多量、輝石・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③ややよし	幅1.3cm本帯状工具による縦位沈線文。	V群 外面炭化物付着黒変 変上端赤変 内面上端黒変
Gq-48G-5 第 95図 P.L.91	深鉢	口縁片 口— 底— 高(7.8)	G区Q-48	①中砂。白色粒・赤褐色粒・輝石・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③良好	縦位沈線による逆「J」字状渦巻文、横位楕円区画文、内外面磨き。	V群 内面煤付着黒変
Gr-48G-1 第 95図 P.L.91	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.0)	G区r-48	①細砂。石英多量、輝石・白色粒・赤褐色粒・雲母少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	波状口縁?頸部横位2条沈線、下に「T」字状に隆帯付。その下に角押し文と沈線で区画、内部に沈線施文。	IV群
Gr-48G-2 第 95図 P.L.91	深鉢	胴部片 口— 底— 高(8.8)	G区r-48	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙10Y R7/4 ③ややよし	口縁部横位楕円区画、胴部縦位2条沈線により分割、L.R.L縦位縄文縦位充填後、縦手状沈線施文。	V群 外面一部黒変
Gr-48G-3 第 95図 P.L.91	深鉢	胴部片 口— 底— 高(7.3)	G区r-48	①中砂。白色粒多量、石英・輝石・赤褐色粒少量 ②明赤褐5Y R3/1 ③良好	1.2cm本帯状工具による縦位沈線文施文。	V群 外面黒変 内面あばた状剥落
Gr-49G-1 第 95図 P.L.91	深鉢	胴部片 口— 底— 高(10.9)	G区r-49	①中砂。白色粒多量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③ややよし	縦位沈線により胴部分割、L.R.L縦位縄文縦位充填後縦手状沈線施文。	V群
Gr-49G-2 第 95図 P.L.91	深鉢	底部片 口— 底(6.8) 高(3.0)	G区r-49	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/8 ③やや悪い	内外面磨で、底部やや上底のみ。底部周縁は磨滅。	V群
Go-50G-1 第 96図 P.L.92	深鉢	口縁片 口(37.8) 底— 高(11.3)	G区o-50	①粗砂。赤褐色粒多量、輝石・石英・チャート・白色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③良好	波状口縁、低隆帯と沈線による横位楕円文。胴部「J」状沈線文。L.R縄文充填。	V群 外面黒変
Go-50G-2 第 96図 P.L.92	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.9)	G区o-50	①中砂。白色粒・赤褐色粒・石英・輝石少量 ②明褐7.5Y R5/6 ③良好	縦位沈線より胴部分割、「J」字状沈線文、L.R縄文充填。	V群 外面黒・赤変 内面黒変
Go-50G-3 第 96図 P.L.92	深鉢	底部片 口— 底(4.8) 高(3.2)	G区o-50	①中砂。白色粒・石英・輝石少量 ②にぶい黄褐10Y R5/3 ③ややよし	薄手。小型品。縦位沈線施文。器面磨き。	V群

第12表 G区グリッド出土土器観察表(25)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Go-51G -1 第 968回 P.L.92	深鉢	底部片 □ 底(7.4) 高(2.5)	G区 0-51	①中砂。白色粒・石英・チャート・輝石・赤褐色粒子少量 ②にふい粉7.5Y R6/3 ③良好	底部中央かなり薄い。内外面磨き。	V群
Go-52G -1 第 968回 P.L.92	深鉢	口縁片 □ 底一 底一 高(4.2)	G区 0-52	①粗砂。結晶片岩・石英多量、 輝石・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	内湾口縁。口唇部に短隆線3条貼付する彫線状浮線文。口縁部に短隆線を貼付する浮線文を横に。弧状施文。断面突起欠損。地文はR.L.縄文横位施文。	田群
Go-52G -2 第 968回 P.L.92	深鉢	口縁片 □ 底一 底一 高(6.6)	G区 0-52	①中砂。チャート・白色粒・ 石英・輝石・赤褐色粒少量 ②にふい黄橙10Y R7/3 ③良好	口唇部肥厚。外反。低隆帯と沈線による弧線文、R.L.縄文充満。	V群 外面一部黒変
Go-52G -3 第 968回 P.L.92	深鉢	口縁片 □ 底一 底一 高(5.6)	G区 0-52	①細砂。赤褐色粒・輝石・石 英・チャート少量 ②にふい黄橙10Y R6/3 ③良好(硬質)	波状口縁。突起外反。下に沈線による逆「J」字状渦巻文。0段3条R.L.複 節縄文充満。内面に沈線による「J」字 状渦巻文。口縁沿いに沈線施文。	V群
Gp-50G -1 第 968回 P.L.92	深鉢	口縁片 □ 底一 底一 高(4.7)	G区 P-50	①中砂。輝石・石英・白色粒 少量 ②にふい黄橙10Y R7/4 ③不良	口縁下に横位連続刺突 文と沈線。L.R.縄文充満。	V群
Gp-50G -2 第 968回 P.L.92	深鉢	胴部片 □ 底一 底一 高(3.9)	G区 P-50	①中砂。白色粒・輝石・石英・ 赤褐色粒少量 ②暗赤褐2.5Y R3/4 ③やや黄し	やや薄手。胴部内湾。内外面横位磨き。	VI群 外面黒変 特殊-12と同一個 体?
Gp-50G -3 第 968回 P.L.92	深鉢	胴部片 □ 底一 底一 高(5.1)	G区 P-50	①中砂。白色粒・石英多量、 チャート・輝石少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	断面磨き後弧状沈線施文。	VI群
Gq-50G -1 第 968回 P.L.92	深鉢	胴部片 □ 底一 底一 高(5.0)	G区 Q-50	①中砂。輝石・赤褐色粒・石英・ 白色粒子・チャート少量 ②にふい黄橙10Y R7/4 ③やや黄し	縦位沈線により区画。R.L.縄文充満後 波状沈線磨き。	V群 内面淡く黒変
Gq-51G -1 第 968回 P.L.92	深鉢	胴部片 □ 底一 底一 高(5.2)	G区 Q-51	①中砂。白色粒・輝石・赤褐 色粒・石英少量 ②にふい黄橙10Y R6/4 ③やや黄し	弧状低隆帯貼付。L.R.縄文充満。	V群 外面一部淡く黒変
Gq-51G -2 第 968回 P.L.92	浅鉢	底部片 □ 底(9.4) 高(1.5)	G区 Q-51	①中砂。赤褐色粒・石英・白 色粒・輝石少量 ②にふい赤褐5Y R4/3 ③やや悪い	薄手。内外面磨き。底面網代痕あり。	V群? 内外面一部黒変
Gr-50G -1 第 968回 P.L.92	深鉢	胴部片 □ 底一 底一 高(5.8)	G区 r-50	①中砂。白色粒・石英・輝石・ 赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y R/4 ③やや悪い	幅1.6cm本木柄状工具による弧状沈線 文。上端R.L.縄文縦位施文。	V群 外面僅付着黒変
Gr-51G -1 第 968回 P.L.92	深鉢	口縁片 □ 底一 底一 高(7.2)	G区 r-51	①中砂。白色粒・赤褐色粒多 量、輝石・石英少量 ②橙7.5Y R7/6 ③やや悪い	口唇部肥厚。沈線による渦巻文。横位 楕円区画内R.L.縄文充満。接合痕明瞭。	V群 口唇部黒変
Gs-49G -1 第 97回 P.L.93	深鉢	胴部片 □ 底一 底一 高(7.1)	G区 s-49	①中砂。輝石多量、白色粒・ 赤褐色粒・石英少量 ②橙5Y R6/6 ③やや黄し	縦沈線による蓋状又は渦巻状沈線文、 R.L.縄文充満。	V群
Gs-50G -1 第 97回 P.L.93	深鉢	胴部片 □ 底一 底一 高(4.6)	G区 s-50	①細砂。5mm牌、白色粒・石英 多量、チャート・輝石少量 ②灰黄褐10Y R6/2 ③良好(硬質)	幅3mm竹管状工具による逆弧状沈線 間L.R.細縄文充満後沈線沿いに刺突 施文。無文部磨き。	VI群
Gs-51G -1 第 97回 P.L.93	深鉢	底部片 1/3 □ 底(12.0) 高(5.8)	G区 s-51	①中砂。輝石・白色粒多量、 石英・赤褐色粒少量 ②にふい橙5Y R6/4 ③やや黄し	縦位2条微隆線により分割。L.R.縄文 縦位充満。	V群 内面灰化物付着 黒変

第12表 G区グリッド出土土器観察表 (26)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
Gt-48G -1 第 97図 P.L.93	深鉢	口縁片 □— 底— 高(4.2)	G区 t-48	①中砂。赤褐色粒・輝石多量、 白色粒・石英少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③やや悪い	口縁横位磨き。3.5cm下に横位微隆線 貼付。内面横位磨で。	V群 口唇部淡く黒変
Gt-49G -1 第 97図 P.L.93	深鉢	口縁片 □— 底— 高(6.2)	G区 t-49	①中砂。白色粒子多量、輝石・ 石英・赤褐色粒少量 ②にぶい褐色7.5Y R5/3 ③ややよし	波状口縁。口縁下に横位2条沈線間に 円形刺突文、頸部に弧状又は斜行沈線 文。	VI群 内面黒変 外面煤片着(黒変)
Gt-50G -1 第 97図 P.L.93	深鉢	口縁片 □— 底— 高(4.1)	G区 t-50	①中砂。石英・輝石・白色粒 少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/4 ③ややよし	薄手。2条沈線による弧状沈線文。R L縄文口縁横位施文。	V群
Gt-50G -2 第 97図 P.L.93	深鉢	底部片 1/4 □— 底(7.8) 高(3.7)	G区 t-50	①細砂。石英粒子・白色粒子 多量、輝石・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y R/4 ③良好	外面横位磨で、底部中央は薄い。内面 磨き。	V群 内面黒変
G区一括 -1 第 97図 P.L.93	深鉢	口縁片 □— 底— 高(7.5)	G区一括	①中砂。白色粒・赤褐色粒・ 輝石・石英少量 ②褐色5Y R6/6 ③ややよし	口縁部「く」の字状外反。内面へ口縁横 位磨で、肩部磨き。	V群 外面淡く黒変
G区一括 -2 第 97図 P.L.93	深鉢	口縁片 □— 底— 高(8.9)	G区一括	①中砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②灰黄褐色10Y R5/2 ③ややよし	口唇部肥厚、微隆線による横位、弧状 区画内R.L縄文充満。	V群
G区一括 -3 第 97図 P.L.93	深鉢	口縁部把手 □— 底— 高(6.0)	G区一括	①中砂。輝石・石英・白色粒 ・赤褐色粒少量 ②にぶい褐色7.5Y R7/4 ③ややよし	波状内唇口縁。口縁沿いに沈線1条、 柄状把手下に弧状細沈線文、L.R縄文 充満。	V群 口縁淡く黒変
G区一括 -4 第 97図 P.L.93	深鉢	口縁片 □— 底— 高(5.3)	G区一括	①細砂。白色粒・輝石・石英 ・赤褐色粒少量 ②褐色7.5Y R6/6 ③ややよし	薄手。口縁や内唇、「 \square 」状区画内R L縄文充満。縦位3条沈線施文。	V群 外面淡く黒変
G区一括 -5 第 97図 P.L.93	深鉢	胴部片 □— 底— 高(5.5)	G区一括	①中砂。赤褐色粒多量、輝石・ 石英・白色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R5/3 ③ややよし	隆帯による方形区画、縦位隆帯に押圧 あり。棒状工具による縦位沈線充満。	V群 外面煤片着黒変

第13表 H区グリッド出土土器観察表 (1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
Hb-52G -1 第 99図 P.L.93	深鉢	胴部片 □— 底— 高(3.1)	H区 b-52	①中砂。チャート・石英・輝 石・白色粒子少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/3 ③ややよし	幅3mm半截竹管による矢羽状沈線文。	III群 内面黒変
He-50G -1 第 99図 P.L.93	深鉢	口縁片 □— 底— 高(5.6)	H区 e-50	①中砂。白色粒多量、赤褐色 粒・輝石・石英少量 ②褐色5Y R6/6 ③ややよし	口縁部内唇、波状口縁。沈線による「の」 字状渦巻文と横位横位文、区画内R.L 縄文充満。	V群 外面黒・赤変あり 器面風化 H e-50-2と類似
He-50G -2 第 99図 P.L.93	深鉢	胴部片 □— 底— 高(9.4)	H区 e-50	①中砂。白色粒多量、赤褐色 粒・輝石・石英少量 ②褐色5Y R6/6 ③ややよし	口縁部は渦巻文、横位横位文。縦位2 条沈線により胴部分割、R.L縄文縦位 充満。	V群 外面黒・赤変あり 器面風化 H e-50-1と類似
Hf-52G -1 第 99図 P.L.93	深鉢	口縁片 □— 底— 高(5.0)	H区 f-52	①中砂。白色粒多量、輝石・ 石英・チャート少量 ②赤褐色2.5Y R/8 ③ややよし	内面口縁下に横位2条沈線。上は深く 明瞭、下は浅く不明瞭。外面口縁部は 横位2条細沈線間にR.L縄文充満。	VI群
Hf-53G -1 第 99図 P.L.93	深鉢	胴部片 □— 底— 高(4.4)	H区 f-53	①中砂。白色粒多量、石英・ 輝石・赤褐色粒少量 ②明赤褐色5Y R5/8 ③不良	幅3mm半截竹管による横位平行沈線間 に山形沈線施文。	III群
Hj-53G -1 第 99図 P.L.93	深鉢	底部片 □— 底— 高(5.8)	H区 j-53	①中砂。輝石・白色粒多量、 石英・赤褐色粒少量 ②褐色2.5Y R6/8 ③不良	内外面磨き。底面ザラつく。	V群 外面風化

第13表 H区グリッド出土土器観察表(2)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
Hk-56G -1 第99回 P.L.93	深鉢	胴部片 □ 底— 高(5.7)	H区k-56	①中砂。赤褐色粒・輝石・石英・白色粒少量 ②明赤褐色5Y R5/6 ③やや良し	横位細沈線間L.R縄文充塞。	VI群 外面一部黒炭
Hm-55G -1 第99回 P.L.93	深鉢	口縁片 □ 底— 高(6.6)	H区m-56	①中砂。白色粒・赤褐色粒・輝石・石英少量 ②淡黄2.5Y R/3 ③やや悪い	口縁部渦巻文、横位横文。L.R縄文充塞。	V群 外面一部黒炭
Hm-58G -1 第99回 P.L.93	壺形土器	口縁片 □(8.0) 底— 高(3.8)	H区m-58	①細砂。白色粒子・輝石多量、石英・赤褐色粒少量 ②にぶい橙2.5Y R6/4 ③良好	内面口縁下に横位沈線施文。外面口縁部横位磨き。沈線による「工」字文、L.R縄文充塞。	VI群

第14表 I区グリッド出土土器観察表

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
It-64G -1 第99回 P.L.93	深鉢	口縁片 □ 底— 高(4.8)	I区t-64	①中砂。7mm級白色粒子・石英多量、輝石・赤褐色粒少量 ②明黄褐色10Y R7/6 ③良好(硬質)	薄手。口辺部横位隆部。途中に円形刺突付肋付文を斜め連筋、肩部窪切。体部横位磨き。	VI群 内面黒炭
In-64G -1 第99回 P.L.93	深鉢	胴部片 □ 底— 高(5.5)	I区n-64	①中砂。白色粒子・輝石多量 ②橙7.5Y R4/3 ③やや良し	幅3mm竹管による縦位沈線。	IV群
I区一括 -1 第99回 P.L.93	深鉢	胴部片 □ 底— 高(4.1)	I区一括	①中砂。結晶片岩多量、チャート・石英・赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/8 ③良好	頸部横位2条沈線、胴部渦巻沈線文。	VI群
I区一括 -2 第99回 P.L.93	深鉢	胴部片 □ 底— 高(6.6)	I区一括	①中砂。白色粒多量、輝石・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R5/4 ③やや良し	斜位押圧隆部貼付、幅4mm竹管による弧状沈線文。	VI群 内面剥落
I区一括 -3 第99回 P.L.93	深鉢	底部片 □ 底(12.2) 高(4.0)	I区一括	①中砂。石英・白色粒子多量、結晶片岩・輝石・赤褐色粒少量 ②淡黄褐色10Y R8/3 ③良好	断面いつくり、底面に木葉痕あり。	V群?

第15表 J区グリッド出土土器観察表(1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
Jb-64G -1 第100回 P.L.94	浅鉢	口縁片 □ 底— 高(6.4)	J区b-64	①中砂。赤褐色粒・石英・輝石少量 ②橙2.5Y R7/6 ③不良	口唇部はやや薄く、外反する。	V群 外面赤炭黒炭
Jb-64G -2 第100回 P.L.94	深鉢	底部片 □ 底9.8 高(4.3)	J区b-64	①中砂。白色粒・赤褐色粒多量、石英・輝石少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③不良	比較的厚手。底部中央に焼成時のヒビ割れが認められる。	V群
Jb-65G -1 第100回 P.L.94	深鉢	胴部片 □ 底— 高(9.5)	J区b-65	①中砂。石英・白色粒多量、赤褐色粒・チャート・輝石少量 ②橙7.5Y R7/6 ③不良	頸部横位押圧隆部貼付、胴部と区画、胴部斜行沈線施文。	VI群
Jb-65G -2 第100回 P.L.94	深鉢	底部片 □ 底(9.0) 高一	J区b-65	①細砂。赤褐色粒・白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい赤褐色5Y R5/4 ③やや良し	底部網代痕あり。	III群?
Jb-66G -1 第100回 P.L.94	深鉢	口縁片 □ 底— 高(7.0)	J区b-66	①粗砂。結晶片岩多量、石英・輝石・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R7/6 ③不良	口縁横位磨き、下に横位微線施文、胴部は縦位2条微線により分割。L.R縄文横位・縦位充塞。	V群
Jb-66G -2 第100回 P.L.94	深鉢	口縁片 □ 底— 高(4.1)	J区b-66	①中砂。輝石・石英・白色粒・チャート少量 ②明赤褐色5Y R5/6 ③やや悪い	口唇部内面横位沈線1条、外面口縁1.5cm下に押圧微線貼付。	VI群

第15表 J区グリッド出土土器器表(2)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③構成	文様・成・整形の特徴	備考
Jb-66G-3 第100図 P.L.94	深鉢 口縁片 □— 底— 高(6.3)	J区b-66	①中砂、白色粒・輝石少量、石英・チャート・赤褐色粒少量 ②灰黄2.5Y7/2 ③良好	内傾、折り返し口縁。接合不明瞭。	VI群	
Jd-64G-1 第101図 P.L.94	深鉢 胴部片 □— 底— 高(5.4)	J区d-64	①中砂、白色粒・輝石・石英・赤褐色粒・チャート少量 ②明赤褐色2.5YR5/6 ③良好(硬質)	薄手。胴部横位2条沈線、弧状沈線、斜行沈線施文。沈線不明瞭。	VI群 Jd-64-2・3 と同一個体?	
Jd-64G-2 第101図 P.L.94	深鉢 胴部片 □— 底— 高(5.5)	J区d-64	①中砂、白色粒・輝石・石英・赤褐色粒・チャート少量 ②ふいご5YR6/4 ③良好(硬質)	斜行沈線施文。沈線不明瞭。	VI群 Jd-64-1・3 と同一個体?	
Jd-64G-3 第101図 P.L.94	深鉢 胴部片 □— 底— 高(2.3)	J区d-64	①中砂、白色粒・輝石・石英・赤褐色粒・チャート少量 ②明赤褐色2.5YR5/6 ③良好(硬質)	斜行沈線施文。沈線不明瞭。	VI群 Jd-64-1・2 と同一個体?	
Jd-65G-1 第101図 P.L.94	深鉢 底部片 □— 底(5.4) 底(3.0)	J区d-65	①細砂、輝石・石英・白色粒・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y7/3 ③やや良し	薄手。底部中心はやや薄い。胴部削後磨き。	VI群	
Jd-65G-2 第101図 P.L.94	深鉢 口縁片 □— 底— 高(7.6)	J区d-65	①中砂、白色粒・石英・赤褐色粒・チャート少量 ②淡黄褐色10YR8/3 ③やや悪い	口縁部横位磨き、4.5cm下に横位細線、その下に「n」状細線貼付。R.L縄文外側に充満。	V群 外面黒褐色変あり	
Jd-65G-3 第101図 P.L.94	深鉢 胴部片 □— 底— 高(4.9)	J区d-65	①細砂、8mm燧石・石英・チャート・白色粒・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y8/3 ③良好	幅4mm竹管による円形刺突文下に円形沈線文、弧状沈線施文。	VI群 Jd-65-4類似	
Jd-65G-4 第101図 P.L.94	深鉢 胴部片 □— 底— 高(3.7)	J区d-65	①細砂、白色粒・石英・チャート・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y8/3 ③良好	弧状沈線文、横位三角沈線文、L.R縄文充満。	VI群 Jd-65-3類似	
Jd-69G-1 第101図 P.L.94	深鉢 口縁片 □— 底— 高(5.5)	J区d-69	①細砂、輝石・石英・白色粒・赤褐色粒少量 ②赤褐色2.5YR4/6 ③良好	口唇部内屈。口縁下に横位2条押圧微線、途中を竹管による刺突付き微線跡で繋ぐ。下に竹管による横位2条沈線施文。	VI群	
Jg-70G-1 第101図 P.L.94	深鉢 口縁片 □— 底— 高(11.2)	J区g-70	①細砂、石英・白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②橙2.5YR6/8 ③やや良し	波状口縁。口縁下に細線跡が殆う。体部に幅6mm4本棒状工具による沈線跡位施文。	V群 外面赤変 内面黒変	
Jh-65G-1 第101図 P.L.94	深鉢 胴部片 □— 底— 高(7.4)	J区h-65	①中砂、石英極少量、白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y8/3 ③不良	2条微線による弧線文、その外側にL.R縄文充満。	V群	
Jh-68G-1 第101図 P.L.94	深鉢 底部片 □— 底(13.2) 高(4.9)	J区c下No1	①中砂、白色粒極少量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②ふいご5YR6/4 ③やや悪い	内外面無文。底部幅広網代痕あり。	V群 内面黒変 器面風化	
Jp-69G-1 第101図 P.L.94	深鉢 口縁片 □— 底— 高(6.3)	J区p-69	①中砂、輝石・白色粒少量、赤褐色粒少量 ②明赤褐色5YR5/6 ③良好	薄手。上下に刺突のある狭み状突起貼付。細沈線区画内L.R縄文充満。	VI群	
Jp-69G-2 第101図 P.L.94	深鉢 口縁片 □— 底— 高(4.4)	J区p-69	①中砂、チャート・結晶片岩・赤褐色粒・石英少量 ②淡黄褐色10YR8/3 ③良好	薄手。口縁沿いに浅い沈線2条施文。	VI群?	
Jp-69G-3 第101図 P.L.94	深鉢 底部片 □— 底(6.8) 高(0.9)	J区p-69	①中砂、白色粒・輝石少量、赤褐色粒・石英少量 ②橙2.5YR6/6 ③良好	厚さ7mm円形粘土で底部を作り、胴部を積み上げている。接合部で割れている。	III群 底部網代痕	

第15表 J区グリッド出土土器観察表(3)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③施成	文様、成・整形の特徴	備考
J区一括 -1 第101回 P.L.94	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.0)	J区C黒上 面	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	横位三角区画文、L.R細縄文充満。	VI群
J区一括 -2 第101回 P.L.94	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.4)	J区C黒	①粗砂。白色粒・輝石・石英多量、赤褐色粒少量 ②橙2.5Y R6/6 ③やや良し	口縁部肥厚、内縁、口縁下に横位沈線、横位閉角区画文、R.L縄文充満。	V群
J区一括 -3 第101回 P.L.94	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.6)	J区一括	①中砂。5mm牌、結晶片岩多量、赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい黄橙10Y R7/3 ③やや良し	口縁内外に1条ずつ横位沈線が巡る。外面横位指撫で明確。	VI群 内外面風化
J区一括 -4 第101回 P.L.94	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.7)	J区一括	①粗砂。結晶片岩・微細雲母多量、輝石・石英少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや悪い	口縁内傾、口縁下に縦位隆帯とその下に横位2条隆帯貼付、下の隆帯上に半載竹管による爪形施文。	IV群
Jr-72G -1 第102回 P.L.95	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.9)	J区r-72	①細砂。結晶片岩・石英・輝石多量、白色粒子少量 ②にぶい褐7.5Y R5/4 ③やや良し	結節のある縄文R.LとL.R横位施文。	III群
Jr-72G -2 第102回 P.L.95	浅鉢	口縁片 口一 底一 高(5.2)	J区r-72	①中砂。石英・白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②橙5Y R6/8 ③やや良し	口縁横位磨き、下に横位沈線施文。L.R縄文充満。	V群
Jr-72G -3 第102回 P.L.95	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.1)	J区r-72	①粗砂。結晶片岩・微細雲母多量、8mm牌少量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	幅6mm半載竹管により爪形施文する隆帯横位2条貼付。	IV群 器面風化 Jr-72-4-5-6 Js-71-2に類似
Jr-72G -4 第102回 P.L.95	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.6)	J区r-72	①粗砂。結晶片岩・微細雲母多量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや良し	幅6mm半載竹管により爪形施文する隆帯横位2条貼付。	IV群 器面風化 Jr-72-3-4-5 Js-71-2に類似
Jr-72G -5 第102回 P.L.95	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.7)	J区r-72	①粗砂。結晶片岩・微細雲母多量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	幅6mm半載竹管により爪形施文する隆帯横位3条貼付。	IV群 器面風化 Jr-72-3-4-5 Js-71-2に類似
Jr-72G -6 第102回 P.L.95	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.2)	J区r-72	①粗砂。結晶片岩・微細雲母多量 ②にぶい黄橙10Y R6/4 ③やや良し	幅6mm半載竹管により爪形施文する隆帯横位2条貼付。	IV群 器面風化 Jr-72-3-4-5 Js-71-2に類似
Jr-72G -7 第102回 P.L.95	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.0)	J区r-72	①中砂。結晶片岩多量、赤褐色粒・白色粒・石英・チャート少量 ②橙7.5Y R7/6 ③やや良し	口縁部無文。口唇部は角張り、やや内傾。	VI群
Jr-72G -8 第102回 P.L.95	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.3)	J区r-72	①細砂。白色粒子多量、輝石・石英・赤褐色粒子少量 ②橙7.5Y R6/6 ③良好	口縁下に微隆線、その下に三角形細沈線施文。	VI群
Jr-72G -9 第102回 P.L.95	深鉢	底部片 口一 底(9.0) 高(4.1)	J区r-72	①粗砂。結晶片岩多量、赤褐色粒少量 ②明赤褐5Y R5/6 ③硬質	内面磨で、外面磨き。	V群?
Jr-72G -10 第102回 P.L.95	深鉢	胴部片 口一 底一 高(12.9)	J区r-72	①中砂。石英・白色粒多量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい黄橙10Y R7/4 ③やや悪い	幅6mm半載竹管による縦位平行沈線と弧線文、間に幅1cm5本櫛状工具による沈線文。	VI群 内外面被熱 器面粗れる
Jr-72G -11 第102回 P.L.95	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.1)	J区r-72	①中砂。輝石・石英・白色粒子・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y R/3 ③やや良し	口縁下に横位2条沈線、それ以外研磨。	V群

第15表 J区グリッド出土土器観察表(4)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③構成	文様、成・整形の特徴	備考
Jr-72G -12 第102図 P.L.95	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.2)	J区 r-72	①中砂。結晶片岩多量、石英・白色粒子・輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/3 ③良好	かなり薄手。口唇部内面に沈線が一条走る。「J」字状文、間に列点文あり。	VI群
Jr-72G -13 第102図 P.L.95	深鉢	口縁片 口一 底一 高(6.0)	J区 r-72	①中砂。結晶片岩多量、石英・白色粒子・輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③良好	かなり薄手。「J」字状文、間に「十」字状となる。列点文あり。	VI群
Jr-72G -14 第102図 P.L.95	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.5)	J区 r-72	①中砂。結晶片岩極多量、赤褐色粒・石英・白色粒子少量 ②赤褐色2.5Y R4/6 ③やや良し	薄手。「J」字状文、間に列点文あり。	VI群
Jr-72G -15 第102図 P.L.95	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.6)	J区 r-72	①細砂。白色粒子・輝石・石英・チャート少量 ②灰黄褐色10Y R6/2 ③やや良し	口唇部箇所、口縁下に横位2条RLR複線文を巻いている。	VI群?
Jr-72G -16 第102図 P.L.95	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.2)	J区 r-72	①細砂。白色粒子多量、輝石・石英少量 ②褐色7.5Y R6/6 ③良好	縦い波状口縁。横位沈線の始めと終わりに刺突文、間に縦位3条沈線施文。斜位隆線貼付。	VI群
Jr-72G -17 第102図 P.L.95	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.2)	J区 r-72	①中砂。結晶片岩多量、赤褐色粒・白色粒・石英少量 ②にぶい褐色5Y R6/4 ③良好	薄手。口唇部肥厚、内縁、外面横位2条沈線施文。	VI群 外面風化
Jr-72G -18 第102図 P.L.95	深鉢	頸部片 口一 底一 高(4.5)	J区 r-72	①細砂。石英粒子多量、輝石・赤褐色粒子・チャート少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③やや良し	薄手。頸部横位隆部の途中に「J」状部分あり。	VI群
Js-71G -1 第102図 P.L.95	深鉢	口縁片 口一 底一 高(2.2)	J区 s-71	①細砂。チャート・結晶片岩・石英・赤褐色粒子少量 ②明赤褐色5Y R5/6 ③良好	口唇部やや反。RL縄文横位施文。	III群
Jr-71G -2 第102図 P.L.95	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.1)	J区 s-71	①粗砂。結晶片岩・炭屑雲母多量、赤褐色粒少量 ②にぶい黄褐色10Y R6/4 ③やや良し	幅5mm手載竹管により爪形施文する隆部横位3条貼付。	IV群 Jr-72-3~6に類似

第16表 K区グリッド出土土器観察表(1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③構成	文様、成・整形の特徴	備考
Kb-72G -1 第103図 P.L.96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(2.4)	K区 b-72	①中砂。白色粒多量、石英・赤褐色粒・結晶片岩少量 ②明赤褐色5Y R5/6 ③やや良し	RL縄文横位施文。	V群
Kb-72G -2 第103図 P.L.96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.0)	K区 b-72	①粗砂。石英多量、チャート・輝石・赤褐色粒・雲母少量 ②灰黄褐色10Y R5/2 ③良好	結節のあるRL縄文横位施文。	III群
Kc-72G -1 第103図 P.L.96	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.3)	K区 c-72	①細砂。石英粒子・赤褐色粒多量、輝石・白色粒子少量 ②明赤褐色2.5Y R5/6 ③やや悪い	口縁2.5cm下に横位低隆部貼付、頸部に照然文L縦位施文。	V群 内面炭化物附着 黒変
Kc-72G -2 第103図 P.L.96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(3.8)	K区 c-72	①細砂。石英粒子・赤褐色粒多量、チャート・輝石少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/3 ③良好	比較的薄手。RL縄文横位施文。	III群 内面一部黒変
Kc-72G -3 第103図 P.L.96	深鉢	胴下部 口一 底一 高(3.0)	K区 c-72	①中砂。輝石・石英・白色粒子・チャート少量 ②にぶい褐色7.5Y R6/4 ③良好	胴部0段多条RLR縄文横位施文。底部との境に筋目付き厚線文横位貼付。	III群 内面胴部黒変
Ke-74G -1 第103図 P.L.96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(3.7)	K区 e-74	①細砂。輝石・石英・白色粒少量 ②にぶい褐色5Y R6/4 ③良好	RL縄文横位施文。	III群

第16表 K区グリッド出土土器観察表(2)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Kg-74G -2 第103回 P.L.96	浅鉢	口縁片 口一 底一 高(4.6)	K区K-74	①中砂。チャート・結晶片岩・石英多量、赤褐色粒・輝石少量 ②概5Y R6/6 ③良好(硬質)	内脣口縁、口唇部に幅1cm平行沈線間に半載竹管による爪形刻み施文。	V群
Kg-73G -1 第103回 P.L.96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(3.3)	K区K-73	①粗砂。白色粒多量、輝石・石英少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	縦位沈線間L R L 複形縄文縦位施文。	V群
Kg-73G -2 第103回 P.L.96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(3.0)	K区K-73	①中砂。植物繊維・赤褐色粒多量、輝石・石英少量 ②ふいせ7.5Y R5/4 ③良好	R L 縄文横位施文。	II群 外面狭く黒変
Kg-74G -1 第103回 P.L.96	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.2)	K区K-74	①中砂。輝石・石英・白色粒子少量 ②ふいせ赤褐5Y R4/3 ③良好	口唇部に筒み出し状の小突起貼付。幅6mm半載竹管による横位平行沈線3単位施文。	II群
Kg-75G -1 第103回 P.L.96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.9)	K区K-75	①中砂。結晶片岩・チャート・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②概2.5Y R6/6 ③良好	頸部に横位隆帯、隆帯上に横「八」の字状刻み、下に横位沈線が沿う。胴部に断糸文L縦位施文。	V群
Kg-75G -2 第103回 P.L.96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(3.4)	K区K-75	①細砂。輝石・石英・白色粒・赤褐色粒少量 ②ふいせ5Y R6/4 ③良好(硬質)	頸部頸位2条浮線文上R L 縄文施文。浮線文脈には沈線が沿う。地文はR L 縄文横位施文。	II群
Kg-76G -1 第103回 P.L.96	浅鉢	口縁片 口一 底一 高(5.6)	K区K-76	①中砂。石英・輝石多量、白色粒・赤褐色粒少量 ②ふいせ黄橙10Y R7/4 ③良好	口縁外反、頸部内脣、内外面横位磨き。外面一部に赤色塗彩形成。	V群 外面赤色塗彩 内面磨し (黒色処理)
Kg-76G -2 第103回 P.L.96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(2.8)	K区K-76	①細砂。結晶片岩多量、輝石・石英少量 ②ふいせ黄橙10Y R7/3 ③良好(硬質)	かなり薄手。幅2mm沈線による変形文。地文はL R 縄文横位施文。	V群 外面黒斑 内面炭化物付着黒変 K 8-76-3と同一個体
Kg-76G -3 第103回 P.L.96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(2.4)	K区K-76	①細砂。結晶片岩多量、輝石・石英少量 ②灰黄褐10Y R5/2 ③良好(硬質)	かなり薄手。幅2mm沈線による変形文。地文はL R 縄文横位施文。	V群 外面黒斑 内面炭化物付着黒変 K 8-76-2と同一個体
Kg-76G -4 第103回 P.L.96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.5)	K区K-76	①中砂。チャート・赤褐色粒多量 ②明赤褐5Y R5/6 ③良好	頸部外反。R L 縄文横位施文。	II群 内面器面風化
Ki-74G -1 第105回 P.L.96	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.5)	K区I-74	①中砂。輝石・石英・白色粒子少量 ②灰黄2.5Y 7/2 ③良好	やや厚手。口縁下幅1.0cm半載竹管による平行沈線+爪形文2条以上施文。間に斜位刻み施文。	II群
Ki-74G -2 第105回 P.L.96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.5)	K区I-74	①中砂。赤褐色粒多量、輝石・石英・白色粒少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	刻み付き浮線文による「口」字渦巻文、胴部との境には横位浮線文施文。地文はR L 縄文横位施文。	II群
Ki-74G -3 第105回 P.L.96	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.3)	K区I-74	①細砂。白色粒子・石英粒子多量、赤褐色粒・輝石少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	薄手。口縁下に2条以上の押圧微線貼付。内外面良く研磨。	VI群 内外面黒変あり
Ki-74G -4 第105回 P.L.96	深鉢	口縁片 口一 底一 高(2.7)	K区I-74	①細砂。輝石多量、石英・白色粒少量 ②ふいせ7.5Y R6/4 ③良好	波状、内脣口縁。口縁下に押圧微線を縦い弧状に貼付。途中に刺突付ボタン状貼付文、内外面とも良く研磨。	VI群 外面一部黒変
Ki-74G -5 第105回 P.L.96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(4.1)	K区I-74	①中砂。輝石多量、白色粒・チャート・赤褐色粒少量 ②ふいせ黄橙10Y R6/3 ③良好	横位沈線間に斜位沈線を施し、三角区画文とし、L R 粗縄文充填。	VI群 内面黒変

第16表 K区グリッド出土土器類表(3)

番号	器種	重目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③構成	文様、成・整形の特徴	備考
Ki-74G -6 第105図 P.L.96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(4.0)	K区I-74	①中砂。結晶片岩極少量 ②にぶい黄緑5Y R7/4 ③良好(硬質)	2条沈線による弧線文。L R 縄文充満。	V群
Ki-75G -1 第105図 P.L.96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.1)	K区I-75	①中砂。結晶片岩・微細雲母 少量、輝石・赤褐色粒少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	口縁下に押圧波状隆帯貼付、その下に R L 縄文横位施文。	IV群
Ki-75G -2 第105図 P.L.96	深鉢	頸部片 口— 底— 高(3.3)	K区I-75	①中砂。赤褐色粒・輝石少量、 石英・白色粒子少量 ②にぶい橙7.5Y R7/4 ③良好	頸部に「八」字状刻み付き浮線2 状以 上貼付、下に R L 縄文横位施文。	III群 内面器面粗れる
Ki-76G -1 第105図 P.L.96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(2.2)	K区I-76	①中砂。結晶片岩・石英少量、 輝石少量 ②にぶい赤褐5Y R5/4 ③やや良し	口縁下に幅2mm沈線2 条による横位区 画、間と同沈線による斜行文、蓋状工 具による三角形印刻文、押圧円形文。 地文は L R 縄文横位施文。	IV群
Ki-76G -2 第105図 P.L.96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(4.8)	K区I-76	①中砂。輝石・石英・白色粒 少量 ②にぶい橙5Y R6/4 ③良好	波状、内彎口縁。口縁下に横位隆帯・ 沈線。R L 縄文横位施文。接合痕明瞭。	V群
Ki-76G -3 第105図 P.L.96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(3.1)	K区I-76	①中砂。輝石少量、石英・白 色粒・赤褐色粒少量 ②橙7.5Y R6/6 ③やや良し	幅3mm竹管状工具による刻み付き隆帯 横位貼付、下に同工具による横位沈線、 下の区画に断末文 L 縦位施文。	V群
Ki-75G -1 第105図 P.L.96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(3.2)	K区I-75	①中砂。白色粒・石英・輝石 少量 ②浅黄2.5Y7/4 ③良好	波状口縁。口唇部幅2mm竹管による刻 み、口縁から1.5cm下に斜位刻突文、 下区画に R L 縄文施文。	V群 内面赤色塗彩
Kk-74G -1 第105図 P.L.96	深鉢	口縁部突起 口— 底— 高(3.8)	K区k-74	①中砂。赤褐色粒・石英少量、 結晶片岩・白色粒・輝石少量 ②明赤褐2.5Y R5/6 ③良好	波状、内彎口縁。断面突起の省略形? φ2mmの竹串状工具による刺突が3つ 施文。刻み等は認められない。	III群
Kk-74G -2 第105図 P.L.96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(8.3)	K区k-74	①中砂。石英少量、結晶片岩 ・赤褐色粒・輝石少量 ②にぶい黄緑10Y R7/3 ③良好(硬質)	口唇部はやや角張り、口縁は外側に開 く。内外面横位磨き。	VI群
Km-75G -1 第105図 P.L.96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.1)	K区m-75	①中砂。輝石少量、石英・白 色粒少量 ②にぶい橙5Y R7/4 ③良好(硬質)	口縁部に「L」字形に刻み付き隆帯貼付、 その脇に幅2mm沈線を施す。胴部との 境にも隆帯と沈線を施すものと思われ る。頸部は無文帯となる。	IV群 外面帯付着(黒炭)
Km-75G -2 第105図 P.L.96	深鉢	底部片 口— 底— 高(4.3)	K区m-75	①中砂。輝石少量、赤褐色粒 ・白色粒・石英少量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③良好	外面側部 L R 縄文横位隔断施文。底部 は比較的平坦。内面はやや粗れる。	III群 内面上半黒炭
Kn-77G -1 第105図 P.L.96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.1)	K区n-77	①細砂。輝石・白色粒子少量、 石英・赤褐色粒少量 ②灰黄2.5Y7/2 ③良好(硬質)	頸部無文帯あり。胴部との境に横位2 条隆帯貼付、そこから下に隆帯貼付、 間に沈線施文。胴部方形区画内 L R 縄 文充満。	IV群 外面淡く黒炭
Ko-74G -1 第105図 P.L.96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(5.2)	K区o-74	①細砂。植物繊維少量、輝石 ・石英少量 ②灰褐5Y R4/2 ③良好	R L と L R 縄文による羽状縄文。内面 磨き。	II群 繊維土器 外面淡く黒炭
Kq-78G -1 第105図 P.L.96	深鉢	口縁片 口— 底— 高(5.8)	K区q-78	①細砂。輝石・白色粒少量、 石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	波状、内彎口縁。隆帯による「J」字 渦巻文と横位隅文、L R 縄文充満。	V群 中期後半(加E III)
Kq-78G -2 第105図 P.L.96	深鉢	胴部片 口— 底— 高(6.8)	K区q-78	①中砂。輝石・白色粒少量、 石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	縦位隆帯により区画、間に半竹管に よる縦位平行沈線、同竹管による横位 短沈線施文。	IV群 内面黒炭

第17表 L区グリッド出土土器観察表

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Lc-77G -1 第105回 P L.96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(3.6)	L区 c-77	①中砂、白色粒・輝石多量、 石英少量 ②にぶい赤褐色5Y R5/4 ③良好	R L縄文縦位、斜位施文。	V群
Lc-77G -2 第105回 P L.96	深鉢	胴部片 口一 底一 高(5.5)	L区 c-77	①中砂、輝石多量、白色粒・ 石英少量 ②灰褐色7.5Y R4/2 ③良好	弧状細比線跡の交点で「V」字状を呈する。L R縄文充填。	VI群 外面炭化物付着 (黒変)
Lh-76G -1 第105回 P L.96	深鉢	口縁片 口一 底一 高(10.0)	L区 h-76	①粗砂、7mm障、赤褐色粒・石英 ・白色粒多量、輝石少量 ②にぶい橙5Y R7/4 ③良好	口唇部小突起貼付、口縁下に幅広沈線、 横位隆帯貼付、連続刺突文。その下は 沈線による横位構文、内部にL R縄 文横位充填。	VI群

第18表 M区グリッド出土土器観察表

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
Ma-81G -1 第105回 P L.96	深鉢	口縁片 口一 底一 高(3.7)	M区 a-81	①細砂、白色粒、輝石多量、 石英少量 ②橙2.5Y R6/6 ③良好	口縁内側、口縁下に横位隆帯貼付、下 に頂部に比線跡を施す隆帯による「oo」 字状渦巻文。地文はR L縄文縦位施文。	V群 外面口縁隆 付着(黒変) 内面 口縁より1.5cm以 下保付着黒変
Mb-83G -1 第105回 P L.96	深鉢	口縁片 口一 底一 高(4.1)	M区 b-83	①中砂、白色粒・輝石・石英・赤 褐色粒少量 ②にぶい赤褐色5Y R5/4 ③良好	内側口縁、口縁下に横位比線跡貼付。下 に「八」の字状刺突文。その下に短比 線を3条施す突起貼付。	V群
Md-78G -1 第105回 P L.96	浅鉢	胴部片 口一 底一 高(4.6)	M区 d-78	①中砂、輝石多量、白色粒・ 石英・赤褐色粒少量 ②にぶい褐色7.5Y R5/4 ③良好	内折口縁、刻み付き浮線文渦巻、横位 貼付。地文はR L縄文横位施文。	III群 外面保付着黒変
Mm-78G -1 第105回 P L.96	深鉢	口縁片 口一 底一 高(5.0)	M区 m-78	①中砂、輝石・白色粒・赤褐 色粒少量 ②橙5Y R6/6 ③良好(硬質)	粗製土器。折返し口縁、内側、内外面 とも口縁に指頭痕残す。	VI群
Mm-78G -2 第105回 P L.96	深鉢	口縁片 口一 底一 高(7.4)	M区 m-78	①中砂、輝石・白色粒多量、 石英・赤褐色粒少量 ②典灰2.5Y 4/1 ③やや良し	波状口縁。突起部分、「八」字状隆帯と 沈線施文。L R縄文充填。	VI群
Mm-78G -3 第105回 P L.96	深鉢	口縁片 口一 底一 高(10.6)	M区 m-78	①中砂、5mm障、輝石・白色粒 ・赤褐色粒多量、石英少量 ②淡黄褐色10Y R8/3 ③良好	粗製土器。口縁下に半円状貼付文。外 面指撫で、指頭痕残す。内面横位施文。	VI群
Mm-78G -4 第105回 P L.96	深鉢	底部片 口一 底(11.2) 高(1.7)	M区 m-78	①中砂、輝石・白色粒多量 ②灰褐色7.5Y R4/2 ③良好	やや厚手。外面胴部撫で、底部に木重 痕?内面横位施文。	VI群?
M区一括 -1 第105回 P L.96	深鉢	底部片 口一 底(13.0) 高(3.9)	M区一括	①中砂、輝石多量、石英・白 色粒子少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③良好	横位刻み付き浮線文3条貼付。地文は R L縄文横位施文。内面撫で。	III群

第19表 特殊土製品観察表(1)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様、成・整形の特徴	備考
特殊 -1 第106回 P L.97	土製 円盤	宛形品 長 2.4 幅 2.1 厚 0.8	G区 1集石 覆土	①中砂、赤褐色粒多量、輝石 ・石英・白色粒子少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③良好	R L縄文施文。打ち欠き成形後研磨整 形。	V群
特殊 -2 第106回 P L.97	土製 円盤	宛形品 長 2.0 幅 3.0 厚 1.0	G区 5集石 覆土	①細砂、石英粒子・輝石多量、 白色粒子少量 ②橙5Y R6/8 ③やや良し	R L縄文施文。打ち欠き成形後、研磨。 内面撫で。	V群 内面黒変
特殊 -3 第106回 P L.97	土製 円盤	宛形品 長 3.9 幅 3.5 厚 1.8	G区 8-45	①中砂、白色粒・石英・輝石 多量 ②にぶい橙7.5Y R6/4 ③やや良し	内面撫で後磨き、外面磨き。打ち欠き 後、研磨整形。	V群

第2節 縄文時代

第19表 特殊土製品観察表(2)

番号	器種	量目 (cm)	出土位置	①胎土②色調③焼成	文様・成・整形の特徴	備考
特殊 -4 第106回 P.L.97	土製 円盤	完形品 長 3.9 幅 4.2 厚 0.8	G区 R-46	①中砂。石英・白色粒・赤褐色粒少量、輝石少量 ②明黄褐色10Y R7/6 ③不良	横位細沈線下に R.L.縄文斜位施文。打ち欠き後研磨?	V群 器面風化
特殊 -5 第106回 P.L.97	土製 円盤	完形品 長 5.6 幅 5.5 厚 1.4	G区 R-46	①中砂。赤褐色粒少量、白色粒・石英・輝石少量 ②明褐色7.5Y R5/6 ③やや悪い	弧状細沈線文後 R.L.縄文充陶。打ち欠き成形後研磨整形。	V群 外面保付層黒変、赤変
特殊 -6 第106回 P.L.97	土製 円盤	完形品 長 3.5 幅 3.5 厚 1.3	G区 R-46	①中砂。輝石少量、石英・白色粒少量 ②褐色7.5Y R7/6 ③やや悪い	打ち欠き成形後研磨整形。	V群
特殊 -7 第106回 P.L.97	土製 円盤	完形品 長 2.7 幅 2.8 厚 0.8	G区 h-45	①細砂。輝石・白色粒少量、赤褐色粒・石英少量 ②褐色2.5Y R6/6 ③やや悪い	L.R.縄文施文。縁辺打ち欠き成形後研磨整形。	V群 外面一部赤変
特殊 -8 第106回 P.L.97	土製 円盤	完形品 長 2.8 幅 2.9 厚 1.2	G区 h-46	①中砂。輝石・石英・白色粒少量 ②にぶい褐色7.5Y R5/4 ③やや悪い	縦位3条細沈線文後 R.L.縄文施文。打ち欠き成形後研磨整形。	V群
特殊 -9 第106回 P.L.97	土製 円盤	完形品 長 3.7 幅 3.7 厚 1.1	G区 i-45	①中砂。輝石・白色粒子・赤褐色粒子少量 ②淡黄2.5Y 7/3 ③やや不良	打ち欠き成形のみ。	
特殊 -10 第106回 P.L.97	土製 円盤	完形品 長 2.9 幅 2.9 厚 1.4	G区 i-47	①中砂。輝石・赤褐色粒子・白色粒子少量 ②にぶい黄褐色10Y R7/4 ③やや悪い	打ち欠き成形後研磨整形。	V群 内外面風化
特殊 -11 第106回 P.L.97	土製 円盤	1/2 長 5.0 幅(3.0) 厚(10.3)	G区 I-48	①細砂。輝石・石英・白色粒子・赤褐色粒子少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③やや悪い	L.R.縄文充陶。	V群
特殊 -12 第106回 P.L.97	土製 円盤	完形品 長 3.5 幅 3.4 厚 0.7	G区 P-50	①中砂。白色粒・輝石・石英・赤褐色粒少量 ②暗赤褐色2.5Y R3/4 ③やや良好	内外面横位磨き。	VI群 G P-50-2と同一個体?
特殊 -13 第106回 P.L.97	土製 円盤	完形品 長 3.5 幅 3.6 厚 0.9	J区 s-72	①中砂。6mm級結晶片岩少量、輝石・チャート・赤褐色粒少量 ②にぶい褐色7.5Y R6/4 ③やや良好	横位沈線下に刷み付き浮線文。地文 R.L.縄文横位施文。	III群
特殊 -14 第106回 P.L.97	土製 円盤	ほぼ完形 長 2.1 幅 1.8 厚 0.8	M区 d-80	①中砂。赤褐色粒少量、白色粒・輝石・石英少量 ②にぶい褐色7.5Y R6/4 ③やや良好	縁辺を打ち欠き成形後、研磨整形。弧状沈線文、R.L.縄文充陶。	V群 小形品
特殊 -15 第106回 P.L.97	土製 品	破片 長(7.4) 幅(4.4) 厚(3.1)	G区 h-45	①中砂。白色粒少量、輝石・石英・赤褐色粒少量 ②灰5Y5/1 ③不良	指撫で。	V群?
特殊 -16 第106回 P.L.97	土製 品	破片 長(10.5) 幅(11.0) 厚(5.6)	G区 g-46	①中砂。白色粒・赤褐色粒・輝石・石英少量 ②淡黄褐色10Y R8/4 ③不良	かなり厚みいつくり。内外面指撫で。外面指痕残存。	V群? 被熱
特殊 -17 第106回 P.L.97	土製 品	破片 長(8.7) 幅(6.4) 厚(3.6)	G区 h-45	①細砂。5mm級、白色粒子・石英・赤褐色粒子・輝石少量 ②にぶい褐色7.5Y R7/3 ③不良	指撫で。	V群? 二次被熱
特殊 -18 第106回 P.L.97	土製 品?	破片 長(9.9) 幅(6.7) 厚(3.0)	G区 i-46	①細砂。白色粒・輝石・赤褐色粒少量 ②褐色7.5Y R7/6 ③不良	指撫で、断面長方形に成形。	V群? 被熱
特殊 -19 第106回 P.L.97	三角 柱形 土製 品	1/3 長 4.1 幅 5.5 厚 5.0	G区 6配石 覆土	①中砂。輝石・石英・赤褐色粒少量 ②淡黄2.5Y 8/4 ③良好	断面はほぼ正角形に近いが、中央部はやや凹む。三方は揃み出して尖らせている。そのうち2カ所は連続する割傷跡が認められる。4面とも指撫で。	V群 側面一面黒変
特殊 -20 第106回 P.L.97	特殊 耳飾り	ほぼ完形 上径 4.0 底 3.2 高 1.7	G区 h-47	①中砂。白色粒・石英・輝石少量 ②明赤褐色2.5Y R5/6 ③良好	断面はやや薄手。上径が広く、下径が狭く中央にφ8mm程度の孔が開く、厚状を呈する。指撫で裏がよく残るが、中央の孔のまわりには指痕が残る。	V群

第6項 出土石器

(第107～196図、P.L98～141)

現場で単なる構構の構成礎として石材や大きさ重さ等を計測して置いてきたもの以外、石器として取り上げたものは剥片等の実測しなかったものも含めて全部で4,166点、剥片・石核を除くいわゆる石器類だけで2,106点あった。

各器種毎にその割合を見ると打製石斧は594点、全体の14.2%、剥片・石核を除いたいわゆる石器類の中では28.2%にあたる。形態的には沼南遺跡では欠落していた分銅形を含め、短冊形、撥形3種類がすべて揃っている。その割合は短冊形や撥形が圧倒的に多い。刃部に顕著な磨減が認められるものと中程から上に磨減が認められるものがある。前者は刃が対象物に当たった際の使用によるものと考えられるが、後者は柄ずれと考えられる。欠損後刃部を再生しているものや方形の削器に再生していると考えられるものもある。

磨製石斧は17点、全体の0.4%に当たり、いわゆる石器類では0.8%であり、1%にも満たない。生産地の遺跡以外の通常の遺跡（消費地の遺跡）では多くても1～2%程度であり、ほぼ似たような傾向が認められる。それだけに刃部を再生・研ぎ直して大切に使用されている例が多い。数多くの打製石斧が完形のまま放棄・廃棄されていることは対照的である。遺跡に残された点数の少なからずとも貴重であったことが伺える。

スクレイパー類は各遺跡によって色々に分類されて報告されており、その基準も報告書や担当者毎によって様々である。従って、ここではひとまず便宜的ではあるが、削器だけでなく石匙・U・F・R・Fも含めてスクレイパー類として一括して扱っていきたい。その上で今後はその中を細分していくことが必要と考えられる。スクレイパー類の総点数は746点、全体の17.9%、いわゆる石器類の中では35.5%にあたる。もしかしらこの割合の少ない他の遺跡では剥片と分類されたものの中に多くのU・FやR・Fが含まれている可能性がある。

石鏃は47点、全体の1.1%、いわゆる石器類の中では2.2%にあたる。一般的な中期の遺跡においては遺物の中で主たる位置を占めるものとはならない。この遺跡では平面形が二等辺三角形で下辺中央が挟れる有脚鏃がほとんどであり、有茎のものや挟れる無いものは少なかった。特徴的なのはf45-2の有脚鏃のように表裏中央部を研磨した局部磨製石鏃が含まれていることである。

石鏃は20点、全体の0.5%、いわゆる石器類の中では0.9%にあたる。石鏃には先端部を細長く作出するタイプのもとの僅かに両脇から剝離を入れて短く作出するタイプのものがある。この遺跡では前者がやや多かった。

磨石・敲石・凹石は528点、全体の12.7%、いわゆる石器類の中では25.1%にあたる。磨石でも石輪状に整形されたものと鏃の表面がやや磨れただけのものがあり、分けて考える必要はあると思われる。また、凹石には凹を有する磨石・敲石と凹だけしかないものがある。こうした凹石は陣場岩層なだれの角礫や亜角礫を素材としている場合が多い。それらの多くのは配石や集石の一部に使用されていたものである。

石皿は20点、全体の0.5%、いわゆる石器類の中では0.9%にあたる。長方形に整形されているものはあったが、彫刻の施された特殊なものは1点も検出されなかった。この遺跡でも部分破片が多く、完形品は1点もなかった。その割れ口を見ると人為的に割ったことが伺える。他の遺跡では1%程度であり、多くても2%前後である。

短剣形石器は21点、全体の0.5%に当たり、いわゆる石器類の中では1.0%であり、沼南遺跡では総点数84点、全体の1.2%に当たり、いわゆる石器類の中では2.3%である。この両者を比較するとその割合は1:2となっている。他の遺跡ではどういふものかわからなかったため分類できていないので、この2遺跡と単純に比較はできない。時期的な問題なのか、遺跡の性格上の問題なのか、個人的な予測としては中期に特徴的な石器と思われるものの、今後検討の

第2節 縄文時代

余地は残る。この名称についても沼南遺跡で数多く検出されたので、仮にそう付けたが、まだ検討の余地はある。分布地域や時期もかなり限定されてくる可能性もある。その機能・用途もまだまだ充分な検討もされておらず、今後に残された課題も多い。ぜひ中期の遺跡を整理したら注意して気に止めてもらいたい石器である。

石棒は14点、全体の0.3%に当たり、いわゆる石器類の中では0.7%であり、傘や全体の形をきちんと作るものとただ棒状をそのまま僅かに敲いたり、研磨したりしただけのものと分けて考える必要はあると思われる。他の遺跡では実測図のないものについては現物に当たり直さなければならず、詳しい比較・検討はできない。しかし、製作跡などの特殊な遺跡を除き、一見石棒が目立つ遺跡でもその総数の中で見るとそう飛び抜けて多いわけではないと思われる。石材にデイスaitを用いているものもあり、下仁田町の方から完成された形で持ち込まれた可能性が考えられる。

台石は総点数17点、全体の0.4%に当たり、いわゆる石器類の中では0.8%であり、機能・用途的には石皿に近いものも多く、他の遺跡では磨石や石皿に分類されているところもあり、単純に比較はできない。形態的には形をきちんと作っている石皿と明確に区別する必要がある。全体に占める割合は傾向としては極端に多いものではないと言える。

剥片は総点数2,027点、全体の48.7%に当たり、全体の半分近くが加工度や使用痕も無い剥片である。ある程度の大きさがあるものの、石器の素材とはな

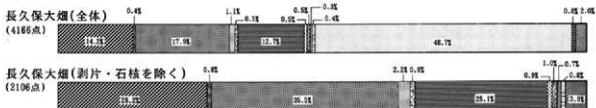
らないものが多く、こうした剥片が多いということは、この遺跡では若干の調整加工も行われていることが伺える。しかし、礫素材の石器を除いても残された石器と加工した剥片がほぼ1:1に近いということは調査で見逃したものがあつたことを考慮してもその場で一から加工したとは考えられない。どこか別の場所で大まかな形を作り、遺跡に持ち込んで細部を仕上げた可能性がある。また、打製石斧については刃部再生を施しているものも多く認められることからするとその際の調整剥片の可能性も考えられる。

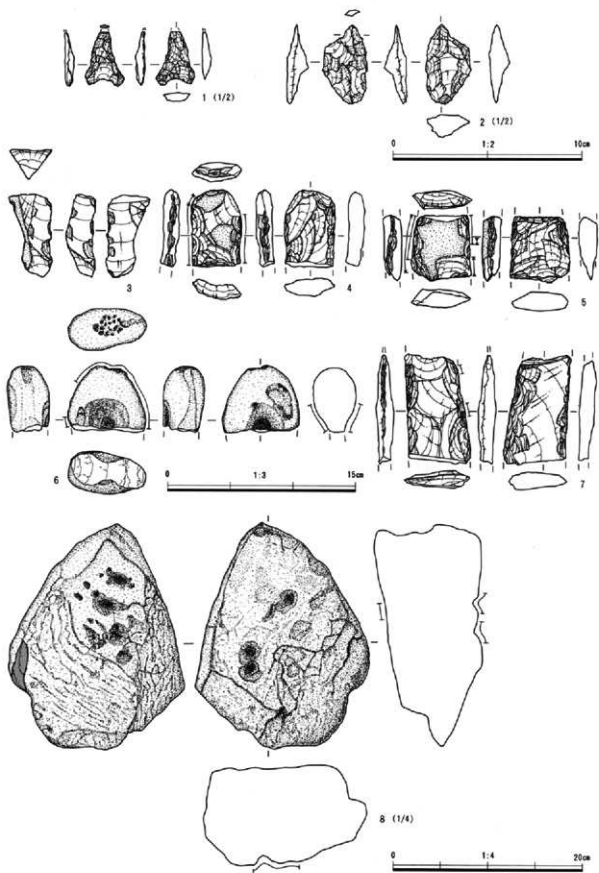
石核は総点数33点、全体の0.8%に当たり、剥片石器の残核とまだ剝離することが可能なものとに分けて考えることができる。剥片石器は石錐や石錐等の小形のもの和大形の削器等があるが、後者の方がやや多い。素材となる剥片も後者の方が多いことも一致する。

その他は総点数82点、全体の2.0%に当たり、いわゆる石器類の中では3.9%である。石錐が1点ある。また、研磨により円形に仕上げられた石器があり、いわゆる土製円盤と全く同じ形態・大きさを持つものである。今までにも円盤を素材として研磨したものは見たことがあるが、これほどまでに角をきちんと仕上げたものはなく、特徴的である。

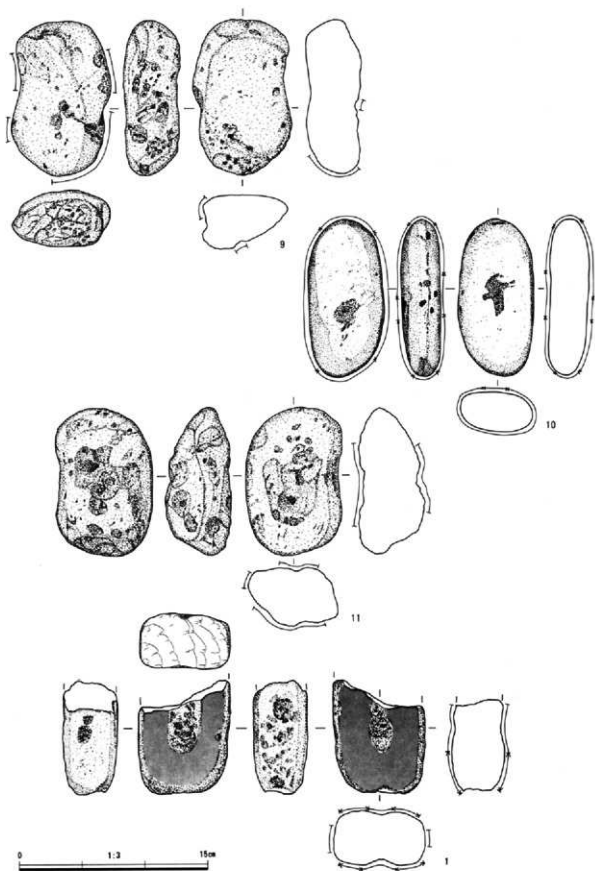
遺跡の全般的な傾向を振り返って見ると、剥片が多いことと剥片・石核を除くと磨石・敲石・凹石とスクレイパー類が多く、その分打製石斧がやや少ない傾向が認められる。それは配石・集石が主体をなすという遺跡の性格に由来するものと思われる。

第20表 石器種類別百分率表

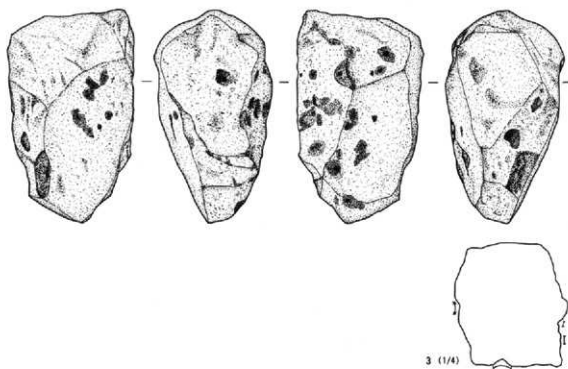
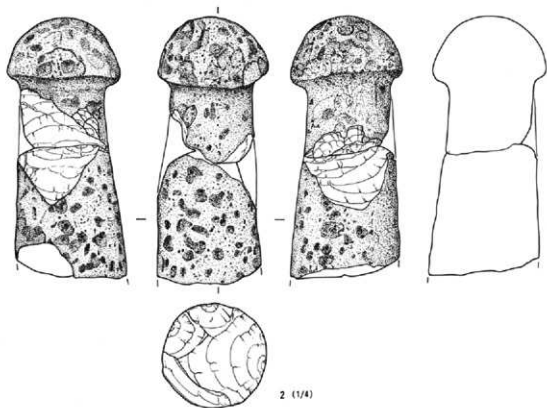




第107图 1号集石出土石器实测图

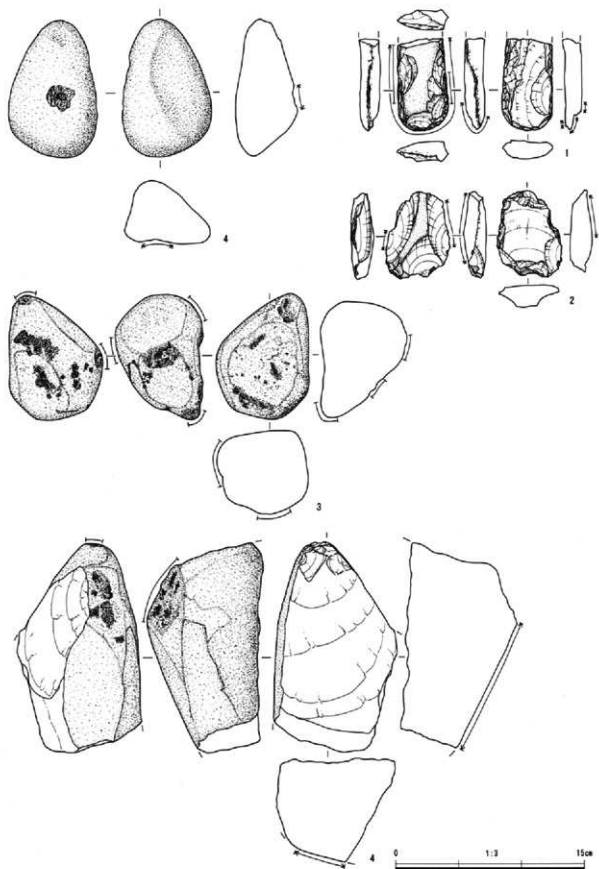


第100圖 1号・3号集石出土石器実測図

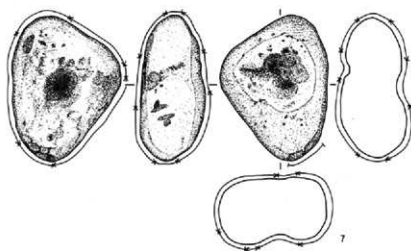
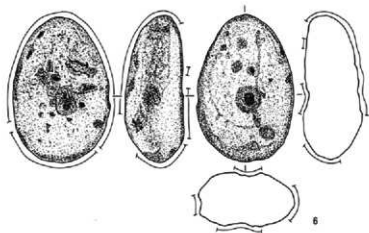
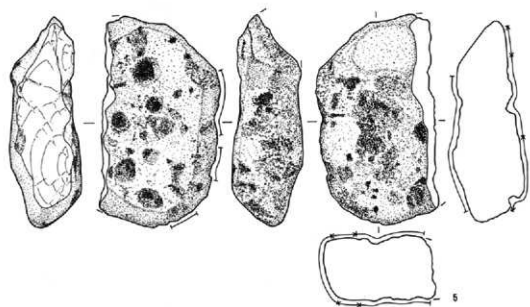


第109图 3号集石出土石器实测图

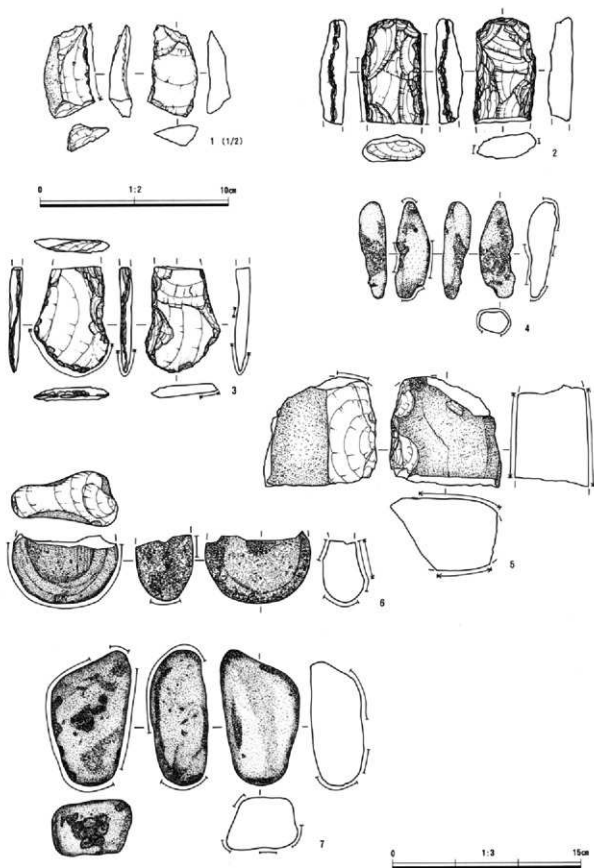
第2節 縄文時代



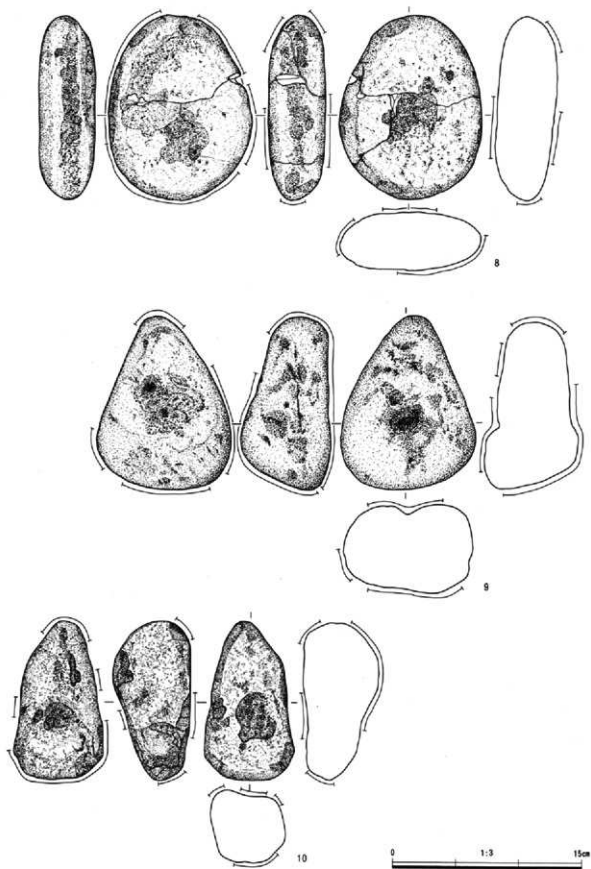
第110図 3号・4号集石出土石器実測図



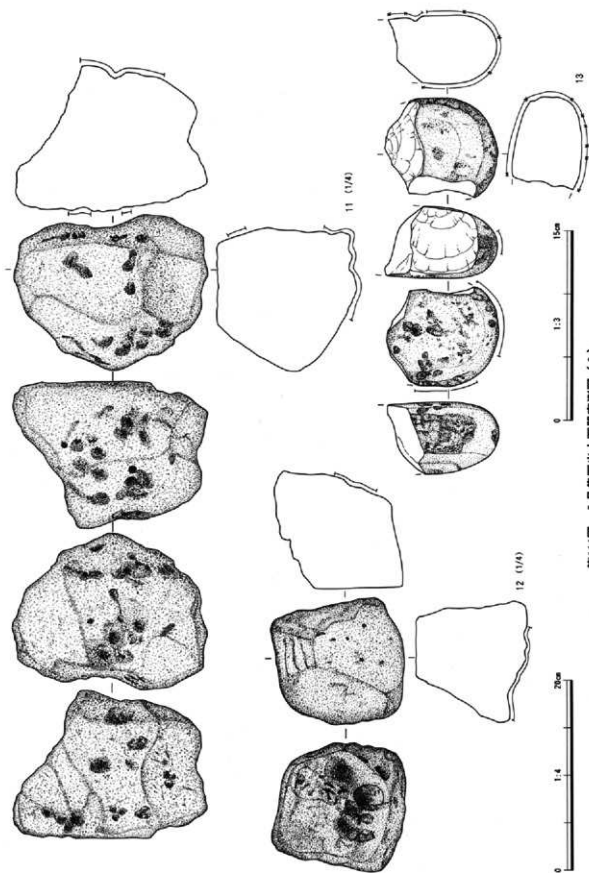
第111图 4号集石出土石器实测图



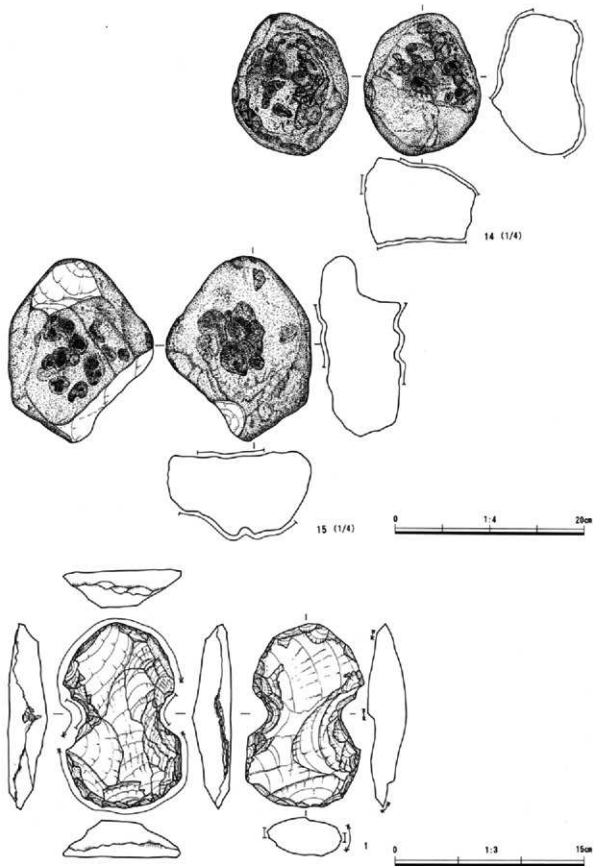
第112図 5号集石出土石器実測図(1)



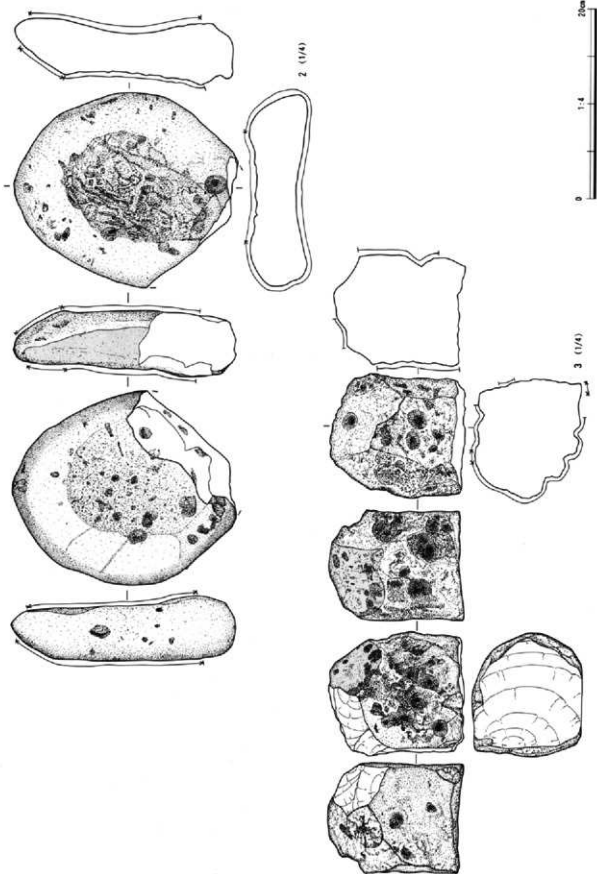
第113图 5号集石出土石器实测图(2)



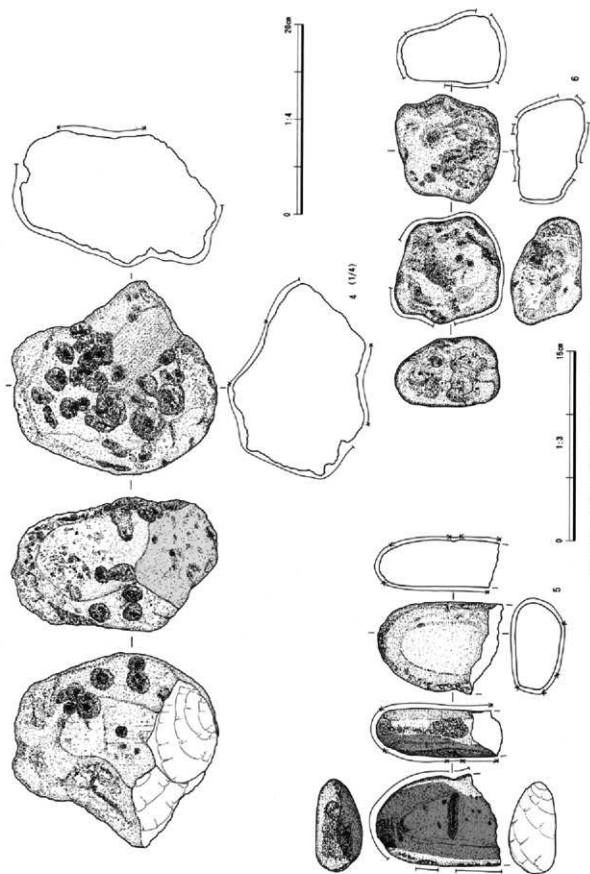
第114図 5号集石出土石器類測図(2)



第115图 5号·6号集石出土石器实测图



第116图 6号集石出土石器実測图(1)



第117图 6号集石出土石器复原图(2)